

静岡、磐田、龍山村

丸キ製作株式会社社長 大平 甚藏

當家は先代より材木商を經營し始め、販路も次第に擴張し順調なる發展をつぎ、現在丸キ製材株式会社として確立をみたのである。

當主は先代の男として、明治二十五年一月誕生し、製材業に精勵する傍ら、天龍川材木商同業組合副會長に就任し、七ヶ年の久しきに亘つて盡瘁した。また自治公共に貢献するところ多く、警防團長村會議員、産業組合監事等の重責を負ひ村民の福利増進、村經濟の圓滑なる運営に献身的努力を捧げてゐる。各方面の信頼極めて厚く、その將來を囑望されてゐる。

静岡、引佐、三ヶ日町

三ヶ日町役場

引佐郡の最西端にある町で、濱名湖中

用部は精米、精麥、平麥であり、今後は醬油醸造を爲す計畫が着々として進められてゐる。

現組合長は塚本松一郎氏にして、警防團長、區長、村會議員等を兼ねて、組合の經營方針に逐次改善を加へ、使命達成に盡瘁してゐる。

専務理事は廣住武文氏にして、現理事は河村久一、塚本三、河守安吉、園田孝一、大石萬次郎、曾根開一、櫻井壽三郎の諸氏にして、監事は提坂濱次、塚本至作、田村覺太郎、杉本千代次の諸氏。

専務理事 廣住 武文

氏は明治二十四年生れにして、當組合の創立以來専務理事となり、駿遠部會長を歴任し、現在は村會議員、區長等を兼任して、夙夜寧所なく、村民の福利増進に努め、村民の信望頗る深いものがある。

富山、東礪波、柳瀬村

麻織物業 田島 八三郎

の渚鼻湖を抱き、眞に風光掬すべく、鷺津よりの定期船により旅客の往來頻繁である。町より姫街道を上る一里程の坊ヶ峯は濱名湖を見下ろして眺望絶佳の名勝の地で、なほ當町の摩訶耶寺千平觀音は藤原時代の一遺像で國寶として、保存され、同じく國寶たる大福寺は濱名薬師と云ふ近江國教侍和尚の創建と傳へられてゐる。其他、郷社濱名總社神明宮はじめ村社、無格社等二十の多きに對し、名利又多い。

産業は農、畜産、林産、工産、水産等で、工産の主たる疊表を業とするもの全戸數の半を占め特産品となつてゐる。

町 長

河西浦太郎 氏は町長として町民の信望頗る厚く、産業の發達に留意し専心同町の向上に努力してゐる。人格圓満至誠の人である。

助 役 相津徳一郎

河西町長の片腕となり、同村の振興に盡瘁する氏は、町會

議員を三期勤め、大正四年助役に推され昭和十四年十一月再び助役に就任した人である。

静岡、志太、六合村

六合 信用販賣 組合 購買利用 組合

電話三三九番

當組合は、大正十年八月有限責任六合信購販利組合として設立し、昭和八年保證責任となり現在に至つてゐる。

昭和三年五月事務所を新築し、昭和八年農業倉庫、昭和九年共同作業場を各々設立した。

組合員數は六三三名にして、今や戰時經濟統制の強化に邁進し、組合員の深き認識と一致協力により、優秀なる成績をあげてゐる。

販賣部の主なるものは米、茶、大小麥、苧、鶏卵等にして、また、購買部は肥料、雜貨飼料等にして國策に順應し、圓滑且廉價なる配給に全力を傾注してゐる、利

静岡、引佐、鎮玉村

鎮玉村役場

當村は引佐郡の最北端に位し、井伊谷川の源にあたる山村である。

村民は主として、農業、林業、養蠶、畜産、水産等を生業とし、農會は勿論、森林組合、養蠶組合、漁業組合等の産業組合の確立をみてゐる。

産業、教育、衛生等は勿論、自治の名門に亘り、近隣の模範村である。

村 長 伊藤 市典

當村の完璧に近き村政は偏に氏の卓越せる才腕に依ると謂ふも過言ではない。

明治二十六年七月二日出生。收入役、助役を歴任し、昭和四年六月、衆望を擔て村長に就任し、現在村農會長、警防團長、郡町村長會副會長、郡養蠶組合長、郡茶業組合長等の要職を兼ね、ますく地方行政刷新のため盡瘁してゐる。



抑々田島家の麻織物業は、文化三年、今を去る百二十四年の昔創業せるもので爾來連綿として受け繼がれて來た、その製版、麻再製品、混合品、麻布等にしてその特長は材料の加工行程に於て一切手織を以つて精製する事である。當主八三郎氏は當年四十四歳の壯年事

業家、家業に精勵する傍ら産業組合監事、麻織組合監事等の公職になり、當地方麻織物業界に君臨、之が技術的改善、振興に日夜盡瘁しつゝある。

とまれ田島家の貢献は營々百二十年の間、互に、麻織物業に従事同村は勿論、近郷の特産物たらしめ且つ農家の副業として裨益せる處甚大である。

昭和三年御大禮奉祝のため晒麻布一匹を宮内省に献上し御嘉納の榮に浴した。

助 役
平山平三郎

氏は伊藤村長を補
けて當村を今日あら
しめた功勞者で、嘗
て齡僅かに二十數歳で當村長となり、大
いに敏腕を振つた人である。昭和四年助
役就任以來紛骨碎身村の爲に盡し、村民
の信望極めて厚い。

静岡、志太、岡部町

岡部町役場

當町は郡の南部に位し、藤相鐵道岡部
驛があり、焼津驛藤枝驛へ自動車の便が
ある。

當町は、岡部、村良、桂島、入野の四
部落よりなつてゐる。

名勝として岡部鱈泉があり、寺院は永
源院、専念寺、光泰寺、興福寺、西方寺
三屋寺、十輪寺、常昌院、誓願寺、専稱
寺、大仲寺、多福寺、南陽寺、梅林院、
萬松院、福壽院等多數あり、旅館遊仙閣
は當地方に名高い。

現町長は西村廉吉氏にして、助役は近
藤小七氏、収入役は袴垂鐵藏氏である。

町 長
西村 廉吉

氏は明治十五年九
月三日誕生、曩に助
役町會議員、また永
年に亘つて村内子持坂産業組合長に就任
して盡瘁し、昭和十四年四月町長に推
され現在に至つてゐる。

なほ、郡柑橋同業組合副會長、郡養蠶
實行組合長、郡茶業組合委員、縣購販聯
柑橋常任委員等を兼任してその手腕力量
は町民に畏敬されてゐる。

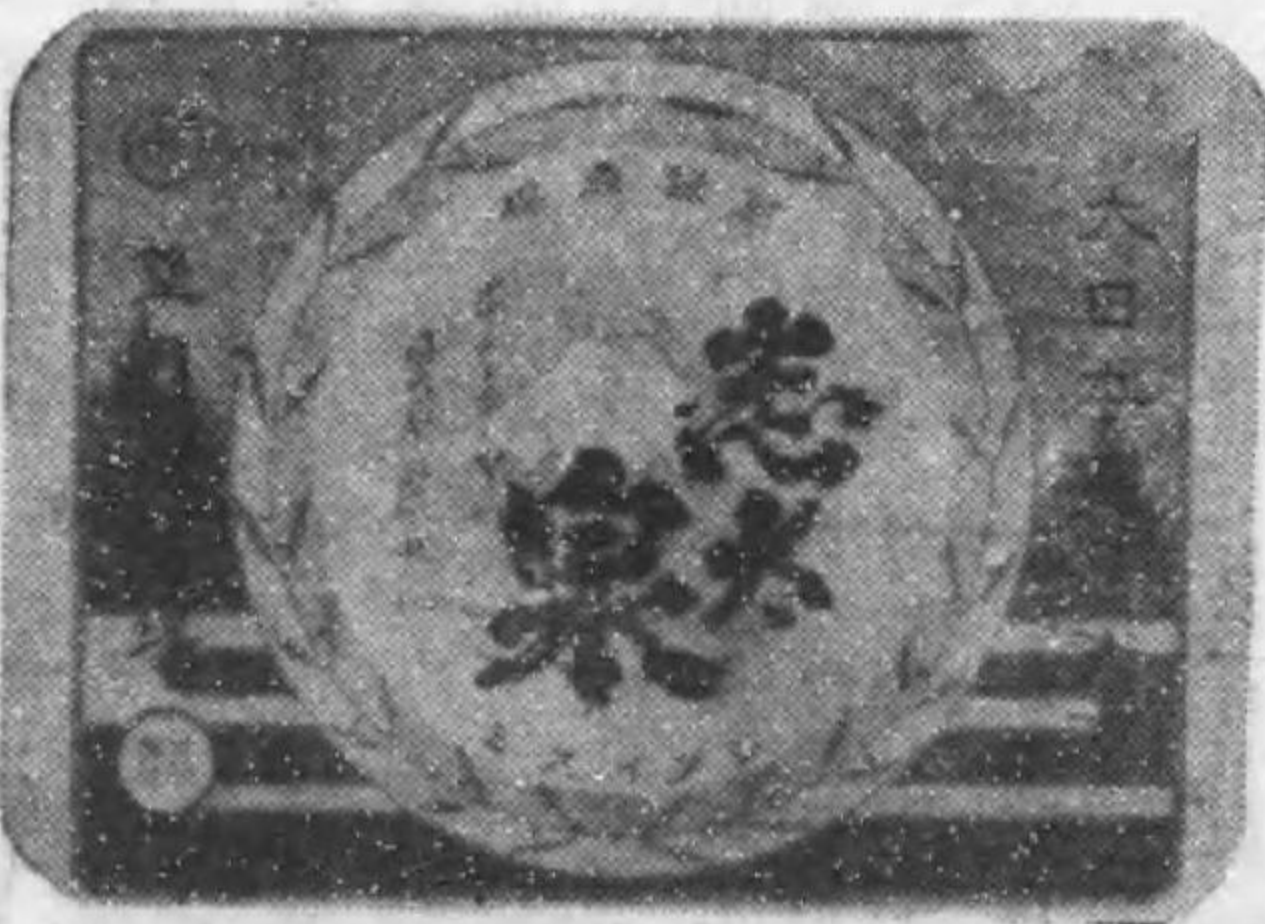
助役近藤小七氏は明治二十四年の生れ
にして、區長、助役に就任して、村長を
補佐し村治に貢献するところ頗る多大で
ある。

収入役袴垂鐵藏氏は明治二十九年の生
れ、大正八年役場書記として奉職し、昭
和十四年収入役となり現在に及び、濃厚
眞摯なる士として村民に信望厚い。
斯くして町長、助役、収入役の三氏何
れも村民の福利増進に盡力してゐる。

静岡、志太、稻葉村

酒造業 望月 快一

當家は祖父久作氏の代たる明治二十六



銘酒「志太泉」の醸造元にし
て、優良酒として聞え、販路は、縣内は
勿論東京方面までも進出してゐる。
その芳醇なる味覺は各方面から稱讚の
は、品に

的となり、大正七年より毎年品評會に於
て特選賞の賞状を獲得してゐる。

當主快一氏は明治二十六年三月五日の
誕生にして靜岡商業學校を卒業後、専心
家業に當り、濃厚篤實なる努力家として
聞え家運ますます盛大を加へつゝある。

富山、氷見、氷見町

縣會議員 神 埜

儲

氏は熱情的政治家であると、共に意志
的事業者でもある。熱と意志と此の二つ
の衆人に優れた性格が氏をして今日の位
置にあらしめたのである。



一貫で此の荒き世に第一步を踏み出した
にも拘らず刻苦奮勵、牢乎たる意志は如

何なる難關にも決して辟易しなかつたの
である。

斯くて氏の獨力を以つて書籍文具商を
開業漸く頭角を表すに至り、次いで運輸
業に觸手、氷見運輸會社取締役となり、
又株式會社菊葉堂を創立、初代社長とし
て、印刷界にも雄飛する身となつたので
ある。

前町長、縣會議員二期、縣參事會員と
しての氏は七尾氷見を通ずる鐵道工事の
完成氷見町附近四ヶ町村の合併等を抱負
とする。

静岡、志田、廣幡村

廣幡村信用販賣組合

電話藤板二二四番

當組合は、明治四十一年六月十八日、
有限責任廣幡村信購販生産組合として設
立した。大正十四年四月利用部を設置し
昭和八年保證責任に組織を變更し、現在
に及んでゐる。昭和十一年まで事務所を

當村大字當間に置いてあつたが、同年新
築移轉した。

販賣部は米を主として、購買事業は肥
料、雜貨を取扱ひ、利用部は精米、精麴
等を行ひ、今後は農業倉庫、柑橋部等を
設置する計畫があり、また、業務の擴張
に依つて支所を上當間に置く。

現組合長は竹田文吉氏にして、専務理
事は甲賀義一氏である。

理事は片山市太郎、川村泰吉、小泉金
太郎、八木知一、大石歸一、米村平作、
杉本林之助、片山仙太郎の諸氏にして、
監事は永房鐵之助、藪崎東一、岡田泰次
竹田新吉、竹田柳藏の五氏である。

組 合 長
竹田 文吉

氏は明治十二年一
月十五日の誕生、夙
に村農會長、村會議
員等の要職を兼任し、村民の信望頗る厚
きものがあつた。
大正十四年組合長に推され、爾來十餘
年に亘り村民の福利増進に盡瘁しその功
績は甚大なるものがある。

専務理事 甲賀 義一

氏は明治三十五年
に呱呱の聲をあげた
人、昭和十二年専務
理事に就任、警防團長を兼ねて献身的努
力を致してゐる。
氏は春秋に富み、而も將來の活躍が期
待されてゐる。

静岡、志太、吉永村

吉永村 役場

當村は、郡の最南端を占め、榛原郡吉
田村を大井川の河口を扼し、東南部は靜
濱村、北は相川村に接し、全村水郷の地
をなしてゐる。

部落は中島、高新田、飯淵、吉永の四
字に別れてゐる。

藤相鐵道上新田驛へ約一里にして、燒
津藤枝町へバスの便がある。

寺院は悉く曹洞宗にして、龍泉寺、盤
石寺、長樂寺、正泉寺、正壽寺、高岳寺
意雲庵、長徳寺等がある。

静岡、田方、内浦村

齒科醫師 田中 一夫

田中齒科醫院は昭和十二年十一月の開
業にかかり、創業以來日は未だ淺いが、
院長田中一夫氏の優良なる技術と經驗に
よつて患家の絶大な信望を博し、業況

(醫院全景)



日を送つて隆昌に赴きつゝある。

氏は宮崎縣南那珂郡福島町の出身にし
て、先代忠夫氏は小學校訓導を勤めるほ
か耕地整理組合長その他の名譽職を兼任

農耕業盛にして、米、滿、茶等を多く
産し、村民は職務に勤勉にして、平和を
楽しんでゐる。

村長は杉本哲次郎氏、助役は青野政一
氏である。青野氏は収入役より助役に推
され、資性温雅なる紳士である。

村 長

松本哲次郎

氏は明治二十一年
生れにして、静岡中
學を卒業し、のち、

静岡縣師範學校二部に學び、縣下初等育
英界に在ること實に二十四年の永きに亘
つて貢献し甚大なる功績を遺し、昭和八
年に退職した。その後學務委員、方面委
員等を歴任し、昭和十三年四月村長に推
舉され、村會議員、村農會長を兼任して
村治貢献すること多大、温厚にして篤實
なる人格は、村民に慕はれてゐる。

高知市棧橋通り

白井鐵工株式會社

電話二五二番

市内鐵工界に君臨する白井鐵工株式會

社は生産擴充の國策線に沿つて既に數次
に亘る事業陣營の強化を圖り刻下の資材
勞力難を乗り越えて、各部門の機能を總
動員増々活潑なる操業を續け、地方業界
のために萬丈の氣を吐いてゐる。
而して同社の最も注力する處は各種自



池添支那人
動車ボ
デー製
作代
用燃料
裝置施
行、一

般鐵工作業請負等であるが、最近四國日
産ボデー工場としても日産コンツエール
方面から重視されてゐる。

同社の支配人池添榮吉氏は一言にして
盡せば熱と努力の人、何事に當つてもあ
らゆる誠意と究鑽を傾けて致々として、
挽まざる事業家で、此の人のあるところ
同社重役陣は千鈞の重厚を加へるのであ
る。資性温厚にして篤實なる人格は、各
方面から敬仰されるところである。

して、衆庶の敬仰をあつめてゐる人物で
ある。

氏はその長男にして、大正二年二月十



三日の誕
生である
昭和十年
日本大學
專門部齒
科を卒業

その後當地に來遊して醫院を開業するに
至つたもので、年少氣鋭の新進齒科醫と
して、その將來を囑望されてゐる。

趣味はハイキング、スポーツ、讀書等
で近代的な青年紳士である。

生家には、兩親のほか、兄弟六人があ
る。

高知市浦戸町

高知縣 販買組合

電話七九四・一六三二番

當組合は昭和九年十月匿名組織を以つ

静岡、田方、内浦村

富海山 敬願寺

當寺は阿彌陀如來を本尊として安置し

て設立されたもので、當初の目的は縣下
に於けるセメントの亂賣を防止するため
であつた。今日の計畫經濟に於ける統制
を既にその頃實施してゐた譯で、現在は
切符制度の確立に依り、縣下需給の圓滑
を期し頗る活潑な状態にある。
而してその陣容は組合長、八交商店、
會計、白井商事株式會社、役員、田部丑
太郎、三浦本店、濱川商店、村田末吉、
西川重吉の諸氏及び専務理事宮崎暉馬氏
等で允實せる内容をみせてゐる。
専務理事宮崎氏は明治四十二年の生れ
夙に斯業界に身を投じて刻苦奮闘今日を
築いて來た意志の人、組合運營の直接の
責任者として、寧日なき活動を續けてゐ
る。氏は又資性温厚篤實、全組合員から
絶大な信賴をうけてゐる。

眞宗大谷派に属する古刹である。

往古三津庄小島にあつたが、寶曆九年に現地に移され、一代の高僧傳によつて再興されたと傳へられる。師は承應元年に入寂した。

東本願寺の末寺に當り、寶物として聖徳太子木像が秘藏されてゐる。

住 職

當家は本村屈指の舊家にして、既に代を閉すること十五代

累代住職を勤めてゐる。

師は先考哲道師の長男にて、明治十五年五月二十七日に呱呱の聲をあげた。葦山中學校を卒へて、眞宗大學に進んだ。

資性温厚、善道を極めること深く、衆生濟度に努める傍ら、方面委員をも兼ね社會公共のことにも意を用ひてゐる。

暇あれば明窓淨几、常に讀書に親しみ自己の修養に勵んでゐる。

令閔は既に亡いが、四男一女を恵まれ長男賢量氏は目下軍曹として出征し、大

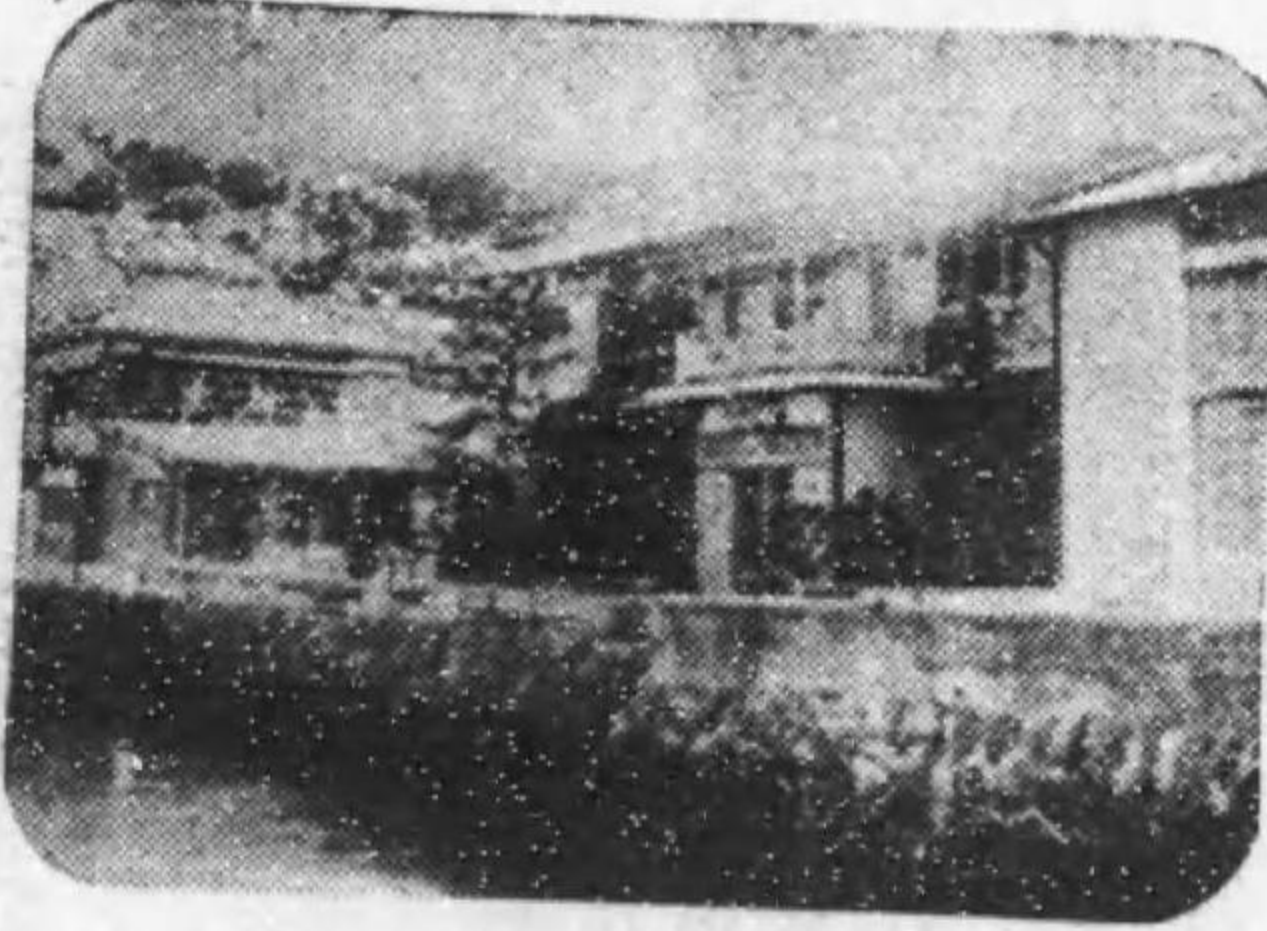
陸に活躍中である。

静岡、田方、西浦村

榊屋旅館

電話三香

本旅館は、昭和十一年十一月に開業さ



當館全景

の好評を得てゐる。接客待遇は極めて懇切にして、家庭的

に好遇されて落着いた感じを楽しみむことが出来る。

階上四室、階下二室、收容人員百名程で、室内は清潔な調度類を施して居心地よく、保養静養に適してゐる。

交通の便益は、東海自動車及び東京灣汽船等の運輸機關があつて頗るよい。

經營者

氏は殿父貞助氏の

四男にして、長じて分家し、一家を興した。濟南事變には、應召出征して活躍した。



のち公共方面に參與し、衆望が高

現時本館の經營に盡瘁する一方、久連漁業組合理事、共榮會理事、警防團分團長、農會代議員等を兼任して誠私奉公の精進振りをつけてゐる。

高知市東種崎町

高知履物商工組合 長 **竹島 壽太郎**

呼電話一〇八六番



店 頭

氏は明治十一年長岡郡三和村に呱呱の聲を擧げた。郷土の小學校を卒へるや野

心を抱いて高知市に來り、市内播磨屋町の草卸商に奉公

治三十七年日露戰役勃發で名譽の召集をうけて從軍、足部に負傷して白衣の凱旋をなし、功に依り、勳七等青色桐葉章を賜された。



現在の履物商は大正元年の開業に成るもので、營々三十年の歴史を持ち、高知伊豫、阪神に確乎たる地盤を築いてゐる氏は又高知市履物同盟組合長、全國履物大會理事、高知縣ゴム被服廠名卸商業組合理事等々の公職にあり、業界に於ける氏の位置を雄辯に物語るものである。

静岡、田方、修善寺町

福地山修禪寺

當寺は大日如來を本尊とし、伊豆屈指の名刹として聞えてゐる。修善寺温泉場の中央西側の、山麓丘上に宏壯な地域を

占め、大同年間弘法大師がこの地に留錫修業の際、創建されたものと云はれる。現在の堂宇は文久三年の回祿により焼失したるものを、明治十六年に再建したものである。寺寶の重なるものは、支那宋時代の刺繡釋迦佛三尊、くり抜きの水瓶、青磁の香爐、弘法大師作の大黒天、北條早雲血書の阿彌陀經、その他珍稀なる寶物もあり、毎年四月八日の祭典には一般の觀覽に供されてゐる。

住 職

師は明治十年十月十七日の誕生にして先代寫潭師の男である。



當寺三十八世の持住に就任するや鋭意肇國

の大精神を顯現せしむべく、寺門の隆昌を計つて寧日なく、信徒の絶大なる信望

をあつめてゐる。



氏 嵐 十五 事 執
因に 執事は 五十嵐 氏、役 僧は尾 形氏は

か二名である。

高知市本町 高知葬儀社 大坪 宏充

電話二、〇四二番

合資会社 高知葬儀社は昭和七年三月代表社員、大坪宏充氏、に依りて創立されたもので、営業種目は葬具販賣、葬儀請負、靈柩自動車、ハイヤー取扱、花輪及生花等でその良心的営業は顧客筋の絶大な信頼を博しつゝある。

大坪氏の宏充は雅名にて本名は大、明治三十六年市外大杉村に出生、長づるに及んで高知市に出て、具に辛苦を嘗め、

後獨立して葬儀社を開いたものである。現在家業にいそしむ傍では、高知葬儀商



葬 儀 自 動 車

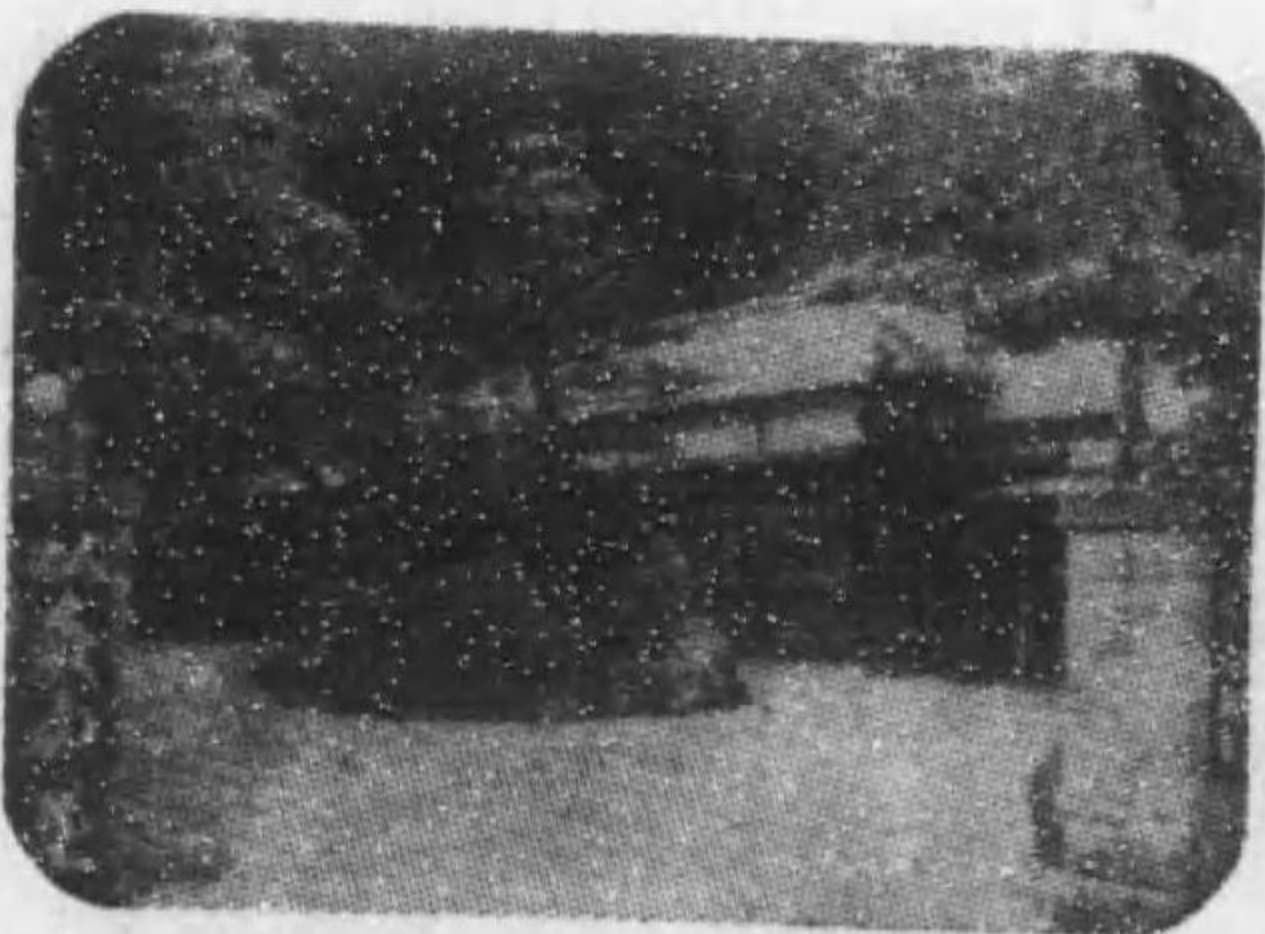
組合 會計 として の 役員 推 され て みる 点 から 見て の 業 者間に於ける信用の厚さを認むることが出来やう。

趣味は寫眞、讀書をよくし、また信仰に極めて厚いものがある。家庭には愛妻千代子夫人との間に四男二女あり、和氣溢るゝ家庭として近隣より羨望されてゐる。

静岡、田方、伊豆長岡町 温泉旅館 森 山 莊

電話七二番

當莊は伊豆長岡驛下車、自動車五分に



全 景

閑雅 し、建 静寂 の地 を占 め、堂々 とし て宏 壯な 建物 であ

る。古奈温泉は伊豆温泉中でも醇朴なる風趣を有し、近年都人士の來遊するものが増加して來た。

當莊は昭和十四年十月の開業にかかり未だ幾何の日も経てゐないが、客室六室あり、調度その他よく整備し、また撞球臺、大弓場等の娯樂施設もある。内湯は勿論、野天千人風呂があつて浴客の湯治氣分を満喫させてゐることも、特筆に値する。

經 營 者 松永兼太郎

氏は東京市の出身 先考松永竹之助氏の 長男として呱呱の聲

をあげた。

昭和十二年以來、當地に移り來り、當莊の經營に手腕を揮つてゐる。家庭には養母たけさん、靜江夫人、長男滿男君ほか一女があり、圓滿多幸である。

静岡、田方、伊豆長岡町

町會議員 石 橋 篤

電話一三三番

當家は本町有数の舊家にして、祖先は

二十七ヶ村の大庄屋、名主等を勤めて地方開發のため多大なる治績を遺した。祖父正哉氏は、村制當時初代村長を勤め殿父故敏氏も亦村長三期を重任して功勞があつた。



氏はそ の長男に して明治 二十一年 十月五日 に岳降し

明治四十四年明治大學法科を卒業し、その後會社銀行に勤務するほか、新聞記者となつて俱さに實社會の諸相を見、豊富なる經驗を積んだ。

大正十一年町會議員に選ばれ、衆望益々加つて遂に町長の要職に就き、町勢の發揚に治績をあげ、名町長の聲望絶大なものがあつた。

現時はまた、町會議員、田方郡商工更生委員、都市計畫委員、日本赤十字社終

身社員その他數多の公、名譽職を兼任して町政諸般の上に大きな足跡を印しつゝある。趣味は書畫、骨董、目下長岡町史の編纂に従事してゐる。家庭には母堂サト刀自令閨はまゑさん養女道子さん等がある。

高知市本町

阪倉公民社 坂本 倉重

電話二三八七番



て、全國 的に著名 な阪倉公 民社店主 坂本倉重 氏は、明

治三十一年高知市伊野町に呱呱の聲を擧げた。當地の小學校を卒へるや笈を負ふて東都に勉學を勵み、學業卒へるや野望

を抱いて渡満したが昭和十一年歸國して
公民旅館を經營せるも同十三年之を閉し
阪倉公民社の創立となつたものである。
今や公民社は高知市旭町に製作工場、



市猪 大阪
飼野 市猪
に化 飼野
場を 學工
有し 場を
製作 有し
から 場を
販賣 有し
一元 場を
經營 有し



静岡、田方、伊豆長岡町
温泉旅館 米山館
電話三四番

に邁進し、販路を内地はもとより北海道
沖繩に至るまで開拓してゐる。
氏は將に氣骨稜々の國士型、家庭には
愛妻春子夫人との間に、一男二郎君があ
る。

て知られたところである。
當館は客室數十、收容人員五十名に
及び、各室ともに種々數寄を凝らし、す
べて家族的で、精選した料理と相俟つて



氏は家業に精勵して、これが發展擴充
を圖ると
共に、ま
た古奈温
泉旅館組
合役員、
古奈區世
話人を兼任して、公共のことに盡瘁して
ゐる。
家庭には令閨ひでさん(五十二歳)との

間に嗣子なきため、養嗣子文作氏(四十
歳)を迎へてをり、既に令孫四男一女が
ある。

高知、安藝、井ノ口村
製紙業 廣内 土佐知



氏の祖父愛太郎氏は維新の偉傑、板垣
退助に愛
され東都
にあつて
警察界に
活躍した
が、後年
漂然として歸國するや、當時勃興しつゝ
あつた當地方製紙業に染手した。之が同
製紙所の礎石となつたのである。
先代直吉氏も愛太郎氏の遺志を繼いで
家業に精勵し販路の開拓につとめ、同製
紙所は漸く業界に頭角を現し始めたので
あつたが、昭和五年六十一歳を以つて他
界した。

二祝皇紀二千六百年二

安部新一

高知市追手筋

斯くて土佐知氏の代となり、父祖三代
に亘る家業への盡瘁は此處に全く結實し
たのであつた。即ち氏は新たにインキ止
紙、改良美濃紙に注力、此の方面にも確
固たる地盤を築いたのである。
氏は繁忙の傍ら、部落幹事等の公職を
も引受け地方自治の發達、産業の振興に
八面六臂の才腕を揮つてゐる。
家庭には母堂絹刀自(六十一歳)及び一
男二女がある。

静岡、小笠、櫻木村

長澤山 常光院

當山の由緒沿革は詳かでないが、文安

住職 田宮 礎道



師は明治二十三年
の誕生にして、夙に
佛門に入つて佛法を
極める事
深く、大
正七年當
山二十七
世住職と
なつた。

義に宗務所會議員、教區長、佛教會理事等の名譽職に推されて盡瘁し、現時方面委員を兼任して社會公共のため力を致してゐる。

静岡、小笠、朝比奈村

朝比奈村共益信用販賣組合

本組合は庶民金融機關として農業基金を提供することを以て目的となし、今から約二十二年前に創立せられたものである。

その後、種々の盛衰變遷を経て來たが組合役員及び組合員は常に戮力協心して共存共榮の實をあげ、極めて良好な成績をあげたのである。

なほ購買部は各種肥料のほか、醬油、砂糖、鹽その他雜貨等の買入れをなし、販賣部は本村唯一の産物たる製茶の共同販賣をなし、また薬工品、鶏卵等も取扱つてゐる。利用部は精穀機を据付けて事業の能卒を圖り、農業倉庫部は専ら小作

米の入庫によりて利益をあげてゐる。また大正十三年以來、第二事務所本村下朝比奈においてゐる。

組合長 小野氏は初代組合長、宮本雄一郎氏の後を繼いで本組合長に就任した。識見手腕頗る秀で、警防團長、村會議員、學務委員、大日本報徳社役員等の顯職を兼ね業庶の信望が多い。

専務理事 氏は明治三十一年の誕生にして、人となり重厚眞摯、また

鳥羽 寛介

公共精神厚き人物である。現に専務理事に推されて組合精神の普及に努めると共に、村會議員及負債整理組合長等の公職を兼務してゐる。

高知、安藝、井ノ口村

製紙業 井上 榮太郎

氏は明治五年三月農久太郎氏の長男として出生、少年時代より才氣煥發、霸氣



紙業の將來性に著目し副業としての家内工業的製紙業

から之が工業化に専心、製紙工場を建設したのであつた。今日國産振興の波に乗つて當地方に股販を極める製紙業は、實に氏等郷土の先覺者に據りて其の針路を示唆されたのである。

氏は温厚篤實の好紳士、敬神崇祖の念厚く、地方自治産業の伸張發達に盡力せる處、尠としない。

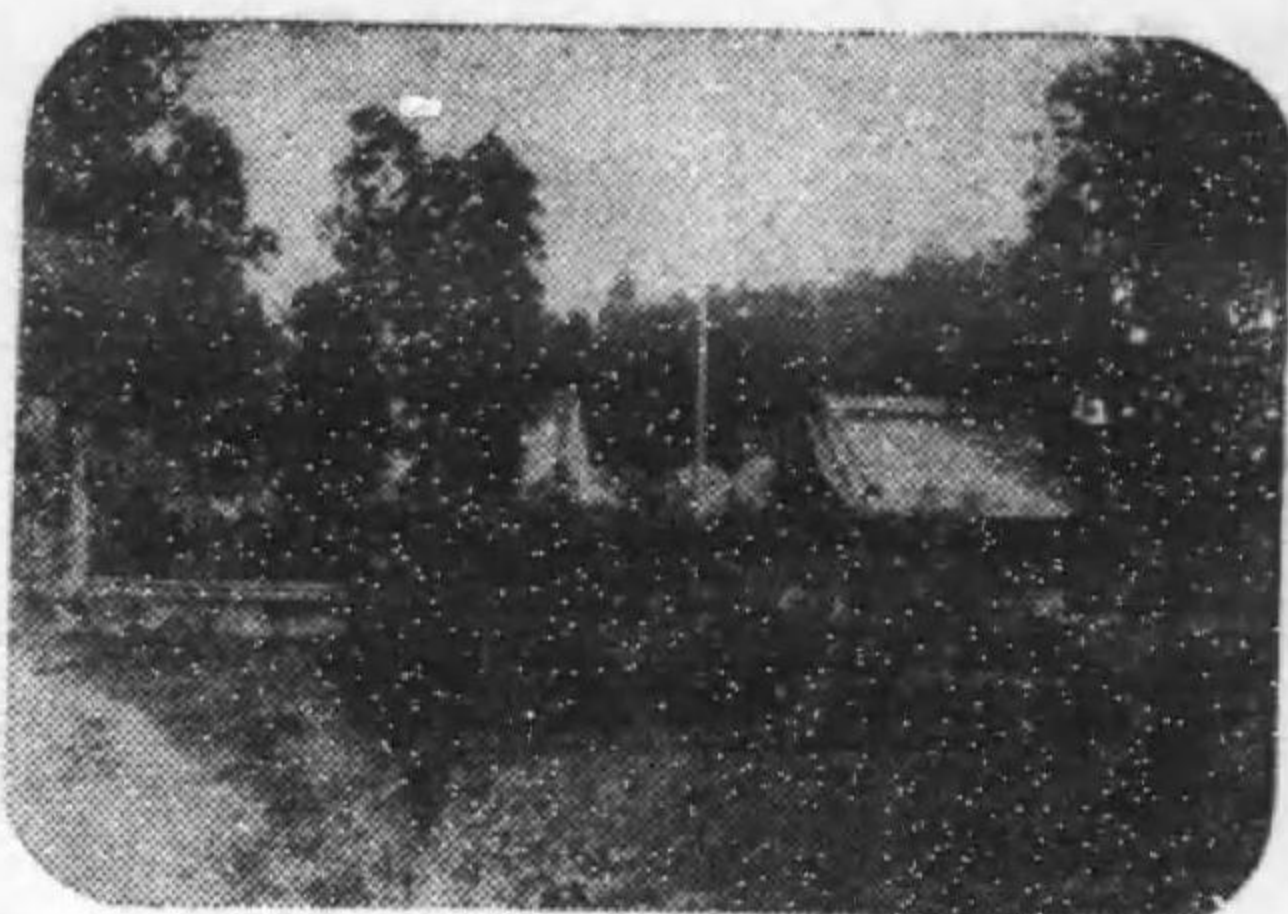
家業に精勵する傍ら、士佐紙業組合職員として業界の爲に髮鑽とし壯者を凌ぐ努力を擧げてゐる。

趣味は讀書をよくし、また信仰心に極めて厚きものがある。

静岡、小笠、笠原村

長嶽山 龍巢院

本院の開創は極めて古いが、天正年間兵燹の災に罹つて古記録の一切を灰燼に



境内全望

宗田和尚と稱し、太素省淳によつて開基されたのである。曹洞宗に屬する名刹にして釋迦如來を本尊として安置し、林泉

寺の末寺に當つてゐる。

當院の末寺は頗る多く、松秀寺、法泉寺、増船寺、東泉寺、花學院、福巖寺、

祝 皇紀二千六百年 自治産業發達誌刊行

静岡縣 富士郡 岩松村役場

宗有寺、光照寺、常樂寺その他の二十七ヶ寺に達してゐる。

寶物に、開山傳衣二點、大素派一枚紙左甚五郎作の龍、佐々木高綱が宇治川先陣の争ひに用ひた綱切丸の太刀、その他が保存されてゐる。

住職 師は明治三十四年三月二十八日の誕生

鈴木 亮一 である。年少にして

得度し、昭和三年四月、當寺三十二世住職となつて今日に及んだる。

未だ年齒若く、今後の活動を嚆望されてゐる。尙氏は、方面委員、教區長等の公職に就任してゐる。

静岡、駿東、原町

方面委員 鈴木 増藏

當家は代々篤農家として聞えた家柄で氏は、先代平右衛門氏の養嗣子となつて鈴木家を繼いだものである。

嘗ては町會議員として、或は學務委員等として町政に參與し、自治、産業の發



展に功勞あり、今なほ方面委員として町民のため日夜

の努力を惜まない。齡古稀に達するもなほ髮鑽として壯者も及ばぬ元氣を持つて後進の指導にあたつてゐる。

品性温厚にして質實を尙び、思想また圓滿な君子人である。

趣味は義太夫、園藝等で、その高尚なることよく氏の人となりを知ることが出

来る。

因に町政に貢献した功により町會より木杯を受け、養蠶に盡した功により奥州八巻館より木杯を受ける等、その表彰も牧學に遠ないほどである。

内助の功高きたけ子夫人(六一)と琴瑟相和し、長男平吾氏は沼津三五銀行勤務中である。

高知市 稻荷町

玉尾 儀 岡崎 磯之助

氏は明治三十二年の生れで、嚴父安次郎氏は川並村の出身、日露役前後現在の玉尾樓を開業し、第二、第三、第四、第五と相次いで支店を開設した。豪放磊落、義の人として全町の敬愛をうけてゐた。又闘犬場會顧問の職にあり、今日に見る闘犬の隆盛に與つて大いに力があつた。浪曲を趣味とし、各地に興業を主催此の方面よりする地方民の慰安と教養を提供した。之等の功績は決して尠しとは

しない。此の父にして此の子あり、氏も

練に心を砕いてゐる。

氏は市立商業學校を卒へ現在家業にたかざる傍ら、多くの公職にもあり進んで社會公共のために盡力、就中貧民救済等に活動して數々の美談を残してゐる。尙家庭には母堂と愛妻千代子夫人の間に一女不二子さんがある。



亦闘犬、角力を熱愛、世界的に著名な土佐犬の改良訓練に心を砕いてゐる。

高知市 常盤町

貞光 鐵工場

土佐特産林野用打刃物、黒打鋸製造發賣元として著名な貞光鐵工場は大正十年八月阿部元四郎、山村繁松兩氏に依りて創立經營されて來たもので、刻下の資材



來した、兩氏の事業的才腕には非凡なもの、ある事が頷げやう。

兩氏は義兄弟の關係にあり、阿部氏愛妻時尾さんは山村氏の實姉に當り、貞光鐵工場の播きなき地盤こそ、此の美しき兄弟愛の賜である。

阿部氏は元來徳島縣麻植郡木矢平村の出身、十數年の昔高知市に來り、森正秀鐵工場に入りて、技術を修得した。現在高知市鐵工業組合理事として、斯界に貢献してゐる。尙家庭は極めて圓滿である。

静岡、濱松市馬込町

遠江織物新興組合

電話一九六九番

本組合は昭和四年十一月の創立にかかり、織物業者の便益を圖る目的の下に業者を糾合し、今や組合員三七名、出資總額三萬圓といふ鞏固なる基礎を築くに至つてゐる。

遠州一圓をその區域となし、燃糸工場を組合にて經營し、加入者のため加工をなすほか、組合員の委託をうける織物販賣取次、必要原料の買入れ、などを業務としてゐる。

現理事長に木俣政八、理事に、増井宗作、加藤靜三、原田喜久司、大手佐一、監事に池谷勝、松本平一郎、加藤不次造書記長兼工場管理者に増井啓太郎等の、諸氏がそれぞれ就任して、盡瘁しつつある。また主なる組合員に、小保政八、瀧清、清水織太郎の諸氏あり異色ある組合

として好評噴々たるものがある。

高知市 新原橋

時計商 太西 薫

氏は明治二十七年先代賢造氏の長男として誕生、先代は明治二十八年日清戰爭直後高知市に移り住み、時計商を開業し後業務を擴充して蓄音機、扇風機、自轉車業に進出したる實に當地方業界の嚆矢である。

此の嚴父の遺志を繼いで時計商を世襲した。當主は一途家業に精勵、外にあつては高知時計蓄音機商組合會計、高知時計商工同盟會長、高知縣時計商工聯合會長等を兼職し業者の親和、業界の振興に盡力してゐる。

氏は城東中學校の出身、大阪にて竹中時計商會に勤めた事があるが、賢造氏の死亡に依り歸郷、家業を繼いだものである。

趣味は釣、家庭には愛妻との間に二男

四女がある。

静岡、濱名、伊佐見村

伊佐見村役場

當村は濱名郡の中央部に位し、南は雄踏町、神久呂村に接し、東北は和地村及富塚の一部に連り、西は濱名湖に面し遠く大平洋を望んでゐる。

本村の住民は農業に従事する者最も多く、工業、商業これに次ぐ。主なる農産物としては米、大麥、小麥、大豆、粟、黍、蕎麥、甘藷、馬鈴薯、蕃椒、大根、白菜等であり、また蠶絲、畜産、水産、工産等もまた旺んでゐる。

現村長は池野紀次郎氏であり、助役は山下太吉氏、収入役に今田普雄氏の兩氏は永年に亘つて恪勤精勵し、庶民の信頼を集めてゐる。

村長

池野紀次郎

當家は分家して三代目である。代々村會議員をつとめ、村

政に多年干與して盡瘁、多大なる功績を遺した。

同氏は先代儀三郎氏の男として、明治十四年に誕生、温厚篤實、高潔なる人格は村民の信望を聚め、昭和十一年村長に就任して卓抜なる識見をもつて執掌してゐる。

尙令弟は東京にて中等教育に貢献し、長男義一氏は青年學校に教鞭を執り、教育に盡瘁してゐる。

高知市通町

合名會社 島中 商店

電話長一四七番

當商店は代表社員、島中宗太郎、並に島中四郎氏等の共同經營に成り、製紙原料及び和洋紙一般を取扱ひ、堅實一本建の運營は内外の絶大な信用をかち得て飛躍的繁榮の途にある。

販路は従來大阪方面に主力を注いで來たが、今や此の方面を開拓し盡し、確固

たる地盤を築いたので頃來では専ら關東地方及び大連方面に進出、着々として業績を擧げてゐる。

島中宗太郎氏は明治廿五年高岡郡越知村に出生、つとに業界に身を投じ切磋琢磨、今日に至つたもので氏の人格こそ、意志と努力の權化といつても過言ではない。

氏は現在土佐紙業組合常議員、高知縣物價調査委員の公職にある。

高知市八幡通り

萬一 店

電話二二七一番

氏は明治十四年二月、市内潮江孕町に呱呱の聲を擧げた。つとに北奉公人町の指物師中山五郎氏に弟子入りし指物技術を修得したのである。

斯くて大正七年八幡通りに葬儀店を開業、棺、葬具一式の製造及び靈柩自動車業を營み、現在に至つた。



資性温厚篤實、温顔の好紳士であるが其の胸中には烈々たる義侠心を有し、没我仁俠の美談は

枚舉に遑がない程である。

氏は高知葬儀商組合長、靈柩自動車株式會社取締役代表、靈柩自動車組合長の職にあり業者の信望をあつめてゐる。

趣味は遠州流華道、釣等で、家庭には愛妻玉さんとの間に一男二女があり、長男圭司君は縣立高知工業學校を卒へ大分縣旭金山鑛業所に勤務してゐる。

靜岡、濱名、篠原村

篠原村 信用販賣組合

電話篠原二四番

當組合は大正十三年十一月二十五日、在郷軍人分會の役員によつて、有限責任篠原村信販購利組合として設立せられた

ものである。のち、保證責任に組織を變更し、現在四種事業兼營である。

而して販賣の主なるものは小麦、大麦、鶏卵等にして、また購買は飼料、石炭、米等で國策の線に順應して躍進を遂げつゝある。

現組合長は柳本滿之助氏にして、専務理事は鈴木吉次氏である。理事は鈴木邦太郎、鈴木誠一郎、神田圓吉、刑部竹次郎、榊原猪吉の諸氏にして、監事は鈴木輝之進、鈴木松一、石津甲子吉等の諸氏がそれぞれ就任してゐる。

なほ相談役は鈴木信一氏である。

組合長 柳本滿之助

氏は明治十二年の生れである。當組合創立當初より組合長に推されて粉骨碎身、村民の福利増進に寄與貢獻するところ頗る顯著なものがあ

専務理事 鈴木吉次

氏は明治二十五年十一月の生れにして十五ヶ年間役場の書

記、収入役等に歴任し、組合創立と同時に専務理事となり、組合隆盛の礎石を作つた、氏の勝れたる手腕は將來益々期待されてゐる。

高知市八百屋町

諸紙問屋 土佐屋商店

電話一六五九番

諸紙問屋土佐屋商店は昭和十三年十二月代表社員、中平秀樹、森木繁兩氏に依り創立されたものである。

土佐紙各種の縣外移出又は輸出に注力し、扱製品の嚴選、納期の確實をモットIとする堅實一途の營業方針は内外に好評を博し絶大な信用をかち得るに至つた。

而して同商店では支那滿洲朝鮮方面の販路開拓に努力、頃來では此の方面にも確固不拔の地盤を築き、注文殺到の有様である。

代表社員、中平、森木の兩氏は當市紙

靜岡、濱名、中ノ町村

神道修成派第三十八支局

當支局は昭和十二年の創建にして、信徒二百餘名を有し、毎年二月八日と十月二十八日に大祭が行はれ、毎月二十八日には月並祭が執行される。疫病除の御神徳あり、加持祈禱を受けるものが多い。

主宰者 折田 農一

氏は明治二十五年一月二十八日の出生にして、靜岡縣磐田郡浦川町浦川の出身である。少年の頃より神に對する信仰あつく、一生を布教に捧ぐる覺悟を



一生を布教に捧ぐる覺悟を

持つて、神道修成派に入った。意志堅固の功勞があつた。信念に強い人である。

昭和元年頃、當地に轉住し來り、爾來日夜を分たず布教に従事、次第に信徒の數を増して今日に至つたもので、その努力と熱心さにと感激せざるものなく、遂に昭和十二年には靜岡第三十八支局長となるの榮譽に浴した。資格は權中教正である。

靜岡、田方、伊豆長岡町

學務委員 内田 賢之助

氏は先考遠藤莊八郎氏の長男として明治六年十一月に誕生した。嚴父は戸長、村長等の要職に就いた名望家であつた。その後氏は、内田與右衛門氏に迎へられて養嗣子となる。内田家は本町長灘に於ける屈指の舊家として聞え、代々農耕を以て生業となしてゐる。而して、岳父與右衛門氏は神職を奉じて神道の普及に碎勵すると同時に、自治に關與して多大



賢之助氏は早稲田大學文科に學んだ學士にして、識

見手腕に秀で、曩に村長、町會議員、助役、消防組頭、郡會議員、郡參事會員等の顯職に就いて盡瘁し、現時學務委員、農地整理委員、産業組合理事、日本赤十字社終身社員等を兼任してゐる。

氏は本町自治産業開發の恩人とも云ふべき人で、今日温泉地として隆々たる町勢を示しつつあるのも、一つに氏の多年に亘る献身的努力によるのである。考齡今や喜壽に近きも、なほ鑿鑿として壯者を凌ぐ氣概を有し、町内の至寶的存在として重きをなしてゐる。家庭には養母きささん令閨ますさん、ほか二男二女あり、和氣溢るる團樂をなしてゐる。

高知市浦戸町

鐵工業 西原 貞義

電話七〇一番

元來西原家は遠州掛川より山内公に従ひて四國に來り高岡町に住みしが、明治三十八年高知市に移りたるものなりといふ、祖先は代々鑄物師を以つて藩主に仕へた。

氏はつとに業界に志を立て、具さにその辛苦を嘗めた。



のち、高知縣製紙業の大先輩土居喜

久彌氏の知遇を享けて獨立し、現在の工場を經營し來つたのである。同鐵工所の最も注力する處は製紙用印解配合ビーター機及スクリン機製造並に諸機械鑄造据付設計等であるが、頃來和紙

業界未曾有の繁忙に伴ひ、取引幅狭しその消化に全生産能力を擧げて増産を圖りつゝある。氏は又高知縣鐵工機械器具工業組合監事として資材、努力、金融等業界刻下の重要問題に直面して之が積極打開に奔走し全業界から絶大な信頼をうけてゐる。

靜岡、駿東、原町

松 蔭 寺

本寺は元寇二年天祥和尙、大瑞宗齋師によつて開基、開山せられたるものにして、臨濟宗、妙心寺派に屬し、末寺には清見寺、中本寺を有し、釋迦尊を本尊として安置してゐる當地方切つての名利である。

鎌倉時代に、富士山爆發により、一時廢寺の状態に立至つたが、白隱禪師によつて中興再建せられた。本寺に藏せられてゐる寶物の數は實に多く、光格、後桃園、兩天皇の御眞饗、

住 職

通山 宗鶴

師の生家は、三代即ち初代星定師、二代宗密師を経て、現主宗鶴師に至つてゐる。



傳吉氏の三男として、呱呱の聲を擧げた。六歳の時通

山家の養子に迎へられた。長じて京都大徳寺の専門道場に學び、佛識を得て、大正十二年に同場を出た。師は、曩に、郡佛教會主事に任ぜられ

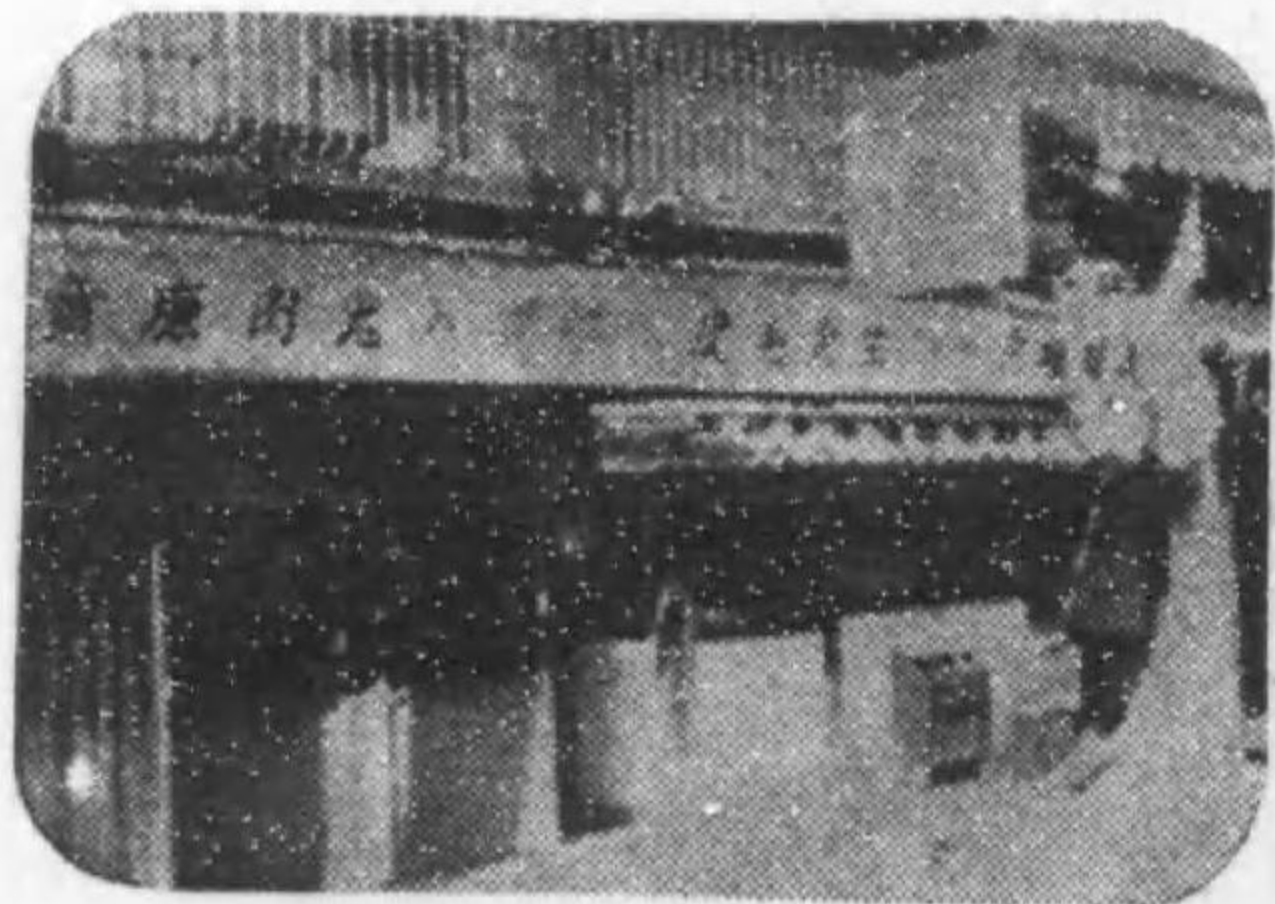
高知市新町

高知縣愛國 養兎協會 和田 學

電話四三八番

て、大いに盡瘁するところあり、現時は免囚保護會理事を勤めて、社會事業其他に貢獻してゐる。

時局下養兎業の重要性は、その加工さ



れる毛皮及び肉の需要が頃來急に激しく、あつた。依

りて立證されやう、高知縣農會指定愛國養兎協會は此の時代的要求に呼應して、創立されたもので、毛皮肉の販賣、種兎分譲等に主力を傾け、養兎の普及にも多大の好績を擧げてゐる。

同協會は現在の責任者和田學氏が産みの親で、高知縣經濟課水口技師の産婆役にて創立を見たものである。

和田氏は香美郡東川村の出身、大正二年生れ、未だ二十八歳の青年事業家である、昭和八年高知市に出で、養兎業を始めた。

家庭には愛妻ハルエ夫人との間には、道典君(六歳)和也君(三歳)がある。

高知市棧橋通り

製材業 高橋 榮

氏は明治三十二年、吾川郡吉原村農業駒次の長男として呱呱の聲を擧げた。

つとに製材界の人となり、縦横に才腕を揮ひ年少にして同業者間に重きをなせ

しが名譽の召集をうけて、シベリヤに出征その功に依り、勳八等白色桐葉章を授けられた。

斯くて凱旋するや、現在の製材工場を建設、林業報國に邁進を誓つた。氏の血の滲むやうな人生苦闘は實に此の頃から始められたのである。大戦後の餘波をうけて業界は不振の底に陥り、金融は逼迫し、製材は暴落の一路を辿るのみであつた。「今にして回顧すれば、あの頃を良くもまあ切り抜けて來られたものだと思ふね」

氏はしみじみとこう述懐し、自分の今日あるはあの逆境時代に受けた尊い試練のお蔭であると常に後輩に訓される。

氏の趣味は網打、家庭には愛妻時衛さんと間に二男があり、長男守宏君は城東商業學校四年生、次男満夫君は市立商業學校二年生に夫々在學中である。

静岡、駿東、愛鷹村

愛鷹村 役場

長倉敏夫氏の死去により、



その述を襲つて今日に及んだ。

今や村長として村政自治の重責にある外、統後奉公會長、愛鷹村農會副會長、日赤終身社員を兼任し、活躍をつづけてゐる。

園藝、養鶏を趣味とする濃厚篤實の人で、熱心な基督教信者である。

高知市若松町

共和樓主人 延原 タツ

女史は岡山縣勝田郡飯岡村の出身、有名な延原彈正の後裔である。明治廿五年高知市に來り共和樓を開店したが、昭和十三年四月大火災の折、多年辛苦の結晶たる建物全部は、忽ちに烏有に歸し去つ

た。一時は悲嘆の涙に暮れた女史であつたが、有爲轉變は人の常、七轉八起の精神力こそ大切であると力強くも再起したのである。

女史は又敬神崇祖の念にあつく、四國八十八ヶ所を巡歴する事三度といふ。

現在高知市貸席組合監査役として、同業者の重役陣に席を連ね、時局柄、経営に困難な斯界にあつて、適切合理的な營業の示唆に努めてゐる。

家庭には一男一女あり、長男肇君は市立商業を卒へ家業を手傳ひつゝあり、長女久子さんは、土佐高女を卒業、大阪の鐵工場主に嫁いでゐる。

高知市三條通り

井上 モーターズ 井上 利喜

電話二〇六一番

井上モーターズ經營主井上利喜氏は、明治四十一年十一月香美群三島村惣之助長男として呱呱の聲を擧げた、東京第五

當村は愛鷹山を北に控へ、南は原町に接してゐる。

交通上鐵道は東海道線原驛を利用し得るほか、なほ東は沼津、西は隣村平沼に至る間にバスが通じ至つて便である。

當村は東谷、島谷、柳瀬、青野、東椎路、西椎路の六區に分れてゐる。

村内には龍雲寺、妙蓮寺、妙泉寺、大龍寺、大儀寺、松壽院、廣大寺、光嚴寺、金龍寺等々、臨濟宗、日蓮宗、眞言宗の古刹が多い。

住民の大部分は、農耕に従事し、人情又淳朴である。

村長 江原 米作

江原家は當村屈指の舊家で、由緒正しき士族の素封家である。

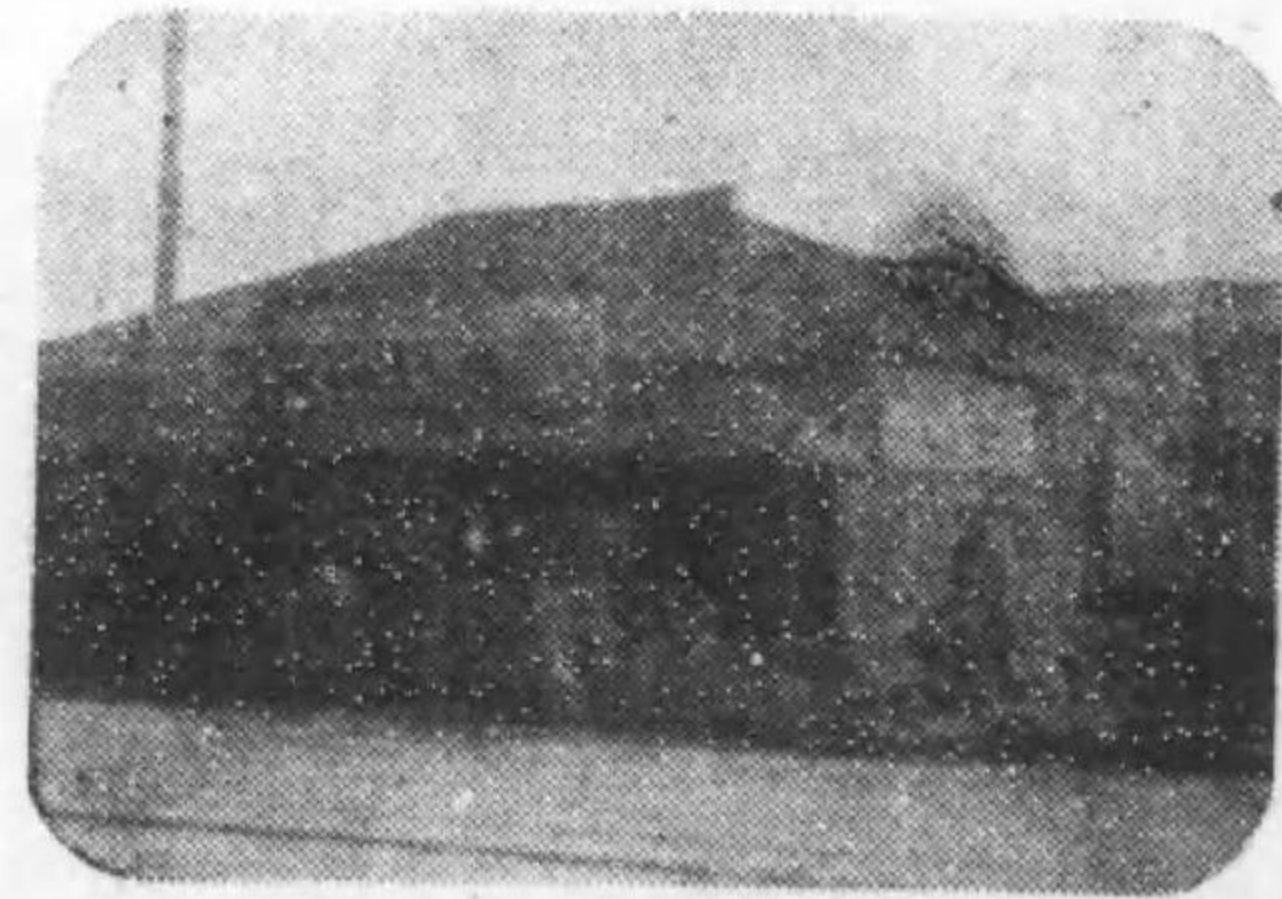
氏は故銀太郎氏の長男として明治二年一月四日に呱呱の聲をあげた。資性穎悟教員檢定試験に合格し、愛鷹及片濱の兩小學校に奉職すること三十年に及び、その教育界に寄與せる功績また少くない。

實業學校を卒へて歸京するや獨立獨歩を



念願して業界に入り、小型自動車、自動三輪車、オート

トバイ修繕並に販賣塗替組立等を營業と



全 景

而して、氏の努力は着々と成功し遂に今の繁昌をみるに至つた。

氏は資性濃厚圓滿反面またユーモアに富み、家庭は常に春風駘蕩の觀がある。

高知市中島町

土佐ホテル
經營者 **松本有弘**

電話二二三番

溫和な氣候、明眉な風光を持つて謳はれる觀光四國の門戸として高知市の位置は揺がすべからざるものがある。

土佐ホテルは、當市が誇る近代的大ホテルにして、誠實、明朗をモットーとして觀光客の爲めに萬全を期してゐる。

いまや四國に遊ぶ者日を透うて、増加し常ホテルは正に旭日昇天の概がある。

因みに松本有弘氏は、ホテル經營者として、その才腕を讃へられ、夫人啓子さんの協力よろしきを得て、同業界に君臨するに至つた。

氏は人となり濃厚、敬神崇祖の念篤く國家本位、旅客本位の奉仕よりは定評がある。

高知市本町筋

硝子卸商 **北岡 龜太郎**

電話一三八九番

氏は明治廿六年十一月市外、此島に出生した、明治四十五年、市立商業學校を卒へるや間もなく市内に出で十九歳にして現在の



商店を開き今日の礎石を築いたのである。

氏は高知市板ガラス組合長、高知商業會議所常議員、高知市商工聯合會評議員、高知信用組合惣代、三和土地建物株式會社常務取締役及び、四國支店長等の要職にあり、當市切つての有力者である。

氏は又資性圓滿、溫和な風貌の持主で敬神崇祖の念に篤く、郷土の徳望家である。

俳句を良くし、當市ホト、ギス派の重鎮、家庭には母堂喜多江刀自健在し、愛妻との間に一女愛子さんがある。

静岡、富士、吉原

富士證券
金庫社長
町會議員 **市川 一雄**

電話吉原四六四・四六五番

當町の舊家で、先代より株式商を營み堅實一途の獨自な商法は町の内外から絶大な信望を獲ち得てゐる。

氏は少壯事業家として知られ現在、富士證券金融社長として地方財界に重きをなし、また町會議員として減私奉公、自治産業の伸張に盡瘁してゐる。

氏の主張は當町をして附近五ヶ町村と大同團結せしめ、工業都市制施行へ邁進しつつある。

氏は明治三十五年の生れで、沼津中學の出身、つとに實社會に出で家業に精勵しつゝ、郷土の政治的經濟的實情を具さに究めた。

五ヶ町村合併、工都編制の主張の如き實に氏が十年の研鑽に成るものである。氏は又人となり濃厚醇朴にて清廉高潔なる人格を謳はれてゐるが、寔に氏の如く名利慾に恬淡たる人物は甚だ稀有である。

高知市南新田町

土佐木材移出
土佐南北海運 **武市 丑吾**

電話二〇八五番

氏は明治十九年二月、長岡郡三田村に呱呱の聲を擧げた。嚴父熊太郎氏は代々の美田を守つて農業にいそしみ近郷に聞えた篤農家であつた。

少年の頃より才氣溢れ、十八歳の折郷



關を出て高知市に來り、海運業に従事したのである。

斯くて七年、二十五歳の時氏は若干の資

本を得ると獨立し海運店を開業した。恰も斯界は帆船から發動機船への轉換期にあつたので、氏はその出發に於て早くも難關に直面したのであつたが幸ひに援助者を得て、之を突破し遂に今日を招來したのである。

氏は現在第二、第三、第六鏡川丸と三艘の船舶を有し海運業の傍ら、土佐材の縣外移出を手廣く營んでゐる。

静岡、富士、吉原町

土浦染色
工場主 **土浦 岩吉**

電話二四五番

氏の經營する土浦染色工場は、先代吉兵衛氏の創業せるもので、父子二代に亘り致々として斯業に盡力し、堅實一本建の運營に依り今日を築きあげたもので、其の業界に於ける確固不拔の地位と對外信用は絶大なものがある。

氏は明治二十一年生れ、資性濃厚篤實にして謙讓寛仁の紳士である。同工場經



工業組合
理事、吉原町商工
協會常任
監事、吉原信用組
合理事をつとめ、廣く工業界の發展と運營に日夜盡瘁し、或は町會議員として吉原町工都體制施行確保に活躍、郷黨の期待を一身にあつめてゐる。

氏は、社會公共の爲めとあらば、何物をも抛つて惜しまぬと云ふ、減私奉公の精神を持ち、推されて金錢債務調停員、商業調査員等の名譽職を多年に亘り任命されて此の方面の功績も決して尠しとしない。

静岡、富士、富丘村

警防團長 **石川 省三**

石川家は代々農を家業とし、現主省三

静岡、富士、上野村

牧野酒造合資会社

電話上野一〇八番



銘酒「白」の商標

當社は慶應年代の創業にかゝり、現主
に以て、三代約八十の長い歴史を有する
「銘酒白糸鼓」と焼酎を醸造販賣し、
その主なる販路は東京、横浜、横須賀、
富士郡下一帯、その他各方面廣範圍に及
る。

び、横須賀市田浦町には分店を置き、年
醸造石高五百石に達し、使用人員十數名
にして、洋々たる前途は業界の注目する
ところである。

その品質の優秀なることは愛酒家の普
く知るところで、第二十四回清酒品評會
に於て、會長能登杜氏、組合長谷内星七
氏より優勝の表彰を受けたことによつて
も解るのである。

店主

氏は故和市氏の男
で、幼時より漢學を
修め、人となり剛毅

潤達、家業を繼いで精勵格勤益々業績
を擧げ、又村民に推されて村會議員三期
區長、學務委員、消防部長を勤め、現在
は金錢債務調査委員、學務委員、氏子總
代、檀徒總代、日本赤十字社特別社員等
多數の公職を占めて、村治の刷新向上、
村内の融和に献身的努力を捧げてゐる。

高知、安藝、安藝町
製茶、製紙業 清藤 延技



奉公の念
に厚く、
業界の信
望を一身
にあつめ
家業に精

氏は明治廿六年四月安藝郡畑山村に出
生、嚴父竹次氏は久しく臺灣警察界に警
察官として、内臺融和に不滅の功績を殘
してゐる。

此の父親の血を受けた氏は清廉潔白、
勵する傍ら、高知縣茶業組合安藝支部長
安藝商工會副會長、國防調査委員、安藝
小學校後援會委員等の公職を兼ね、業界
の振興、地方自治の圓滑遂行に寧日無く
張率してゐる。

氏の製茶業は、祖父萬之丞の代より受
け繼いで來たものであるが、製紙業は昭
和十年氏に依りて觸手し、インキ止め改
良和紙に注力、郡下井ノ口村松原に近代
的裝備成る工場を有す。

家庭には高齢の母堂七刀自健在し、愛

妻久壽喜さんとの間に三男一女がある。

富山、上新川、太田村

村會議員 中橋 甚一



其の聲を
擧げた。
いまだ三
十三歳の
少壯政治
家なり。

中橋甚蔵氏は、生前村治産業の發達に
功績多かつた。當主はその長男として呱

年少にして衆望を擔ひ、青年團長として
活動し、また農科組合長を努め、現在に
於ては、村會議員、警防團班長、水防組
合議員、在郷軍人會副會長として村政に
また信用組合部落部長として産業の發展
に盡瘁し、その功績は固く認められると
ころである。

時局下農村問題山積せる折柄、氏の今
後の活躍こそ刮目すべきものがあらう。

資性温厚にして、恭儉、家庭には四男
二女を恵まれて常に和氣霽々として近隣
の羨望を聚めてゐる。

静岡、富士、富丘村

農會長 石川 藤太郎



先代育
作氏は篤
農家とし
て知られ
八十七歳
の高齡を

當家は代々農を以て家業とし、現主藤
太郎氏にて十五六代を経る、村内屈指の
舊家である。

全うし、當家繁榮の礎石を置いた人物で
ある。
當主藤太郎氏は育作氏の長男として、
明治十二年八月三日出生、人となり温厚
篤實、奉公の精神に厚く、早くより村發
展に心を致し、ために衆望を擔ふて先に

は區長、國勢調査員、收入役等の公職に
擧げられ、尙現在、富丘村農會長、富丘
村煙草耕作組合長、富丘村煙草耕作副會
長、氏子總代、日赤正社員として、夙夜
其の抱負を着々實踐しつつある。

家庭は夫人たけさんとの間に二男二女
があり至極圓滿である。

石川、金澤市高岡町二六

生糸織物業 竹山 孝正



現在地に
獨立開業
して今日
に至つた
不撓不屈
の精神を

氏は明治三十八年、金澤市横安江町に
於て呱呱の聲をあげた。長じて金澤市堤
町ケヤキ商店につとめ、昭和十年十一月
以て事にあたり、今や金澤市織物業界の
中堅人物として確乎たる地位を占め、そ

の將來は多大の期待をかけられてゐる。氏は時局知識に通曉し、強き信念は何物をも恐れず、秘密主義を排し何事も公明正大であり、堂々と千萬人の批判の前に立つのである。この信念と勇氣とは、これからの事業經營者の大いに學ぶべき點である。新しい時代には、新しい型が必要である。

減私奉公の新精神を以て、生絲織物業界に、君臨せんとする氏の意氣は壯んである。

静岡、磐田、見付町

勳七等 松田 吉重

當家の初代喜惣治氏は静岡縣引佐郡都田村、村松家より別れ、當主は先代吉太郎氏の長男で、明治三十一年十一月十六日に出生、夙に祖業を承けて熱心を極め祖先よりの紫蘇卷、紫蘇香、山葵漬、佃煮類製造業を受けつぎ、一百年の歴史に更に華を添へてゐる。



商標の巻そし

評高く、榮養、美味、且つまた香りの芳へてゆかしきは、本品の持つ誇りである。京阪、東京方面にま



をはじめ、遠くは北海道、青森方面にま



石川、能美、御幸村
日末尋常高等小學校

石川、金澤市田丸町
辻正ヤスリ 工業所 辻 正宏

金澤の中心工業街、驛前田丸町に存立する辻正ヤスリ工業所の當主辻正宏氏は

で販路を有し、大阪市此花區上福島北一丁目には出張賣店を持つてゐる。今次日支事變の起るや、直に准尉として出征し、凱旋後は在郷軍人分會參事をつとめてゐる。家庭には尊父吉太郎氏をはじめ、夫人かね子さん二男、二女あり圓滿である。

から鑄製造の秘術を傳授され、技術も一段と上達した。爾來氏は強い覺悟を以ていかなる障礙にもいかなる難にも、屈せず遂に今日の如き確乎たる基礎を築きあげたのである。

今日、わが日本の潑刺たる工業、殊に工作機械工業には、この鑄工業が如何に偉大なる役割を果してゐるかは、今更喋々するまでもない。

氏は、品質の向上改良に夙夜苦心と研鑽を怠らず、機械による製作を排し、絶對に手による技術を尊重し、優秀卓越せる手工技術として「辻正印手工鑄」を專賣、業界に壓倒的好評を博してゐる。

趣味として讀書、カメラがあり、洋樂にも造詣深く、また茶道に禪味を練り、乗馬運動に身心を鍛鍊し、その暇には貧民救濟等社會事業にも關係してゐる。

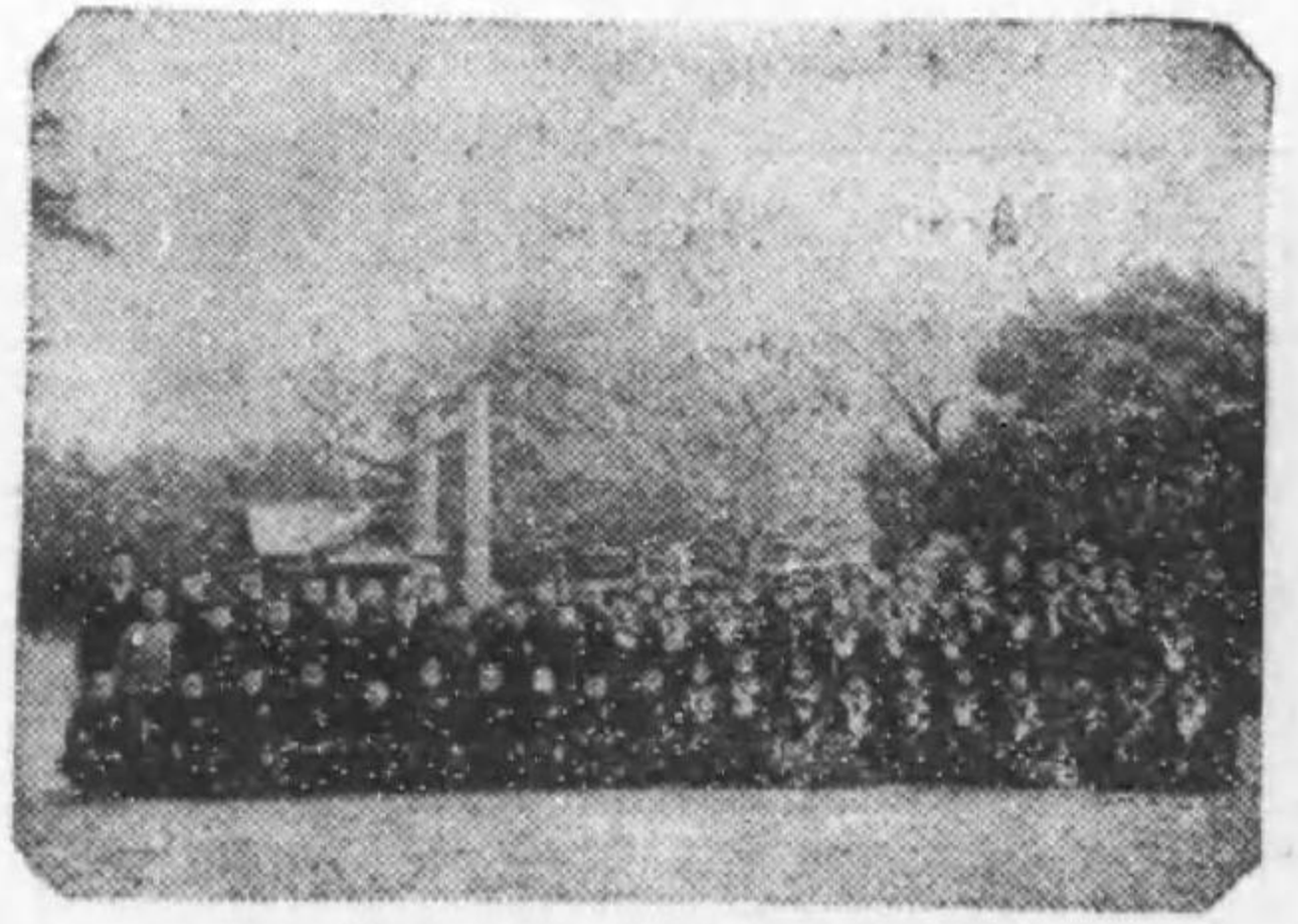
石川、金澤市彦三一番丁

市會議員 森岡 義博
金箔製造販賣



るほどの熱心家である。

氏はさきに金箔工業組合の設立に際し勤なからぬ盡力をし、遂に出資金百萬圓他に類を見ない優良組合として堂々たる歩武を運ぶに至つた。金箔は美術工藝品として最も重要なものであるが、國策的見地からこれが代用品も眞剣に研究考慮され、今後の發展が大いに期待される。また先年、森岡商工部を設立し、天津を中心とする北支那方面に、建築材料、食料品等の輸出をはじめ、なほ最近、羽咋郡出身の平田源二氏が主宰する天津富榮洋行とタイアップして織物を筆頭に化學加工品その他の支那向輸出貿易業に従



同時に、新築、校名の改稱等幾度の變遷を

事してゐる。明治三十八年の出生で、今後の活躍を期待されてゐる。

石川、能美、御幸村
日末尋常高等小學校

念記
同八年學令發
布と
共復した
後小學校
布と

經て、大正十四年高等科を併置今日に至



當 校 長

此間屋の内體操場、教室その他校舎の増築、運動場擴張等のことあり、昭和十年には御眞影奉安殿竣工、同年校舎一棟を増築八學級に編成す。

本校經營の主眼點は、わが國の現状、郷土の實際、兒童生活の實狀に即し、堅實なる教育觀の下に師弟一體となり、總親和による教育報國の一路に精進、以て常に純美なる校風を振作してゐる。

尙紀元二千六百年記念事業の一つとして、運動場の大擴張を圖つてゐる。

因に校長當麻正昭氏(正八位)は兒童父兄の信任厚き人格者である。

金澤市十一屋町

武藤 銀太郎

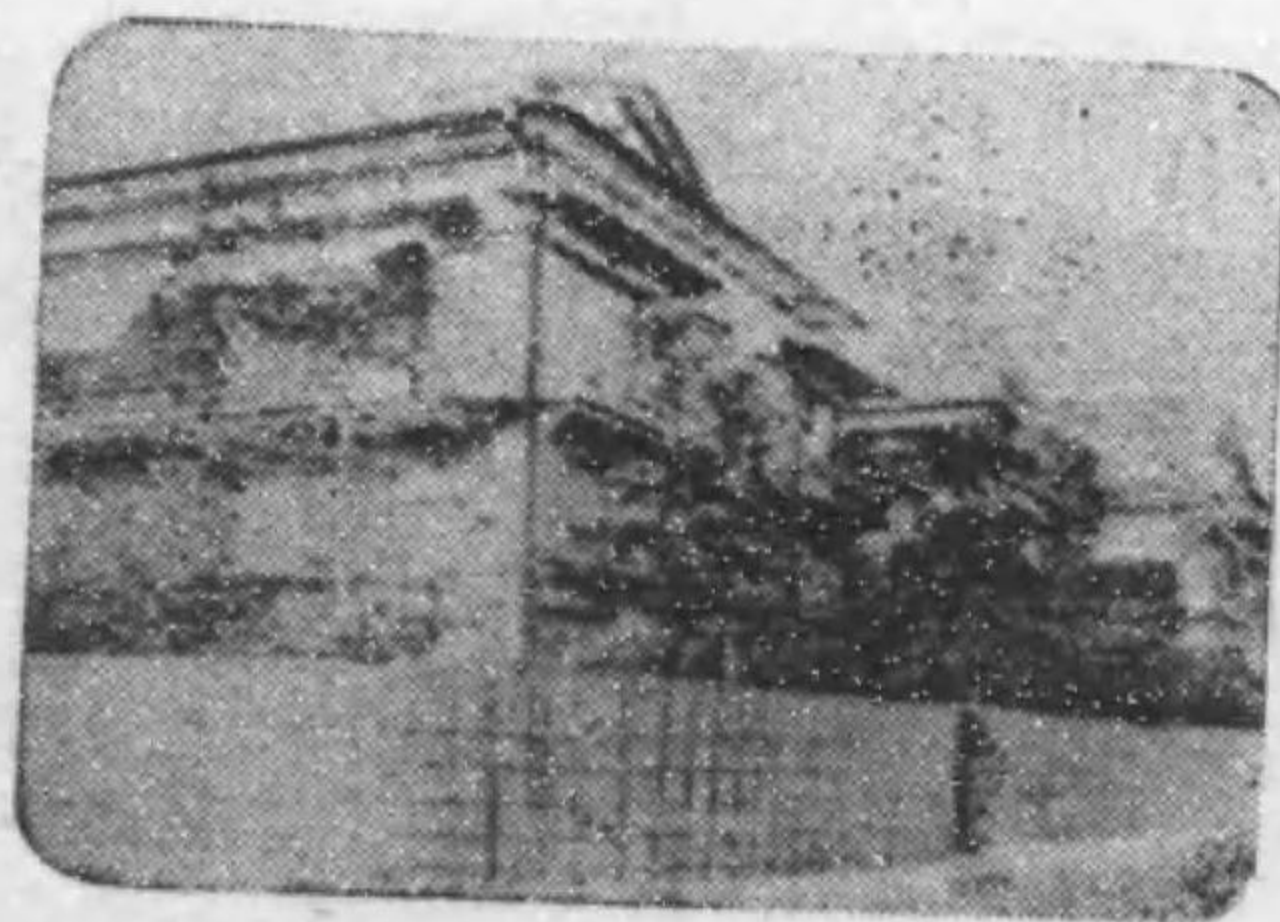
靜岡、田方、伊東町

温泉旅館 東洋館

電話二六〇番

伊東温泉屈指の旅館として知られてゐる。

此温泉場に昭和十三年十二月



全 景

即ち伊東線の開通と同時に創業されたもので、伊東駅より

一、二町の所にあり新築二階建の偉觀を誇つてゐる。

經營者

加藤 菊枝

菊江氏は、本郡錦田村大字谷田の出身にして、嚴父周作氏の次女、生れは大正八年八月二十四日である。

尊父は今日なほ健在し、伊東町玖須美

に吳服商を營んでゐる。

同女は昭和十一年伊東高等女學校を卒業した才媛で、容姿端麗の佳人である。昭和十三年以來本校の經營者として十數名の従業員をよく督勵して家業の隆昌に努力してゐる傍ら、伊東町處女會幹事を勤めて衆望がある。

母堂さん刀自(五十三歳)も亦鑿鑿として餘生を送つてゐる。

靜岡、田方、西浦村

保浦漁業協同組合

本組合は當村部落の漁業家に經濟上の便益を圖るべく、明治三十六年六月四日に創立されたもので、爾來幾多の困難を克服して昭和十二年四月遂に組織も保證責任に改められて、堅實なる基礎に立つこととなつた。なほ、常組合には倉庫は三棟あり、所有船に發動機船一艘、漁船六艘がある。

現任役員は理事長渡邊傳、理事野村庸

一、高田與一郎、監事、高田徳次郎、野村武雄の諸氏にして、歴代理事長に、野村菊次郎、高田寅吉、渡邊爲吉の諸氏がある。

組合長

渡邊 傳

渡邊家は部落草分の舊家にして、農を本業とし、漁業を副業として營んでゐる。

先考米造氏は公共方面に多大の力を致し、區長を永年勤めて人望があつた。

當主傳氏はその長男、明治三十四年八月十八日の誕生、また明朗豁達の氣性を有してゐる。

曩に區長、消防小頭、青年團幹事等を勤め、現時本組合長の要職に推されて、盡瘁しつつあるほか、中部産業組合監事日本赤十字社正社員等の公名譽職を兼任してゐる。

趣味は讀書。家宗は臨濟宗。家庭には母堂より刀自を初め、令聞はるさんとの間に四男一女があり。嫡男は智夫君(十三歳)といふ。

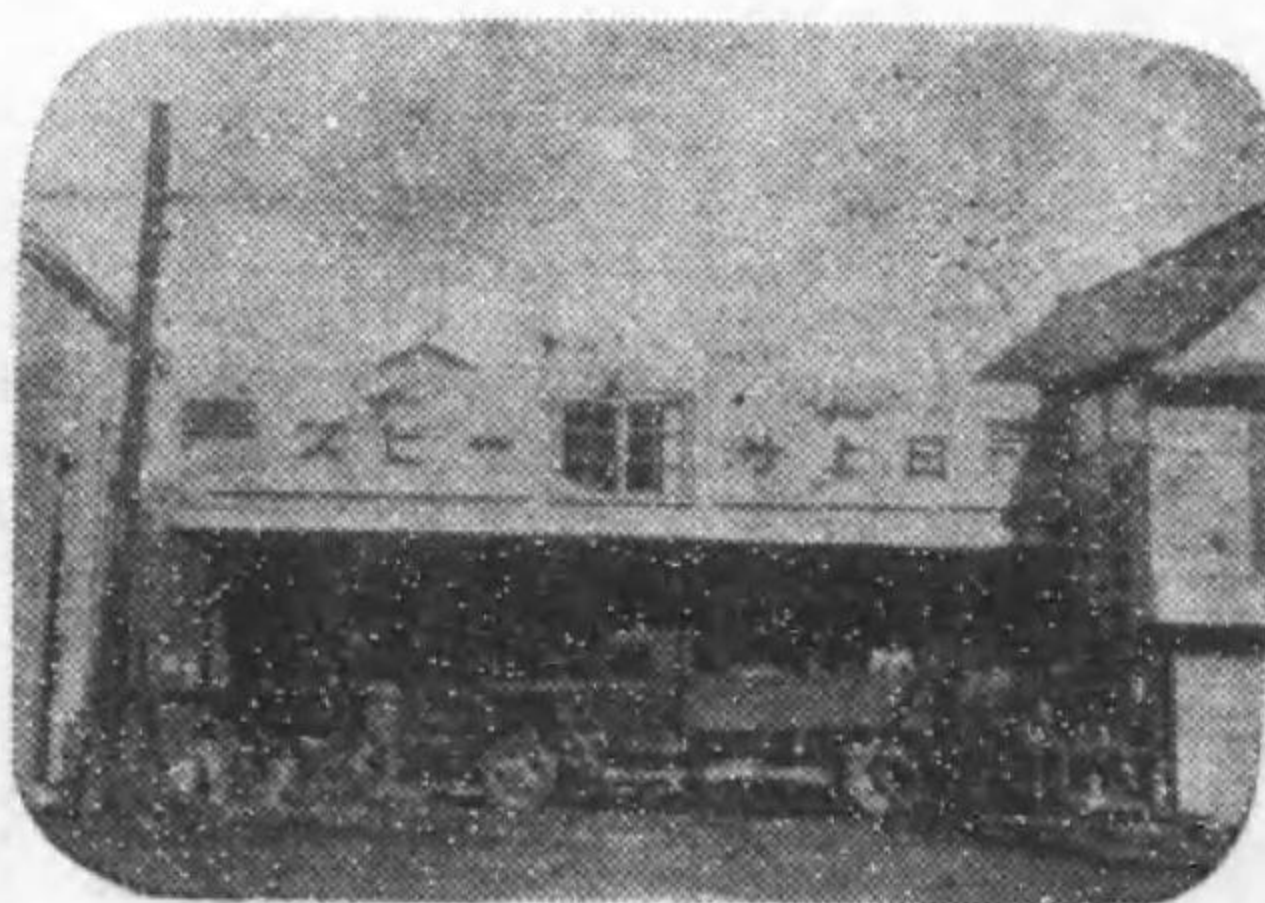
高知市旭町三丁目

自動車製作所

田上 利徳

電話二六五番

氏は高知縣長岡郡吉野村の人にて、明治三十年、生を享けた。夙に大阪市西區



製 作 所 全 景

西長堀に於て、輸物の研究に從事すること約十年、その後、二十五歳の頃高知市野村自動車部に奉職し、在勤三ヶ月に及び、二十八歳の時、

初めて獨立自營、現在の田上自動車製作所を開いた。自動車ボディの製作をはじめ、小型改造縮尺、エンジンの修繕、塗装、電気瓦斯銲接作業を主要業務とし、同じ旭町内に第一、第二の二工場を有し、取引先は縣内一圓に及び、その隆盛は實に驚嘆に價するものあり、研究心に富み、常に技術の向上に心掛けること、氏の如く熱心なるは尠い。

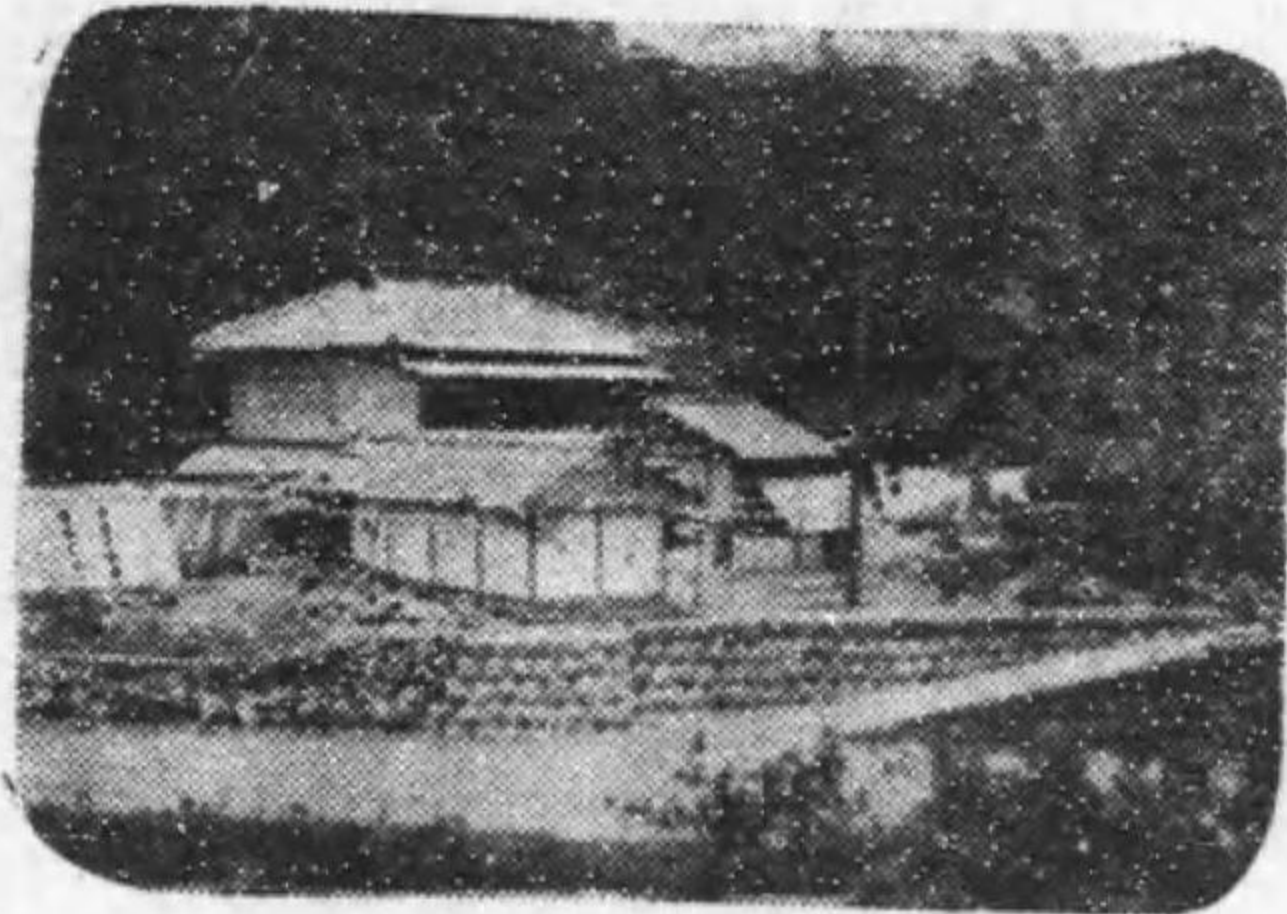
骨董に趣味あり、鑑識眼はすでに玄人の域に達してゐるといはれる。家業の傍ら高知市自動車組合幹事として活躍されてゐる。

母堂テヨさんは古稀を超へてなほ饒樂たる元氣を有し、令閨イトさんとの間に一男二女あり、家庭圓滿である。

高知、高岡、川内村

製紙業 畑山 作馬

當家は川内村有数の舊家にて由緒ある家柄である。古くは農業に従事したが今



製紙工場全景

から約二十年前、先代安馬氏の時製紙業に轉じ今日に至つたものである。

當主は先代の三男にして明治三十三年の出生、長じて家督を繼ぎ、今では表具用土佐唐紙を主に製造し、高知縣下はいふまでもなく、大阪から遠くは東京にまで販路を擴張し、家業の隆昌大いに見えるべきものがある。しかも兼ねて城西生漉工業組合理事の重責をつとめ、業界のためにも奇異と盡瘁するところが多い。

資性快活、商才に富み、克く今日の榮冠をかち得たるは、堅忍不拔 精神と不斷の研究心があつたからである。龜代夫人は良妻賢母として聞え一女小雪さんがある。

静岡、濱松市相生町

鈴木式織機株式會社

電話代表三八八〇番

當社の創立は明治四十二年であるが、その後の業界の進展、事業の擴充により大正九年三月株式組織に改められ、以て今日に至つた。

資本金は二百萬圓、綿、毛、絹、人絹用各種織機、同各種準備機、漂白、染色整理、仕上諸機械、紡織工場用各種木管綿、毛、光綿織物各種の製作等を事業内容とし、現下産業界の動向に即應しつつ圓滑なる業務の遂行を圖つてゐる。

主要販路は内地各機業地のほか、臺灣、滿洲、朝鮮、支那、印度、南洋諸島、海

峽植民地等である。

社長鈴木道雄氏以下、常務取締役佐々木佐一郎、取締役鈴木伊太郎、鈴木師、山下一太郎、監査役に鈴木謙作、鈴木長一、中村敬一の諸氏が現任してゐる。なほ第二工場は可美村高塚に設置されてゐる。

石川、金澤市玉川町

土木建築業 長組

長組は明治二十三年先代長惣右衛門の



當主惣右衛門氏

建築業の第一人者として、長組を知らぬ者は殆どない。創業以來、幾多著名の建築をなしたが、中でも主要なものとして、大藏省營繕管財局、奈々目海軍療

創業に於ける。在世中當地方に於ける土木

養所、越後長岡工場、東京製鋼所、藤原工業大學、逓信省、下志津飛行學校、金澤醫科大學、東京警備司令部、その他各方面の學校、官公署等、一々枚舉に遑がない。

總務は二代目長惣右衛門氏が當つてゐる。氏は明治四十二年の出生にて、法政大學經濟學部を出た俊英である。統御の才に長じ、その人格識見手腕等から見



工事總務長 岡高務氏

長組の今後は隆々たる繁榮あるのみである。

工事總務には高岡仁作氏がゐる。氏は石川縣土木建築組合理事長の要職にある人で、縣下土木建築業界の權威者、支配人長嘉三氏と共に總務を扶けてゐる。技師長國原正外氏も得難き技術家で、その他長組には東京主任小澤啓氏、小倉

主任本田寶生氏、富山主任山本一豊氏、湯別主任宮本菊松氏、現場主任南右吉氏等多士濟々である。

静岡、田方、錦田村

村會議員 青木 國太郎

當家は近村屈指の舊家である。

先考源助氏は、請負業者として立つたが、晩年は農耕に従事し、篤農家として知られてゐた。

現主國太郎氏は明治六年八月二十六日に誕生し、長じて家業の傍ら、國勢調査



員、賃貸價格調査委員等として盡力し、現在は村會議

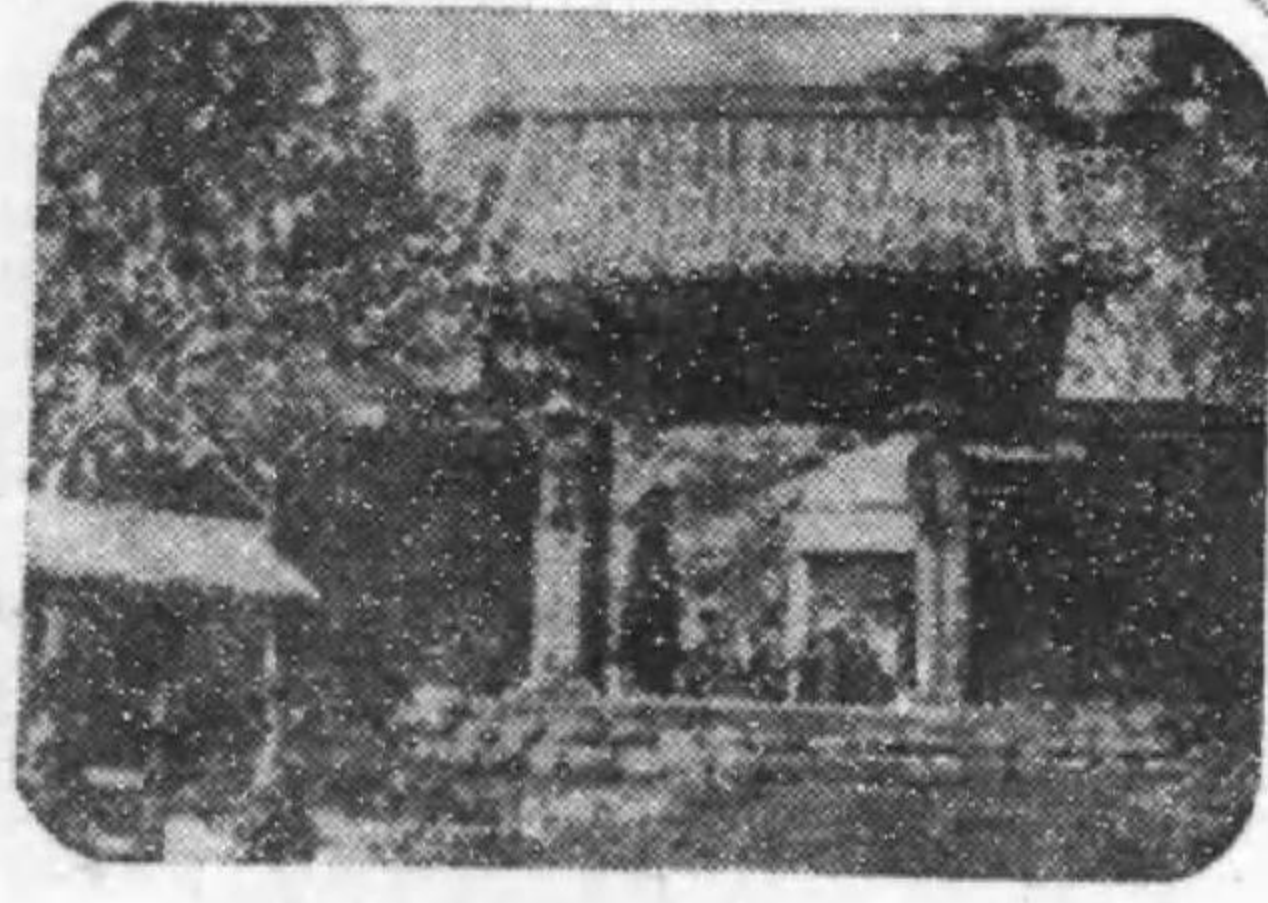
員、金錢債務調停委員、農地委員、村農會長、信用組合理事、區長等を兼任して寧日なき努力を捧げてゐる。

氏は敬神崇祖の念厚く、氏子總代、檀徒總代をもつとめてゐる。また箱根國道の改修については、氏自ら委員となり、當村の交通の發展上多大の貢献をなせり。静岡縣廳より自治功勞者として、また名古屋稅務署より表彰され、村よりは銀盃を賜はつた。家庭は令閨すみ夫人と琴瑟相和し、一家またそれぞれ家業に勵んでゐる。

静岡、小笠、平田村

靈松山好運寺

本寺は今より約四百年前の天正十三年八月、黒田正次の開基にかゝるもので、のち天明四年桂嶽西堂によつて中興され更に降つて天保二年恵山下和尚は諸堂の改修に盡して、寺門の興隆を圖つたが、不幸安政元年の大震災に際して、本堂倒壊し、再び恵山和尚の手によつて新築されるに至つた。



平川遊園地表門前

本寺は妙心寺に於て第三十三番札所として遠近より参詣

如意輪觀世音菩薩を本尊として安置し臨濟宗妙心寺派に屬してゐる。

寺に來つて十七世の法燈をうけ繼いだ。輪還曆に近くして、なほ鑿鑿たるものあり、高潔清廉なる善知識として衆望が高い。

静岡、賀茂、下田町

區長 若林 禧四郎

氏は朽木縣の出身、明治二十四年二月十七日先代米吉氏の五男として誕生し、大正七年八月離郷下田町に移つた。爾來當町に於て米、酒、食料品販賣を開業し



致々として、商賣の擴張及び店舗の充實を計り、現在

に來る者が多い。春秋彼岸には盛大なる祭事を行ひ、毎月二十五日觀音經がある。

住職 松浦 禪雄

師は明治十四年六月八日の出生にして、曩に相良町善明院住職を勤めてゐるが、のち明治三十年頃當

防護團第二分團長として、防護團長より感謝狀を得た事があり、現在は、下田町新田町區長、賀茂郡米穀小賣商組合理事、賀茂郡桃組公長等の要職にある。趣味は讀書にて、淨土宗を信仰してゐる。

家庭には、千恵子夫人との間に一男一女あり、長男は目下豆陽中學校在學中に、長女しげ子さんは下田高等女學校卒業後、同校補習科在學中の才媛である。

静岡、小笠、賀茂村

村會議員 長坂 勝太郎



長坂家は今を遡る約三百五十年前の創立にかかり、爾來連綿として家系を傳へて來た由緒ある家柄にして、また村内隨一の故家である。



長男 泰雄 氏

現に村會議員に任ずること五期目である。

あり、ほかに學務委員、産業組合理事等の公、名譽職を兼任して縦横に活躍してゐる。

なほ長男泰雄氏(大正四年生)は早稻田大學出身の秀才であつたが、今次事變に上等兵として應召、一死報國を誓つて征途にのぼり、華々しい勳功を樹つて遂に壯烈散華した勇士である。次男矩男氏

は目下早稻田大學に在學中である。

静岡、小笠、西郷村

曹溪山法泉寺

當寺は應永三年の開創にかかり、寛政元年に至つて祝融の災に罹り、寺堂を燒失した。その後直ちに復興再建され、爾來連綿として法燈を相傳へて來た。

慶安元年には徳川家光公より、萬延元年には徳川家茂公より、夫々御朱印十石を下賜された由緒を有する曹洞宗に屬する古刹で釋迦如來を御本尊としてゐる。

二月十一日に星祭、春秋二季には祈願祭を行ひ、善男善女の参詣で頗る賑ふ。なほ毎月一回青年團修養會、春秋二回婦人會を開催して村青年子女の教化に努めてゐる。

住職 笛岡 哲先

師は京都の出身にして、明治二十六年二月五日の出生である。

さ、ひたすら佛道に精進する一方、また公共のことに盡すところ多く、方面委員をはじめ、教區長、積善會理事、佛教會副會長等の公名譽職を兼任してゐる。



静岡、安倍、美和村

美和村役場

美和村は静岡市の北方一里に位し、十二字より成つてゐる。農業最も盛にして、米、麥、茶等の産出多く、名産足久保茶はもと公儀の貢品であつた。

村長 岩崎 繁
 當家は素封家として開え、氏は明治二十六年呱呱の聲をあげた。夙に村會議員に選ばれて現在三期

目である。巖に推されて助役となりしが昭和十三年六月、遂に村長の要職を負ひ、村政發展に努力を捧げ、その功勞は顯著である。岩崎製糸株式會社の社長、産業組合理事その他各種團體長を兼任して、敏腕を顯はれてゐる。



助役 佐藤 金治
 氏は明治二十二年の出生にして、夙に村會議員として村政に參與、助役に推され、産業組合理事を兼ね、温厚にして誠實眞摯なる人格は將來を刮目されてゐる。

富山、東礪波、地船若村
 村會議員 **大井 長平**
 氏は東礪波郡油田の舊家櫻井宗一郎氏



の三男として嘉永六年十月に出生、のち大井長平氏の養嗣子となつたものである。先代大井長平氏は農業を營み代々の舊家地主として近郷に知られ、常に村内の要職にあつた。

長平氏
 は明治初年の頃金澤藩士永山平太先生の塾に入り漢學を修めた。嘗て高岡銀行合併前の共通銀行の常務取締役、中越銀行重役として財界に重きを成した。なほ巖に郡會議員、村長、助役等を務めて功績多く、現に村會議員及び區長として益々自治産業の發展につとめ功勞者として表彰される事も數度である。

茶事を嗜み詩道に精進し悠々老後を楽しんでゐる。家庭は極めて圓滿である。

富山、東礪波、庄下村

代々農を主業とする開祖十一代の舊家である。
 氏は大字宮村より推された村會議員で



同村一部に流れる輕佻浮薄の傾向を慨歎し、「農民は農民らしき生活をすべし」と常に提唱し自ら質實剛健なる氣風涵養の先鋒に立つて克く村民に範を垂れてゐる。されば村内より長老として畏敬をうけ、村會に於ても氏の言動は常に重視されてゐる。酒煙草を樂しむとし、時に盃を重ねて談論風發、時局を論じ、軟弱なる現代人を難じ、硬骨なる氣概をみせてゐる。資性豪毅果斷にして、人格また高邁、

よく銃後農村の指導に當り、村民に範を垂れてゐる。

富山、西礪波、國吉村
 村會議員 **關盛 議鐘**

關盛家は村内有數の舊家にして、先代傳兵衛氏は當主の幼少の頃逝去した。氏は日露の役に出征して勇名を轟かし勳八等を賜つた勇士である。村にあつては農業に専心し、當區の特産品たる蘆組工品の生産指導にあたり、農村副業の發展に盡してゐる。岩坪農事實行組理事をなす傍ら、村會議員として手腕を揮ひ人的資源の不足補充、蓄産奨勵、産業道路の完備等の抱負を有し、その合理的方法による實踐を企圖してゐる。資性温厚、村民の信頼厚く、尙長男は戸出町の警察關係に奉職中であり、模範的家庭をなし、近隣の羨望の的となつてゐる。

富山、氷見、阿尾村

氏は大正四年當地方の名門たる故八郎衛門氏の長男として生れた。先考は阿尾村長として永く村内の自治に盡瘁した功勞者で、いま猶村民に追慕されてゐる。

青年團長 **上野 八郎**

氏は夙に家業を繼承し、村内の信望厚く、青年團長に推戴され、同村の青年團をして、縣下の模範青年團たらしめ、令名噴々たるものがある。なほ氷見灘漁業株式會社監査役、阿尾漁業組合理事を兼ね、産業組合創立にあつては初代組合理長として就任する等、同地方産業發達に貢獻多く明朗豁達な青年紳士である。眞宗を家宗とし、幸福な家庭を營んでゐる。

静岡、賀茂、松崎町

町會議員 **近藤 公平**
 藥劑師
 電話七六番

當家は代々藥種商を営み、また素封家として知られてゐる。

先代平八郎氏は市町村制實施以來、村會議員として自治に參與して活躍し、令名噴々たるものがある。

氏はその四男として、明治二十四年九月二十二日に生れ、京都藥學專門學校を卒業して歸郷した。曩に推されて所得税調査員となり、また木田自動車株式會社常務取締役の要職にあつて、傍ら町會議員、金錢債務調停委員、日本赤十字社正社員、氏子總代、檀徒總代等、社會公共の發展に盡瘁し、町民の信望を一身にあつめてゐる。

氏は藥局を營業してゐる關係上、藥草の栽培に關心を持ち、未墾の山野を切開きその栽培を企畫してゐる。

氏は一面熱情家で克く時局を談じ、言中愛郷の精神自から溢るるものありて、氏の前途は、郷黨から大いに期待されてゐる。

家族は尊父、母堂高齡にて健在し、夫

人との間に三男三女あり鶴々たる家庭をなしてゐる。

静岡、小笠、粟本村

粟本村 信用販賣組合

本組合は昭和五年五月に創立された。のち昭和八年に至つて、保證責任組織となり逐年業況は旺んとなりつつある。

購買部では農家に必要なる種々なる物品を取扱ひ、販賣部では専ら吠の共同販賣を行ひ茶、蒟蒻等をも取扱つてゐる。

利用設備としては穀摺機、精米機、藁繰機等があるが、昨年度より精麥機も備へて活潑な活動を行つてゐる。

なほ現任役員は組合長理事、岡田信太郎、理事、榛葉五三郎、小關弘、倉山多十、原田惣平、岩井水太郎、岩井榮一、中山善右衛門、監事、榛葉七郎平、佐藤健治郎、倉山仁太郎、石山仙三郎、中山林平等の諸氏である。組合長以下役員は努力により益々發展の途を辿つてゐる。

組合長 岡田信太郎

昭和六年以來、本組合長に推戴されて組合精神の普及徹底に盡瘁してゐる岡田信太郎氏は、曩には收入役、助役等を拜命して功勞のあつた人物にして、衆望頗る高く、現に、村會議員、學務委員等の要職を兼任して、村政、村産業の刷新向上にも力を致してゐる。

静岡市北番町

静岡市茶業組合

當組合は明治十七年、静岡、安倍、有波の一町二郡の茶業者を以て組織されたものであるが、同二十二年に静岡市制が施されるに當り、三郡より分離し、同市の商人を以て改組されたものである。北番町の事務所には大正六年に移轉し、昭和三年増改築を行ひ、今日の偉觀を見るに至つた。

歴代組長は尾崎伊兵衛、尾崎角次郎、

上田榮吉氏等で、現在は尾崎元次郎氏、副組長は小山金作氏、常務委員、吉川覺次郎、山本實三郎、伏見晋吉、水上金三郎、池谷桂作、出島甚太郎、岩崎五郎、今村英一の諸氏である。

組長 尾崎元次郎

當家は古くより駿州静岡に在り、代々製茶業を営み來つた當地方の名望家である。氏は伊兵衛氏の長男で明治三年九月出生、日清日露役に従軍し、後、林業を営み傍ら、富士製藥社長、静岡貯蓄銀行頭取、静岡三十五銀行取締役、静岡精華高等女學校長等の顯職にあり、縣下多額納税者にして、静岡商工會議所會頭である。昭和十年より十三年まで、同市長に選ばれ、曩に貴族院議員に選ばれ、又衆議院議員に當選すること三回に及んでゐる。

高知、吾川、伊野町

製材業 森 信利

先代力馬氏は薪炭商を営み、名聲普き陰徳の士である。

氏はその男にして、明治二十四年の出生である



早く伊野町マルー工場に入つて、製紙業を見

習ひ、後、これを辭して米穀商並に、製紙原料商を經營し、更に三十才の時、材木商を開業、兼ねて製材業を営み今日に至つた。業歴すでに二十年に及び、電燈柱を主要取扱品とする。家號は「カネマス」取引先は大坂、朝鮮にまで及んでゐる。主要納入先としては電氣局、土佐電氣株式會社、逓信省等あり、また諸官廳の指定工場となつて居り、信用の絶大なこと筆紙に盡し難い。溫和勤勉の人格者にて、人に接しては丁寧、一見好感の持てる人である。釣魚を好み、また骨董に興味がある。

高知、高岡、東又村

東又村役場

陸軍中將下元熊彌氏、前衆議院議員下



元鹿之助 氏等の名士を本村は氣候溫和土肥沃、

人情質實な平和な山村である。米麦の産多く、養蠶や木炭製造が行はれ、木材、鯉の産出もあるといふ土地で、農林省直営の高知縣種畜場が置かれ、牛、綿羊、鶏が飼育される。村には志和城址、薬師寺等の舊蹟のほか、名勝轟ノ瀧あり、この瀧は、大小合せて六十五の瀧より成り縣下の名勝とされてゐる。

歴代村長、下元興章、田内閑意、古谷元治、濱口常正、市川純吉、都築正堯、猪野三良、森本一之、細川鹿次、下元鹿之助、下元興文等の諸氏、村會議員、濱口兼馬、樋口春實、原信重、山本覺太郎、伊與木常盛、松岡貞衛、佐々木成太郎、中野松馬、東信吉、東鹿治、津野由馬、久川友太郎、中野善之助の諸氏である。

村長

氏は明治三十年出生にて昭和五年助役となり、同十一年現職に就いた。名譽助役伊與木常盛氏は昭和十二年就任、他に助役池澤龜千氏、收入役吉本昇氏がある。

前田圓兵衛

濱松市元濱町
濱松市 濱名引佐農組合
用鍛工品工業 組合
電話四一一一番
本組合は濱松市及び濱名、引佐兩郡の同業者をもつて組織し、資材配給の円滑を計り、並に業界向上を目的として創立され、昭和十三年七月認可されたものである。

當組合は大正十二年、本村金融機關として農家に農業基金を提供すると共に、種々の物品の共同購入を目的として設立されたもので、爾來組合役員及び組合員の一致協力によつて旺んなる業況を見るに至つた。

組合長

氏は明治二十二年の出生にして、資性剛毅豁達また恭儉仁慈の心に厚い人である。本組合創立以來

靜岡、小笠、南山村 信用販賣 組合

爾來、銳意、組合員相互の連繫を強化して、業界の發展著しきものがある。本組合設立の功勞者としては、往時の發起人、現理事長、鈴木國三郎氏を始め専務理事、西谷文太郎氏理事として鈴木治吉氏、加藤壽太郎氏、石津甲子吉氏、神村留重氏、齋藤大平氏、淺倉國次氏等があり。戮心その發展に盡瘁してゐる。

今日まで組合長として活躍し、本村産業の開發に多大の寄與貢獻をなしてゐる。

靜岡、駿東、須走村

須走 信用販賣 組合

當組合は昭和六年の創業で、農村經濟振興の中樞機關として、その機能をはたしつゝある。

須走村一圓を區域とし、四種事業兼營の保證責任組織である。

設立に際し主唱發起人として、功勞のあつたのは、梶志津雄氏、高村彌六氏で梶氏は初代組合長をつとめ、高村氏は現組合長である。

現任理事に高村彌六、小松英夫、高村米吉、米山昌夫、米山孝の諸氏、監事には高田喜一、米山重平、菅沼平作の諸氏がそれぞれ在任し組合の發展に努力盡瘁しつゝある。

組合長

高村 彌六
當家は代々農に従ひ、村内屈指の素封家として、知られて

靜岡、安倍、南藁科村 區長 杉山 儀助

令聞との間に三男六女の子實に恵まれ一家は人も羨む圓滿ぶりである。

當家は篤農家として近隣に知られ、氏もまた農事に専念する傍ら、區長として區民の圓滿なる生活を念願に一意努力を續け村民の信頼はいよいよ増してゐる。その他永年に亘り衛生委員として村民の保健に盡し、なほ現在秋ヶ谷組合の作



氏は、二十三歳の時、志を立て、製紙業を創め、爾來三十有五年隆々として今日

業場に關係して當組合の發展に貢獻してゐる。勤勉努力の人で、また清廉至直、敬神崇祖の念特に厚く、言行共に村民の範となつてゐる。

高知、長岡、久禮田村 製紙業 德橋 照治

當家は權中納言藤原家成公に發する舊家名門で當氏まで代を累ぬること二十九代である。

氏は先代藤右衛門の男にして、明治十八年十月十一日の出生先代は農業に従事して

に至った。糞漉半切、紗漉半切、ロール半切等は、特殊の製法により、善良なる原料のみ使用し、多年の経験上、最も熟練せる技術と細心なる注意を以て精製したるもので、紙質、肌合等は勿論、その撰別を正確になし、第一回、第二回、高知縣物産共進會、全國製紙共進會、第十回關西府縣聯合共進會等に出品して賞状及び賞牌を授與された、氏は温良快活の人で、嘗て信用組合理事、土佐紙業組合議員をつとめ、現時村會議員、方面委員、城東手漉和紙工業組合専務理事等の重要地位にあり、奉公の誠を致してゐる。

静岡、安倍、梅ヶ島村

梅ヶ島 信用販賣組合

當組合は昭和二年、梅ヶ島信用組合として創設されたものであるが、昭和十四年に至り、保證責任に改組され、販賣利の三部が附加されたものである。

次いで同年十二月には組合事務所を新

設し、愈々事業の發展をみるに至った。

販賣部は山葵、蒔、椎茸等、購買部は肥料、日用必需品、利用部は製材、製粉等てなほ目下計畫中のもの多々あり、着々事業の擴大をみてゐる。

役員は組合長理事秋山藤録氏、専務理事望月吉久氏その他の理事は小島銳藏、秋山元次郎、鈴木幸一の三氏で、監事は望月喜一、望月龍太郎、秋山鴨吉等の諸氏である。

専務理事

望月 吉久

氏は組合創立當時よりその發展に献身的な努力を續け、今日の大をなさしめた功勞者である。氏は最近まで助役として、自治に盡してきたが組合の事務多忙のためそれに専念すべく退き、ひたすら組合の向上を念願に碎身粉骨してゐる。氏の才腕を俟つて組合の將來いよく、多幸を約束されてゐる。

静岡、安倍、有度村

有度村 役場

當村は、静岡江尻間の地區にして二十一の大字よりなる。

當地は、日本武尊草薙の舊蹟として知られ、縣社草薙神社がある。また日本平は村の南部有度山の最高平地、日本武尊御東征に由緒ある地にして、東京日日新聞社選定の「日本百景」の一に數へられ、眺望絶佳四季好適の遊覽場である。其の他平澤寺、狐ヶ崎遊園地等、名所舊跡が多い。

當村の寺院は教福寺、源光院、興福寺誓願寺、十平寺、金剛法寺、西照寺、珠林寺、祥雲寺、誓願寺、東光寺、東明寺福壽院、普濟寺等がある。

面積は一三、二三方軒にして、村民は農業に従事してゐるものが多い。當村の主要農産物は米、麥等にして、梨、生柿、蜜柑等をも産出してゐる。

村 長

望月金太郎

氏は明治十九年の誕生にして、二十數年の久しきに亘り、消防組頭として活躍し、また村會議員と

して村治に盡し、村民の信望頗る厚く、昭和十四年村長の要職を負ひ、村政發展に献身し、なほ警防團長、村農會長、郡農會長等の要職を兼任して顯著なる業績をあげてゐる。

静岡、濱松市廣澤町

高松山 西來院

當西來院は、曹洞宗小本寺格の名刹にして堂宇頗る宏壯、境内は亦閑雅にして四隣丘陵に圍まれ、市隨一の仙境である。正長元年本寺普濟寺、第五世の法嗣たる月窓義運の開山にして、本尊は釋迦如来を安置してゐる。

また、庭園の藤花は西遠唯一の名藤として、その棚棧の廣き百坪餘に渉る垂藤の紫雲は恰も紫帷を張れる如くで、文人墨客の杖を曳くもの甚だ多く、築山御殿の御廟所と相俟つて、その名遠近にひびき、近年濱松市の大發展とともに、附近に高等工業學校設立さるゝ等益々著名と

なつた。

第二十九世戸田義參師は、夙に築山御殿御廟所改修を計畫し、汎く全國に史蹟の顯著なることを紹介するに努めたる結果有眼有識の士に認めらるゝに至り、歴史上大いに郷土の誇りとなつてゐる。現住職は徳望高き鈴木堯山師である。

高知、土佐、地藏寺村

地藏寺村 役場

當村は、戰國時代の落武者達が集まつて出来た部落といはれ、大字瀬戸は平家一門の末裔と稱されてゐる。そのためか住民は武士的氣魄を有し、義理に堅く、情誼に厚い。

製紙原料の産多く、養蠶を副業とする者があれば、木炭の製造に従事する者もあり、牛の飼育が比較的盛んで、山林地帯からは木材の産出も少くない。氣候温和で土地豊饒、住民は總じて裕福な生活をなしてゐる。村内乳公孫樹は天然記念

物で、樹齡四百年、根廻り三十尺、高さ十八間あり、日本一の大公孫樹と三好理學博士の折紙を附せられた。

村 長

伊藤 嗣雄

氏は明治二十九年の出生にて縣立農學校卒業後昭和六年本村書記に任じ、同十四年、村長に推され今日に至つた。資性温厚の努力家である



因に尊父坂惠氏は縣會議員村長各二期をつとめたる本縣名士である。

助役近藤盛治氏は、昭和十四年六月、土佐郡農會技手より本村助役に榮進した人で、農業政策に卓抜の見識を持つてゐる。なほ收入役窪内安太郎氏は、重任三期に及び、自治財政に蘊蓄深き人望家、勳八等に叙されてゐる。

高知、安藝、甲浦町

鐵工等 田村 良吉

氏は明治十六年の出生、夙に家業に従事して殿父宇太郎氏を扶けた。勤勉誠實克く困苦に堪へ、辛酸を嘗めて遂に今日の大を成



し、船具の製造修理業者として屈指の成功を見たのである。又町會議員たること五期の永きに及び現に活躍しつつあり、信用組合理事は四期目、他に警防團顧問を兼ねてゐる。趣味は琵琶。

令閨仲さんとの間には三男二女あり、長男良雄氏は米國ワシントン大學機械科を出てから、ブールマン大學農科を卒業せる俊英で、長女良美さんは大阪女子醫學專門學校出の女醫である。

静岡、濱名、篠原村

長久山西本徳寺

當長久山は日朝上人の開基、開山にして、その年代は不詳なれども、十界本尊を奉祀安置し、日蓮宗に屬する名刹である。

本寺は身延山久遠寺にして、末寺は長榮寺、本性寺、本蓮寺等である。境内は七百餘坪を有し、本堂、庫裡、山門、釋迦堂、番神堂等の堂宇があり、靈驗顯たかなる靈場である。

寶物としては海中より出現の釋尊、釋堂の御涅槃像等で、行事は二月十五日に御涅槃會、四月八日釋迦會、十月十二日御會式等である。

檀家は二百餘戸にして、現住職は高德の閑え高き渡邊賢亮師である。

住職 師は明治三十年十一月の誕生、立正大學に學び、のち十八

少年の永年に亘り、本蓮寺の住職に就任その間融和事業、教育事業、幼稚園事業學務委員等を兼任して、社會公共のために盡瘁し、多大の治績を挙げ、村民の洽く敬仰するところであつた。

昭和十五年一月當寺の住職に任じ、前任尊父渡邊賢雄師の法衣を繼ぎ、檀徒間の信聖厚く、識徳兼備の高僧として、名聲がある。

高知、安藝、安藝町

製紙業 松田 榮之助

氏は當町の出身、明治八年に呱呱の聲をあげ、二十二歳の時より製紙原料竝に毛皮等の諸雜貨を商ひ、明治三十二年六月、製紙業に轉じ、本格的に手繰式製絲をはじめ、今

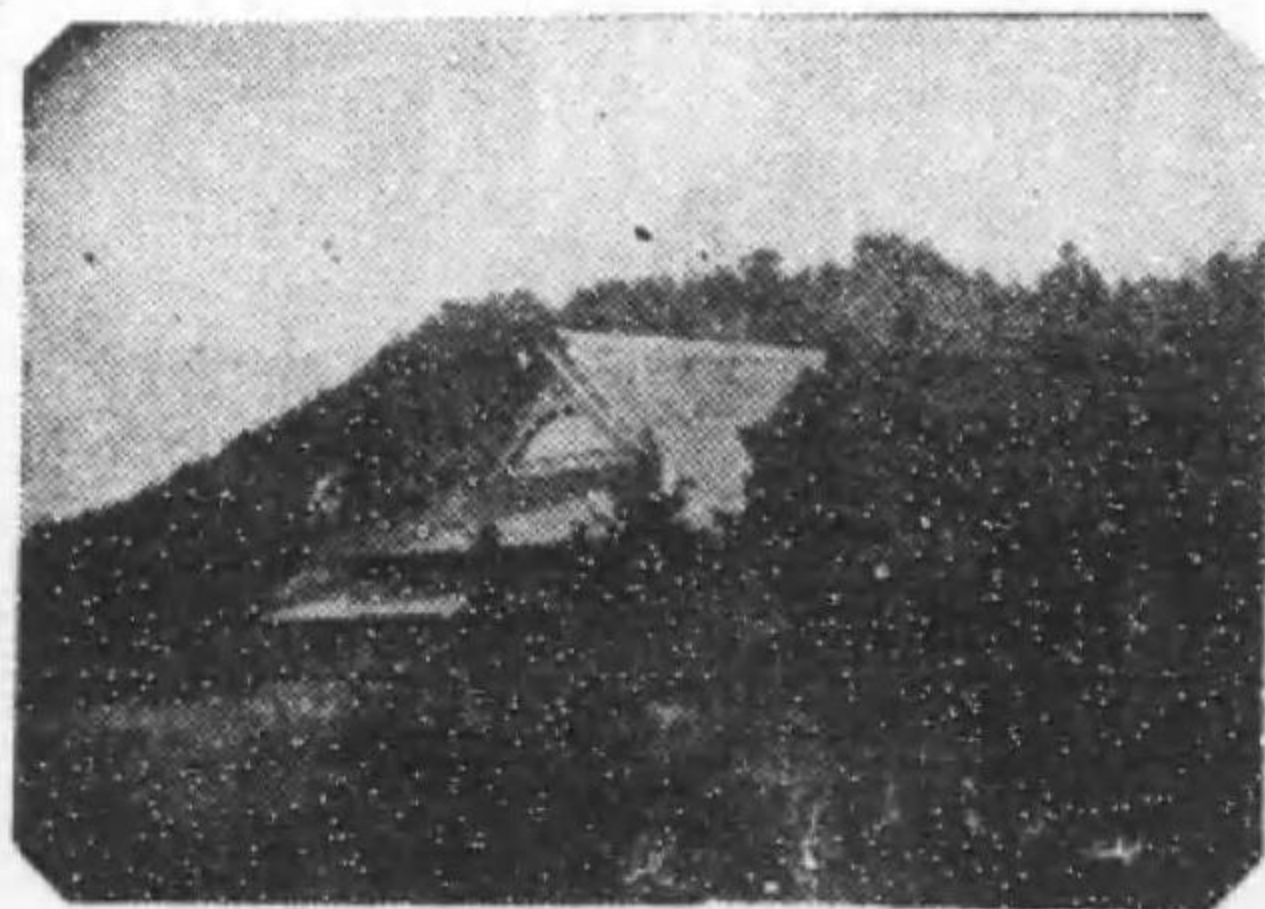


年六月、製紙業に轉じ、本格的に手繰式製絲をはじめ、今

静岡、濱名、雄踏町

護國山 安寧寺

當寺は臨濟宗妙心寺派に屬し、觀音菩薩を本尊としてゐる古刹である。



本堂の景

古徳川家康時代如然禪師の開基であるが、明治五年

や個人經營として生産の大なること工場の優秀なること、比肩する者少く、業界に萬丈の氣焰を吐き、製品は神戸經由アメリカに輸出されてゐる。カネ黒、地球トンプのマークは、皆、氏の製品である。氏に不撓の精神と不屈の信念があつた爲に得ることの出來た成功である。尙、氏は別に製材部を設置し、箱板材を扱ひ主に阪神方面に出してゐる。氏は些かの名譽心なく、利慾に目を呉れず、自己の業務を天職として眞面目に働いてゐる。寛容の性格は業界にも有名である。

静岡、濱松市領家町

市會議員 河村 榮三郎

電話二六四二番

當河村家は先代増太郎氏の代に分家したものであり、當主にて二代目である。氏はその男として、明治十五年一月十五日の誕生、生少年時代より、その聰明を顯はれ



明治三十八年織物業を開業するや、氏の事業的手腕は發揮され、その機宜を得た經營振りは年と共に繁榮を來し、多年の努力奮闘は報いられ、遂に同業界に覇を成すの大成功を見るに至つた。

其後各方面から偉材として、稱讃され市會議員の要職にめでたく當選し、濱松商工會議所議員を兼ねて、市政の發展に幾多の治績をあげ、市内元老として重き存在をなしてゐる。

尙、氏は織物工業經合會長の重任にある。一家は平和にして圓滿を極め、和氣霽々としてゐる。

の罹災に因り、その開山由緒沿革は不明である。末寺として西光寺、法雲寺、極樂寺、道林寺、法然寺、光雲寺、東光寺

主唱發起人として功勞のあつたのは吉



役員一員

吉 筋吉 山本 孫吉 山崎 孫市 孫の諸 氏の十 外二名 の人々で 役員

は初代理事長は吉筋吉郎氏、二代は山本孫吉氏が、三代は山崎孫市氏であつた。現在組合長理事は、村松喜代太郎氏で前村長を勤めた人、理事は小澤由太郎、鈴木藤重、竹下信吉、山内嘉一郎、友田孫次郎、山崎孫市、山本孫吉の七氏、監事は吉筋吉郎、山崎久一、岩附庄一の三氏がそれぞれその任に當つてゐる。

同組合には利用部として、木炭倉庫は二棟あり、製茶工場一棟、作業場一棟がある。製茶部利用に依る製産額は巨額に達してゐる。

高知、安藝、室戸岬町

室戸岬町役場

本町は、もと津呂村といつた。紀貫之



役場全景

が土佐紀行した頃には室津と呼んだ。寛文年間野中兼山が室

戸港を修築してから漁港としての隆盛を見るやうになり、今では縣下一、二を争ふ水産地である。鯉、鮪、鮪が殊に多く漁業組合は椎名、三津、高岡、津野と四ツもあり、大敷網は全國第一であり、薩摩時代には捕鯨が盛んであつたが、明治四十一年、銃殺令を廢してより衰へた。漁業は、近海、遠海共に盛大で、加工場としての罐詰工場が多い。農業は速成園藝物、柑橘類が多く、工場は漁具、船具の製造が主で土地柄をはつきり顯はしてゐる。

室戸岬の雄壯豪華な景観は、日本八景の一に擧げられ、岬には中岡慎太郎の銅像がある。この地は熱帯植物の繁茂するところで、室戸岬熱帯植物地帯として、内務省から、天然記念物に指定されてゐる。

町にはまた、四國二十四番の札所最御崎寺があり、弘法大師修業の地である。極洋捕鯨會社々長、山路虎太郎氏、逓信次官山田龍雄氏は共に本町の出身である

町長 由井馬三郎



氏は明治十年の出生にして、二十三歳の頃から自治産業の樞機に携り、功績顯著なるものあり、町長就任は昭和十一年にて現に町農會長及び信用組合

長を兼ねてゐる。なほ助役大西熊次郎氏ひ収入役永野與平氏は共に昭和十一年の就任にて、一意専心、由井町長を扶けて室戸岬町の發展に盡力してゐる。

静岡、駿東、原町

得萬山 清梵寺

當寺の御本尊は千平觀音、及び地藏尊でこの地藏尊は子育地藏、または身代り地藏とも稱されてゐる。宗派は臨濟宗妙

心寺派で三榮和尚の開基である。

往昔火災の折、靈驗に依り大事を止めたと謂はれ、災難除けとして著名で善男善女の參詣そのあとを絶たない。

住職 肥田 湛道

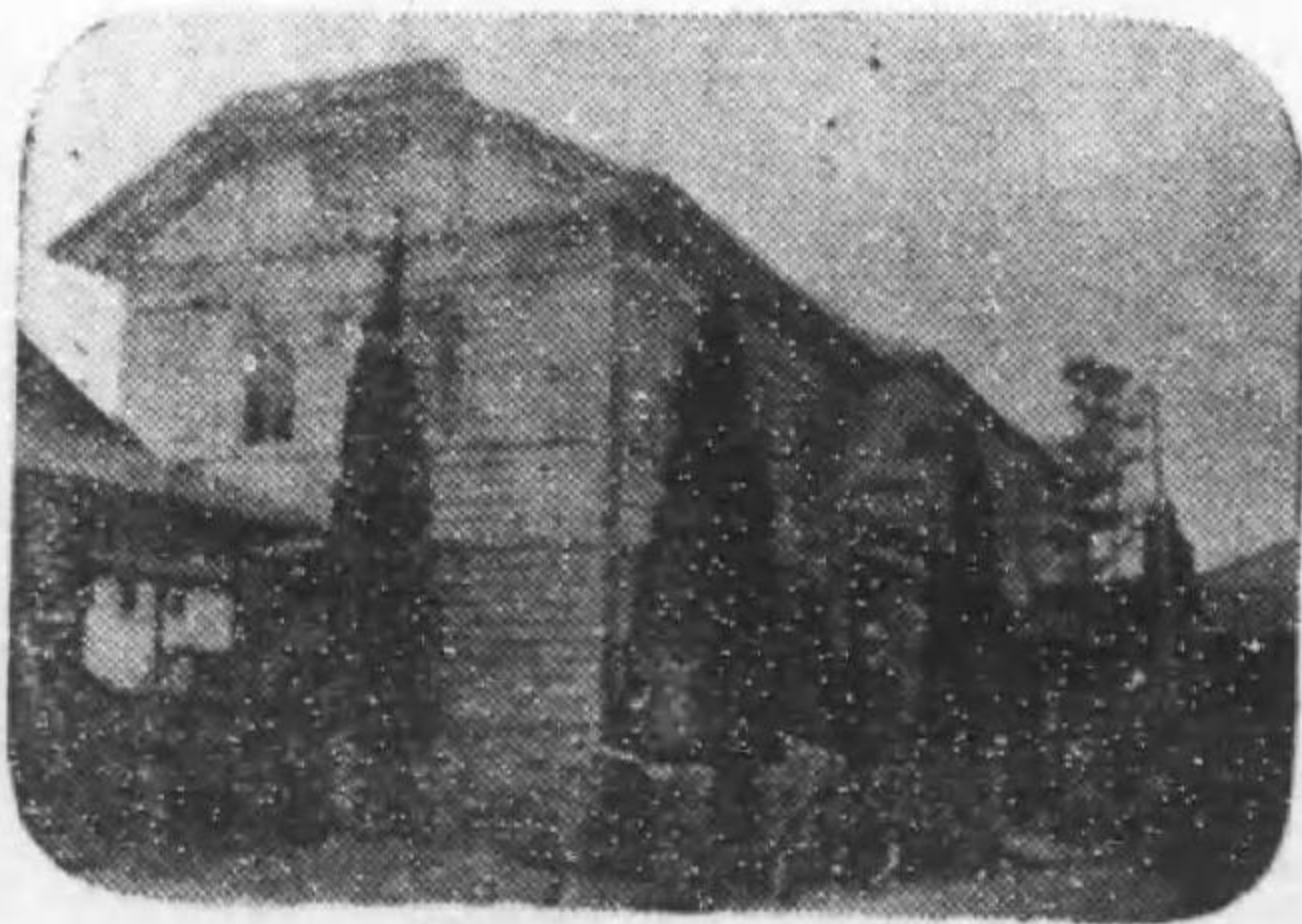
代々顯職を勤めた由緒ある家柄で、師の祖父は明治十六年當寺の住持となり山岡鐵舟の執事をつとめた逸材である。



師は明治三十八年五月二十日先代孝敬氏の長男とし

て生れ、沼津中學を卒業後鎌倉建長寺道場を出た人で、學校や役場にも奉職し、人格圓滿にしてしかも剛直、近隣より崇拜されてゐる。趣味は書道と讀書である。令閨幸枝さん(三十一歳)との男に一男二女あり、それぞれ、學業に勵んでゐる。

高知、香美、在所村 役場



在所村役場全景

本村は香北の中心地として重要な位置を占め、在所村名は村の第一の高峰にして、高深に山に因んでつけられた。村の大部分は山地で平地は山麓及び物部川兩岸に連り、耕地面積は少いが、氣候温暖にして、濕潤なるを以て、古來、

農業をよく行はれ、また廣大な森林より



役員 史 員

治太郎、松村基、前田靜東、小野川覺馬、谷内泰明、岡村三省、岡村梅茂(現在の)の諸氏である。

村長 岡村 梅茂

氏は明治二十四年十一月は呱呱の聲をあげ、大正八年收入役に任じ、同十一年名譽職助役に當選、滿期退職後一時野に在りしが、昭和五年

再び名譽助役となり同十三年名譽村長に推されて今日に至り、自治的手腕に長じたる功勞者である。

助役堀田春美氏は農會技手、有給助役収入役を経て、昭和十三年名譽助役となり今日に至り、収入役出原春義氏は昭和八年書記を拜命、同十二年現職についた

静岡、駿東、金岡村 醫師 芹澤 慶左久

氏は明治十八年一月三日に誕生した。先代は銀行家であつたが、明治四十三年以來



東京慈惠醫大出身にて、内科一般を専門とし無類の國手として近郊の信望をあつめてゐる。

永年駿東郡教育會學校兒童の保健衛生の方面に大いに盡力した結果保健状態は年を逐うて良好となりつゝある。

醫師個人として多年衛生保健等に盡瘁したるにより昭和七年には縣知事の表彰をうけ、又紀元二千六百年記念に際し、駿東郡醫師功勞者として郡醫師會長より表彰をうけた。

一方氏は學校兒童の健全なる育成をその念願とし運動場や施設の完備に力を注ぎ、又一般村民間のトラホーム等の風土的疾を絶滅し、以つて村民の健康の向上せんことを切望してゐる。

家庭には令閨みすさん(四七)との間に二男五女の子實に恵まれ羨むべき富々たる家風である。

高知市京町 帽子靴店 曾我 榮吉

氏は高知縣吾川郡弘岡上ノ村の産、長じて安藝町曾我家の養嗣子となつた人で

高知市立商業學校出身であるが、在學中は劍道、角力、短艇等スポーツ選手として令名があつた。後大阪市に出てスワローハットの製



京町の現在地は、元々養父經營の店があつたが、昭和六年に歸高した氏は、高知市の帽子店から高知縣下一圓を相手とする帽子靴店に事業を擴張し、東京帝帽の他大會社の優良品を取扱ふと共に、神戸屋製靴株式會社高知一手販賣所を引受け、爾來、營々として家業に熱中、遂に今日の如き隆昌を提するに至らしめた。

静岡、濱松市田町 日本糸染晒工業聯合會

本組合は昭和十三年二月九日に設立されたもので、糸の染色、精練、漂白、蠟引、糊付、シルケット加工等に關する工業組合及び聯合會を以て組織されてゐる

創立以來日は未だ淺いが、我國斯業界にその重要な意義を認められ、既に三十四組合の加入者を見てゐる。その區域は内地一帯に亘つてゐるため東京市、大阪市、濱松市に事務所を設けそれぞれ業務を分擔執掌してゐる。

業務は製品及び加工の検査及び取締を第一とし、同時に統制、營業に關する指導、研究並に調査等を行つて業界の肅正發展に多大の力を致してゐる。

因に現任役員の顔觸れは、組合長理事飯塚榮隆、常務理事木村幸一、理事添田子之吉、井上良一、八尾幸二郎、伊藤盛



店 頭

製帽所を經營して成功を収めた。高知市

此花 趣味はハイキングである。重子夫人との間には榮一、雄行、高明の三君及び一女雅子さんがあり羨むべき圓滿な家庭である。

治、監事齋藤徳次郎、勝田市太郎、小原保、横田長左衛門の諸氏である。
 なほ組合長飯塚氏は明治二十二年九月三十日の誕生にして、識見手腕共に優れた人物。當組合の圓滿なる伸展を期して盡瘁しつつあるほか、市會議員に推されて市政の刷新向上に努めてゐる。

高知市南新町

一圓材木店 中司 勇

電話三九八番

中司家の祖先は、京都に在つて御典醫として名高かつた。先代喜太郎氏は慶應二年の誕生にて、今なほ斐然たる元氣を有してゐる。當主勇氏はその息にて明治三十五年十二月、高知縣長岡郡上倉村に呱呱の聲をあげた。十七歳の時、高知市に出て中平材木店に入つた。これが氏の木材業界に進出する第一歩であつた。その後高知市材木町に獨立開業したが、不幸、祝融の襲ふところとなつて一切を烏有に歸してしまつた。しかし、氏は捲土重來を期して一圓芳藏氏と共同にて材木商を再開し、共同經營に當ること約三年、昭和十四年春に至り、一圓氏は家事の都合によつて共同事業より手を引いたが、氏はその後を一人で引受け、現在地に移り、その名も曾ての盟友の名をそのまゝ、一圓材木店として經營してゐる。取扱材はあらゆる種類に及び、四國一圓は勿論、和歌山地方、阪神方面にまで販路を持つてゐる。土佐木材同志會に屬し、高知木材共榮組合員である。業界の新進といはれ誠實勤勉の人で浮世の艱難を身を以て經驗して來た人である。

釣魚と寫眞に興味がある、家庭には母堂次さん、夫人清子さん及び一男利治君がある。



木村荷扱所

開業の功勞者金原明善翁に依つて、明治二十五年九月二十一日有志平野又十郎、鹿島岩藏、小松正一、外數氏の協力のもとに創立された。當時、この地の木材は水上運輸にて、

静岡、濱名、和田村

天龍運輸株式會社

電話濱松二七六五番

當會社は、東海道鐵道開通當時、産業

不便を極めてゐた。翁はこゝに着眼し、今やその努力は實を結び、沿岸の製材業は日を追ふて起り、今や全國有數の木材市場として斯界に覇をとなへるに至つたのである。

因に當社重役は左の通りである。
 取締役會長鈴木信一氏、常務取締役、大澄善一郎、取締役、鈴木寛剛、松下千代吉、金原舜二、鹿島精一の諸氏、監査役は平野定六、竹内義男の二氏である。

静岡、駿東、須山村

區長 横山 治作



常に村治の要職にあつた。

當家は代々農耕を営み、村内では屈指の舊家である。
 先代新七氏は篤農家として知られてゐる。

静岡、駿東、須山村

區長代理 青山 直良

當家は代々農を営み、當主直良氏で五代目にあたり、部落切つての舊家である。氏は先代由太郎氏の長男として、明治三十四年二月九日に生れた。先代由太郎氏は區長代理をつとめ、篤農家としても知られてゐる。氏も亦區長代理をつとめ、道路の改修

に盡力して、村内生産物搬出の便をはかり、以て、村の發展繁榮を期してゐる。家庭は、母堂よし刀自(七四)の高齡ですこぶる健在、令閨たきさん(三九)との間には四男四女があり、令弟清義氏(三一)は目下出征し、南支の戦野に活躍してゐる。

高知市中島町

坂和林业株式會社

電話七二〇番

當社は山林經營、木材賣買、木材加工(社員の人々)



を營業科目とし、阪神地方に主要取引先を有し、高知縣安藝郡奈半利町に支店を有し、大阪市大正區小林町には大阪營業所（電話櫻川二七二一番）がある。

社長は坂本磯太郎氏で重役陣は、取締役、坂本治、前田眞三倍、前田政滿、安田藤太郎の四氏、監査役は敷島武夫氏である。

取締役 前田眞三倍

氏は高知縣安藝郡北川村の出身、明治十七年に生を享けた

早くより林業に志し、大阪市に前田商店を經營して業界に羽振りを利用し、官行材、民材を扱つてゐたが、昭和十四年、時代の趨勢に應じて經營組織を強化すべく、大阪の坂本磯太郎氏と共同出資して坂和林業株式會社を興し、同社の高知縣内に於ける業務の實權を掌握し、卓抜の手腕を發揮してゐる。

なほ取締役前田政滿氏は氏の息にて、明治三十七年生れて社運向上のため献身的努力を續けてゐる。

靜岡、安倍、南葉科村

村會議員 齋藤 隆之輔

明治三十三年十二月先代金之氏の男として生れた。當家は常村屈指の篤農家でまた代々村政村治に干與し貢献多く、嚴父も永年、村長、村會議員、郡會議員等として當村の自治に産業に今日みる如く確固たる基礎を築き上げた功績の人である。

當主もまた早くより村政に參與し、村會議員として當選すること三期に及び、氏の言行は村民の尊敬するところとなつてゐる。

その他學務委員や區長として、自治に盡瘁し、尊父に劣らざる功績を重ねつてゐる。

氏はまた敬神崇祖の念に厚く、禪宗に歸依し檀徒總代をつとめてゐる。

家庭には子息五人あり、それぞれ學業に勵んでゐる。

高知市材木町

金物商 須藤 四良

電話一七九六番

氏は須藤政吉氏の息にして明治三十八年に生れ、高知市立商業學校の卒業生である。學校を卒業するや、直に金物商を開き、意氣と勇氣を以て、ぐんぐん伸びて、十八年に近い年月を経た今日、その地位は確



固たるものがある。瓦、タクル、便器、トタン、

板、釘、針金、煉瓦を主に取扱ひ、一方アキ政互製造元としても著名である。

人物溫和堅實、將來性に富む有爲の材幹といはれる。高知縣瓦商業組合長の要職に擧げられて貢献するほか、トタン板釘針金地方問屋商業組合常務理事をつと

め、名利を離れて夙夜奔走、寄與貢献するところ頗る大なるものがある。

趣味に魚釣りだ。

嚴父政吉氏は慶應二年の生れにて、なほ元氣綽々たるものあり、母堂久壽さんは明治十三年の出生にて健在、令閨鈴恵さんその間に和子さん、桂子さん、節子さん、久子さん、泰弘君の一男四女がある。

靜岡、安倍、大川村

白坂 藤太

大川村湯島區長たる氏の家は同村に於ける屈指



の舊家で代々當村の自治産業の發達に貢献し

た篤農の家である。氏は明治十二年權七氏の男として誕生し、夙に意を村自治に

注ぎ、字湯島の區長として文字通り献身的な努力を續けてゐる。

その他或は衛生組合幹事として、銃後奉公會評議員として、また嘗ては納稅組合副組合長として、各方面に亘り湯島は勿論同村のため寧日なき活動を續け全村の尊敬を一身に集めてゐる。

家庭にては夫人さんさんと瑟琴相和し長男實氏も青年團評議員として尊父に劣らぬ活躍をしてゐる。

高知、香美、赤岡町

製材業 岡村 節之

電話六五番

當家は、先々代の時より材木業に従事せる家にて、家系連綿たる舊家である。

氏は明治二十二年に生を享けて二十歳の頃、父業を繼ぎ、昭和二年三月現在地に轉じて今日に至つた。杉、檜、松、樅を主要取扱品とし、請負製材するほか製箱業を營み、縣下一圓、阪神地方を販路と

し、最近、滿洲、北支那等大陸方面へ販路を擴張しつゝある。資性溫和なる人物であるが、斗酒なほ辭せずといふ酒豪にて、豪



放蕩落、清濁併存の度量を持つてゐる。土佐

製材界の異彩と稱される所以も亦かうしたところにあるのであらう。

令閨菊枝さんは内助の功多き賢夫人である。二男一女を有し、長男嚴夫氏は父と共に家業製材業に従事し、新進氣鋭の士として將來を囑望されてゐる有望な青年だ。

高知、安藝、佐喜濱村

佐喜濱村 役場

海の幸、野の幸、山の幸に恵まれた佐喜濱村は、氣候溫暖、人情淳朴な平和郷

である。米、柑橋、甘蔗、青芋、用材、木炭等の産あり、酒類醸造も行はれ、水産業は頗る盛大、しかもニューサマーオレンジの特産あり、その産額は年毎に増加してゐる。

村には六百年前のものといはれる佐喜濱経塚をはじめ、土御門上皇の御通路跡大野家源内の城址等の舊蹟あり、また東京に於ける實業家王屋時次郎氏、大阪朝日新聞社幹部久塚磨氏の出身地で、元縣會議員清岡辨太郎氏も本村の人である。

歴代村長は粉川浩然、植村正稔、植村直貫、植松充實、植松龍太郎、植村嘉壽馬、植松松之助、信吉徳馬、小野重信、寺田省三の諸氏、村會議員は窪上與太郎、森本龍太郎、龜井純三、中山龜之助、和田貞松、植田重太郎、宮本芳助、松本輝吉、北野義明、松本豊馬、濱田博、金野二吉の諸氏、農會長は和田貞松氏、漁業組合長は谷岡龍吉氏である。

また植村村長をよく輔佐して恪勤する人に、土手種吉氏がゐる。

村長 植村 坦三



氏は明治二十一年の出生で、慶應義塾出身である。本村長就任は昭和十二年

として全村の信望厚く、種々功績も多い

静岡、濱松市浅田町

遠洲樂器製作所

電話二三八九番

當製作所は昭和九年十月の創設にして諸種の樂器を多量に生産し、しかも製品の優秀なるを以て廣く江湖の好評を得てゐる。

資本金五萬圓、工場坪數一五〇坪に亘り、熟練せる従業員を多數擁して製作に當らしめてをり、日本ウルシを以て塗料

となすため體裁は極めて優美である。昭和十三年以來ジャバ、パタビア、リジウリ各商會と輸出取引を旺んに行つてゐる國內取引先は東京、大阪、横濱、神戸を主として全國的に販賣されてゐる。

經營者

高橋 藤一

遠洲樂器製作所長として業界に著聞される氏は明治十九年

十月一日の出生である。

生家は周智郡久努西村にあり、嚴父喜三郎氏は久努西村の村長を勤めた人望家にして、また自治に功勞があつた。氏はその男にて、早くより樂器製作業の有利なることに着眼し、これが研鑽に努めると共に、遂に獨立して當所を興し爾來業務に眞摯熱烈なる努力を傾注して今日の盛況を齎すに至つたのである。

高知、幡多、清水町

清水町 役場

清水町は、初め清水村といつた。渭南

畏敬を受けてゐる。



石原 當町 役助

し縣下の模範とされてゐるのは氏の努力によるといふも過言ではない。

高知、幡多、小筑紫村

小筑紫村 役場

往古、菅原道真公が太宰府に遷される



松岡 旅の途 中、風 浪激し きため この地 に避難

されたとの傳説あり、村名小筑紫は菅公に因んで付けられたといひ、村内には七

日島、網掛松、相承磐等、菅公に縁りの名所舊蹟が多い。

村は半農半漁で、米の産出多く、養蠶も副業に行はれ、山地からは木炭も取れる。海は鯛の本場といはれる程で、鯛の佃煮は、この村の名産である。

歴代村長は上岡信雄、立田義明、宗崎重寛、松平可、今城清好、島津義保、中平綱太郎、長谷場二郎、永富島吉、橋村荒太郎、松岡進、村會議員は福田寅吉、岡崎實、永富利吉、高橋克治、福井眞澄、桑原直次、西岡義晴、山岡正次、濱田義信、河原兼光、山岡務、永富丑太郎の諸氏である。

村長 松岡 進

氏は明治三十一年の出生にて、昭和二年村書記となり、同十四年村長に就任した。助役奥川筆次氏は大正十四年以來役場に勤務し、昭和十四年助役に昇進した。収入役山本通允氏は昭和十年書記を拜命、同十四年現職に推され今日に至る。

の一漁村に過ぎなかつたが、遠洋漁業が盛んになるに及び、急速な發展をなし、大正十三年町制を實施、忽ちにして郡内第一の町となつた。

水産王國の別名あり、鯉、鮪、鯛など本縣水産の三割はこの町が占めて居り、特に鯉節は、俗に岬前節と稱し、市場の寵兒である。

有名なるわが國英語學界の鼻祖にして難破船に乗つて渡米したといふので有名な中濱萬治郎氏は當町の生れである。その生家は中ノ濱部落に、今も昔の面影をとめてゐる。足摺岬、白礁は共に縣下に名高い名所地で、空海の開基に係る金剛福寺も、史蹟地として杖を曳くものが多い。

町長 吉福福十郎

氏は當町の發展に貢献多く、名町長として全町民の信頼と

静岡、安倍、清澤村

清澤村 信用販賣組合

購買利用組合

當組合は大正五年の創立にかゝり、昭和四年四種兼管となり、のち更らに保證責任に組織を變更したものである。現在組合員は四三一名にして、購買部は米、麥を主とし、肥料及び雜貨を配給し、利用事業は精米機を二臺有し、組合員に利用されてゐる。また農業倉庫、作業場等を有し、久能に出張所がある。

組合長濱中一郎氏、専務理事尾崎眞一氏、理事尾崎礦作、小林周造、高橋光廣、持山永太郎、山本幸平、杉本市太郎、中村傳作、大橋清作、大棟藤太の諸氏にして、監事は大橋清作中山眞吉、大棟藤太の諸氏である。

當組合の功勞者は大棟金次郎氏にして現組合長濱中一郎氏は、理事として村産業の進展に貢献して、衆庶の信望厚く組合長の要職に推擧され、寧日なき活動を

續けてゐる。

専務理事 尾崎眞一

當家は幕政當時庄屋を勤めたる家柄なり、先代利作氏は安政五年生れ、村長、郡會議員等の要職を永年に亘り恪勤したる人材で、いま尙健在である。

氏は男として明治十八年の誕生、家業に従事する傍ら、村政に干與して重きをなしてゐる。

曩には區長、助役、土地賃貸、金錢債務調停、國勢調査各委員、其他各團體長を歴任して、現在は専務理事の重責を負ひ村會議員、軍友會長等を兼任して、統後農村の發展に献身的努力を捧げてゐる。長男準郎氏は、滿洲事變に出動せる勲八等の功勞者で目下出征中である。

高知市金子橋

瑞穂商會 穗盛 正夫

電話一八八九番



氏は明治三十九年の出生、夙に東都に出で、遊學四年、大正十二年關東大震災災後は東京橋に於て自動車修理業を創めた。當時僅か十年の身でありながら、自動

車修繕業者としての腕も充分にあり、經營の才にも恵まれ、また大震災後の諸事拂底の折柄でもあつたから、忽ち門前市を成すの盛況を呈した。その後、大正十五年、高知市に來り、本町筋に開業、引續き現在に及んでゐる。自動車修繕並に部分品製造が主要業務で、高知縣廳をはじめ、縣内諸官廳、會社、工場等の御用をつとめ、その技術は獨特にして全く他の追隨を許さない。

高知市自動車工業組合幹事の要職にあり、業界の親睦融和と福利の増進につとめてゐる。

好子夫人は高知市西村家の女、賢婦人の聞え高く、浩滋君、明君の二令息あり家庭頗る圓滿である。

静岡、安倍、服織村

服織 信用購買組合

販賣利用組合

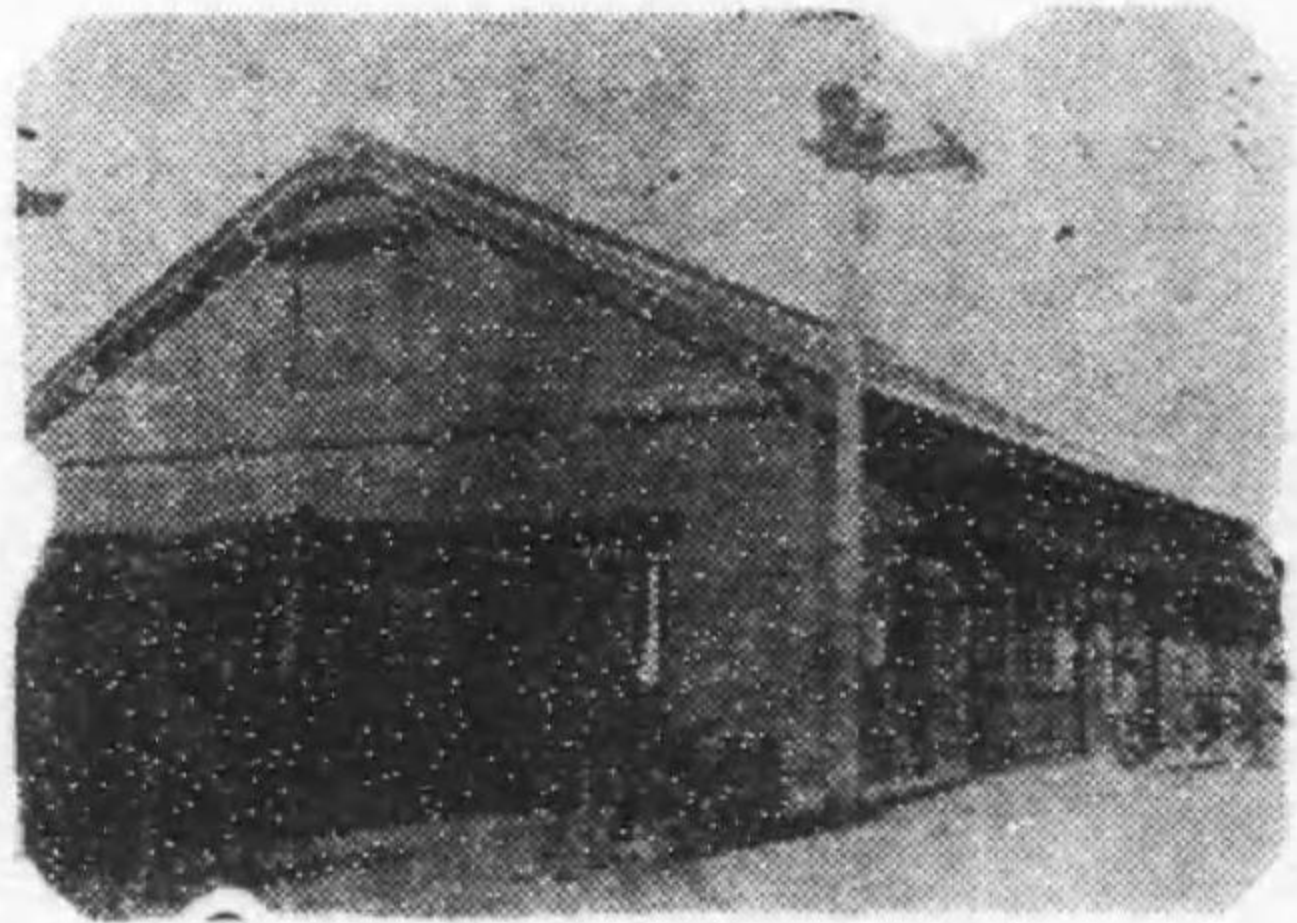
電話二六番

當組合は昭和十三年九月認可を得、十月三十日より事業を開始した。

(職員一同)



販賣部に於ける取扱ひ品目は、蓆、茶



事務所全景

柑橘、罐詰等にして、購買部は肥料、雜貨等である。利用部は製茶、製麥、製粉製麵を行ひ、今後の事業は製茶並びに村内産物の加工、工場の新設等を計畫して

ある

當

組合

は願

問を

千代

不二

夫、

増井

房吉

の二

氏と

し、

組合長

三浦 當義

當家は、村内屈指の舊家にして、先代當吉氏は村十代目の村長に就任して、自治産業の發達に貢献した功勞者である。當義氏はその長男として明治三十年に生れ、静岡中學校卒業の豫備少尉で、曩に軍人分會長として十四年間の勤続し、現在は軍友會長、村會議員等を兼ね、村産業の發展に手腕を揮ひ、絶大なる信頼を受けてゐる。

氏は明治二十一年の誕生にして、新聞區長、農區長、警防團第三分團長、方面委員等の公職を兼任して、眞摯誠實をもつて聞え、村産業の發展に寄與貢献してゐる。

専務理事

藤田 幸市

氏は明治二十一年の誕生にして、新聞區長、農區長、警防團第三分團長、方面委員等の公職を兼任して、眞摯誠實をもつて聞え、村産業の發展に寄與貢献してゐる。

高知、高岡、高岡町

池田製紙工場 池田 哉龜知

電話波川三六七番

池田家は土佐紙業界に古い歴史を持つ家柄で、舊幕時代、藩主山内公が徳川幕府に献上した土佐半紙は、概ね池田家でつくつた



もので、代々優良紙の製造元として著れた。

始祖は銀之丞といひ、先代馬吉氏は五代に當り、村會議員として村自治に功勞多かつた人である。

當主は明治二十七年二月十九日その次男として出生、大正十二年分家獨立して金箔原紙、轉寫用紙、製圖用紙を製造しその商標「丸イ」と共に聲價大なるものがある。

當工場製造に係る轉寫用紙は、その質優秀にて、本縣紙業界に一異彩を放ち、創業以來赫々たる名聲を博し、販路は京都方面にまで及んでゐる。

氏はまた、昭和十四年七月以來、城西手漉紙工業組合理事長たるほか、土佐紙業組會議員、物價調査委員、債務調停委員等の職にある。

趣味は俳句。

茂尾夫人は池田熊太郎氏の女で、二男二女あり。圓滿である。

静岡、濱名、芳川村

西遠温室園藝組合

電話濱松七一三番

大正五年當組合は、三輪仁平、三輪惣三郎、西尾良一、柿澤英三郎、柿澤壽義、小野悦治、岡本祐仁夫の七氏に依り、都盛温室組合の名稱をもつて組織された。昭和五年三月に至り丸遠温室園藝組合と名稱を變更し、組合長に三輪仁平氏、



(事務所の景)

ロン キウリ等の栽培を行ひ、全國大市場に出荷し、品質の優良なるをもつて各方面から稱讚され、短日月の間に急速の繁榮を來してゐる。

現任役員は、顧問青島桂太郎、鈴木秋太郎の二氏にして、組合長三輪仁平氏、副組合長兼會計係三輪惣三郎氏、副組合長鈴木孝三氏である。理事は古山宇平、

鈴木半三、井田市郎、鈴木重次郎(支部長)の諸氏である。

組合長 三輪 仁平

氏は當組合創立以來の功勞者にして、今日の隆盛は實に氏によつて築かれたと云ふべく、その人格と手腕は當地方民に謳はれ、絶大なる信頼を贏ち得てゐる。

高知、高岡、高岡町

鹽田製紙工場 塩田 兼三郎

氏は高知縣伊野町河野家の出で、明治二十七年に誕生し、幼名を武茂氏といつたが、長じて鹽田兼三郎氏の養子となり



襲名して兼三郎と改めた。大正六年土佐紙業株式會社の創設に奔走して功勞あり、會社設立後

は原料部長に任じて活動したが、同社は

大正十一年、解散の悲運に遭遇するに至つたので、翌十二年獨立、父業を繼承して紙商を営んだ。然るに昭和十年十二月單なる紙商に徹せずして、鹽田製紙工場を創設し、和紙及び洋紙の製造に従事、大阪市大西合名會社に一手販賣して今日に至つた。機械漉製紙が主である。

高岡町商會長、町會議員等の要職に擧げられ、犠牲的奉公心を以て公益に盡瘁して聲望高く、また高知縣下に僅か四人の中の一人たる、高知縣産業奉仕委員をつとめ、その他、高岡信用組合理事、土佐機械製紙工業組合幹事、土佐紙業組合代議員等、業界團體の役員にも任じ、夙夜淬勵奮闘し、その發展向上に寄與貢獻するところが多い。

釣魚の趣味あり、多忙の中に餘暇を得ては糸を垂れてゐる。

家には母堂安さん(嘉永六年生)、令閨高枝さんあり、長男武義君は大阪市昭和高等商業學校に在學中の秀才にて、その

副組合長に三輪惣三郎氏就任して現在に至り、益々發展の一路を辿つてゐる。

事務所を濱松市驛前板屋町に置き、

將來を囑望され、長女賀壽子さんは臺灣嘉義高女出身の才媛である。

静岡、濱名、新津村

新津村 役場

當村は濱松市の南方に位し、舞阪町の東方に當る海岸の村落である。

産業としては農業が盛に行はれ、米、繭等の産額が非常に多く、畜産業、水産業も盛況を呈してゐる。

菅羽の松、御臺場等の名勝も當村にあり。寺院には富春院、大東院、大通院、藏興寺、壽福寺、好徳寺、安泉寺、寶勝寺等がある。

村長 勲 八等 鈴木 嘉平

氏は明治十年三月十日の生れ、明治三十四年、書記として本村役場に奉職し、爾來、誠心誠意この方面に傾倒盡瘁し、明治四十四年助役に就任した。氏の温厚にして誠實なる性格は村民に絶大なる好

許を博し、昭和八年には村長の重任を帯びて執筆し、目下着々と実績をあげてゐる。

静岡、小笠、岩滑村

寶珠山 盛岩院

當山は天文八年即ち今を遡ること四百



九年、大暴風の災に遭つて寺堂を大破し

た。

その後、元治元年再び回祿の厄に罹り本堂その他を灰燼に歸し、十八世 磨和尚の盡力によつて新築、爾來上下の尊崇をあつめて今日に至つてゐる。

境内面積一、〇六二坪に亘る靈域にして、本堂、庫裡、開山堂、觀音堂等の堂宇伽藍が聳立してゐる。

清龍院を本寺となし、正覺寺、玉泉寺、極樂寺等の末寺がある。

檀家總數二三〇戸。因に、觀音堂は遠江第三十三番の札所として知られてゐる。

住職

川口 惠定

寺門の興隆を圖つて布教に専心しつつある惠定師は、明治十八年九月の岳降である。早くより佛門に入つて佛道を研鑽すること深く、大正六年當寺二十世住職となつた。清廉高潔、また寛仁大度の人となりを有し、氣骨稜々として高僧に應はしい態度風格を持してゐる。

高知市榊形町

珊瑚藥本舗 宮崎 孖

當家の祖、宮崎三右衛門氏は天正年間幡多郡中村町の一條公に仕へて窪川郷南部二十石を領した舊家であるが、その後代々農を業とし先代に及んでゐる。

(商標)



現在、各種カリエス病専門藥たる土佐珊瑚藥本舗として賣藥業を営んでゐるが此の珊瑚藥たるや、弘法大師の秘法に成

る秘藥にして、その昔、一旅僧來つて宿を乞ひし時、之を好遇したるに因り授けられたと傳へられ、爾來、うづもれる家傳の秘藥を、現主宮崎孖氏が研究の後、一般に公開、賣出したもので、その効能顯著にして江湖の絶讃を博してゐる。

高知市農人町

商工會議所 松山 秀美

氏は明治十二年三月先代木氏の男として高知市に生れ、早大文科の出身である



等に教職を得て、詩歌、郷土史に興味を

有してゐた。

現在、高知市會議員、高知商工會議所理事等の榮職にあり、また一方、土佐史談會々長として、「土佐歌人群像」及び「浦戸港」等の著作あり、篤學者として縣下に知られてゐる。

高知藩士青木友猪氏の二女たる孝夫人との間に二男二女があり、長男正健君は府立工業を卒業し、目下北支に轉戦中である。

静岡、小笠、東山口村

縣社 八幡神社

本社は息長足姫命、譽田別命、玉依比賣命の三柱を祭神として合祀する古社である。大同二年桓武天皇の御宇、坂上田村麻呂は勅を奉じて、舊社地たる本宮山より現地に遷座したと傳へられる。

掛川誌、延喜式、十六夜日記等の諸記録によれば、往古は已等乃麻知神社或いは事のまま神社と稱し、舊幕時代は御神

德顯著なるを以て、徳川家より篤く尊信された。而して時勢の變動に伴つて八幡宮と改稱され、社領百餘石を有して山口郷、日坂宿等の二十一ヶ村の大産土神となり、上下の尊崇すこぶる篤きものがあつた。

明治五年、縣社に列せられ、明治四十年、神饌幣帛料供進を、指定されてゐる。

寶物に、神功皇后が御所用のものとして傳へられる御弓と、御腹帯が秘藏されてゐる。

大祭は舊八月十五、十六日、祈年祭新二月十七日、新嘗祭十一月二十三日、酉日祭十一月二ノ酉、大祓式六月三十日、十二月三十一日に、それぞれ執行される。

社司 譽田 傳七

氏は明治五年六月十四日の出生にして本年六十九歳。資性重厚篤實、また恭儉廉直の人物である。

明治三十三年本社々司を拜命、爾來半



望が頗る深い。

静岡、小笠、東山村

東山村役場

電話日坂三番

當村は、小夜の中山として知られた日坂の北にあり、金谷町にも接する。郡境を東に越ふれば、天下に名高い大井川があり、南へ半里にて國道に出で、金谷町へ一里、金谷掛川驛へバスの便がある。當村は耕地頗る多きため、住民の大部分は、主として農耕に従事してゐる。その外、林産が之に次ぎ、若干の鑛産をも産出する。

村長 平井 儀平

氏は明治二十六年一月の生れである。静岡師範卒業後、獨

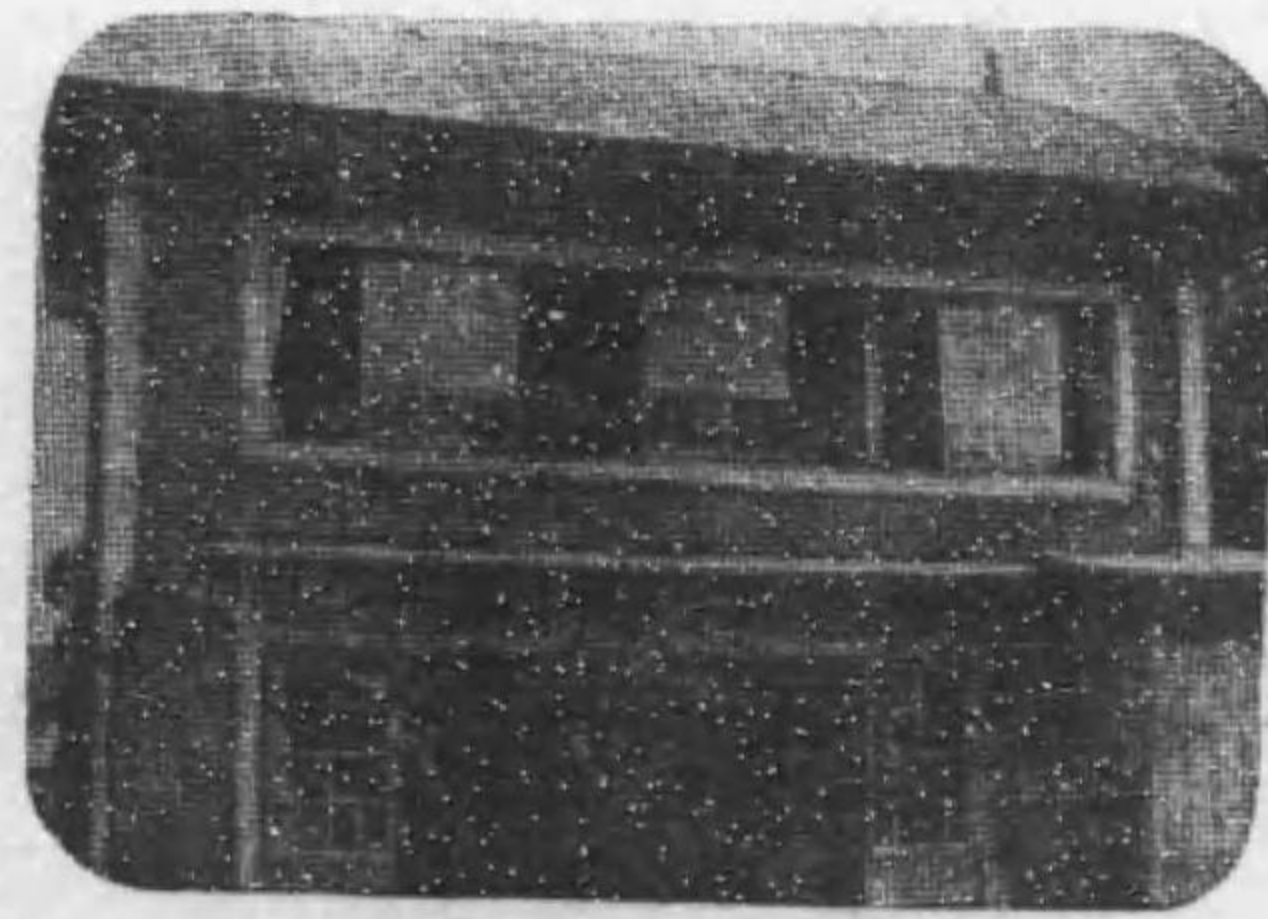
川中學に奉職し、約十一年間の永きに亘つて教鞭をとつたが、歸村後は農會長、村會議員、學務委員等をなし、公共に盡力した。昭和十二年二月より村長に就任し、村民の中心人物となると同時に、當村産業組合の理事長となり、農村經濟振興にその力量を發揮してゐる。資性穎悟、人望極めて厚い。

静岡、磐田、見付町

甘藷切干同業組合

電話一四四番

本郡に於ける甘藷切干は農家が自家用として間食の目的を以て製造したるものに過ぎなかつたが、漸次小賣商店、或は行商人に依りてその需要を増大し、明治四十三年頃一千餘戸、産額三十餘萬貫に



事務所

來當組合は品質の改善に力を盡し、年と共に佳良なる

なる検査をなし、品等標準を決める。最優良品を旭印とし、次いで櫻印、梅



組長小林氏

印、松印とし夫々價格を決し、移出して

高知市旭町

土佐大三製紙工場

當工場は松井勇氏、同實氏の兄弟協力による模範工場として専ら評判が高い。その前身は町田善三郎氏が經營に端を発し、次に太陽製紙合資會社の經營となりしが間もなく、松井兄弟によつて經營



された、時に昭和十一年三月である主要製品は、塵

紙、仙花紙、其他半紙等にして、販路は九州、大阪、神戸等、内地一圓である。松井氏兄弟の同胞愛は、はたの見る眼も羨ましく、弱冠の頃より、仲良く製紙業に身を投じ、大阪方面に於て斯業の修練研磨を具さに經、遂に今日の隆昌を築くに至つた。



副組長鈴木氏

は小林誠一氏副組長鈴木千萬之進氏、評

本組合は役員任期は四ケ年とし、満期に至り再選するものにして、現在組長議員村田猪太郎、水野半次郎、齋藤齋市、村松榮次郎、高田文樂、鈴木健一郎、書記兼検査員市川保平、検査員大石喜三久、鮫島正男、増山利作、新井喜平の諸氏である。

勇氏は夫人との間に二男ありて、伉儷睦まじく、實氏また夫人との間に一女を儲け、平和の家庭を作つてゐる。

高知市中ノ橋通り

自動車商會主 小松 茂郎

氏は明治三十一年、香美郡東川村に生



店頭

嚴父久之助氏は材木業を營み、村内の有力者である。

茂郎氏は大正五年頃より自動車事業に

關係し、徳島縣に於て自動車公營組合技手として具さに研鑽を經た。

昭和五年高知市に來り、現商會を營み傍ら湖江自動車學校の校長を勤めてゐる。なほ、高知縣自動車工業組合幹事及び



家 族 及 び 従 業 員

家庭 防空 組合 指導 員と して 市の 交通 防衛 にあ たり 率先 盡瘁

常に進取の氣性に富み、刻下ガソリン不足に鑑み、克く時局を認識して自肅他戒、業者間の共榮に奔走してゐる。

氏は一面趣味の人として聞え、音楽の教養高く、殊に寫眞はアマチュアの域を脱してゐる。家庭には夫人との間に一男一女あり、まことに圓滿である。

高知市通三丁目

實業家 川崎 慶次郎

當家は高知市に於ける素封家として、普く知れわたつてゐる。先代龜次氏は、海運業、砂糖商、船舶等により巨萬の財をなし、晩年は當地金融界の重鎮であつた。

慶次郎氏は先代の長男として、明治三十三年の出生、夙に父の意志を繼ぎ、曩に川崎汽船合資會社を組織して代表社員として手腕を揮ひ、後更に川崎商事合資會社を結成、愈々父業を大規模に組織擴大し、いまや四國のみならず、關西方面に於て其の名を謳はれるに至つた。殊に氏は、經濟的な知識深く、良く株

式に通じ、證券界の麒麟兒と評されてゐる。而も温容な人格者で、人々の尊敬をうけてゐる。なほ氏は材木業、製網業にも關係して今や名實共に高知實業界の巨星である。

高知市驛前

四國自動車株式會社

當社は昭和十二年七月の設立にして創業、いまだ日は浅いが斯界の權威ニツサンを背景に持ち、近代的經營法による新進氣鋭の會社にして、資本金五十萬圓、



白 井 社 長

事業の 進展華 々しく はやく も松山 市築山 町、高知市花園町、宇和島市旭町に營業所を設け、業界やゝもすれば困難の聲を

聞く折よく時局を認識して、一意自動車報國に邁進し着々業運を高めつゝある。左に當社を擔つてたつ主腦部を列記すれば、社長白井兼七郎氏を始めとして、常務取締役森昌良、取締役白井壽馬、同町田喜四郎の兩氏、監査役長尾幾吾氏等である。

なほ支配人に小壯敏腕を以て鳴る杉本豊登氏があつてゐる。氏は長岡郡天坪村の出身、城東中學校を卒へるや、直に白井商事に奉職、昭和十四年三月その手腕を買はれて一躍、四國自動車部支配人に拔擢された將來に富む新人である。

高知市孕東町

土佐セメント株式會社

高知市湖江町に聳立する土佐セメント株式會社の名は、今更喋々するまでもなく、斯界の最高峯として業界の均しく認めるところである。

明治四十一年の創立になり、營業種目はセメント、石灰、コークス、麵粉等である。

遠く文久三年の頃、小松金吾氏の石灰事業に端を發し、後、セメント工場を設置してその端緒につき、明治二十九年頃「錢屋セメント」の商號にて市場に出で同三十三年、錢屋セメント合資會社に伸展し、更に四十一年、その發展めざましく、土佐セメント株式會社と組織變更したものである。

今や資本金五百萬圓、刻下その需要いよく急にして、當社の飛躍は同時に工業日本の飛躍でもある。周圍に無盡蔵なる石灰山を擁して原料無限の好環境、まことに恵まれた状態にあるた。

なほ當社主腦部は、取締役社長淺野總一郎氏をはじめとして、常務取締役下元鹿之助氏、取締役兼支配人辻琢磨氏、取締役松村正治氏、同金子喜代太氏、監査役井上通太郎氏、同大西正幹氏等で眞に多士齊々である。

高知市浦戸町

海南殖産有限會社

當社は縣下各地産出の木工品、就中履物取扱竝に海産物の縣外移出を營業種目として、昭和十五年七月創立を見たもので、創立後日尙淺きに拘らず經營よろしきを得て業績著しきものがある。

同社の重役陣は社長益弘稔、専務原海南男、取締役今太郎、同藤原貞一、監査役山崎徳治、同松尾景明の諸氏で、何れも氣鋭の地方事業家である。社長 益弘氏



益 弘 社 長

は同社の姉妹會社たる三益社の社長をも兼ね、文字通り八面六臂の活躍を續けてゐる。又専務、原海南男氏は社長の從弟に當

り、城東中學校の出身、高知高校を経て京大法科を卒へた秀才である。

濱松市野口町

合資會社 三協機械製作所

電話濱松三一〇三番

當製作所は昭和七年一月、資本金拾萬圓を以つて創立、工作機械、自動車部分品の製作販賣に注力し、技術の優秀と合理的生産に依る價格の低廉なるに依り、つとに當地斯界に君臨し、同社製品は需要者の絶大な信用を勝ち得て、社運は特に旭日昇天の勢ひである。

而してその首脳陣は代表社員鈴木甚一氏をはじめとして、工場長金丸敏夫、營業部長松井靜彦、現場部長金丸重夫、設計部長原秀光の諸氏で、何れも業界切つての手腕家、技術家を網羅し、その完璧を誇る。
同製作所の將來は期して待つべきものがある。

静岡、磐田、下阿多古村

全國マオラン
栽培者組合阿
多古出張所長

鈴木 富司

氏は、大和國天理教山名教會本部學校別科卒業者で、大正四年五月、下阿多古村石神に阿多古宜教所を建築し、布教に努むる天理教の布教師である。

昭和十一年春、引佐郡氣賀町天理教會主白井薫氏よりマオランの栽培事業の有望なるを聞き、昭和十三年三月、同組合に加入し宣傳普及の陣頭に立ち、阿多古村百三十戸、八萬本の栽培の主唱者となり、いづれも優良なる成績を擧げてゐる。



因みに氏のよき協力者として所員松野佐造、森猪八兩氏の同事業への盡瘁を忘れてはならない。

氏の温和な性格と誠實は、村人の信頼厚く、一家は擧げて信仰心強く、夫人、實子安太郎氏及び若夫人等、皆天理教會本部學校の卒業者で、信仰によつて生きる平和な家庭である。

静岡、富士、富士根村

農會長 正八位 小林 豊春

當家は十數代を経る本村屈指の舊家である。先代作太郎氏も生前、區長、組長等に務め村の自治に貢献する所のあつた人である。



氏は東京築地攻玉舎中學を卒業後、歩兵三十四聯隊に入營し、少尉に任官正八位を賜つてゐる。
夙に村政に關與し、永らく村會議員として、また村長として、同村の爲め

に寢食を忘れて貢献し、なほ軍人分會長となつて活躍した中堅人物であつたが、現在、農會長、郡養蠶實行組合聯合會長であり、村民を指導し産業發展に盡瘁する所甚大であつた。特に蠶種の研究に造詣深く、養蠶組合を設立して蠶種の改良に努力し、大いに成績を上げてゐる。
家庭には七男一女あり、子福長者として知られてゐる。

静岡、駿東、印野村

村會議員 山本 直江

當家は代々農業を營む舊家で、先考房次郎氏は村會議員、區長、産業組合監事等の要職にあつて地方自治産業に盡した篤農家であつた。

直江氏は御殿場小學校卒業後、村にあつて農業に従事し、村内の信望頗る厚く村會議員たるの外、産業組合監事、養蠶實行組合長、警防團分團長、農會總代、軍用保護馬指導員、産業組合青年聯盟理

事等となつて活躍してゐる。

曩に氏は、消防義會より表彰を受けたことがあ



る。
思想圓満にして家庭にはミエ夫人との間に四男六女を有し、子福者を以て近隣に知られてゐる。

静岡、富士、大宮町

町會議員 瀧川 啓作

代々當町にあり、町の大御所的存在として重きを成してゐる。

瀧川啓作氏は慶應二年の生れ、當年七十五歳の高齡であるが、尙壯者を凌ぐ活動力を有し、町政に參劃し、又、次男理學士文夫氏の「日本ブレイキ・オイル研究所」の管理に當つてゐる。

日本ブレイキ・オイル研究所は、次男

文夫氏の研究所であるが、京大純正化學科の出身で、ブレイキ・オイルの製造研究に當つてゐる。抑々ブレイキ・オイルたるや、米國のロックヒード製品が吾國自動車界に使用されて高價な爲め、吾國工業界の負擔を重くしてゐたのであるが氏が其の國産化を圖り研究の結果得た、拾數年の努力の結晶で、吾國に於いては唯一無二の物である。

現下非常時局にあつて軍當局及び一般工業界に極めて重要品であることが證明されてゐる。

此のブレイキ・オイルの特色は、機械の損傷、即ちブレイキに用ひられるゴムの消耗を緩和し、ブレイキの停止力の高度化等であり、加ふるに價格極めて低廉な爲め、青バス、市營、自動車工場等に供給され、用途は漸次擴大されてゐる。
因みに氏は、大宮第一の料亭たる「梅月」を營んでゐるが、長男式夫氏ありて此の方面もまた、大いに繁榮を來してゐる。

静岡、榛原、萩間村

大寄 信用販賣組合

當組合の歴史は古く、明治十二年頃...

昭和七年には農村の経済更生のため組...

當組合は産業組合機構の合理化といふ...

現在の役員は理事が五名で、中でも専...

務理事の鈴木氏は、大正七年就任以來同...

組合の爲め貢献をつゞけてゐる。氏は以...

静岡、榛原、御前崎村

御前崎 信用販賣組合

當組合は昭和十三年に設立された。當...

當組合は購買部、販賣部に重點を置き...

現理事は七名で、全部創業以來活躍を...

組合長

小野田喜逸

氏は現に當村の長として村政にあたり...

専務理事

澤入 惣藏

氏は大正十四年以來引續き本村々會議...

静岡、磐田、光明村

鈴木 政十

政十氏は當村の舊家にして、名望ある...

鈴木家に宇三郎氏長男として、明治四十...

昭和十四年、友人水野氏と共に全國マ...



合河城本部より苗一千本を買入れ、植付けを...

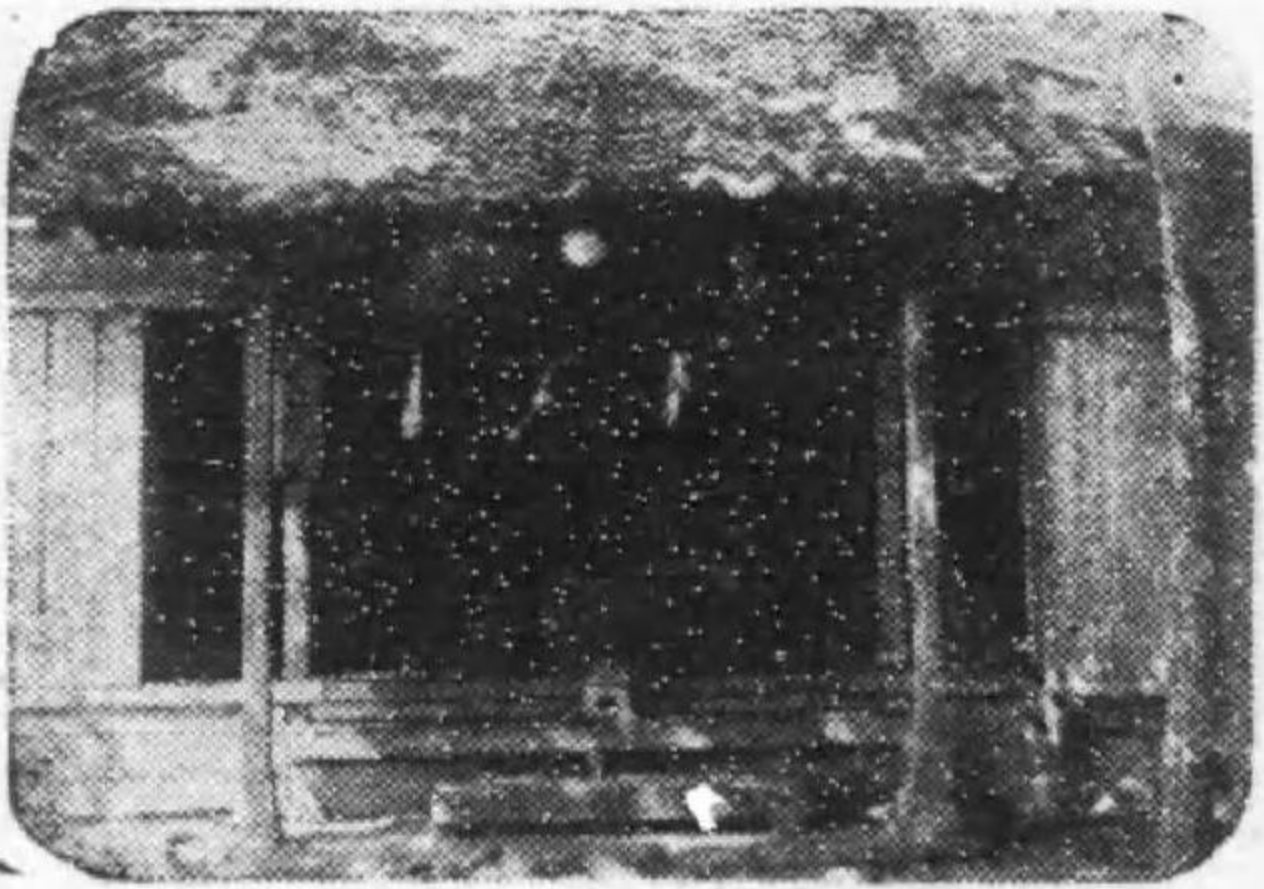
したるを動機として、鋭意纖維に關する...

静岡、濱名、新津村

御嶽教水神講社

當社は御嶽大神水速女命を御本尊とし...

明治十四年、當村大澤三郎兵衛氏の創建...



殿 拜

の者の夢枕に立ち、祭祀の事を行ふべき...

神告ありて、現在の地に數十本の松の木...

現主宰者

藤森猪太郎

氏は明治十二年三月十日磐田郡二俣町...

又、往時の日露戦役には勇躍征途につ...

静岡、賀茂、稻梓村

土屋 梅之助

當家は稻梓村切つての舊家にして、代...

つた。先代故桂助氏も亦父祖の業を繼いで庄屋職たり、後、戸長、村長等の名譽職に歴任して、村内に於ける信望極めて厚き人格者であつた。

梅之助氏は先考の長男として、明治二



年十二月
四日呱呱
の聲をあ
げた。
早くよ

り村の自治、産業の振興に盡瘁し、畜産組合長として明治三十八年より、勤続すること實に十八年間の永年に亘り、その間の貢獻甚だ大なるものがあつた。

又、大正二年縣會議員に當選、その後引續き當選し、縣政に寄與した。又稻梓村の村長たる事二期に及び、村治に對する識見才腕を揮ひ、名村長と謳はれた。現在では賀茂郡蠶種購買販賣利用組合長の要職にあり、豊富なる經驗知識により當地方蠶業の興隆に資する事極めて多い

氏は温厚圓滿なる人格者にして、洽く衆望をあつめてゐる。氏が村長在任中、日露役の勃發する所となり、從軍して武勳赫々たるものあり、勳七等、青色桐葉章を授けられた。

静岡、磐田、龍川村

木村同業組合
副組長 鈴木 祐一郎

電話横山一五番

當家は代々金次郎の名前を襲名し、製材業は明治二十三年より開始した。

先代金次郎氏は産業組合の創立者として名高く



村民の信望頗る厚く、十數年の久しきに亘り組合長の重責を帯びて、村産業の進展に盡力し、村内に頗る重きをなした人物であつた。

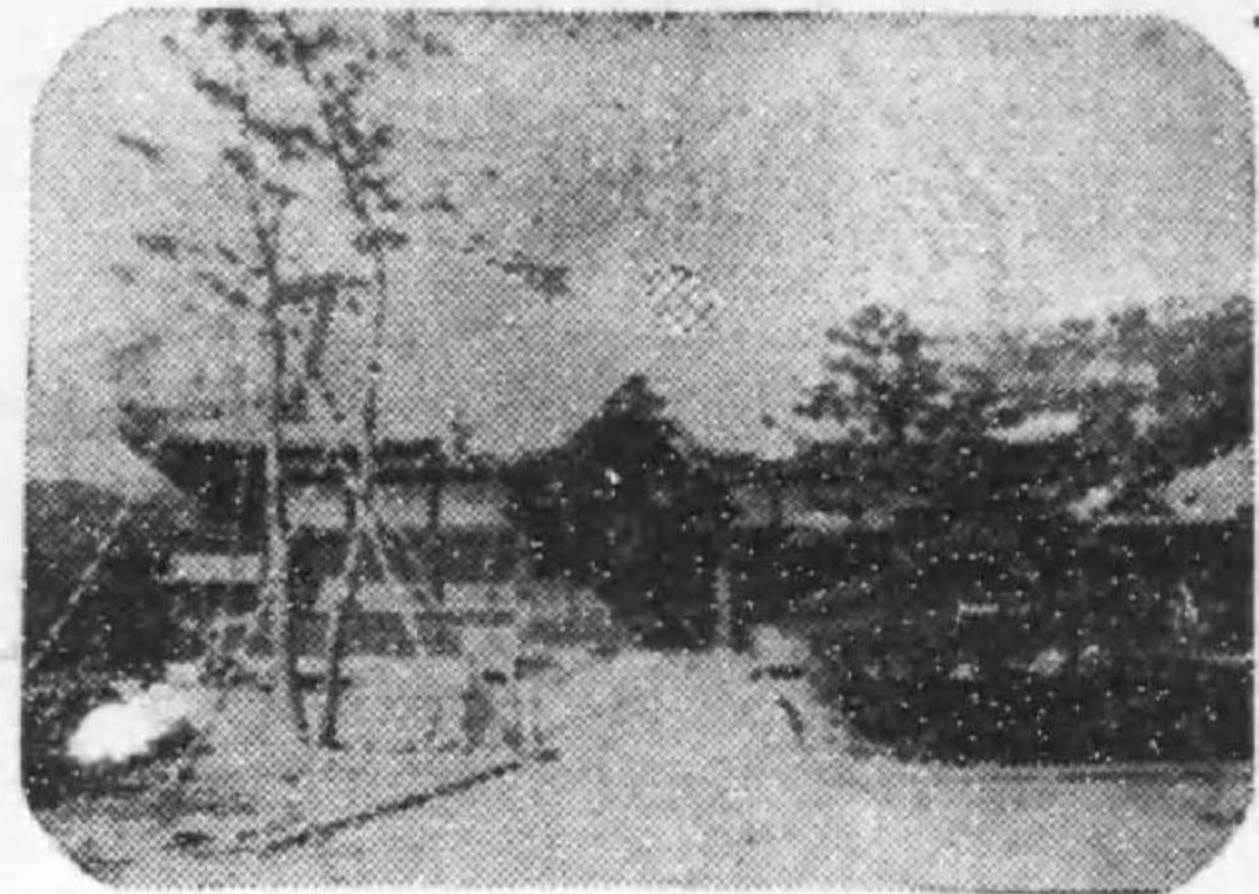
静岡、志太、稻葉村

金龍山 心岳寺

當寺は釋迦如來を御本尊とし、曹洞宗に屬する名刹である。開山年代は未詳なれども、その縁起に依れば、永正元年高尾山石雲院開山崇芝性岱禪師第三世の法

孫兆山岱禪師、肇めてこの地に來り、近隣の善男善女を教化して蓮佛庵の開山となる。

また、正親町三條内大臣得度して慈光



本堂

院殿と號し、當山をそ

す。永祿元年四月慈光院殿の母堂薨じ、法名を圓成院殿心岳宗智大禪定法尼と稱へ開基となし、後開基の法號に因んで、金龍山心岳寺と改稱した。再度祝融に遭へるも直に復興し、現在の寺域は宏大、

諸堂薨を並べて偉容たり。寶物としては開山の御袈裟、並びに教授戎文、正法眼藏八十八卷等が秘藏されてゐる。

現住職

鈴木 祖光

師は明治四十四年の出生。静岡高等學校を経て、帝大宗教科を卒業せる逸材にして、昭和十三年當寺住職として就任、研學、布教に盡力しつつあり、將來を囑望されてゐる。

静岡、駿東、富士岡村

富士岡村警防團

當村警防團は、團長一名、警報部長一名、燈火管制部長一名、消防部長一名を幹部として組織されてゐる。

團員總數百十名に及び、自動車ガソリンポンプ一臺、和洋ポンプ十二臺の設備がある。

團長 中川 頼治

當家は代々農業を營み、當主にて十五代を數へる村内屈指

の舊家である、と共に社會公共事業その他に貢獻する處甚大であつた。先考安次郎氏は區長、消防部長等を歴任して數々の功績を遺してゐる。氏は先代安次郎氏の長男として明治十九年に生れた。當村組合立佐野實業學校の出身である。曩に區長を三期つとめ、消防組頭から警防團長に代り、銃後治安の重責に任じてゐる。資性、明朗豁達にして、讀書、劍道等に趣味がある。因に、氏の四女八重さんは、日赤看護婦として應召、南支方面に活躍されてゐる。

高知、長岡、稻生村

實業家 井上 修

井上家は當地方有數の素封家として聞え、祖父柳吉氏は土佐割石業組合に四十餘年の永きに亘つて勤めた石灰界の大功勞者である。

に開業し、次第に繁榮を來たし、二代目の喜三郎氏も初代の遺志を繼ぎ、財を家業に傾け、その製品は内外の稱讚を博するに至つた。

當主磯彌氏は資性温厚、實直にして能く時代の要求に應じ、堅實なる營業を續けて事業の擴張に伴れ、朝倉町より京町に進出し、最新の技術を示してゐる。

福島一家が土佐の斯界に貢献した功績は洵に偉大である。
因に、同店品は明治二十三年、大勳位伏見宮貞愛親王殿下より褒狀を賜つた事の有る榮光盡きぬ名門である。

山梨、西八代、古關村

村會議員 伊藤 庄五郎

先代故市之丞氏長男として明治八年五月廿日に生れた。

當家は開祖不詳なれども當村の舊家で代々紙漉業を營んでゐたが、現在は農業を主とし、副業として養蠶、植林、木炭

業などを營んでゐる。

本村は昭和十四年度より特別助成村の取扱を受けて滿洲移民と植林に力をそゝいでゐる。

氏は村會議員として村政に參與し傍ら方面委員、中野倉下組水道組合長の公職にあり、元區長、學務委員、産業組合監



事、等で努力した實直な奮闘家で、殊に木炭の改良に盡瘁する處多く、小學校運動場擴張工事にも種々奔走し、且つ幾多の寄附をなして村民に敬慕されてゐる。
家庭は夫人、長男、若夫人、令孫等、賑かである。

静岡、駿東、高根村

村會議員 土屋 隆平



計畫を計り、村全體の福祉を招来せんことを希望してゐる。
思想開滿、消防功勞賞を授けられたこ

とがあり。家庭には養母さちさん健在したか夫人との間に一男三女がある。

山梨、西八代、富里村

元 郡農會副會長 堀内 卓三

當家は村自治に功勞多き舊家であつて先代は戸長を勤めた。

氏は現在郡農會副會長の他、村農會長、村會議員四期、方面委員、學務委員、富里村外二ヶ村の道路組合長、産業組合理



事等で、
ひたむきな活動を續けてゐる。
嘗て村

ことに紀元二千六百年の記念事業として植林の計畫に奔走してゐる。
氏は實直、温厚な紳士であり、自治功勞者として、又農事方面での業績により表彰された。
因に、なほ夫人との間に二男四女があり、氏の令兄隆規氏は手腕家として、當地方有数の人物にして、嘗て縣會議員を勤めた徳望家である。

静岡、駿東、高根村

區 長 鈴木 正平

氏は明治二十九年三月七日生れ、代々農業を營む篤農家にして、また舊家として知られてゐる。

殿父由五郎氏も數回區長に任じて功績が多い。

氏は御殿場實業學校を卒へて家業に従ひ、區長は三回目の奉仕である。

前に村會議員を一期勤めた他に、農會幹事、産業組合理事、軍人分會長、青年

氏は明治二十一年十一月二日豊吉氏の男として生れ夙に土屋家の養子となる。

當家は代々農を生業となす篤農家であつて、岳父故五郎次郎氏は生前、區長、村議等の要職につき村のために働いた人である。

氏は御殿場農學校を卒業後、即ち村會議員を一期、産業組合監事、養蠶實行組合長等を兼務し、自治産業の發展に寧日なき活躍を致してゐる。

以前には農會部長、消防組頭として功績を遺してゐる。

氏の將來に對する抱負としては、村民と協力一致して、

肥料配給の圓滑を期し、養蠶の増産

團長等で活躍し、村のために貢献するところ多かつた人である。

氏は農業經營に就て相當研究をなし、



増産に盡力、村民と協力一致して農村の實情に當ふた

めに、農事試験場の開設、農民道場の開設、肥料配給の運用に當り極力これらの實現を計つて、産業の發展向上に邁進せんとしてゐる。

思想開滿にして、天理教に信心深く、尊父、母堂いまだ健在し、とめ夫人との間に七男三女があり、平穩である。

山梨、甲府市塚原町

市會議員 山村 夏吉

當家は代々相川村にあつて農を業とする舊家である。氏は明治十五年六月、先

然るに、當社は創業以來多大の犠牲を忍び、寧日なき努力研鑽を續けたる結果當社三大製品たる黄燐、赤燐及び硫化燐の販路は東洋曹達、日本曹達、住友伸銅所、川崎造船所、日本合成化学工業、住友金屬工業、海軍工廠、日本製鐵等に及び、漸く斯界に重要視されるに至つてゐる。

因みに、當社代表社員は金山龜之助氏であり、理事に金山喜久、支配人に古市孝太郎氏があり、一致協力よく社運を擔つてゐる。

富山、東礪波、柳瀬村

養鶏養豚業 **安藤 甚一**

氏は三十二年前當村を見無つた大水害に祖父佐右衛門氏を失ひ、又、氏の幼時火事に逢つて一家丸焼けとなつたが、不屈不撓の努力は、よく今日の繁榮を來した。

祖父は在世中、村長たりし事のある名

望家で、祖父以來の英邁なる氣象を承



先代 佐一 郎 氏

繼いだ氏は、村民に率先し



當主 甚一 氏

る農業道場の視察の結果得られたる知識である。

斯くの如き研究の結果に成る合理的經營法で、着々と成功を収めてゐる。家庭は夫人との間に四人の子供を恵まれ、まことに圓滿である。

富山、射水、大門町

大門土石販賣組合

電話五六・一〇九番

當組合は大正十一年の設立で、軍需工業關係建設用土石及び河川堤防工業用並に鐵道線路用のバラスを取扱つてゐる。當組合は出資一口三十圓にして、現在組合員數百七十名に達し、昨年度販賣額は約五萬圓に上つてをり、益々隆盛の一路を進んでゐる。

大門漁業組合は前記組合に附隨するもので、昭和十三年九月保證責任と改組し前名稱雄神漁業組合を現稱に改稱した。鮎、鮭等の販賣を主とし、鮎の昨年度の販賣額は三千八百圓に達し、鮭もまた同額に達したと發表されてゐる。

土石組合長

森田 豊造

氏は現在、大門町町議たるの外、富山縣水産會議員、射水郡水産會議員、大門町商工會理事、大門

町軍友會副會長、大門漁業組合常務理事枇杷首蔬菜栽培組合幹事等を兼ねてゐる町内の有力者で、その他、名古屋町鐵道局指定請負人として、その方面にも手腕をふるひ、當組合の發展には、ことの外熱心振りを示してゐる。

石川、金澤市殿町

縣會議員 **前川 吉榮**
市會副議長

電話一〇二二番

氏は明治三十五年三月十八日先代榮太郎氏の男として生れた。早稻田大學政治經濟學部を卒業して、昭和二年高等文官



試験をパスした秀才である現在少壯にして金澤市會

副議長の要職にあり、更に石川縣會議員として縣政に重きをなしてゐることは特

筆大書さるべきである。

市會議員としては既に三期をつとめ、昭和十三年に市會副議長となつたもので縣會議員としての手腕は、縣下に於てすでに定評のある所である。

早稻田マンとしてスポーツに興味を有し、青少年に對する、この方面の訓練にも非常な造詣を有してゐる。

家庭には次美夫人の他に、弟吉城君があり、目下第四高等學校に在學中の俊才である。

石川、珠洲、飯田町

若山 信用購買組合

電話飯田一三二番

本組合は飯田町字鍛冶町九の部一二九番地に所在し、一口金額拾圓、組合員數は六百七十一名である。

大正十三年創立の際には有限責任であつたが、昭和八年より保證責任に組織變更し、今日に及んでゐる。

本組合の主唱功勞者は、島中佐吉であり、現役員は理事九名、監事五名。昭和十四年三月、縣經濟部より販賣方面の成績優良なるため模範組合として表彰された。

組合長

佐谷 清作

氏は明治三十二年十月十七日先代故徳松氏の長男として生を受けた。縣立七尾中學の出身で、組合創立當時は理事であつたが昭和六年に組合長に任命された。



には任命された。なほ郡農會副會長、村農會長の要職にあつて多忙を極めてゐる。

氏は實直、温厚の士で、眞實に信心深く、家庭には母堂、夫人がある。

石川、珠洲、木良村

村會議員 **加藤 鐵郎**

當家は代々酒造業を營み、村内に於ける舊家である。

氏は明治四十年、隣村寶立村の舊家山崎家に生れ、今より十年前當加藤家に婚養子として迎えられた。

實父は寶立村の中心人物にして、郡會議員その他の公名譽職に在りて自治産業の發展に貢献せる人で、實兄また能和銀行支店長として、又村會議員その他の名譽職にある地方切での有力者である。氏は村會議員の他に警防團顧問の榮職にある。

弱冠二十三歳の折、消防組頭となり、ガソリンポンプを早くも購入して努力したことは、村民より絶讃を博した。

氏の將來に對する抱負は、村政の圓滿なる發達にあるが、その運行為村民の自治に對する理解を第一義的であるとなしてゐる。

性格は剛膽にして温容、年少にして消防組頭となつた一事を以てしても、その全貌を窺ひ知る事が出来るであらう。

石川、珠洲、西河村

村會議員 丹保 忠次郎

氏は嘗て日露戰役の砲、帝國軍人として名譽の應召を受けた勇士である。



資性温 和に して 村民 の信 望厚 推さ れて 助役 二期 を勤 族 家 一

石川、江沼、篠原村

村會議員 前田 長松

當家は村内切つての舊家で、先代惣吉氏は篠原村助役を八ヶ年に亘つて勤務し來つた村内の有力者である。

氏は篠原村新保區長を勤めて六ヶ年に及んだが、その後村會議員に推され、村内の自治産業、特に漁業、農業等に特筆すべき業績を擧げてゐる。

温厚篤實なる人格者で、村會議員としてまた村社淡島神社の氏子總代として、村民の信頼を受けてゐる。

長男は今次事變に名譽の應召を受けて出征、中南支に轉戦し昨秋茅出度く凱旋した勇士である。

なほ家庭は至極圓滿にして、近隣の羨望を集めてゐる。

石川、羽咋、上能野村

區 長 星野 忠太郎

當家の祖先是武家で、今を去る三百年前に此の地に居を構え、由來代々農業を以て專業とした由緒ある名門である。邸宅には數百年を経たる樹木鬱蒼として、古き傳統を物語り、なほ當家の菩提寺が



加賀の音 豪寺にあ るに見て も、その 由緒ある 家柄を覗

ひ知るを得るのである。

忠太郎氏は先代故佐兵衛氏の養嗣子として當家に迎えられた。

先代は自治制施行初代の村長として幾多の功績を遺した人物であつた。

氏は既に區長たること二十年に及び、その間、農業組合評議員たりし事もあり

宇田原に至る道路改修は實に氏の努力に成るものである。

資性温厚にして、村民の徳望厚く、夫人との間に三女一男があり、それぞれ健全なる成長を見せ、家庭は至つて圓滿である。

福井、坂井、磯部村

村會議員 高山 清隆

氏は明治三十四年一月十日、故清吉氏の長男として生れた。

機業は明治二十七年創立されたが、一時中止され、大正十五年八月再興、現在に至つてゐる。

同家は村に於ける舊家で、氏は丁度五代目であり、祖先是みな、戸長、庄屋などに勤めた家柄で、先代は區長、村會議員として村のために活躍、聲望がある。

當主は村會議員(一期)として専ら村のために、事業のために努力してゐるが、嘗て區長、消防組小頭として二ヶ年の要

氏の長男も亦、幹部候補生として今事變に應召、目下戦線にあつて奮闘を續けてゐる。

職を空うしてゐる。

機械臺數百臺で、工員數六十名、祭秋二回の慰安會を開催して従業員の慰安、能率の向上に邁進を續けてゐる。

消防方面及び振興織物組合より表彰されたことは、特筆大書されなければならぬ。

氏は淨土真宗に歸依し、従業員の結果を第一義と考へ、その融利施設に萬全を期してゐる。

家庭にはイヨ夫人(三十六歳)、長男清治君(十六歳)、次男清正君(十四歳)、三男清三郎君(十一歳)、四男清信君(九歳)三男隆男君(七歳)、長女清榮さん(三歳)があり、和氣霽々としてゐる。

福井、坂井、伊井村

機業家 田 中正

氏は明治三十四年五月十八日生れにて同家は三百年の舊家で、代々農業を營んでゐる。

昭和十年に現在地に工場を創立し、機械臺數四臺であり、細巾マーク機業として独自の發展を遂げてゐる。

氏が機業に對する態度は誠に眞剣で、従業員が一致團結してゐるのも一に氏の眞面目な人格が反映してゐる證左であつて、事業に熱心な氏の將來には幾多の希望が持たれてゐる。

時局下農村産業開發が各方面の話題となつてゐる時、氏の如き人材を適所に得てゐることは誠に意義あることである。

伊井村桑原に居住する氏の家庭には、タマエ夫人、長男篤君、次男正一君、長女サキヲさん、次女カズ子さん、三女みづ子さんがあり、和氣霽々としてゐる。

福井、坂井、伊井村

機業家 志田 信

氏は明治二十五年四月十日、宇兵衛氏の五男として生れた。

現在の所に機業を創立したのは大正十

年である。

リボン織機臺數が十四臺、大中もの十八臺、工員は十六名あるが、何れも氏の指導を得て、一糸亂れぬ團結の下に増産に邁進してゐる。

志田氏は機業家として獨特の境地を開拓し、現に産業報國會長であり、同時に村會議員を二期勤めて村政に活躍してゐるが、さきに消防小頭を六ヶ年勤続した苦勞人である。

誠に温厚なる人格者で、伊井村矢地に現住、家庭にはりを夫人が四十三歳、長女静枝さんが二十二歳、長男信一君が十九歳、二女幸代さんが十七歳、三男昭信君が十四歳、三女巳代子さんが十二歳、四女芳子さんが九歳、五男裕君が六歳といふ子福者で、何れも明朗なる性格で他人の尊敬を受けてゐる。

機業の發達が村の産業に影響を有してゐる非常時下であり、氏の手腕は工員始め、村民のひとしく期待するところである。

福井、坂井、東十鄉村

警防團長 西端 多一郎

氏は明治三十六年四月九日、先代多藏氏の長男として生れた。

當家は春江町に於ける舊家にして、庄屋、戸長等を勤めた家柄である。

機業の創立は大正七年現在地であり、機械の總數百三十臺、女工員百名を有してゐる。

福井縣織物同業組合坂井郡第五部長の他に警防團長の要職にあり、元氣一ぱいの活躍をなしてゐる。

氏は稀れに見る精力家で、未だ四十歳に満たずして現在の工場を經營し、又警防團長として統後治安の第一線に活躍してゐる氏の將來は、まことに洋々たるものがあり、村民の期待が双肩にかけられてゐる。

氏は曩に警防團に盡せる功勞によりて表彰されたことがある。

淨土眞宗に信心深く、ハスエ夫人(三十五歳)の他に、弟洗心君(三十六歳)、同多明郎(三十三歳)、同多四郎君等があり、僧侶として、又産業戰士として活躍してゐる。

石川、珠洲、西海村清水

村會議員 山崎 仁作

氏は先代松太郎氏の後をついで四代、明治三十年十月十三日に生れた。

代々農業を營み、本村宇清水の自治産業の發展に功勞がある。

先代は村會議員、區長その他の公名譽職にありて村自治のために活動、村民より敬服されてゐたが、その逝去は各方面より惜まれてゐる。

現在、村會議員の他に常會司會長、貯金組合長の名譽職にあつて、村のために大童の活動を行つてゐるが、以前には産業組合の幹事として少からざる功績を致してゐる。

特に氏の政治上の抱負としては政黨政派に拘らず、あくまで人物に基礎を置いて、その中立を保つことにあるが、こう

した氏の人格が、村政に反映することは蓋しその發展向上の上に、良結果を齎すことは當然であつて、人物本位の指針は村民のあげてこれを歓迎する所である。家庭にはのし夫人の他に長男松男君はじめ四男四女がある。

石川、江沼、河南村

軍人分會長 西河 藤治

當家は代々農を主業とする村内切つての舊家にして、氏を以て四代目なり。

氏は後備役歩兵軍曹として統後の勤めに範を垂れ、現に軍人分會長及び警防團副團長等の公職にある。

今次事變に際して名譽の應召を受け、上海、南京等に轉戦十一ヶ月、輝く武勳をたて、凱旋した。なほ軍人分會長、警防團副團長たる外

青年學校指導員として、青少年の軍事指導に當り、また區の協議員として、種々區内の福利を圖つてゐる。

未だ三十代の少壯であるが、良く與へられたる公職にあつてその職責を完うし

消防團、在郷軍人會より表彰された。家庭には母堂サトさん、高齡にて健在し、夫人イシさんとの間に四女を恵まれまことに賑かな團樂をなしてゐる。

石川、羽咋、高濱町

郵便局長 岡部 彌之助

氏は、少年時代より英才の名高く、金澤第一中學校を卒へて、一年志願兵として金澤師團に入隊、陸軍少尉の榮譽を持つてゐる。

曩に堀松銀行高濱支店に勤務せしも、間もなく退職、高濱郵便局設立と同時に初代局長の椅子に就く。なほ氏は、局長として多忙の傍ら、町

會議員として町政に參與し、また軍友會長として、多端な統後の活動にあつてゐる。

殊に婦人團體と協力して、各種事業に統後の奉仕に活潑な動きを示し、いよいよ氏の存在を大ならしめてゐる。

副會長に藤田外喜藏、菊田庄藏の二氏を得た事も當會の誇りとすべきである。因みに同會會旗は、機業家高濱機業會社の小浦忠二氏より寄贈されたものである。

岡部家は、母堂いまだ健在し、夫人、長男、若夫人、令孫と、なか／＼賑かである。なほ長男は局に勤め、父子共に通信事業に一身をさへかけてゐる。

静岡、濱名、赤佐村

岩水石灰株式會社

電話二俣一四〇番

當會社は、大正十一年、當村の石灰販賣業者間によつて創立に係るもので、爾來

累年事業の發展を見つゝある。製品の優良は既に定評あり、販路は東京方面を主としてゐる。

尙、當社は石灰より獲たる「ガス」を以て石灰を焼く製法を多年研究、成功し、日本及び、滿洲國の專賣特許を有してゐる。

社長は、縣會議員大角愛治氏、事務取締役大角英太郎氏、常務取締役には村會議員青柳又一氏、取締役は高橋孔淳、内山末吉、谷口太吉の三氏、支那人には山崎直司氏が就任、當社の發展に努力してゐる。

静岡、榛原、金谷町

天王山 大覺寺

當寺は遠く元龜二年、河村五郎右衛門の開基、大路一尊和尙の開山にかかり、虚空藏菩薩を御本尊とする、曹洞宗の禪刹である。

元和三年、紀伊公より田地を賜ひ、慶

安元年には徳川家より御朱印を授與さる廣大なる寺域には、諸堂を並べ、森



堂 本

嚴の氣、四邊に満つ。行事として八月十三日に行は

なほ師は、高齡にもかかわらず髪襟と



して、衆生のために一身を捧げ、教化善導に盡してゐる高僧をもつて近隣に普ねし。

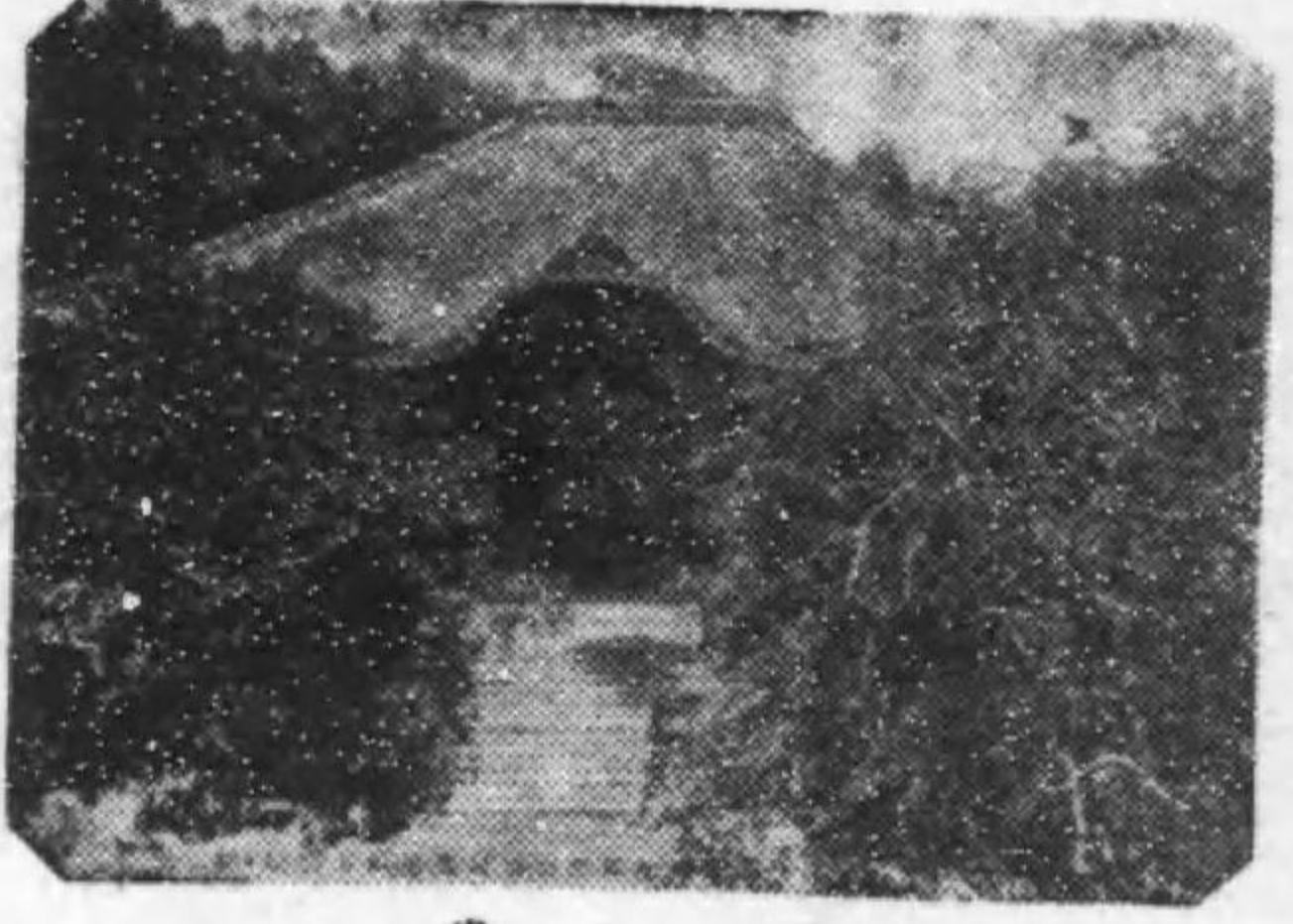
静岡、榛原、坂部村

龍門山 石雲院

當院は、康正元年開祖崇芝侍禪師の開闢である。開祖禪師は三十六歳にして備中洞松寺先師の席を董し、再び行脚の途にのぼり、苦修練行、遂に當院に錫を留めて穩棲した。

禪師の徳風を仰いで膝下に轉る雲衲霞袂、常に三千指に充てりと傳へらる。就中、大空主虎、賢仲繁哲、界岩繁越、季雲永嶽、辰應性寅、大有良宋、隆溪繁紹は輪下の七哲として名高い。

明治七年官輪住を廢するに至り、天外和尙を獨住第一世となした。



堂 本

寺域は古檜老杉鬱蒼として天外に聳へ幽邃森嚴道機育

した。當代稀に見る高德の人格者として衆庶の信望頗る厚い。

静岡、駿東、大岡村

大岡 信用販賣組合

當組合は大正九年五月の創業で、爾來發展をつゞり、時代の進運に伴ひ、昭和八年五月保證責任組織に改組された。主唱發起人として功勞のあつたのは芹澤福太郎、河野彦市の兩氏である。組合では金融及び購買、販賣の事業を行ひ販賣部では米、麥、甘藷等を、また購買部では肥料、飼料、日常生活必需品等を取扱ひ、それぞれ國策に協力しつゝ、好成績を擧げてゐる。

成には最適の境地である。

住 職

師は明治十一年の生れにして、同三十八年駒澤大學を卒業

駒澤大學監、永平寺後董、正法眼藏講師等の要職を歴任し、正岳寺、心岳寺等の住職を経て、昭和八年當寺の住職に就任

現仕の役員は組合長青木浩三郎氏、専務理事井口一夫氏の外に、理事に佐藤岩吉、新井静夫、神田廣太郎、村田善作、青木豊作、河野與、眞野茂作、海野伊太郎の諸氏が就任、監事には森島大作、芹澤要十、今村常三郎、中村與一の諸氏が

協力一致、組合の發展に盡力してゐる。

組合長 氏は識見、手腕共に傑れたる濃厚篤實の人格者として組合員の信望を鍾めてゐる。

専務理事 氏は明治十一年の出生、家は代々農業を営み、當村切つての舊家として知らる。組合の爲めは言ふを俟たず、普く公共の爲めに盡瘁する所極めて大なるものがある。

井口 一夫 氏は明治十一年の出生、家は代々農業を営み、當村切つての舊家として知らる。組合の爲めは言ふを俟たず、普く公共の爲めに盡瘁する所極めて大なるものがある。

静岡、磐田、光明村
光明村 信用販賣 組合
電話二俣一六一番

當組合は昭和十三年八月認可され、同年十月一日より事業を開始した。當組合の前身は、村内各部落の小組合であつたが、現下農村の複雑性に鑑み、當村産業の樞軸たり得べき強力な総合的組合たらしむべく、當時村長たりし宮澤富氏初め

村會議員諸氏の協力により、遂に當組合の設立を見たものである。

事業は椎茸、木炭、蒟蒻の販賣、米、肥料、薪炭の購買、信用貸付等である。

當組合役員は、組合長理事和田顯一氏 専務理事鈴木賢作氏初め、理事に栗田貞一、平野廉策、大石正敏、黒川儀三郎、鈴木繁、中谷市松、市川廉策、鈴木安虎、鈴木源平、一瀬孫太郎、岡部七郎平、渥美喜一、大澤彦藏、内山傳七の諸氏、監事に栗田丑太郎、小木秀時、大須賀良郎、宮澤富、神谷熊八、河島甚一郎、大澤八五郎、内山豊太郎の諸氏である。

組合長理事 氏は曩に太平信用組合長たりし事あり 本組合の創立、發展には盡力するところ 甚大である。

村會議員
和田 顯一

静岡、駿東、小泉村
勳八等長 **小林 徳藏**

家宗は淨土宗で、信仰心厚く、家庭には令閨シン子さん(明治三十六年二月生れ)との間に、高等小學校一年在學の長男正巳君があり、靜穩である。

當家は代々農業に従ひ、先考大吉氏の時代に静岡縣蒲原村より當村に來住し、近村でも篤農家として知られてゐる家柄である。

明治十七年出生。永年鐵道に關係し、今や本省より恩給をうけ、悠々として自適の生活を送つてゐる。



氏は日露戰役に出征し、赫々たる武功を擧げ、その勳功によつて勳八等を賜つた。

氏は曩に鐵道省官吏を辭したる後、初代消防小頭として活躍し、現在區長として、又産業組合理事として、農村經濟の振興に盡瘁してゐる。

氏は讀書、園藝等に深い趣味を持ち、明朗、温厚の好紳士として村民に敬慕されてゐる。前年、鐵道省より勳績功勞の

表彰を受けた。

家庭には、りん夫人(五七)との間に三男三女あり、長男馨氏(三一)は三島商業學校卒業の後、目下滿洲國官吏として大陸に活躍してゐる。

東京府三宅島、阿古村
收入 役宮 下 信

當家は本村に於ける舊家で、代々農業漁業をもつて家業としてゐる。

當主は尊父新之助氏の長男として明治三十五年四月六日に生れ、家督相続後は前記家業の他に製炭業を営み、家運は日毎に隆盛となつてゐる。

夙に村治村政に關係し、嘗ては青年團長、村會議員、國勢調査委員、農業調査委員等として活躍し、現在は收入役、東京府方面委員、農會副會長、産業組合理事、漁業共同協會監事、警防團第二部長等として寧日なく、全村のため貢献してゐる。

福井、今立、國高村
圓 明 寺

佛光山圓明寺は應永二年、日像菩薩の法子妙源和尚の開基に係る。

御本尊として日像菩薩の作になる日蓮上人の御尊像を安置し、眼病に非常なる靈驗あり、善男善女の參詣者その跡をたゞぬ。

その面積は五百坪で、本堂、庫裡、鐘樓堂、山門、祖師堂等あり。寶物としては日蓮上人御眞筆、本隆寺開山御本像等秘藏されてゐる。

御日待は六月十六日、十月十六日の兩日で、千部會は九月三、四、五の三日間で、檀家は百戸餘の多きにのぼる。前任職は齋藤日隆師で、宗會議員、本



山管長を歴任した人物で、七十二歳を以て遷化し愛息隆昭師が後を襲つたもので、明治三十年

東京府三宅島、阿古村
山井 映 三

氏は栃木縣下都賀郡の出身にして、駒場農業大學實習科を優秀なる成績にて卒業したもので、囑望されて農商務省に入り、種畜場に勤務し、永年の努力により乳牛に關しては氏の右に出る者なく、その權威とまで謳はれるに至つた。

勤続八年にして明治製菓會社に招聘され、同社經營に係る、北海道牧場長に任ぜられ、昭和十五年二月、同社三宅島牧場長に榮轉したものである。在來、同牧場は乳牛の死亡率多く、經營困難な處で今後氏の手腕により大いに改良し、その成績を擧げんとしてゐる。

福井、足羽、社村

村會議員 大久保 齋

氏は惣四郎氏の長男として明治三十一年二月二十四日生れ、當主で五代目である。

嚴父惣四郎氏は七十二歳、母堂は六十八歳にして何れも健全である。

氏は昭和三年來、農より現在の機業經營に轉じ、工場の整備により、製品の優秀、營業方針の堅實を第一とし、今日の成功を収めてゐる。

學校は福井農林の出身、關係事業は福井人絹工業組合の理事である。又現在、村會議員として活躍してゐるが、元青年會長として青年の修養に盡力した。

なほ、學校卒業後、十少年間農業に従事、學理を實地に生かし、蔬菜栽培、品種改善、多産獎勵に努めた功績は偉大であつた。現在轉じて、人絹、絹輸出織物として盛業中であり、村内機業界の第一人者である。

静岡、富士、芝富村

區長 佐野 孫七

氏は明治十九年三月七日、花倉清七氏の次男として呱呱を擧げ、のち佐野力藏氏の養嗣子となつたものである。

佐野家は當村の篤農家として知られ、當主まで五代を數ふ舊家である。

岳父力藏氏は、日清日露の兩役に従軍し、功により勳八等に叙せられた勇士である。

資性濃厚篤實にして、夙に意を村自治



に用ひ、區長として區民のため盡瘁するところ多く、

また農會總代、消防小頭、國勢調査委員氏子權徒總代として常に犠牲的精神を以て活躍してゐる。

氏はまた永年の抱負として農産物の改良増産を研究、また飲用水道の施設等を計畫中である。

信仰は日蓮宗。

家庭には母堂かねさん、ぐん夫人との間には三男四女の子實にめぐまれ、家運いよく隆盛である。

静岡、富士、芝富村

百貨店主 高山 謙二

電話芝富二五番

當家の祖は遠く寶永年間に遡り、寶永七年に日蓮上人の高弟日亨上人より、祖先高山大左衛門氏に寄せし文獻がある。代々醸造を家業とし、先代鹿太郎氏に至り、製紙業を營み、又現在の高山百貨店經營をはじめたもので、同氏は非常な事業家であつた。



當主謙二氏は明治三十年二月十五日

日、鹿太郎氏の長男として呱呱の聲を擧げた。尊父に劣らぬ進取的な氣象に富み、一面また資性濃厚にして、學識ある紳士である。

當百貨店を繼ぎ、益々繁榮せしめる一方、或は消防部長として、國勢調査委員として村政に盡し、現に商業組合長、學務委員として同村發展に貢献するところ多く近隣の尊敬をあつめてゐる。

家宗は日蓮宗で、信仰に厚く、家庭は合閨フジ子さん(四十歳)と琴瑟相和し、二男二女をもうけ、長男治郎君(十四歳)は目下富士中在學中、長女政子さん(十八歳)は大宮高女專攻科在學中、次女貞枝さん(十六歳)も同高女在學中、次男勉君は本年誕生、一家團樂を極めてゐる。

静岡、富士、芝富村

區長 佐野 兵作

氏は明治十六年十一月九日、佐野常平次氏の次男として生れ、後、佐野長松氏の養嗣子となつたものである。

當家は代々名主、戸長等を勤めたる名家で、また同村きつての篤農家として知られてゐる。

天稟極めて濃厚謹嚴なる君子人にして村民の爲に己を犠牲にして盡すところ多く、或は



區長として、また養蠶實行組合長として鋭意

努力をつゞけてゐる。

氏はまた當地方の交通發達に意をそそぎ、而して農業の發達を計らんと、永年に亘り計畫をたてゝゐる。

日頃、日蓮宗の信仰に厚く、趣味は園藝釣等で氏の高邁なる人格を窺知することが出来る。

家庭には良妻賢母の譽高きひさじ夫人(五十二歳)との間に、八男をあげた子福者である。

長男忠君(三十二歳)は、目下、王子製紙會社に勤務し、嫁よし子さんとの間に一男二女あり、一家ますます圓滿を極めてゐる。

静岡、富士、芝富村

區長 由井 滿造

氏は明治九年十二月二十二日齋藤馬三郎氏の次男として誕生し、後、由井彌作氏の養嗣子となつたものである。

由井家は西山本願寺の開祖、西天上人の末裔にして、村内屈指の名門舊家である。

岳父彌作氏は篤農家として知られ、また區長等に歴任して村治に貢献した人である。

當主滿造氏はまた頭腦明晰にして温厚



な人物で常に村民の指導にあたり、區長、學務委員、

氏子總代、檀徒總代等の要職にあり、村のため貢献するところ多大である。

氏はまた政育方針の向上に意をそそぎ

學校改築や道路改修等を計畫中である。信仰は日蓮宗で、令閨きわさんとの間に四男四女をあげ、幸福圓滿なる家庭である。目下長男義逸君(三五)は、王子製紙會社に勤務する眞面目なる青年で夫人ふみさんとの間に三男をもうけてゐる。

静岡、富士、芝富村

村會議員 森 易 一

當家は織田信長の忠臣として有名な森蘭丸の後裔にして、後世、當村に至り



郷士となつたもので、連綿十五代に及ぶ名門である。

當主易一氏は鶴太郎氏の四男として明治二十七年九月二十四日誕生、郷校を卒業後、實業に志をたて、芝川合同運送合

名會社を設立するに至つたものである。

同社は昭和三年の創立に係り、芝富村庵原郡内房村、同郡松野村一圓及び山梨縣萬澤村一圓の貨物運搬を業とし、倉庫二棟を有し、事務員二名、従業員十三名を數へ、氏はその代表社員となり、一切の指揮に當つてゐる。

資性温厚、寡言實行の人で、釣、登山等を趣味とする紳士である。

氏は家業に精勵する傍ら、村會議員、其他の委員等として村政村治に關與し寧日ない。

日蓮宗に歸依し、敬神崇祖の念また厚く、みと夫人(四十二歳)との間に、東京實踐女學校出身の才媛良子さん(二十一歳)があり、靜謐な家庭である。

東京府三宅島、坪田村

村會議員 木村 制

氏は明治二十八年十一月九日、木村實氏の長男として呱呱の聲を擧げた。

郷校を卒業後、大正四年横須賀海兵團に入り、至誠奉公を盡し、勳八等を賜はつた。

退團後、村役場に聘せられて主席書記に就任し、また産業組合理事となり、村自治體發展に貢献するところ多く、遂に村會議員に選ばれ、ますく村のため盡瘁してゐる。なほ目下、東京府方面委員の公職にもある。

昭和八年には在郷軍人分會役員として表彰を受け、昭和十年には功勞章を授與され、大いに面目をほどこした。

人となり、勤勉實直の努力家で、村發展の將來は氏に負ふところ多い。

東京府三宅島、伊ヶ谷村

山城 徳太郎

氏は静岡縣賀茂郡子浦村の出身で、若冠にして志を立て、裸一貫にて新島に渡り、漁業を営み、また魚の行商を爲して居たが、その至誠と實直とに、遂に舊友

の後援者現れ、同島に於て吳服露貨の委託販賣を開業、傍ら鮮魚、干魚等の問屋となり、着々成功、財をなし、同島に醸造家なきをみて同業を開始、家運發展の一路をたどつた。

明治三十九年、氏は意を決し、家業を家人にゆだねて、樺太に渡り、各種の事業を起し、同地方の産業開發に資するところ多かつたが、大正二年夫人の訃音に接し、歸郷、再び新島に於ける家業に従ひ、大正十三年現地に移つた眞に立志傳中の人である。

齡古稀に達するもなほ鏗鏘たる元氣で一家を指揮して家運はますく隆盛である。

東京府三宅島、阿古村

村會議員 宮澤 竹次郎

氏は明治二十六年十二月八日金之助氏の長男として呱呱を擧げた。當家は代々篤農家の譽高く、また祖母よし刀自は本

村の屈指の舊家たる沖山與平氏より嫁したものである。

先代金之助氏は農業に精勵の傍ら、當村の自治公共に盡瘁し、十六年間の永きに亘り阿古村々民總代を勤め、全村の人望を一身にあつめた人で、三十代より今日七十五歳の高齡に達するまで、よく獨身生活をつゞけ、なほ鏗鏘たる元氣をみせてゐる。

氏は夙に牧畜に意をそそぎ、大正八年自己所有の五十町歩の牧場を更に百五十町歩擴大し、當地方隨一の大牧場を經營着々として堅實な歩みを致し、遂に今日の隆盛をみたものである。

かく氏は本村の牧畜發展のため貢献する一方、村治村政に關與し、現在村會議員、經濟更生實行組長、阿古村畜産組合議員として活躍、また以前には農會議員、生産組合事務理事、漁業組合總代等に歴任、名聲高かつた人である。

信仰は日蓮宗で、家庭には夫人はな子さんと間に長男行雄君、次男卓藏君、

長女芳江さん、次女千歳さんの二男二女あり、その圓滿振りは近隣の羨望の的である。

静岡、富士、今泉村

合資会社 富久興製紙工場

電話吉原四二七番

當會社は昭和九年十二月設立され、代表社員は川口柳作氏である。

氏は原田村出身にして、早くより製紙業に身を投じ、原田製紙その他の工場に於て、製紙技術を體得し、同志と共に、六信會なる製紙工場を設立せしむ、かの大災に罹焼せり。然し氏の努力は遂に現在の工場を設立、鋭意よく業界の發展を計り、精心誠意よく國策に沿ひ、その撓まざる精進は同地業界の信望を一身にあつめ、現に富士製紙工業組合理事の要職にあり、氏の今後の活動は大いに期待されてゐる。

氏は從來不遇逆境にありしも、その信

念と熱意はよく困難を克服し、今日を築きしものにして、正に立志傳中の人物である。

静岡、富士、今泉村

合資会社 鶴田製紙所

電話吉原四四六番

當地紙業界の新進として認められつゝある鶴田製紙所は、敏腕を謳はれてゐる少壯代表社員後藤克己氏の經營よろしきを得て、今やその主要製品たる、川表紙は斯界の好評を博し、その販路も内地のみに止まらず、遠く滿洲方面迄擴張され従つて、製産高も幾何級數的に飛躍してゐる。

經營者

後藤 克己

後藤氏は、東京電機學校卒業後、Y M C A に英語を専攻したインテリ實業家である。その明朗潤達な性格は、業者間に好感をもたれ、水泳、寫眞、撞球等趣味廣く

夫人との間に二男一女ありて、他の見る眼も羨ましい家庭風景を呈してゐる。氏は又、禁酒、禁煙の實行者として特筆すべきである。

富山、東礪波、福野町

越中織物株式會社

電話福野一二一番

同社は昭和八年資本金十五萬圓を以つて創立された。各種織物、就中サキ染絹糸の輸出業に全力を注ぎ、販路を印度、南洋諸國、エジプト等に開拓、業績は逐年向上し、時局下外貨獲得に資する處甚大である。

首腦陣は専務取締役小西文二、取締役内良太郎、篠塚六郎、石黒榮吉、監査役有川哲二郎、古瀬正勝の諸氏で、何れも當地方經濟界の重鎮である。

今日同社が當地業界の覇者として名譽を獲ち得たる所以は、實に之等粒擧の重役陣が和衷協同、斯業に盡瘁した賜であ

る。

静岡、富士、大宮町

自動車商會主 石川 佐重

電話大宮一四三番

石川自動車商會主石川佐重氏は熱と努力の人である。大正十二年四月創業十八年、一意交通報國に邁進、定期乗合石川バス路線の擴充に努め、現在大宮町を中心に北部一帯の井の頭(白糸瀧行)上井出、袖野、上野、吉原等の各路線を開拓し、この方面の唯一至便なる交通機關を提供したのである。

之のみにても氏の地方産業の振興にあづかつた功績は尠しとしないが、氏の事業家としての良心は常に路線の擴充に止まらず、私財を投じて之が道路の改修、擴張を圖り地方民から絶大な感謝を寄せられてゐる。

氏は更に業界及び社會公共の爲めに盡力する處多く、昭和元年、富士登山組合

を組織し、組合長に推舉され、靈峯登山客の便益を圖り、或は現在大宮署管内自動車業組合理事として業界の發展に腐心してゐるが、一方では警防團分團長、司法保護委員等の公職にもある。

静岡、駿東、足柄村

村會議員 小見山竹三郎

元村長

當家は代々農業を營み、二十八代を経た村内屈指の舊家である。先代春五郎氏は近郷にて、篤農家として知られてゐた。氏は神奈川縣足柄上郡



葉柳善右衛門氏の四男として明治三十四年四月七日に生れ

當家に迎へられて養嗣子となつた。氏は早くより自治に干與するところあり、嘗ては北駿三村組合役場の書記、收

入役等を勤めた。明治四十三年足柄村の分村獨立以來、その助役として敏腕を振ひ、更に村長として三期を勤続した自治功勞者で、當地方に貢獻した功績は大い。氏はまた村會議員として現在も村治に協力し、縣山林會より表彰をうけた。今や村の長老として尊敬されてゐる。生花、書畫を趣味とする明朗温厚の人で、宗旨は曹洞宗を信仰して、家庭には合閨あささんとの間に、一男七女の子に恵まれ、圓滿である。

富山、婦負、寒江村

常在山 自得寺

當山は釋迦如來を本尊とする曹洞宗本山總持寺直末の靈場にして、開基は遠く應安七年頃龍惠法師になり、開山は無際禪師を以て御一世となす。開山以來實に三十一代、法燈連綿として今日に至つてゐる。

寺寶としては、延命地藏大菩薩(弘法

大師作) 外數點の寶物があり、本堂庫裡等輪奐の美を極めてゐる。



入山式の景

現職 住職 松本 勇鳳 氏 石川 縣能 登の 出身 明治 三十五年

の岳降である。幼にして佛門に入り、本山總持寺にて専心修行し、のち慈源寺外數寺の住職を歴任し、昭和七年當山三十一世の法燈を繼ぎ、法威の興隆に力を盡してゐる。

尚、公共教化事業にも貢献し、各宗聯合會常務理事、佛教會理事、及び司法保

護委員として活躍し、村民の信望極めて厚い。

富山、東礪波、青島村

勳七等 小西 由史

當家は代々木材業を営んでゐる。氏は日露戰爭に従軍し、勳七等青色桐葉章を賜つた勇士である。

かつて村長の榮職にあり、區劃制度にあつて功績を残し、又村内の無資格社を昇格せしめる等、大いに敬神思想の普及に努めた。



なほ軍友會長として、出征軍人の遺家族慰問に、種々方策を講じ、村民から深く感謝されてゐる。

最近では、海草より鹽化カルシウム

の製造に成功し、フロレンス合資會社の創立を策し、一方ヤスナ式逆廻轉燃焼器の考案にも成功し、近く工場新築をみる等、時局下國策に協力するところ大である。

夫人との間に一男あり、現在庄川電氣會社に勤めてゐる。

静岡、富士、今泉村

富陽製紙所

電話吉原四五六番

當工場は、内田進の個人經營にして昭和十一年十月一日に創立さる。その製品は主として大陸方面に進出し、今年年産額三十萬圓餘、その實績は赫々たるものがある。

その優秀なる機械設備と、和氣露々たる從業風景は、正に理想的工場と云へやう。

内田氏は永らく、昭和製紙に在りて技術の修練に努め、昭和十一年九月現工場

を新設するや、銳意製品の改良販賣の擴張に努め、若冠三十五歳にして、今や業界の中樞をなし、青年紙業家内田氏の名聲は隆々たるものにて、將來の大成を囑望されてゐる。

製紙原料商を営み、この道の苦勞人である。氏は三十七歳頃、現在の利光製紙を廣瀬氏と共同出資にて設立し、その後同工場を江崎氏に譲り、而して現在の鈴木製紙所を新設せるものなり。

氏は勤勉努力、至誠の人で、村民の長敬を集めてゐる。字猪子澤は勿論、全村の發展は前途有爲なる氏に期待するところが多し。

静岡、富士、原田村

鈴上製紙所

電話吉原四五四番

創立昭和九年二月、資本金三萬五千圓當製紙所は鈴木百藏氏の經營になる。

同氏は明治廿九年十一月十八日出生にして、年若き二十二歳の頃、同村の新興製紙に事務員として勤務せし事もありと云ふ。後、志を立て北海道に渡り、苦小牧の製紙工場に勤め、専ら製紙の技術を修得し、その後勇躍東京及び大阪に於て

静岡、安倍、大川村

猪子澤區長 小林 木一郎

當家は篤農家として近隣に知られ、氏もまた農事に精勵し全村に模範を垂れてゐる。

郷校を卒業後、静岡聯隊に入營して模範軍人として上官の賞讃を受け、歸郷後は家業の傍ら、區長代理や、軍人分會の會計係として、公務に奔命し、寧日なく公共のために盡し、遂に昨年推されて區長となり、猪子澤のために大いに貢献し



亡父七郎 氏

家であつた。氏は常に、民は農を以て本

位とせよ、と説かれた。子供に恵まれます、長男の早逝に違つて家督をゆきゑ氏に相續せしめてゐるが、

ゆきゑ氏はよく父の意志を継ぎ、二千町歩に亘る農耕地の采配を一身で行つてゐる。又、各種婦人團體に關係して銃後の奉公を致してゐる。

なほ、一女國子さんは東京音楽學校に學び、東亞煙草の取締役たる高田太一氏に嫁してゐる。

静岡、安倍、有渡村

株式会社 マルクニ鐵工場

電話有渡一〇番

當工場の本社は静岡市森下町にあり、専ら機械工場であつたが、現草薙工場長磯部首行氏が昭和十二年に入社すると共に鑄造方面に意を注ぎ、遂に鑄造を主とする工場として、新たに昭和十三年に創立したものである。

當工場は磯部工場長の統率の下に着々事業の進展を計り、本工場は重に機械工作の製作であるが、當工場は廢品再製に當り、國家的見地より見るも非常に有

爲なる事業である。

なほ本社工場を近々、當工場に移轉される豫定である。

工場長

磯部 首行

氏は大正十四年靜岡工業學校機械科を優秀なる成績で卒業し、當社に入社したもので、學識、識見共に豊富で、氏の敏腕は、重役はじめ社員より齊しく畏敬を受けてゐる。當工場の將來は氏の双肩にありといふも過言ではない。

高知市北奉公人町

齋藤 一正

電話一四四二番

氏は明治十八年高岡郡越智町に呱呱の聲をあげた。縣立農學校を優秀な成績を以て卒業するや、郡下長者村にて小學校に奉職、後、大桐村にて雜貨商を営んだが、勃々たる事業欲は氏をして一雜貨商として満足せしめず、大正五年鑛業に進

出したのである。

斯くて幾變轉、試練は氏に不拔の自信



を與へた 今日資源開發の國策の波に乗つて、齋藤鑛業

所は事業を擴充、飛躍的伸張をとげ、縣下同業者間に覇を稱へてゐる。

氏は國史研究を趣味とし、この方面に一家の見識を以てゐる。嚴父福壽氏、母堂美和刀自はなほ健在、愛妻港與さんとの間には宗子さん、熊惠さんがあり、平和である。

静岡、引佐、鎮玉村

田澤信用購買組合

當組合は大正八年九月有限責任として生れたもので、現在は保證責任となつてゐる。

静岡、濱名、新居町

濱名紡績株式會社

電話新居六・一三六番

紡績會社として當地方に著名なる本會社は資本金五百二十萬圓であり、主として輸出綿布の製織、並びに軍需持免スフ製品等の國內向割當品の製造を行つてゐる。

取締役會長は宮本甚七氏、専務取締役は井上富三氏である。取締役は伊藤忠兵衛、川上嘉市、加茂喜一郎、河合金平、豊田喜一郎、堀内國作の諸氏、取締役兼技師長は古藤田鋼吉氏、取締役兼營業部長中田芳雄氏、監査役は伊藤竹之助、中村圓一郎、袴田五平、中村信太郎の諸氏である。

大株主は伊藤忠商事株式會社専務取締役伊藤竹之助氏、吳羽紡績株式會社社長伊藤忠兵衛氏、古橋孝氏、宮本甚七氏、伊藤源一郎氏、池谷藤氏、川上嘉市氏等が

購買部は肥料雜貨を主とし、販賣部は木炭を主とし、木炭倉庫は三ヶ所ある。年二回位組合員の座談會を開き、種々協議してゐる。

組合長理事は夏目林氏、理事は朝比奈邦吉、田中惣三郎の二氏、監事は夏目里治、田中勘吉氏等である。

組合長理事

夏目 林

氏は朝比奈、田中の生みの親で、創設以來組合の發展のため寢食を忘れて盡瘁した功勞者で、現在村會議員、農會總代等の要職にあり、嘗ては鎮玉銀行取締役として同地方金融界の重鎮であつた。

静岡、濱松市東伊場町

静岡新興纖維工業會

各種工業の發達は、時世の進運と共に纖維工業の躍進的發達を促し、昭和十五年七月静岡新興纖維工業會の設立をみた現在役員は、理事長鈴木良三氏をはじめ

理事長

鈴木 良三

當會理事長として令名高く、自治に産業に多大の功勞ある人にして、纖維業界稀有の逸材である。人格高潔圓滿にして、庶民の信望頗る厚く、本會將來の福利發展を約束されてゐる。

氏は明治二十七年二月十七日の出生にして、豊橋商業學校を卒へるや、家業のガラ紡糸工業に専心力を盡し、その後、昭和四年現地に轉住し、實生纖維工場、ガス紡糸工場、精練工場を經營して、年と共に繁榮を致した。

佛教を信仰し、令室でる子夫人との間には長男一郎氏、次男貞男氏、次女つま子さんあり、圓滿を極めた模範的家庭である。

主なるものである。

なほ奥羽紡績株式會社は當會社の姉妹會社である。

社長宮本甚七氏は人格圓滿にして、卓越せる力量を有し、會社の發展に献身的努力を捧げ、その業績頗る顯著にして、従業員一同から畏敬されてゐる。

石川、珠洲、西海村

警防團長 丸山 千里

事變下多端な折柄、當村警防團長として、治安の確保に全力を致し、沿く村民から感謝されて居る。氏は本縣鳳至郡南



志見村千場若藏氏の二男として明治三十五年八月廿九日生れ、當村の丸山家に養子となつた人。資性濃厚義心に富み、夙に通信講習所を

卒へ、輪島其他の郵便局技手として歴任し、後警察界に入り在職七年、其間幾多の功勞があつた。歸村後、其才幹を囑望されて村議に推され、又大谷産業組合幹事にも擧げられ其手腕を遺憾なく發揮した。曩には滿洲視察の途に上り、歸來銳意大陸移民の運動に着手し、刻苦辛酸、其移民數縣下第一の成績を擧げた。其義心と熱情は崇敬の的となつて居る。家庭は夫人と一男あり。

静岡、駿東、片瀬村

村會議員 淺沼 源吾

淺沼家は土地の舊家で、篤農家として知られて居る。先代利作氏は濃厚篤實な人格者として敬仰され、長く戸長を務めて令名があつた。氏は利作氏の長男として、明治十六年二月の生れ。幼時より穎悟を稱された。明治三十七年鐵道省に入り、在職實に三十九年に及び、昭和九年



歸村後 農に精勵されて居るが、推されて村會議員となり、又産業組合監事にも擧げられ、村治に産業に専心努力されて居り、氏の活躍に多大の期待を寄せられて居る。氏は日蓮宗を信仰し、貞淑の聞えある夫人との間に二男二女あり、模範家庭を營んで居る。

静岡、濱名、三方原村

三方原郵便局

電話一審

當局は大正十四年七月十一日に開局せられたものにして、三方原村一岡吉野村をその管轄區域としてゐる。

電話事務を昭和五年に、集配事務は同

六年に、内外電信は同十年にそれぞれ開始せられ、現在三等普通集配郵便局として一糸亂れざる統制のもとに、通信事業に没頭してゐる。

局長は、開局當初より現局長永瀬保治氏が就任し、監督局より優良局として數度の表彰を受けてゐる。

局長

永瀬 保治

氏は當縣下に、その名高かりし永瀬伴藏氏を嚴父として、



業、大正十四年以來三方原郵便局長として通信事業に減私奉公してゐる外、村會議員その他の公名譽職をも兼任、自治公共のことに貢獻を致し、庶民の衆望を集めてゐる。家庭は至つて睦ましく、長男は目下福

岡高等商業學校に在學中である。

東京府三宅島、阿古村

警防團長 佐久間寅五郎

當家は六代に及び代々漁、農を以て家業となし、今日に至る。

氏は明治十三年五月十日、彦坂常吉氏の次男として誕生、後、佐久間家の養子となつたもので、實父も、岳父瀧之助氏も共に村自治に關與し、貢獻あつた人である。

氏は郷校卒業後、明治三十六年國府臺砲兵聯隊に入營、同三十七八年の日露戰役に從軍し奮戦、功により軍曹に昇進し勳八等白色桐葉章を賜つた勇士である。大正五年同村の軍人分會組織に奔走し分會長となり、次で三宅島聯合軍人分會長となり、大いに手腕を振つた。

また昭和七年には村會議員に當選し、漁業組合長に推され、或は學務委員となり、村の爲めに寧日なき活躍を續けてゐる。

る。

家庭には夫人タカさん(五二)との間に長男正男君(二八)、他四女あり、正男君は東京中野無線電信學校を卒業し、目下陸軍氣象隊本部に勤務中である。

東京府三宅島、阿古村

農會長 平野 徳三郎

氏は清太郎氏の男として明治二十六年二月三日呱呱の聲を擧げた。

當家は代々農を以て家業として、同村屈指の篤農家として知られてゐる。氏は謹嚴寡黙の人で、近隣の畏敬を一身にあつめ、夙に意を村治村政に用ひ、同村農會長をはじめ、村會議員、方面委員、漁業組合理事、養蠶實行組合理事、五ヶ村組合理事、負債整理委員、教育振興會副會長、經濟更生組合理事、收入役三宅島聯合青年團長、阿古村青年團長、阿古村産業組合理事等の公職に歴任し、同村自治發展に貢獻するところ頗る多大

である。

日蓮宗に歸依し、信仰頗る厚く、家庭には夫人じゆんさん(四七)あり、琴瑟相和し、また久代氏(二〇)を養子に迎へ、一家圓滿である。

東京府三宅島、阿古村

村會議員 長谷川 新造

氏は明治十五年十二月八日、同村に呱聲を擧げ、長ずるに及び長谷川雅美氏の養嗣子となった。當地方の商業學校を優秀な成績で卒業した逸材で、家業の雜貨吳服、米穀商を經營し、益々家運を隆盛にし、特に大正十一年以來、木炭業を始め、刻苦勉勵、今日遂に伊豆七島に於てその生産額第一を占め、品質また他にその比を見ぬ優良なものである。

氏が今日、推されて三宅島木炭組合阿古村支部長の要職にあるのも又偶然ではない。

氏は斯く、家業に奮闘する一方、村治

村政に關與して、或は村會議員として、或は學務委員として同村のため貢献するところ頗る多く、又、消防組頭として活躍し、遂に昭和八年二月八日、優良消防組として警視廳より表彰を受け、大いに面目をほどこした。

人爲り清廉、何事に對しても親切をもつてあたる實直の人で、同村の發展は氏に期して俟つべきものが多い。

東京府三宅島、阿古村

村 長 釜地 小太郎

釜地家は本村最古の舊家にして、徳川時代、幕府に獻納する鹽の釜を司り、當時釜治と稱したところから釜地の苗字は生れたもので、當時本村は僅に七軒に過ぎなかつたと言はれる。

當主小太郎氏は先代龜太郎氏の長男として明治十八年四月十日に生れた。

幼時より俊敏の聞え高く、長ずるに及び村のため一身を捧げんと決意し、代用

教員を振出しに、役場書記、郵便局長、村會議員、三宅島畜産組合副長、農會長等の要職に歴任し、常にその才腕を振ひ名聲噴々たるものがあつた。遂に推されて村長の椅子に就き、爾來文字通り寢食を忘れて村自村政のために盡し、模範村として近隣に知られた阿古村の今日をあらしめたのである。

家宗は淨土宗、信仰厚く、檀家總代をつとめ、家庭にはフジ夫人(明治十九年十一月生れ)あり、圓滿である。

静岡、小笠、日坂村

日坂村 役場

日坂は、掛川町の東方一里半の地に在り。小夜の中山夜泣石の傳説を以て昔から名高い。

即ち、村内、中山橋附近の櫻樹の下に直徑四尺に及ぶ、楕圓形の黒い大石がある。これぞ所謂小夜の中山の夜泣石である。昔、懷妊した旅の一婦人が、このあ

たりに來かかつた際、不幸、剽盜の爲めに殺害された。その夜から傍にあつたこの石が怪異を生じ、毎夜人の啼くが如く鳴動したといふ。胎兒は恙なく死體の創口より出生、成長の後、復讐を遂げた。

後年、弘法大師が東遊の際、その怪話を聞き、供養を營み、石に佛號を刻んで弔つたところ、その夜よりたちどころに鳴動もやんだいふ。

この傳説に名高い當村は、古へ東海道上の要衝で、芭蕉もこゝを訪づれ、馬にねて殘夢月遠し茶のけむりの句がある。

村 長

小塚 宗憲

氏は明治六年の生れ、昭和十年以來村長に就任す。

人望頗る高く、又産業組合長をも兼任村治、産業振興の爲に盡瘁してゐる。

東京府三宅島、坪田村

村 長 淺田 金一郎

淺田家は、祖先あり代々神官の職にあり、先代に至り郵便局を創設したものである。

金一郎氏は明治十八年一月五日の生れで、幼時より秀才の譽高く、郷校卒業後師範學校に入り、優秀なる成績を以て卒業、近村各小學校訓導となり、兒童の訓育にあたり、遂に當村小學校長に昇進したもので、永年教育界に貢献した功により勳八等に叙せられてゐる。

後進に道を聞き、教育界引退後は、郵便局長として家業に精勵したが、間もなく衆望を擔つて村長となり、その高潔な人格と圓滿なる常識とをもつて、よく村民を導き、村の發達に努力をつゞけてゐる。

氏はなほ坪田村漁業組合長として同村産業のためにも寢食を忘れて盡瘁してゐる。家庭では長男一郎君が郵便局長として活躍してゐる。

同君も、尊父に劣らぬ勤勉力行の人である。

静岡、榛原、勝間田村

長 興 寺

當寺は釋迦如來を御本尊とし、寶徳元年の開基に係る曹洞宗の名刹である。



望遠の内境 寺の寶物として茶阿局愛用の笛、徳川家光公直筆の

書翰等が秘藏されてゐる。曩に徳川家より朱印を寄附された。行事は二月九日の開山忌、七月十四日

の施餓鬼等にて、當日は善男善女の参詣引きもきらず、非常な賑はひを呈する。

住 職
森田 雲光

師は明治二十年の誕生。駒澤大學の出身にて、臺南中學校



教諭の職を経て、昭和三年當寺住職に就任、その識徳

を以て信者に敬慕されてゐる。

静岡、庵原、興津町

日本紙製帽原 静岡支部

電話興津二五一番

當支部は昭和十年に設立され、當縣及び神奈川縣内の製糸工場或ひは燃糸工場經營者を組合員としてゐる。

本部は神戸市にあり、専ら輸出關係の業務を執掌し、創立猶日淺いにも拘らず

今や國策の線に沿ふて、隆盛を致してゐる。

支部長
田中辰次郎

當家は代々興津町の素封家として知らる。氏は謹嚴なる人格者にて、町治、産業方面に貢献せる所尠くない。

主 事
荻 清

氏は大分縣宇佐郡の出身にて、曩に神奈川縣廳に奉職、後神戸税關々係商館に入り、輸出業務に關係した。昭和十年本組合の設立に際し、その識見手腕を招聘されて入り、同十三年當支部主事に就任した。尚、理事に八木利平、野澤新司の兩氏監事に大石才次郎、高橋嘉市の兩氏が就任、盡力してゐる。

石川、珠洲、木郎村

村會議員 小藏 梅吉

氏は明治十九年五月、先代久松氏の長

男として呱呱の聲を擧げた。代々農を業とし、村政に携りて自治産業の發達助長に貢献せる處甚大であつた。

此の家柄に生を享けた氏も又、祖先の遺風を顯彰し、推されて村議となるに及んでは村政の圓滿な遂行に協力、農村經濟の刷新、就中産業道路の擴充、水利工事の完成等に盡力、幾多の功績を遺してゐる。

氏は常に温顔を以つて人に接し、敬神崇祖の念厚く、氏子總代として全村民の信頼の的となつてゐる。

家庭には今事變に出征、大陸の各地に轉戦し、赫々の武功を樹て、歸還した長男健藏君と、その夫人たまさんとの間に一男三女がある。

静岡、庵原、高部村

高部村 役場

本村は江尻の北、静岡市の東に接し、巴川の北の丘陵地帯である。交通は東海

道線草薙驛へ約一里の間バスが通じて至便である。神社は淺間神社外十社ある。

また圓通寺外臨濟宗八ヶ寺、保賢寺外曹洞宗四ヶ寺及び靈山寺(眞言宗)等の寺院がある。

村長は現在片平佐吉氏、助役は藤牧葉次郎氏、収入役は梅崎尾桂氏で、村政の樞機にあつて格勤してゐる。

村 長
勲 七 等
片平 佐吉

氏は明治七年十二月五日生れ、日清戰役には臺灣征伐に、また日露戰爭に再び

出征して赫々たる武功を樹て、勲七等に叙せられた。凱旋後、村役場に入り収入役となりて、十八年間村財政を執掌し、その堅實なる手腕は村民の信望をあつめ推されて助役となつたが、遂に全村舉つて村長に推戴した。氏は曩に自治制五十年周年記念に、縣その他より、自治功勞者として表彰された。

尙氏は村政にて多忙の傍ら、農會長、軍友會長を兼任し大いに活躍してゐる。

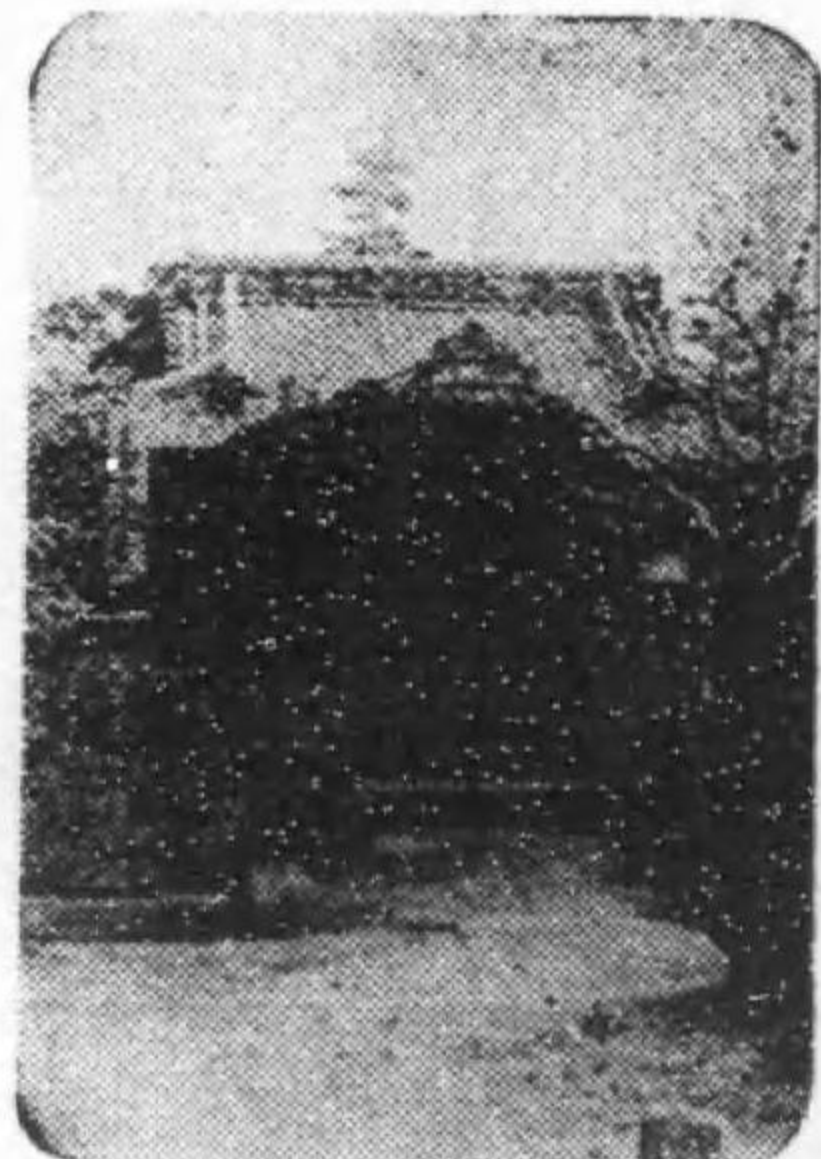
静岡、磐田、久努村

貫名山 妙日寺

當山は高祖日蓮大菩薩代々の傳襲の御館にして、御父妙日尊儀、御母妙蓮尊尼の御墳墓の靈場である。

藤原鎌足の後裔井伊正直所領を分ち、山名郡を知行し、貫名の里に館を築き、

(本 堂)

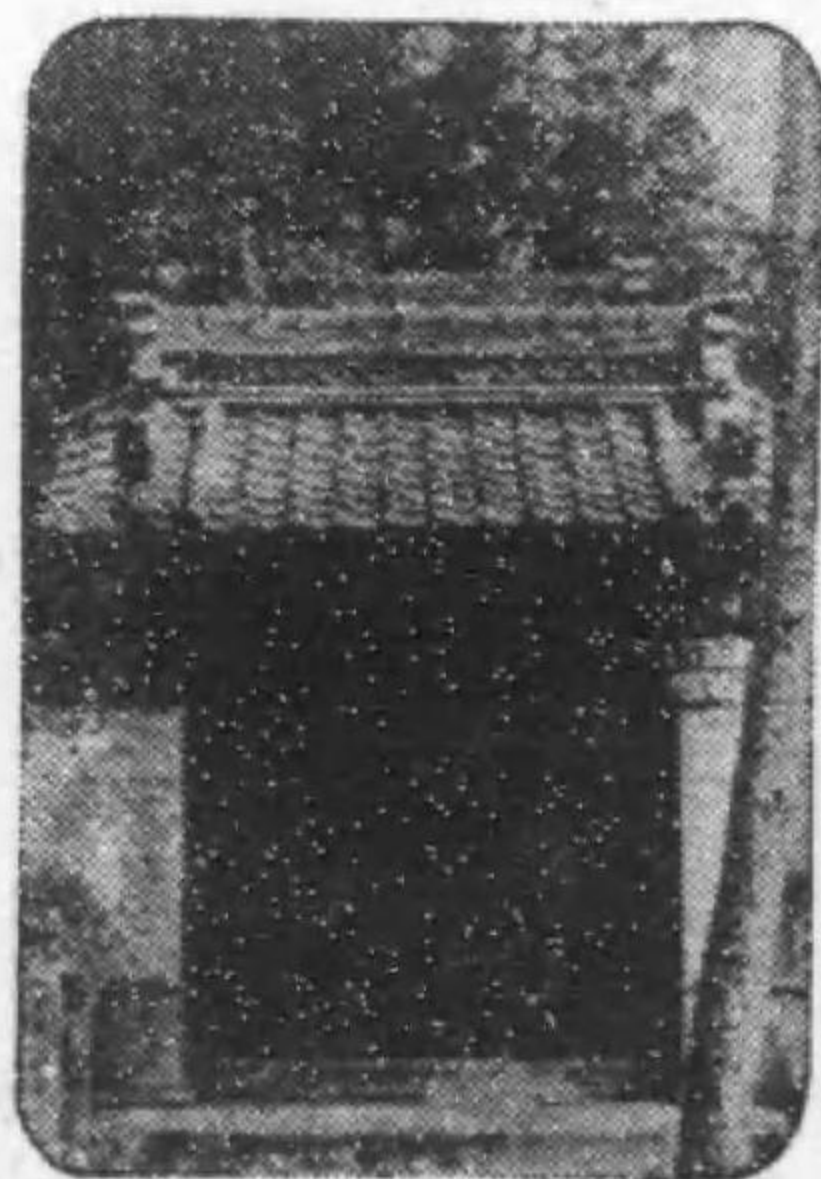


貫名を以て氏とした。

これより四代目二郎重忠が高祖大菩薩の御父である。重忠三十二歳の時流竄せ

られ、配所に於て終焉し、この地に葬つた。

(山 門)



高祖父の計を聞き悲泣し、高き峰に攀て故郷を望み、法華經を唱へ、一寺を此處に建立、父君の氏をもつて山號とし、法號を以て寺號としたのである。

寶物は日蓮上人木像、妙日上人木像、妙連木像、貫名家系圖等で、三月十三、四日に開山忌が行はれる。

住 職
磯部 貞孝

師は明治十五年十一月十二日生れで京都の出身、明治四

十年常寺に入山し今日に至る。その間、



参事、會計等を歴任し、現在は監事軍事援後相談所、方面委員、村佛教副會長、銃後奉公會評議員等を兼任する外、農繁期託兒所を開くなど、社会公共に竭して居る。

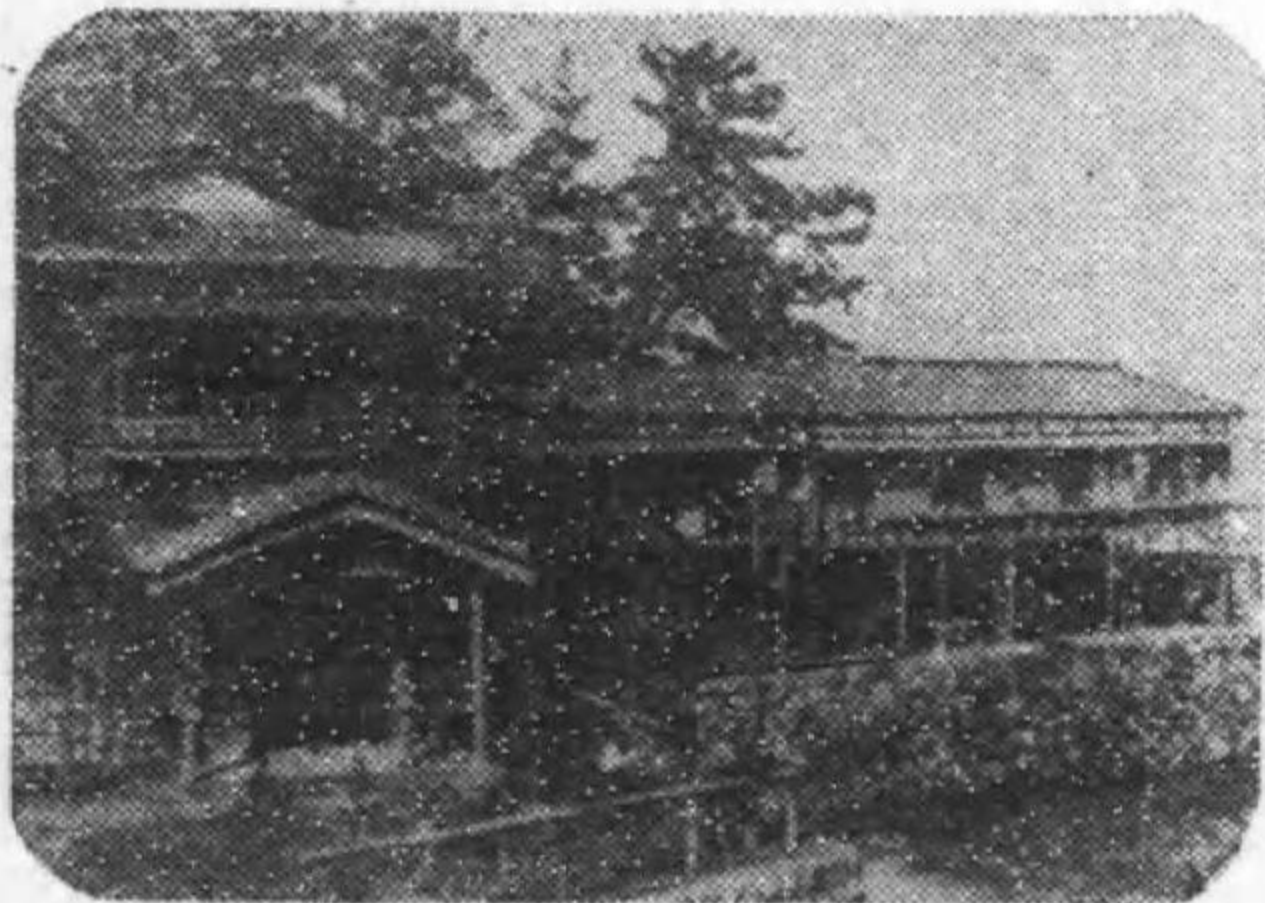
静岡、熱海市

細代温泉 清海園

電話六八番

當園は昭和十一月一月の創業で、網代驛より二町、約五分位のところにある。當園は客室が十室あり、娯樂機關も完備してゐる。經營方針としては、一般來客を家庭延長主義を以つてむかへ、觀光の團體客をも歓迎する。

泉質は、弱鹽類泉で、内浴、外用共に



小景

奏効 胃腸、外傷、性病、體障、害、婦人、病等

た。日露戰役には勇躍出征し、武功により勳八等を賜はつた。



資性剛毅調達で衆望があり、推されて網代町會議員學務委員等に擧げられ、尙、金銭調停委員、土木委員、方面委員、日赤特別社員、家屋調査委員等を兼ね、奉公の誠を竭して居る。

富山市山王町

縣社 日枝神社

清海園主 町會議員 内田和三郎 當家は代々網代町に在つて漁業を營み當主で六代目である祖父助右衛門氏は網代町の收入役を務め功勞があつた。氏は明治十六年四月二十日、故源兵衛氏の三男として生れ、分家の養子となつ

當神社は建武二年、後醍醐天皇の頃より兵亂兵火に逢ひ、古記録等は焼失逸散したが、常に、神主平尾氏、神體を守護し奉り、社殿の修理造營に當り、當地が前田氏の領となるや、修理改築完成して

以後代々の領主の崇敬の的となり、種々の寄迫等も受理してゐたのである。その後明治六年八月、郷社に列し、同八年、豐受大神を奉齋する中、神明社を



全景

の富山縣知事、接續地を社地となし、本社拜殿等の改築に決し、同四十三年竣工を見てゐる。又、大正六年には玉垣も竣工し宏莊なる神社となるに及び、園兒二百名を擁する幼稚園をも有するに至つて

る。

社司 平尾鏗三郎

氏は、代々社司を勤むる由緒あ家に生れ、東京藏前高工の卒業生で、各地工業界にあつて、殊に織物工業に重きをなしてゐる。その後大藏省工業試験所の囑託をしてゐたが、先代の逝去と共に當神社社司となつたものである。

氏の孫にあたる外見雄氏は國學院大學を卒業し、祖父と共に、漸く繁忙となり日夜社務にいそしんでゐる。

静岡、榛原、勝間田村

全國マオラン栽培者組合勝間田出張所長

向笠淺平

素封家 森 與三郎

石川、江沼、三木村

氏は明治二十三年三月十四日生れ、農業を營んで居る。早くよりマオラン栽培に注目して、日夜奮戦を続け、家運の隆昌を期して今日に至つた。昭和十四年四月に、苗四、〇〇〇本を

當家は當村内屈指の素封家で、代々農業を以つて主業とす。氏は先代三次郎氏の長男として、明治十五年十二月の誕生である。温厚篤實なる人物にして農産物検査員を拾ヶ年勤続せし勤勉家である。

區長、國勢調査員として活躍し、村内の信望愈々厚く、現在は村會議員、石川縣方面委員、



職業紹介聯絡委員、奥谷村區長、統計調査員等の要職にあり、曩に統計調査員とし、功勞に依り昭和七年に縣知事より、また同十三年には農林大臣より、それぞれ表彰を受けた。目下村内林道の開設に奔走し、公衆の福利増進を計り益々村勢の發展に寄與してゐる。

石川、鳳至、黒島村

助 役 藤谷 喜三郎

當家は開祖以來四代を數へ、代々農業に専念し傍ら、桑の栽培をなし養蠶に努力してゐる。

氏は故喜太郎氏長男として明治二十八年

年十月十七日に生れた。

福井縣立小濱水産學校を卒業して、大正二年に樺太廳水産課に就職、爾來十數ヶ年勤続、昭和五年に歸村した。昭和十二年七月に村長代理助役に任命され、また、産業組合監事としても、六ヶ年勤続の經歷を有する奮闘努力家である。

殊に水産方面に於ける多年の技術を生

祝 自治産業發達誌刊行

濱松市紺屋濱松市立圖書館

かして、漁業の發展に意を用ひ、傍ら副業として養蠶業を奨励し、また紀元二千六百年の記念事業として、若宮神社の昇格問題に奔走盡力中である。

資性温厚にして謹直、名助役として評判が高い。

家宗は眞宗にして、信仰心に富み、母堂、夫人の外に二男がある。

石川、珠洲、若山村

區 長 宮下 清藏

宮下家は代々農を業とし、篤農の開え高く、地方自治産業の興隆に貢献せる處甚大であつた。

氏は明治十年此の由緒ある家柄に生を享けた。夙に祖先の遺風を繼ぎ、曩に村會議員として村政に參與し又農會代議員として農事改良に貢献した。今や區長として區民の福利を圖り、或は産業組合の創設にあつては寢食を忘れて奔走し、また農業實行組合理事等の公職を兼ね、一意農村經濟の振興、自治の圓滿遂行を期し、その功績は枚舉に遑がない。

資性温厚篤實、敬神崇祖の念厚く、檀家總代として佛事に仕へ、其の敬虔な態度は全區民敬慕の的となつてゐる。

石川、江沼、勅使村

清惣機業場榮谷分工場

電話那谷八番

同分工場は約二十五年前の設立に係り現在職工は男女六十名を擁し、主として



清惣機業場榮谷分工場

人絹の製造に當り、京都、大阪方面に送り出されてゐる。

從業員の修養機關として産業報告會あり、毎月一回講師を招いて講話を聴く。

工場主 西出 清

氏は十年前父君亡き後を繼いで工場主任に就任、温厚誠實なる人格者として、從業員の間に信望が篤い。

縣立小松商業學校を優秀の成績で卒業した才氣煥發の士で、大いに將來を囑望されてゐる。



淨土眞宗を信仰し、令室マツさん

との間に、長男嘉夫さん、次男敬久さん長女和代さんが有り、幼き三人は常に家庭を明るくし和氣藹々たるものがある。

石川、江沼、三木村

村會議員 葛井 政吉

當家は代々篤農家として知られ、連綿として二十四代を算する舊家にして、當地方稀に見る名門である。當主政吉氏は先代初十郎氏の長男として明治三十一年呱呱の聲をあげた。

村會議員たること二期に及んだ村内の中堅人物で、現在村會議員たるの外、産

業組合監事、區長代理、氏子總代等の公職にあつて村治に盡瘁しつゝ、目下、村縣道の改修に奔走してゐる。

嘗ては村内を流れる大聖寺川改修工事には多大の功績を致して村民の利便を計つた。



資性清廉潔白にして、減私奉公を以つて自己の本分

としてゐる青年紳士である。因に、よし夫人との間に四男一女があつて平和な家庭を營んでゐる。

石川、鳳至、本郷村

村會議員 森岡 鶴吉

當家は開祖不詳なれども十數代を誇る舊家で、代々農業に専念し、殊に先代故甚松氏は、村會議員として名聲が高かつ

た。鶴吉氏はその長男として明治十六年
 颯々の聲を擧げた。
 嘗て、日露戦役の際には乃木第三軍とし
 て出征、輝かしく武勳により勲八等を賜
 った勇士である。
 曩に収入役として十九年間に勤続し傍
 ら、區長の任に就きて人望を一身にあつ
 めた。現に、村會議員として、また氏子
 總代を兼ね、村治村政の上に寄與して
 る。

石川、鳳至、住吉村

住吉村役場

當村は穴水町の東に接し、南は七尾灣
 に面し、北は山嶽重疊す。村民は主とし
 て農業に従事し、水産、工業がこれに次
 いである。交通としては陸上の縣道にバ
 スが往來し、海上には定期船の寄港地が
 あり、極めて便利である。
 當村村長として室木正太郎氏が在任し
 村治に當つてゐる。



村長 室木正太郎

當家は開祖不詳なれども百年以上の舊い家柄で、代々農業に専心して居り、先考助七郎氏は南北村

長として功績を遺し、また中井銀行取締役を勤め、村

長時代に日露戦役に従軍して赫々の武勳に依り、勲七等を叙賜された勇士であるが七年前に長逝した。

氏は明治二十一年九月十日助七郎氏の長男として生れ、七尾中學を卒業し、現に村長としてすでに二期を勤め、また創立當初よりの産業組合長として活躍し、更に警防團長、村農會長(二期)、縣町村長會幹事、郡農會評議員等の公名譽職にあつて、文字通り寧日なき活動を續けてゐる。
 因みに夫人ミヨ子さんとの間には四男

四女の子寶に恵まれ、夫人は目下國防、愛國兩婦人會長として銃後の奉公に専念してゐる。

石川、鳳至、本郷村

村農會長 大江 正友

當家は開祖以來十四代目に及ぶ戦時代よりの舊家として、その山緒を護はれてゐる。

先考は永らく石川縣廳に勤務し、農業技師として農産業に貢献する所多大であつた。前には村長を二期つとめ村政の上

遠州板紙株式會社

濱松市三島四五番地

に功績をあげ村民の支持を受けてゐた。當主は明治三十二年の生れにて、大江家の養嗣子となり家督を繼いだ。現に村會議員として既に三期を勤め傍ら村農會

長二期、檀家總代、氏子總代等の公名譽職を兼ね、専ら農村の振興發展に當つてゐる。
 氏は眞宗に信仰深く、資性温厚篤實、而も實行型の努力家として知られ、村民の信望を擔つてゐる。
 家庭は不幸にも、芳子夫人一女を遺して最近他界された。

高知、蓮池町

素封家 浅井 本家

素封家として、あまりにも有名な浅井本家の祖先是、近江國東浅井郡の豪族である。古く享保年間に土佐に來り佐野屋と號し、紙、醬油等に従事す。
 現在股賑を極める當地方の製紙業並びに醸造業の創立者として、その功績は偉大である。

現主玉恵さんの祖父に當る先代藤十郎氏は有名な愛國主義者として聞え、夙に國事に奔走し敬神尊皇を説いた人格者で



全 景

あつた。又趣味の人として茶道を愛し、現に當家所蔵になる書畫骨董、刀劍、茶器類は高知縣下第一と稱せられてゐる。
 同家支配人兼後見人たる河村茂徳氏は

の俊才である。資性温厚篤實、敬神崇祖の念篤く、全町民から信望されてゐる。
 尚浅井家は高知縣下隨一の地主で、同家の事務一切の直接責任者は、元主税官島崎友猪氏元美良布村長北村松太氏が當

り、後見人河村氏のよき協力者として、浅井王國はいよ／＼搖ぎなき保護の下に榮えてゐる。

静岡、小笠、相草村

全國マオラン栽培者組合相草村出張所長

白岩 清市

氏は明治三十九年七月七日、篤農家として知られた長次郎氏の男として生る。
 夙にマオランの研究に勵み、農家の副



次男 次作 氏

業として非常に良好なところよ

獎勵に盡し、昨年來指導せるもの多數にのほり、本年度の植付はすでに二千餘本の多きに達してゐる。
 氏はまた白岩所長、警防團員として銃後の務めを完ふし、家庭にはわか夫ととの間に長男長次郎君、次男次作君、三男

界に盡瘁した功勞者である。
 當主梅之助氏は、明治十四年生誕。東
 北帝大林學科を卒業の後、佐野實業學校
 長を擧め、數校の教諭を歴任し、その間
 の功勞により従六位を授けられ、郡教育
 會より表彰された。

現に、村治、産業方面の要職を兼任し
 公共の爲に専念貢献しつつある。

高知、香美、岸本町
 岩本信用
 組合長 仁川 良之助

岸本信用組合長仁川良之助氏は東川村
 の出身、祖父は代々醫業を以て立つた。
 氏も又其の遺志を繼いで高知第一中學校



を卒へる
 や愛知醫
 專に學び
 大正五年
 醫院を開
 業し、傍
 ら、組合幹部の懇請に依り、信用組合長

に就任、今日に至る。
 資性剛毅にして清廉潔白、且つ仁俠に
 富み、貧民の救濟其他社會公共のために
 盡力する處頗る多く、枚舉に遑なき程の
 美談を持つてゐる。
 現在、氏は組合理事長の外に郡醫師會
 長、縣醫師會理事等を兼ね、地方醫學界
 の長老でもある。
 趣味は狩獵、忙中閑を得て、愛犬と共
 に山野を行く氏は颯爽たるものである。

静岡、駿東、片濱村
 村會議員 渡邊 嘉一

氏は明治三十二年三月十六日、先代故
 清三郎氏の次男として生れた。
 當家は代々農を以て生業となし篤農家
 として知られてゐる。

氏は沼津中學より、奉天中學に轉じ同
 校を卒業して歸村、以來家業に専心して
 ゐる。
 現在、村會議員を二期、今澤農事實行

組合長、畜産組合代議員、今澤水利組合
 長等の要職にあり、尙村政、自治、産業
 のため貢献多く、全村の尊敬を聚めてゐ
 る。資性温厚にして高邁なる人格者であ
 る。

日本樂器製造株式會社

濱松市中澤町二五〇

家宗は禪宗にして信仰深く、家庭には
 母堂リョウさん(八十三歳)健在し、チド
 リ夫人(三十七歳)との間に一女がある。

静岡、磐田、西貝村
 風祭山 福王寺

當寺の開創は遠く一千餘年前、眞言宗
 高野山末派として建立されたが、後、永
 享年間宗勢衰頹し、順徳天皇第三皇子寒
 巖義尹禪師の曾孫、天翁義一禪師を請し
 當山を曹洞宗寺として再興し、開山とな
 られた。

爾來、法系相繼いで二十五代、五百餘
 年を経過して今日に及んでゐる。

當寺御本尊聖觀世音菩薩は、聖武天皇
 の御代、行基菩薩の御作にして、開創の



本 堂

聖め
 より
 安置
 され
 厄除
 戰捷
 の觀
 音と
 して
 靈驗
 あら
 なる

四月八日花まつり、四月十一日開山忌等
 である。

住 職
 田中 亮圓

師は元治元年の誕
 生。明治二十六年當
 寺住職として就任、
 現在に至つてゐる。曩には宗務支所長、
 教區長等に歴任、現在は積善會支部長を
 兼任して、その傑れたるを以て衆庶の欽
 仰頗る厚い。

副住 職
 田中 亮三

氏は大正元年の生
 誕にして、昭和十年
 駒澤大學を卒業、後
 任住職として寺門興隆に盡瘁しつつある

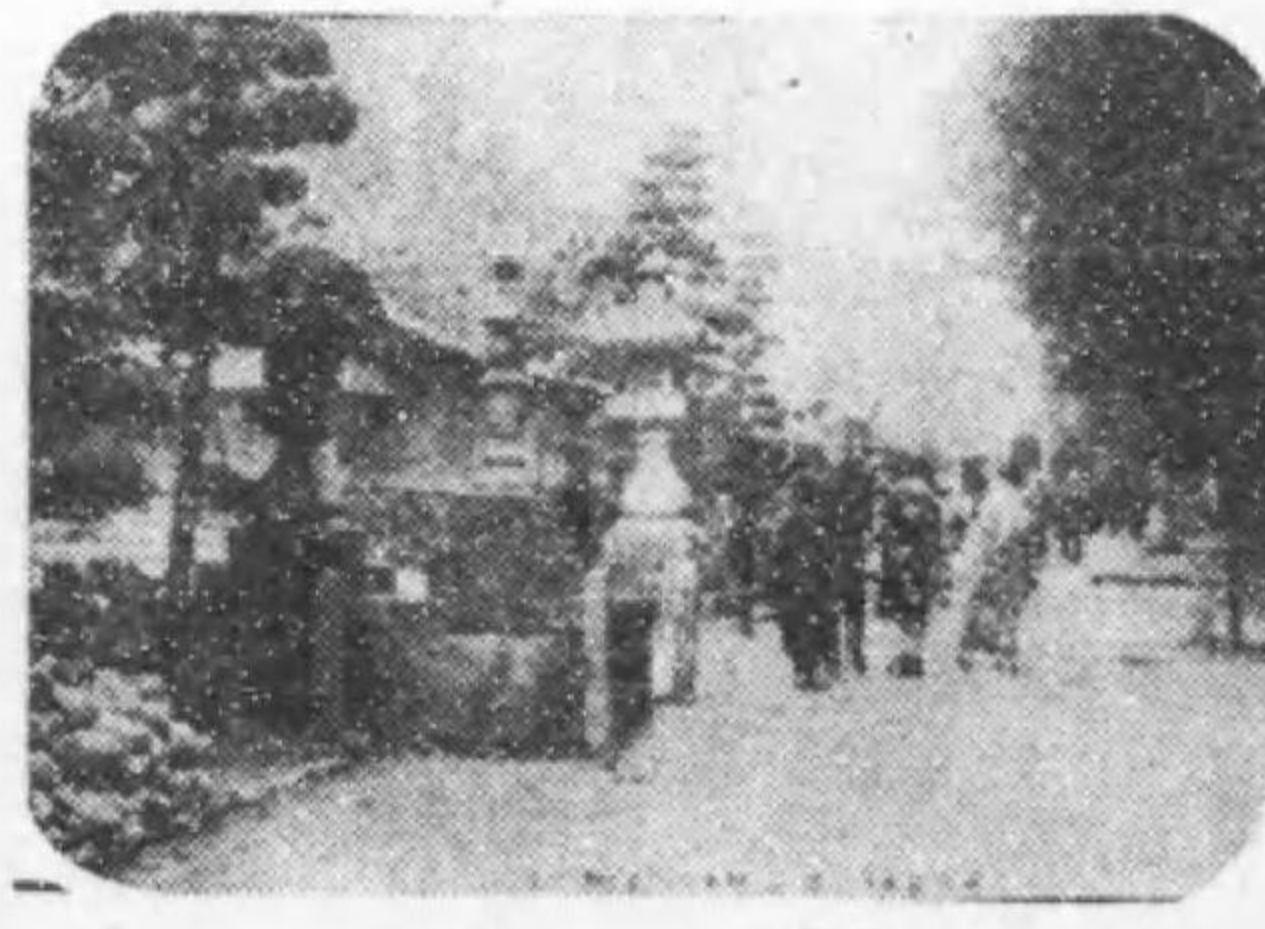
静岡、磐田、袋井町

法多山 尊永寺

當山は往昔東海大悲應臨の地にして、
 古義眞言宗に屬し、高野山の末寺である
 聖武天皇の御宇、神龜二年、行基大士
 蒙勅の開創にして、御本尊厄除正觀音菩
 薩は庶人の災厄消除御誓願のため、大帝

の御發願にまします。

大同年間、弘法大師密教開宗に先き立
 ち登山あり、紫雲ヶ嶽に靈跡を止められ



本 尊

爾來
 本尊
 大悲
 の偉
 徳は
 京師
 に及
 び、
 白河
 天皇
 後白
 河天
 皇の

敬信殊に厚く、佛畫、法器の御寄進、伽
 藍の造營等をなし、勅願寺とされ、今に
 兩帝御寄進の數々は、寶庫に保存してあ
 る。
 宏大なる寺域は幽邃深遠を極め、老松
 古杉に包まれたる山門、伽藍の偉容は能

ものあり。
 寺域は、四圍孟宗竹林をめぐらし、伽
 藍堂宇を並べ、森嚴の靈氣に満ちてゐ
 る。
 行事としては二月十五日釋尊涅槃會、

く往古を偲ぶに足る。

主なる行事としては一月七日、五穀成

(仁王門)



就を祈る田遊祭を執行ふ。又當寺は往古より厄除観音靈場として四時参詣絶ゆることがない。

住職 大谷 純信

師は當寺四十三代住職として、その高風は衆庶鑽仰の的として仰がれてゐる。

檀家範圍は舊法多山領内居住者にして尊崇頗るあつた。

濱松市砂山町

農園主 大石 彌平

氏は明治二十三年、先代文次郎氏の長男として當市に誕生した。

當家は代々農を以て業としてゐたが、



撻まざる努力は實を結び、逐年隆盛をみるに至つてゐる。

當主に至るに農園經營と共に製綿織布綿布販賣を創始し、家庭にはキセ夫人との間に長男忠一君長女よし子さん、次女ゆき子さん、三女まさ子さん、四女やす子さん等あり、和氣溢るるばかりである。
なほ綿布店支配人は加藤幸太郎氏、事務員は松本博廣、伊藤一郎、森下源吉、徳田英雄氏等で、農園主任は齋藤政男氏である。

静岡、田方、網代町

網代町役場

當町は郡の東海岸に位し、網代灣に臨む漁港である。源平時代以前より伊東氏の屬領にして、開間七郎太夫、本邑に來り領し、湯ヶ洞に居城を築き、また網代小仲太家信が領したりとも傳ふ。

大正十三年五月町制を施行した。賀茂郡白濱村と共に縣下唯一の無税町村として知られてゐる。

當町には幾多の名勝舊蹟あり、網代城址、頼朝白月通、観音窟、枚學に遑なく又、阿治古神社、海積神社、善修院、教安寺、長延寺等名高い神社佛閣も多い。主産業は漁業で、その産額大なるものあり。

町長 八等 渡邊 登

渡邊家は代々商業を營む舊家で、五代に及ぶ。先考辰藏氏は町會議員、衛生委

員等を勤め名望家であつた。

氏は明治十七年生誕、先代辰藏氏の養嗣子となつた。



氏は静岡縣教員講習所を卒業。日

露戰役に出征し赫々たる武勳を樹てた。資性穎悟謹直、頗る人望厚く、青年團長、在郷軍人分會長、町會議員等を歴任したが、遂に衆望を擔つて町長に就任、傍ら司法保護委員會參事、駿豆興民協會評議員、その他の要職を兼任、寧日なき活躍をしてゐる。

助役 西島 泰一

當家は世々商業に従事し、町内屈指の舊家である。

先考仙氏は初代消防組頭、町會議員等を歴任し、町内に名望高き人格者であつた。

氏は明治三十年に生る。東京商工學校

静岡、田方、網代町

正七等位 市川 近太郎



電氣高等科の出身である。夙に人望あり町會議員、漁業委員、青年團副團長等を歴任し、大いに盡瘁した。現在では助役として克く町長を輔佐し、社會教育委員、司法保護委員、經濟更生委員等を兼任して奮闘してゐる。

市川家は山緒ある舊家で、當主近太郎氏は、先代泰吉氏の長男として、明治二年に誕生した。郷校を卒業後、自力獨學にて勉學した篤學の士にして、同二十六年より昭和四年に至る永年の間、宮内省帝室林野局に奉職して精勵した。當地方は風光明媚の土地なるをもつて

氏は、當町と三島近村とを合併して市政を布き、觀光設備を完全にして、以て當



地方の發展を期せしめたいとの主張を抱き、高齡なほ

豊饒として盡力しつつある。資性温厚篤實、明朗豁達なる人格者にして、凡ゆる人々に敬慕されてゐる。家族は、うし夫人との間に三男三女あり、長男正己氏は日本畫家、次男均氏は東京に於て醫師を業として、一家繁榮してゐる。

静岡、駿東、原町 役場

當町は愛鷹山の南方、駿河灣に面し、東西凡そ一里半、南北十六町の狭長な地域を占め、朝夕、富士の靈峯、愛鷹の峻

嶺を仰ぎ、又箱根、足柄、天城の諸峯を遠く眺める、眞に天與の形勝を成してゐる。

此の地は元、浮島ヶ原の一部である。従つて一體に平坦な砂丘で、最も高い所でも海面標高僅かに九米乃至十米位である。地名の「原」とは浮島ヶ原の宿といふ意味である。

天明の頃、當原村の住人渡邊某、偶々富士山麓にて一灌木を發見した。紙料に適するを以つてその木を三極と名付け、農民に勤めて殖林させた所、數年ならずして大いに繁殖し、郡内四十餘ヶ村に及んだ。これ即ち駿河半紙の材料である。舊蹟としては、白隠禪師を以て名高い松蔭寺並びに同禪師の墓等あり、又、附近の桃園は當地の名所として知られてゐる。

町長 西原 貞藏

氏は明治十九年生れにて、縣立菫山中學の出身である。町民の信望頗る厚く、曩に町會議員を

六期、學務委員、國勢調査員を歴任し、現在は當町々長の他、銃後奉公會長、漁業組合長其の他の要職を兼任し、町自治に貢献する所極めて大なるものがある。

石川、鳳至、諸岡村 村會議員表 良

當家は開祖不詳なるも、約十數代を數へる舊家として知られ、代々農を專業とし、傍ら、副業として養蠶業を營んでゐる。先代勝三郎氏は村會議員として村自治のために活躍し、また學務委員として村教育の上に盡瘁するところ多大であつた。

氏は明治十九年先代勝三郎氏の次男として生れた。金澤縣立工業を卒業した技術家で、今日氏の如き有能な人材を得てゐることは當村の向上發展の上に裨益する處益々大である。又、村會議員の他に學務委員、氏子總

代、檀家總代として専心村のために活躍してゐる。目下、紀元二千六百年記念事業として植林計畫や、道路改修を目論んでゐる。

眞宗に信仰を有する、温厚の人格者として村民の信望厚く、家庭は子女三名ありて、まことに圓滿である。

静岡、駿東、大平村 大平村警防團

當團の前身たる消防組合は明治二十五年の創立にかかり、昭和十四年四月一日より現在の如く改組された。

施設としては、ガソリン消防車一臺、腕用ポンプ三臺あり、火見櫓は鐵塔及び木造が各々一ヶ所ある。貯水池を村内二十ヶ所に設け、又狩野川の水を利用し得るため、水便頗る良好である。

團員は克く訓練され、統制極めて正しく、縣下の模範警防團として知られてゐる。曩に數度の大火に際しては、大なる

功績を顯はし、縣警察部より功勞證書を授與され、金馬康を下賜された。

警防團長 綾部勳次郎

當家は大平村草分けの舊家で、代々農業に従つて來たが、現在は精米業を經營してゐる。氏は明治二十六年の出生。菫山中學の



その功績頗る大なるものがある。家庭には實母ニラ刀自を聚め、ふさ子



夫人との間に、三男四女あり、賑やかなる團樂をつくつてゐる。なほ宗旨は禪宗を信仰し

静岡、周智、森町 太田山 西光寺

當寺は今を去る三百年前の開基、開山にかゝる古刹で、虚空藏菩薩を御本尊とし、曹洞宗に屬す。

開基は怒仲天間大和尚禪師、法地開山は一應喝山大和尚である。寺域には鎮守堂、地藏堂はじめ、諸堂を並べ、森殿を極む。行事としては七月二十四日の地藏堂祭が知られてゐる。檀家百五十戸を有す。

住 職
鈴木 晃道



師は明治三十一年の生誕。養に園田村大信院に住職たりしが、昭和二年、當寺の住職に就任した。資性極めて穎悟、廉直、衆望頗る厚く、佛教會役員、積善會理事として社會上、宗教上、盡瘁する所多大なるものがある。

石川、鳳至、諸岡村
漁業組合長 **岩田 文太郎**

當家は、十數代に及ぶ村内切つての舊家にして、代々農業、水産業を営んでゐる。

氏は明治二十五年尊父熊太郎氏の長男として呱呱の聲を擧げた。嘗て燈臺局勤務當時、全國及び滿洲各地を視察して歸

村、全部落民を指導して、海苔の立體的養殖、農事勞動指導の統制化、肥料の合理化等々その豊富なる經驗を生かし水産自治産業發達誌刊行

濱松染色整理工業組合

農事、養蠶家畜獎勵等に改良を施し、よく今日の隆盛を來すに至つた。殊に紀元二千六百年の記念事業として、社殿の改築、昇格問題奔走中である。

靜岡、周智、久努西村

祥雲山 海藏寺

當寺は應永十八年の開創にして、今川了俊開基となり、怕外性應大和尚開山として建立された。地藏菩薩を御本尊とし曹洞宗の禪窟大洞六派の一で、本寺は大洞院、末寺八を有する。再度地震、祝融の災を蒙つたが、直に

再建。現在の寺域は宏大にして、諸堂具備し壯嚴なるものあり。



景 小
行 事 として、一月二十日の開山忌、二月二十四日の地

住 職
大場 龍賢

師は明治三十九年一月一日の出生。昭和四年、駒澤大學を卒業し、當寺の三十四代住職に就任した。

なほ、積善會々長、佛教會理事等を兼



景 小

任し、社會上、宗教上、大いに盡力した。組合役員は、山口組合長の他、副組合長に石黒源吉氏、常議員に渡邊吾平、村澤金造、酒川敬三郎、本多貳敷、栗崎比古二、小櫻又一、木下彌太郎、田邊三郎平、富田藤作、村松喜代太郎、山崎彌市、鈴木長十、野尻仁平、山田八郎、宮谷傳次郎、山下敏夫、岩瀬角太郎、大場備一、一木壽平、寺田信雄、高橋藤一の諸氏が當り、斯業の發展に努力してゐる。

靜岡、周智、森町

周智郡茶業組合

「遠州森町よい茶の出どころ」の文句に依つて、全國にその名の高い當地の茶業は、その濫觴の年代は不明であるが、已

望厚く、多年斯界の爲に盡瘁し來つた。

靜岡、磐田、富岡村

富岡村 信用販賣 組合

本組合は大正三年の創立にかかり、そののち、漸次擴張、發展して今日の隆盛



景 全 合 組

を、至るに、茶、米、製茶、は生ものなる主品の販賣、利用部は、精米、精肉、肥料の粉碎等

組合 長
山口 浩平

氏は熊城村の人に於て、濃厚篤實の人格者として業界の信

を行ひ、大なる好績を擧げてゐる。

組合役員は、鈴木組合長初め、専務理事堀内芳太郎氏、同氏は當村役場書記、収入役を経て昭和八年現職に就任す。識見、手腕共に卓越せる人物にて、當組合發展に貢献する所多大である。

尙理事に、青田政次郎、高田文平、鈴木正太郎、金子保、鈴木陸平、兼子良平、青葉正義、鈴木安太郎の諸氏が在る。

組合長 氏は當組合に依つて、縣下最初の國民

健康保險實施の主唱者にして、當村の厚生事業に盡瘁、組合功勞者として衆望を鍾めてゐる。

静岡、磐田、田原村

田原 信用販賣 組合

當組合の前身は、報徳社と稱し、信用を主とする小組合であつたが、昭和八年一月、村長名倉正平氏の主唱により改組現組合の創立を見るに至つた。その後遂

年組合事業の發展を致し、新體制下農村形與の實を擧げつつある。

組合事業としては、販賣に、米、小麦等、購買には肥料、雜貨、又農業倉庫、作業場等の利用を盛んにし、更に今後は養鶏事業を行ふ計畫である。

現役員は、名倉組合長を初めとして、理事には元場幸平、永田茂、名倉昌、久保義直の諸氏あり、又監事に鈴木源平、山下信太郎、渡邊爲吉、伊藤忠平の諸氏が努力してゐる。

尙、組合主任鈴木小市氏は、當組合創立以來參與して、専ら事業を執掌、その發展、向上に奮闘し來れる功勞者として衆望を鍾めつつある。

組合長

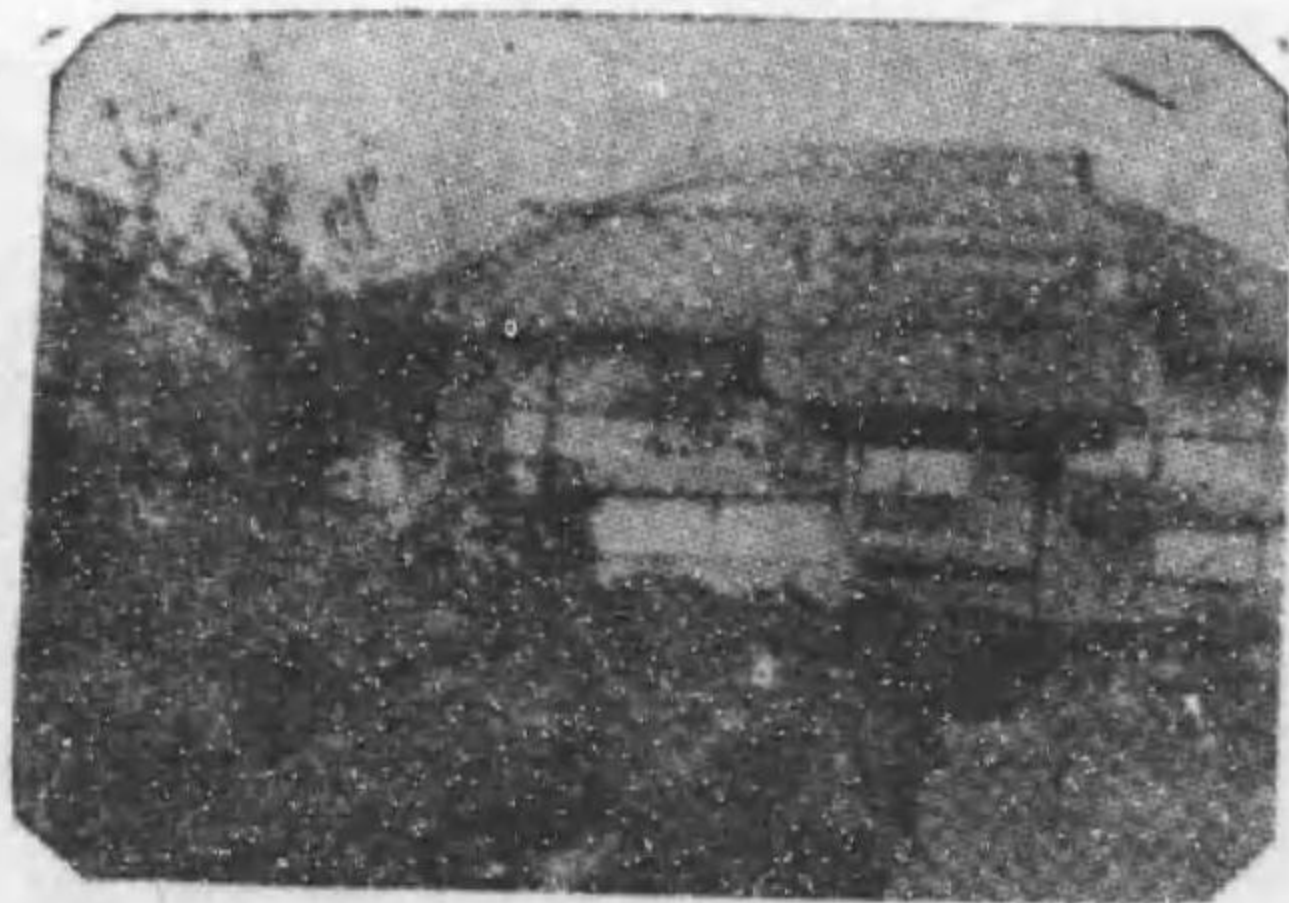
村長

氏は創立以來の組合長にして、村治、産業上幾多の重職を兼任、村の爲に貢献する所頗る大なるものがある。資性濃厚篤實なる人格者として村民に敬慕されてゐる。

静岡、磐田、袋井町

福聚山 慈眼寺

當寺は、古くは天台宗那智山觀音堂と稱し、元弘年中、後醍醐天皇の皇子崇良



親王御草創、堀江時國の開基に、り、後年時國の子孫、額禰禪師を請して開山とし、福聚山慈眼寺と名づけた。明治十三年法地となり、同三十九年改

築して現在の伽藍を見るに至つた。

寺域には諸堂具備して、壯嚴を極む。



師良信野淺職住前

行事として 毎月一日、十日、十五日、祖聖、

二月十五日涅槃會、四月三日の鎮守祭等知られてゐる。前住職故淺野信良師は愛知縣の出身。寺門の興隆に盡瘁する所甚大、中興開山の名譽を受けた。

住職 淺野 元良

師は明治三十七年の生誕。昭和三年當寺六世住職として就任した。



教區長、積善會理事、縣佛教會理事等を兼職

又、袋井佛教會は實に師の盡力によつて

開創されたものである。

静岡、賀茂、安良里村

安良里村 漁業 組合

電話一三番

當組合は明治三十六年の設立にかかり特色としては、貯金、貸付、購買、魚介の養殖等を主たる事業とし、その組織の堅實なる事、成績の優良なる事は、縣下屈指の組合である。

なほ淺海貝藻類害敵驅除施設、共同曳船施設を爲す等、漁業協同組合として遺憾なき誠能を發揮しつつある。

當組合の主唱發起の功勞者は故高木条氏で、現在の役員諸氏は左記の通りである。組合長理事は高木和吉氏、理事は高木民助、高木徳三郎の兩氏、監事は高木照次、影山清八の兩氏である。

組合長 高木 和吉

氏は就任以來、組合發展のため大いに盡力し、その識見、

手腕は、濃厚圓滿なる人格と相俟つて、組合内外より頗る信望されてゐる。

書記 專務

高木虎一郎

於ける舊家である。



氏は昭和十四年一月當組合の書記專務に就任し、爾來組合の發展に盡瘁してゐる。至誠謹直村民の信望頗り厚い。

静岡、熱海市

熱海 信用販賣 組合

電話二〇八五・二三二三番

當組合は明治四十三年八月の創業にかり、大正十二年、時勢の進運に伴ひ、事業を擴大、現在の組織に改めた。

その後、逐年發展を續け、新體制下、農村の産業、經濟の振興に顯著なる實績を擧げつつある。

創立に當つて主唱發起人として、故岩下基義氏の功勞を忘れる事ができぬ。

現幹部役員には、岩下理事長を初めとして理事に神戸定吉、芹澤弘、樋口修次、米倉清吾、藤間喜太郎、山田高次郎、久保田道雄の諸氏、監事には山田豊太郎、鶴澤重利、岩下市郎の諸氏が就任、盡力しつつある。

昭和十四年熱海市政の實施と共に、當組合の向上愈々盛んならんとしてゐる。

組合長

市會議員

岩下 義雄

岩下家は熱海市に於ける舊い家柄で、先祖は舊沼津藩の家主であつた。先考基義氏は沼津町助役、葦山村長等を歴任した名望家である。

當主義雄氏は、基義氏の長男として明治八年に生れた。中央大學の出身で、曩に町會議員として永く熱海の發展に貢獻した。

し來つたが、今や業望を以て當市最初の市會議員に推された。熱海の自治、産業上の功勞者として、その圓滿なる人格と相俟つて當地方人に敬慕されてゐる。

静岡、賀茂、城東村

奈良本 協同組合

當組合は、城東村字北川の一圓を區域内とし、當地方屈指の堅實なる組合である。

非常時局下の組合として、漁村經濟更生に、村民の福利増進に、寄與する所頗る多い。

創立主唱發起人として功勞ありたりは初代理事長成生津右衛門氏である。

現役員は、土屋組合長の下に、理事として鳥澤元八、井原才吉の兩氏、監事は鳥澤定作、楠山辨次郎の兩氏が當り、盡力してゐる。

組合長

土屋 政吉

氏は明治二十三年の出生。家は代々半農半漁を以つて家業とし、村内に聞えた名家である。



先考由太郎氏は久しく船長として海上生活にあり、

後、消防組頭、區長等の職に就き、村治に大いに貢獻するところがあつた。

當主政吉氏は、區委員、經濟更生委員等を兼任、その才腕の卓絶を以て組合内外の信望を鍾めてゐる。

静岡、賀茂、稻取町

稻取町 信用販賣 組合

當組合は稻取町一圓を區域として基礎は鞏固、經營は堅實、各事業とも好成績

をあげ、銃後町勢の伸張に寄與しつつある。

現在の役員は左の諸氏である。

理事長齋藤佐平氏、理事黒田喜兵衛、船橋一壽、鈴木源太郎、鈴木重太郎、小澤力、田村元三郎、山田又吉、金指定吉、山田五郎、内山仙太郎の諸氏、監事は栗田庄吉、田村清智の兩氏である。

組合長

齋藤 佐平

氏は明治十八年先考三郎氏の長男として出生。後年分家して一家を創立、目下農漁業を家業としてゐる。



祖父貞四郎氏は夙に當町の自治に與つて貢獻

する所多く、信望厚き人材であつた。當主佐平氏は、曩に消防組部長及び組頭、産業組合理事等に歴任、現在は當組合長を始め、町會議員、當町農會副會長

等の要職に就き、その卓絶なる手腕と豊富な經驗とを以つて、當町自治、産業に幾多の貢獻をなしつつある。

富山、婦負、松原村

深谷山 稻樹寺

當寺は曹洞宗に屬する古刹であり、天嚴修越を開基とする古い歴史を有するも祝融の災を蒙り、古記録を焼失し、その由來を詳にしない。

本寺は立山寺で、觀音寺、宗圓寺、寶洞寺等を末寺とする。宏壯なる七堂伽藍を完備し、特に本堂庫裡、山門、鐘樓は當地方稀に觀る建築物として著名である。

行事としては、二月七日般若講、三月二十日涅槃、五月四日誕生會、八月八日施餓鬼、十月二十九日法恩講等名高い。住職三十二代宮本點禪師は明治四年生

れ。東洋大學を卒へ、宗務院に永く奉職し、大正三年當寺住職となる。教區長を兼ね、村民教化に専心盡瘁し、其の高潔なる人格を以つて衆庶の欽仰を鍾めてゐる。

静岡、賀茂、南崎村

下流漁業協同組合

當組合は昭和十一年二月の創立にかかり、創立に當つては平山延年氏、外岡久吉氏等の盡力が頼る大いなるものがある。當組合は、産業組合中心主義に依り、農漁村の經濟振興を計り、以て銃後地方産業の發展に貢獻せんと努めつつある。

逐年、組合に對する村民の正しい認識が普及し、組合加入數の増加を來して、愈々堅實な歩みをとりにつつ隆盛の一途を辿つてゐる。

役員は、組合長平山氏をはじめとして理事久保田恭、吉田豐藏の兩氏、監事に平山新藏、外岡久吉の諸氏が、粉骨碎身

の努力を續け、組合員一同の感謝の的となつてゐる。

組合長 平山清郎

當家は下流に於ける屈指の漁業家で、既に六代を経てゐる祖父三平氏は區長その他の要職に歴任し村自治の功勞者である。

清一郎氏は伊與歳氏の長男として、明治三十一年に生誕。夙に當村の自治に關與し、農漁村の振興に盡力、消防組副組頭、青年團長等を歴任し、現在は區長、當組合長を始め郡農會長、婦人會長等を兼任し、専心努力しつつある。

氏は農漁村の經濟に就いて造詣頗る深く、非常時局下農漁村の經濟振興の畫策に當つては、その卓絶した識見と手腕を以て大なる寄與を成してゐる。

静岡、磐田、向笠村

鷺溪山 新豊院

當寺は仙崎洞善大和尚の開山にして、

古くは眞言宗に屬せしと傳へられ、開基

は向笠伯耆守である。現在は虚空像菩薩を御本尊として曹洞宗に屬してゐる。再度祝融の災に遭ひ、貴重なる古記録は全部焼失して開基、開山の年代は不詳である。

本寺は可睡齋にして、末寺は法雲庵、定福寺、龍源院、保禪寺、藏泉寺、龍光庵その他五ヶ寺である。

寺域は宏大を極め、諸堂宇巖然として薈を並べ、偉容森嚴なるものがある。各行事には當地方善男善女の參詣夥しく、又當時に於ては社會事業として、大正二年より現在に至るまで春秋二期、淑徳婦人會を開催して、公共のために貢献してゐる。

住職 師は明治九年の生誕。大正七年、二十世住職となつた。

住職 向笠 惠應

教區長たること二十數年、宗務所長、積善會理事、佛教會理事を兼ね、地方教化の啓發に努力貢献する所甚大にして、



村民の敬慕の的となつてゐる。

その春風
胎蕩たる
が如き、
圓滿なる
人格と相
俟つて、

静岡、磐田、龍川村

豊福山 大生寺

當寺は往昔祝融の災に遭ひ、御本尊は末寺より勸請したるものにして、行基菩薩の作にして願天地藏菩薩である。

開基は林庸知藏禪師にして開山は土峯宋和尚である。天明十八年奥山方廣寺前住林公知藏禪師此地に來り、小堂を建立し、豊福山大生寺と稱して住した。

寛永十年洞譽禪師堂宇を再建し、共嗣師可睡濟十三世宋和尚を請じて開山となし、改宗して可睡齋の門末に屬した。慶安元年四世里教師の時徳川家康より

朱印五百石賜はる。

行事は七月十四日の施餓鬼、四月三日の大般若、奥の院大祭等である。

住職 橋 俊弘

師は明治三十七年の誕生。法政大學を卒業し、昭和三年永

平寺に入つて修業、昭和十二年三月當寺



住職として就任した。第四教區長、司法保護委員、管

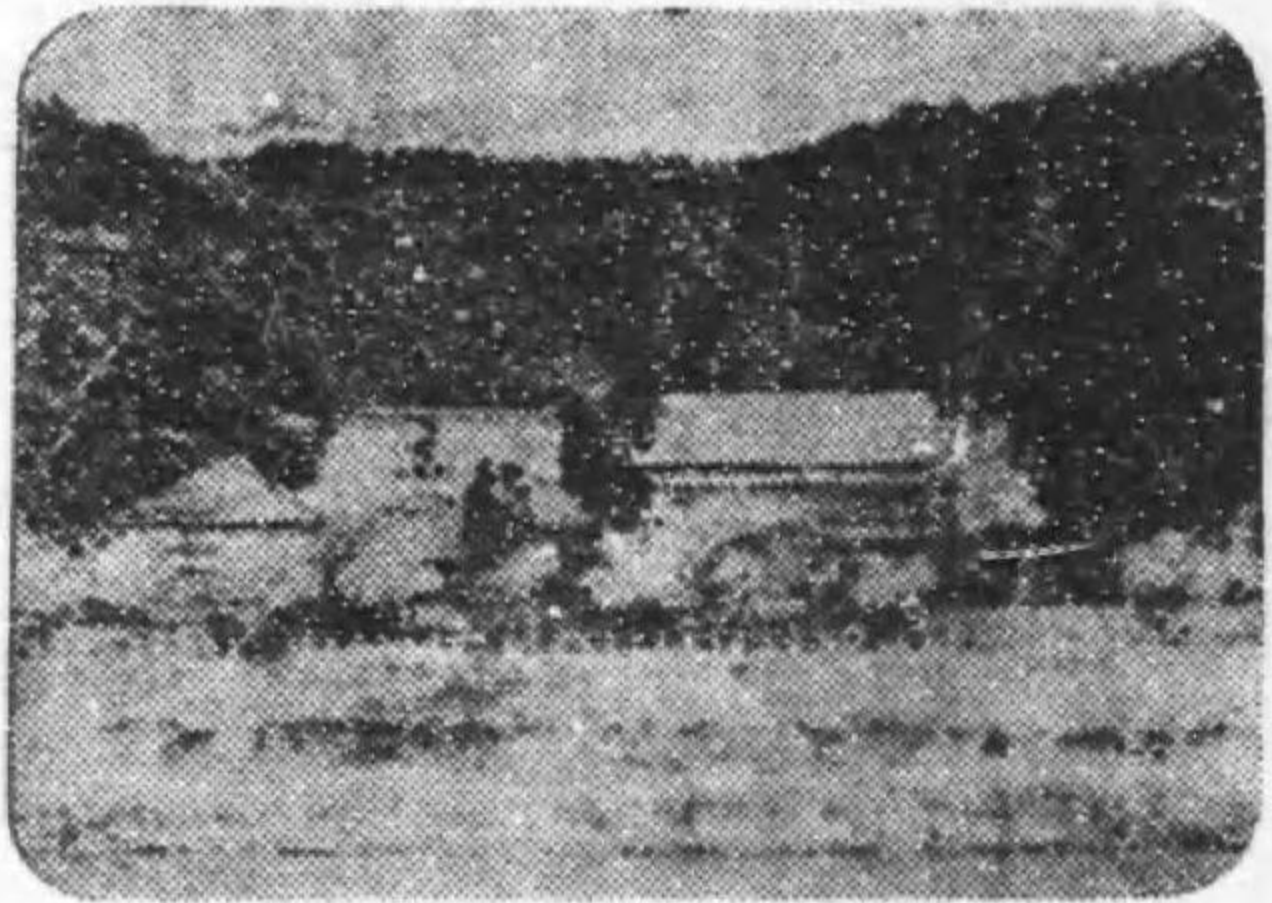
内布教師、積善會理事等を兼職して、宗門界に盡力すると共に、社會公共のため卒先して農村民を教導し、治績顯著なるものあり。少壯有爲、將來の活躍は期して待つべきものがある。

静岡、磐田、二俣町

東谷山 榮林寺

當寺は釋迦如來を御本尊とし、曹洞宗に屬する名刹である。

開山は土峯榮山和尚なりと傳へられ、慶長年間可睡に住し、寛永九年三月五日



境内全景

榮林寺を創以草來實

に五百餘年を経てゐる當地方切つての古刹である。
末寺は長養寺、東光寺、長光寺、西台寺等である。
當寺本堂は五世の時に建立せられたる

ものにて、開山堂、藥師堂、比沙門堂、吒枳天堂等の堂宇が整備され、寺域内は幽邃にして森嚴を極む。

寺寶としては大般若經木版五百卷。行事は、七月十五日に施餓鬼、九月二十四日に開山忌を催す。

住職 櫻井 副應

師は明治二十二年の誕生。可睡齋にて名古屋覺王山に於て修行し、大正四年當寺住職に就任して現在に及んでゐる。

師はその資性溫雅にして、學徳兼ね備はり、本寺中興の開山とも稱すべき善知識である。

静岡、磐田、龍山村

瀨尻製材 株式會社社長 片桐 質夫

氏は明治二十九年の出生。家は代々酒釀業をもつて家業とせしが、氏は進取の氣象に富み、時代の趨勢を洞察し、大正十一年瀨尻製材株式會社を設立して、粉

骨碎身、斯業の發展に盡瘁、遂に鞏固なる基礎を築き、年と共に隆昌を加へてゐる。

製材の販路は主に東京、名古屋方面にして、製産額は次第に増加してゐる。

又、氏は事業に精勵する傍ら、村政にも力を致し、村會議員、警防團分團長等を兼職し、銃後農村の振興、公益、治安に貢献する處甚大なるものがある。クニ夫人との間に五人の子女あり、和氣溢るる家庭を營んでゐる。

静岡、磐田、福田町

圓通山 觀音寺

當寺は松山門鶴和尚の開山にして、曹洞宗に屬し、延命地藏菩薩を御本尊とする。

本寺は秀松寺にして、寺域は宏犬、開山堂、觀音堂等をはじめ、諸堂臺を並べ結構壯嚴なるものがある。

行事としては毎年十七日に觀音祭を行

ひ、又十二年目毎にお開張を執行、近郷の善男善女の參詣引きさらす、非常な賑はひを呈する。特に當寺觀音は靈顯あらたかなるものありて、平日も參詣者が頗る多い。

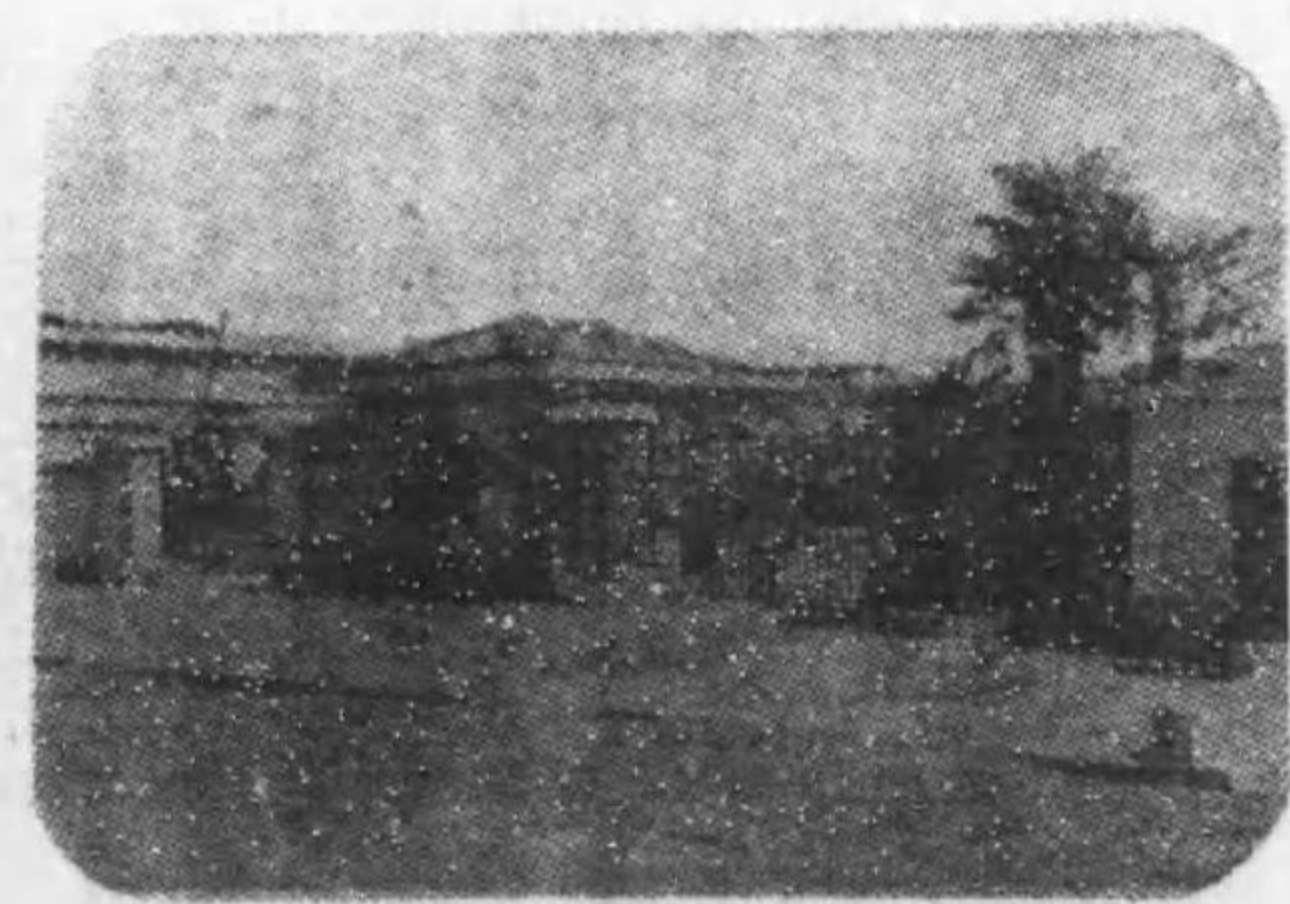
住職

深川 貫一

師は明治二十九年の誕生にして、總持寺、大洞院等に於て修行し、大正十四年當寺住職となつた。



教區長を兼ね、又昭和八年より保育團を經營して衆庶



大満社會物

即ち廣大なる地域に於ては、あらゆる施設を完備せしめ、全國

工場中、その比を見ないとさへ謂れてゐる。

而して従業者は少數の指導者を除き全高知縣人で、大家族主義の下に一大集團的生活をなしてゐるのも特色と云へよ

高知市東秦泉寺町

天満織物會社高知工場

當社は大阪に本社を有し資本金一千五

う。従つて工場の附屬施設も、男女寄宿舎、社宅、診療所、大浴場、給品部、娯樂部、講堂、作法教室、食堂、精米所等に至り盡せりの設備で、特に體育と慰安とに留意され、従業員の日常生活の一切を通じて、訓育に力を注ぎ、生産と併行して教育の効果を收めてゐる。

而して氏は從來の斯業の營業方針を深く検討する所あり、非常時局下新體制に即應して、榮養報國を志し、町内料理業者に魁けて經營方針を革新し、斷然實質

静岡、富士、大宮町

料理兼旅館業 遠藤 費浩

電話大宮三七二番

氏は山梨縣西八代郡の出身にて、明治二十二年の誕生である。

郷里にあつては運送業を經營し、又村會議員として村治公益の爲めに盡力する所多大であつたが、後、大宮町に移住し昭和七年現在の家業を創めた。



室内の一

本位 大衆 的 家 族 主義 信條 とし て、 力強 い歩 みを 踏み 出す

待すべきものがある。

静岡、駿東、高根村

村會議員 土屋 隆平

土屋家は、代々篤農家として知られ、舊い家柄である。

嚴父豊吉氏は村會議員或は區長として本村の爲めに多大の貢献を爲した人物であつた。

當主隆平氏は明治二十一年生、資性高潔、名利恬淡、滅私奉公の念深く村民の

祝 自治産業發達誌刊行

津田 駒次郎

金澤市石坂角場七番丁

信望極めて厚く、曩に推されて農會部長消防組頭に就任、多大の功勞あり、當局より表彰された。現在、村會議員として村治に盡瘁する外、産業組合監事、養蠶實行組合長として寧日なき活躍をなし、

「正義の人」として畏敬され、其才腕に大なる期待をかけられて居る。家庭は母堂、夫人、一男四女あり、和氣溢るるばかりである。

高知、吾川、伊野町

富士自動車 川村 虎雄
商會社長

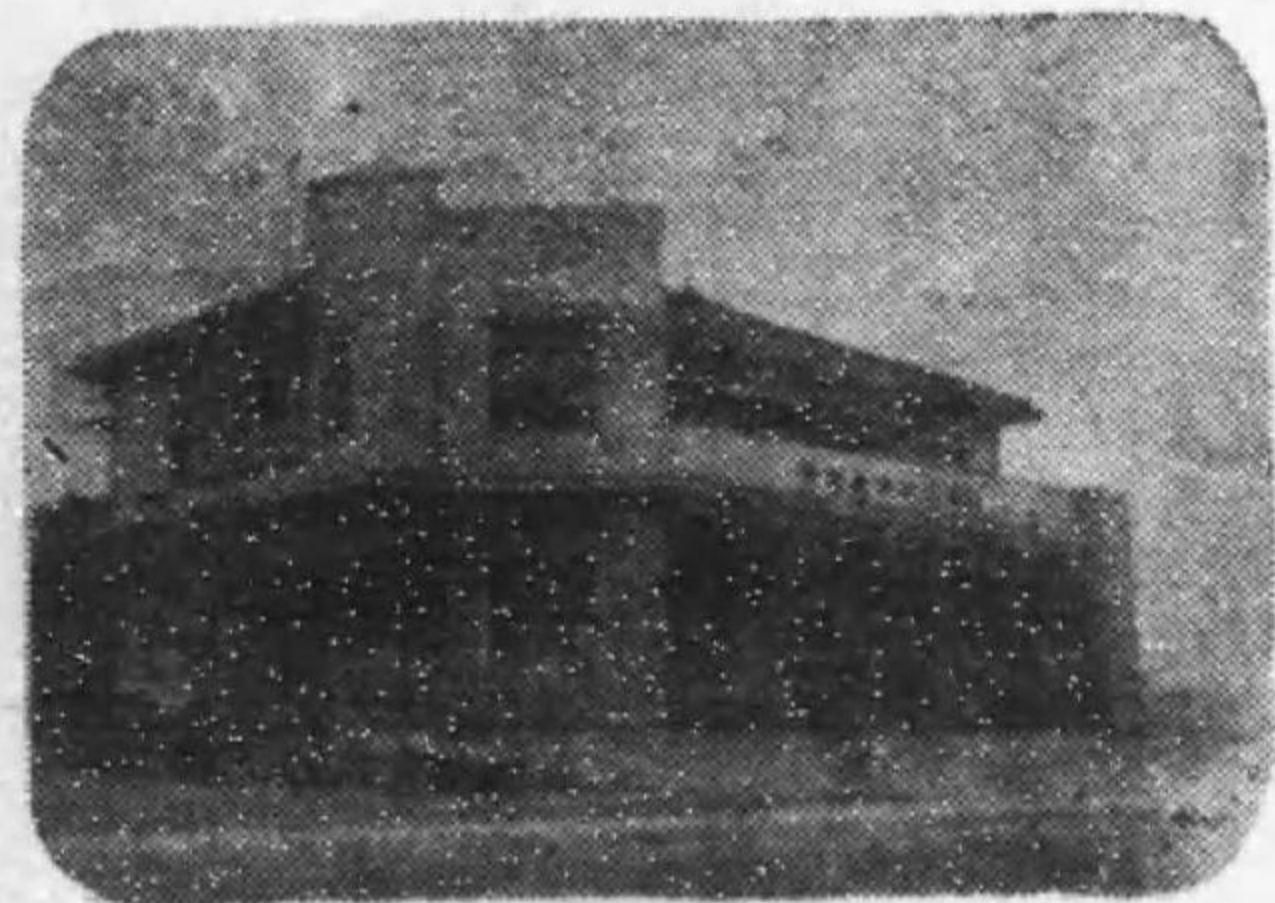
電話六一番

氏は香美郡夜須村の素封家に誕生、明治四十二年早稻田大學法科を卒業後、大正六年東部自動車株式會社を創立、輝かしいスタートを踏み出したが、其の後、他の自動車會社と合併する等、幾變遷を経て會社を経営、この間、衆望に應へ事務取締役の役に就き、華々しき活躍をしたが、昭和三年現職より勇退、同六年富士自動車株式會社に入り、遂に推されて社長となつた。

なほ氏は、世評高き温厚篤實の紳士にして、永きに亘り、終始一貫、自動車界に貢献した事業的節操の凛々たる士である。

る。

家庭は子寶に恵まれ、長男氏は自宅に



富士自動車全景

を卒業後、同校専科海外貿易科にあり、四男は高知高等學校を卒業してゐる。

高知市淺橋通り

市立高知 商業學校長 丁野 治喜

市立高知商業學校第三代目の校長丁野

氏は、明治十四年香美郡岩村の素封家に生を享けた。當校の囑託をはじめ、教諭兼頭師の順路を経て、昭和七年に校長となつた。

温和且謹嚴なる名校長で、高知市立商業實務學校長、高知商會講所顧問を兼任せる篤望の人である。

温和な反面非常に運動競技を愛好し、教へ子から數多の世界的選手を出してゐる。

専心を若き學徒の教育に捧げて榮譽ある日を送る傍ら、寸暇を釣魚と俳句に樂しみ、殊に俳句は曲水派俳人として幾多の名句がある。

高知市樹形一三番地

實業家 仁尾 進

當氏は安藝町岡本大吉氏の次男にして明治二十二年七月五日降岳。幼少の折、仁尾家の養嗣子となり、大阪商業學校卒業後、銳意を家業たる紙、文具、印刷

業の發展に注ぎ、時勢の進運に伴隨して洋帳簿製造印刷を開始し、實業家としてその手腕を遺憾なく發揮し、遂に今日の如き多額納税者の榮譽を擔ふに至つた。

資性剛直にして而も温情味を併せもつた氏は、同志の間にいたく尊仰され、縣會議員、商會議所常議員、四國自動車株式會社取締役、清水製氷冷蔵株式會社取締役等の要職を歴任した。

嘗ては民政黨支部の大幹部として、當時旺んな活躍をなした當地方政界の重鎮である。

高知市九反田

市會議長 齋藤 琢磨
縣水産會長

氏は高岡郡宇佐の資産家に生を享け、後に高知市に來て、市立商業學校を卒業した。

當時より市政に関心を持ち、機を掴んで市會議員に當選し、現在まで三期に及んでゐる。この間十餘年の永い間、市政

の向上發展に努力し、遂に今日、議長の椅子を占めるに至つた。



常市ではこの議長の席はなかく難關とされてゐる

が氏の明晰なる頭腦と圓滑洒脫な機智はよくうるさ方の市議連を押へ、いつも順調に市會をリードしてゐる。

また永年縣水産會長の要職にあり、海産國高知のために盡瘁してゐる。

柔道五段の猛者で、その稜々たる氣骨は普く知られ、あのドツシリした巨軀は誰にも大磐石の市政を想はせずにはおか

ない。

高知、香美、山田町

山田町 役場

戰國時代、豪族山田氏によつて代々領有されてゐた爲めに、この名がある。

明治二十九年町制を布かれた。高知市を去る四里、香長平野にある市邑である自治産業共に發達し、近縣に知られた模範的な町政が施されてゐる。

町長 氏は明治二十二年一月八日、當地方有数の素封家に呱呱の聲をあげた。

家は製材業を營み、縣立第一中學校を

全國マオラン 濱松支店事務所

主任 橋本紀平

卒業した俊才で、町會議員を二期に亘りつとめた温厚篤實の人格者である。



町長 治める
町長 常にと
町長 協力を期

し一意町勢の伸張に努力してゐる。最近一萬圓を投資して、織物機の購入を爲し機業界の發展にも力を注いでゐる。家庭には夫人との間に、二男一女を恵まれ、長男は城東中學、二男は小學校、長女は土佐女學校に、いづれも在學中の極めて圓滿にして蕩々たる家である。

金澤市中石引町

市會議長 朴木 元次郎

電話一〇〇四番

氏は明治十四年富山縣に生れた。後、伯母に當る朴木家養子となり金澤市に

來住したものである。幼少より才氣活潑剛毅にして將來を囑望されてゐる。長ずるに及んで吳服商を營み粒々辛苦



養家再興のため
立働いたが傍では貧民救済等社會公

共のために盡力する餘裕を失はなかつた此の邊が氏の俗人と異つた處であらう、斯くて漸く頭角を表すに至り、區長會聯合會長、市會議員として立つ事數度、昭和十三年推されて議長となり今日に至つたものである。

氏は常に温顔を以つて人に接し、敬神崇祖の念厚く全市民から慈父の如くに敬慕されてゐる。

現在家庭には賢夫人の譽高きとさんとの間に二男正君、三男勉君があり、その圓滿多幸な日常振りには模範的な家庭として評判されてゐる。

石川、鳳至、本郷村 役場

當村はその昔鳳至郡樺比郷中に屬したが、明治二十二年村制實施の際現在の二十區を以つて本郷村としたものである、四面山嶽に圍まれ、八ヶ川は當村の中央を貫流し海に注ぐ、平野は概ね此の流域にあり従つて農産物が主位を占め、畜産林業、養蠶等之に次ぐ、頃來全力を傾注して國策に協力せんとする村當局の盡力に依り、産業開發農業増産等が著しく進歩しつゝある。

村長 高島辰之助

全村民から慈父の如くに敬慕されてゐる村長高島辰之助氏は明治九年一月當村の舊家高木友衛門の三男として出生、後高島家に養子となつたものである。門前小學校を卒へ程無く書記として役場に奉職十年一日の如く文字通り恪勤精勵その才腕を認められて

助役となり、昭和十四年推されて村長となつた、小學校の増築、療養所の建設、産業道路の擴充、植林等に幾多の功績を遺してゐる。

静岡、富士、鷹岡町

製材業 井出 馨

電話入山瀬二番

氏は明治二十八年一月二十二日生れて静岡中學を卒業後軍籍に入り、陸軍歩兵少尉に任官され除隊、昭和二年二月同町に於て製材業を創業し、本縣清水富士製材會社の支店として今日に至れるものである。

爾來、氏の携まざる努力と眞摯なる研究により事業は逐年隆盛となり近縣業界に君臨するに至つた。

氏はまた町のために貢献を惜しまず、在郷軍人分會幹部として七年、或は町會議員として町政に參與する等、烈々たる減私奉公の精神をもつて奮闘をつづけて

る。

思想圓滿、温厚なる紳士として凡ゆる人に親しまれ、又日蓮宗に對する信仰も篤い。

趣味として庭球を愛好し、屢々素晴らしい腕の牙えを示す由。

石川、珠洲、三崎村

村會議員 前野 澤久

當家は既に六代を數へ代々農業、漁業を兼ねてゐる。

大字雲津に於て自治産業のために貢献した舊家であり、先代永太郎氏は生前區長その他の公名譽職にありて村政のために貢献する所多大であつた。

當主澤久氏はその男として明治二十七年の出生、人となりて温厚篤實、清廉潔白の士であり、家業に精勵する傍ら、公共事業に盡瘁して村民の信望をあつめた現に珠洲製糸に關係して理事を勤めてゐるが今回押されて、村會議員として村政

に參與し、その他農事實行改良組合長、養蠶實行組合長の要職にあつて村のために活躍してゐる。

以前には漁業組合の理事、區長、學務委員等を勤め幾多の功績をあげてゐる。

將來の抱負としてはあくまで養蠶、漁業の改良、増進であるが、氏は現に昭和八年より養蠶實行組合長として非常な功勞を致してゐる他に昭和十一年犠牲的に農事實行改良組合の創立をなし、また漁業組合の功勞は多大なものである。

因みに家庭は四男一女にして長男久右衛門氏は珠洲製糸の養蠶指導員として活躍してゐる。

静岡、駿東、原町

町會議員 植松 晋吾

電話四三番

當家は武田信玄公の流れを掬む名家である。

先考平衛氏は、町會議員、警察官を歴

任して、功勞のあつた人物である。

當主晋吾氏は明治二十四年の誕生、前



歐洲大戦 青島攻略 戦に出征 した武勳 の士であ

現在、町會議員のほか、學務委員、産業組合監事等の要職を兼ね、識見、抱負卓絶せる人格者として信望頗る厚いものがある。

氏は常に自己犠牲の精神の肝要なる事を強張し、身自ら減私奉公を唯一の信条として、公共の爲めに専心盡瘁しつづける。曩に町當局より町政の功勞者として表彰され、資性極めて濃厚。書畫、園藝等に深い趣味を有す。

家庭には玉代夫人(四五歳)との間に、三男二女あり、長男平馬氏(二三歳)は名古屋帝大醫學部に在學中である。

石川、河北、中條村

きび團子本家庭 田 治

電話六九番

氏は元代議士として著名なる庭田次平氏の愛弟にして、明治二十三年の誕生である。

先代治郎氏は、この地に於ける鐵道の敷設に絶大な功績を遺し、今に當地方の語草となつてゐる。又當驛の開通を見るや直にきび團子を製造し立賣に成功した手腕家であつた。

治氏は分家したが、大正十四年尊父の後を繼ぎ、きび團子の製造販賣に當り爾來、専心をこれが發展に注ぎ遂に今日の名稱をかち得るに至つたものである。氏はまた家業の傍ら、社會公共の爲盡す所多く、曩に農會長、村長、村會議員の要職を歴任、村治に寄與し、現在は村産業組合長として、自治産業の伸張發展に盡力してゐる。

静岡、駿東、片濱村

區 長 大島 佐重

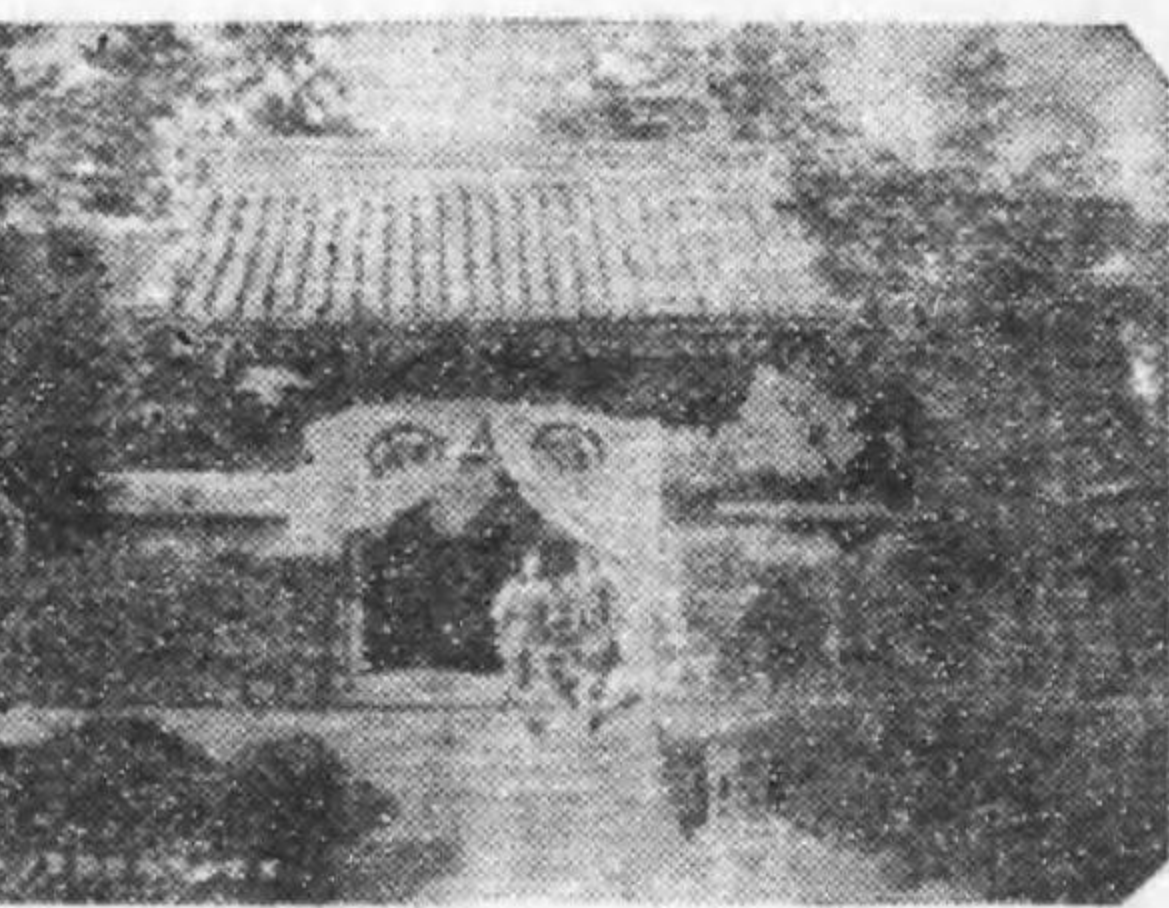
大島家は代々農耕をもつて家業とし、その始祖は遠く織田信長時代に創まり、爾後連綿として絶ゆることなく繁榮し、現主に於て數十代の家系を誇る、本村屈指の舊家名門である。

先代林助氏は篤農家として近隣に知られた人で、村民の信望篤く、村會議員、區長にも擧げられた。

當主佐重氏はその長男として、明治三十三年十一月三日に呱呱の聲をあげた。人となり濃厚篤實、清廉潔白の士で、幼くして英才を驅はれ、郷校を卒へるや、駿東農林學校に進み、優秀なら成績をもつて同校を卒業した。家に在つては専心家業に従ひ、農産物の改良、増收に合理的なる工夫をなし、注目すべき成績を示した。

また氏は嚴父の血を承けて、村治に關

心をいだき、その改革向上を志し、その熱情は村民の深く信頼するところとなり區長、産業組合監事、警防團副分團長等の要職に推され、構想を回らし、産業の發展に依り、村民の福利増進を期し、肥料組合を設立、肥料配給の圓滑化を圖り或は道路改修を行ひ、農産物運搬を便ならしめ、かくして銑後農村の責務を果しつつある。



山 門

また古事録に依れば、諸堂伽藍整備し、宏壯を極めたが祝融の難に會て一切を喪失した爲め、依つて徹すべき資料なく沿革等不詳である

静岡、濱名、入野村

西湖山 龍雲寺

當山は阿彌陀如來を御本尊とする臨濟宗妙心寺派の古刹にして、開基は九十四代二條天皇の皇孫康仁親王である。天正年間、赤津中務少輔の代に至り、役の出家ありて當時の住職となり湯椿と稱した

東京、大島、三宅島神着村

村會議員 浅沼悦太郎

現在の本堂は元祿十一年の再建にして、

境内は千七百七十二坪に亘り、本堂、山門庫裡、寶藏、寮、納屋、物置等の建築物あり、靈域は自ら襟を正しむるものがある。

行事は一月二日大船若、一月七日中興忌大般若二月十五日涅槃會、四月八日灌佛會、八月十五日山門施餼會などでありとも盛大にして殷賑を極める。

住 職

師は明治十八年三月生れにして、

從六位勲六等

妙心寺普通學林を卒業、早稻田、東

木宮 亮邦

洋大學に學び、濱松商業學校に教鞭をとり、のも明治四十一年當寺中興以來十九世住職となり現在に至つてゐる。

また師は陸軍少尉にして、曩に軍人分會長の重責を擔つて活躍し、現在は入野産業組合長として村産業發展に盡瘁してゐる。

静岡、賀茂、南中村

郷 社 加畑賀茂神社

當社の祭神は八重事代主命にして、延喜式神名帳の所載によると、賀茂郡加毛神社二坐のうちの一坐で、加畑神明神社と稱し、その創建年月は大同年間と傳へられる。

社傳に曰く「上古三島神夫妻神津島より此地に移り、のち稻生澤武山権現より右内左内の兩神迎ひ謁し、のち先導し奉りて田方郡深澤に至りぬ云々」とあり、又古史成文に曰く「積羽八重事代主坐伊豆三島神社此神之後謂伊古奈比咩命云々」とある。社格は郷社に列し、その攝末社に、若宮神古、日ヶ原東之宮、大浦宇佐八幡宮、尾久氏神社、馬込山王神社、鶯之森神社、烏石楠船神社、天馬駒聖神社、篠原田村神社、篠原姫宮等がある。

本殿、幣殿、拜殿等の建造物があり、基本財産としては、原野四町一反七畝餘山林一反餘を有してゐる。

氏子数は百六戸、その範圍は南中村下賀茂である。

社司は碓氷郡男氏、氏子總代は鈴木芳

次郎氏、渡邊森太郎氏はか一氏である。
(八幡神社参照)

静岡、駿東、片濱村

片濱 信用販賣 組合

電話沼津五二八番

當組合が農村經濟更生の中樞的機關として設立されたのは、大正九年四月九日、後昭和八年五月二日に保證責任組織に變更し、四種兼營となつた。片濱村一圓を區域として包含し、今や五三九名の組合員を算し、逐年大なる實績を擧げてゐる。殊に信用部にあつて貯金の如きは豫定額を遙かに凌ぎ莫大な數に達してゐる。また購買、販賣も好成績を擧げて、政府の食糧政策に協力してゐる。

本組合設立に際し、主唱發起人としての功勞者は長倉國藏氏であり、氏は初代組合長に就任した。

因みに歴代組合長としては二代目長倉健雄氏、三代目森田氏、四代目長倉宜一

氏にして、現在組合長増山捷一氏は五代目である。

なほ現任役員は組合長のほか、専務理事渡邊耕三、理事田中儀三郎、長倉信一、工藤豐吉、森山福次郎、増山捷一、大木宗右久の諸氏がその位にあり、監事には田中喜太郎、寺田清一、檜郷作、淺沼源吾、増山秋太郎、渡邊五郎の諸氏がそれぞれ就任組合伸展のため大いに盡力してゐる。

専務理事 渡邊 耕三

氏は明治二十七年八月二十六日の生れで、片濱村役場に十二年の永きに亘つて勤続し、稅務を擔當してゐた。また消防組頭、警防團長を歴任して、治安の重責に任じ、昭和十二年五月役場吏員を辭任すると同時に、本組合専務理事に就任し、業務の實際的指揮統制に當つて地方稀れに見る材幹である。

静岡、駿東、足柄村

村會議員 岩田 諄作
勳八等

當家は代々農耕を營み、村内有数の舊家である。

先代平藏氏は篤農家としても知られてゐるが、現在區長を五期、常設委員等の要職を兼任して入望がある。

氏は明治十七年十一月五日の出生で、



當家の養嗣子となつたものである。名古屋聯隊に入隊

し、日露戰爭に出征し赫々たる武功を樹て、勳八等に叙せられた勇士である。

資性穎悟にして徳望あり、曩に養蠶實行組合長、區長等を歴任して治績を擧げた。現在は收入役、郡農會長、信用組合理事、村會議員等で村治に大いに貢献してゐる。

讀書、園藝を趣味とし、温厚篤實にして明朗闊達な人である。宗旨は曹洞宗。岳父平藏氏母堂くらさん共に健在であ

散個人經營に移した。



標 商

昭和十二年六月解

り、令聞せんさんとの仲は圓滿を極めて多幸な家庭である。

静岡、駿東、清水村

醤油醸造元 かのや

電話三島一〇六番

當店は明治五年、醤油専門醸造元として創業された。大正五年石垣醤油合名會

初代専治郎氏、三代目専太郎氏を経て當主専作氏は三代目である。主要販路は駿東、田方、賀茂の諸郡及び沼津、熱海、東京の各地方に亘り、好評絶讃を博してゐる。

製品は、その優秀なる品質をもつて中部六縣醤油品評會、その他各品評會等より數度に亘り表彰をうけた。また、第三師團の用途をなしてゐる。

三島、大仁、伊東、重寺、土狩、長岡等に支店或ひは出張所を設けてゐる。殊に三島支店は今より四十年前に設置せられ、本店と共に業界に進出目覚ましいものがある。

經營者 石垣 専作

石垣家は今日もつて七代を數へる舊家である。四代前より糶製造を創業したのに始まり、明治三年に清酒醸造業、更に同五年より現在の醤油、味噌醸造業を營むに當つたものであり、代々名望家として知られ、祖父専次郎

氏は村會議員、區長等を、嚴父專太郎氏は村會議員、區長、耕地整理組合長、陪審員等を歴任した。

專作氏は明治三十八年八月十六日、先代專太郎氏の長男として生れ、沼津農學校の出身で、濟南事變及び今次の支那事變には、騎兵として戦野を馳驅した勇士である。在郷軍人分會班長、副長、分會長、顧問等を歴任し、また氏子總代、禮徒名譽顧問等をなしてゐる。殊に氏は、青年指導に特別の關心を有する剛毅潤達の人であり、碁、將棋、謠曲等多趣味にして、また劍道三段の有段者である。現役時代には賀陽宮殿下より、射撃優秀者として嘉賞を賜つた。

宗旨は淨土宗にて、家族は母堂とり自のほか、令閨艶子さんとの間に三男一女があり多幸な家族である。

静岡、駿東、靜浦村

正八位 坂倉 隆一

軍人分會長 電話二八番

當家は代々漁を以て業とする當村切つての素封家である。氏の尊父艶平氏は現在なほ區長等の要職を勤めて、自治、公共に盡瘁してゐる。そのほか、産業界に於ては、魚市場重役、全國鯉節聯合組合役員等をなしてゐる。

當主隆一氏は明治三十八年七月二日その長男として生れた。三島商業學校を卒業以來家業に精勵してゐる。人望あり、在郷軍人會駿東郡聯合會副會長、靜浦村分會長の要職を勤めて既に八年の永きに亘つてゐる。

曩に郷軍指導の功勞により陸軍大臣よりそれぞれ表彰をうけるの榮に浴してゐる。

家庭には母堂みなさん壯健であり、令閨藤枝さんがある。

静岡、駿東、原町

原浦漁業組合

當組合は明治二十年の創立で、原町原



氏は明治三十年一月三十日の出生 台灣聯隊に入營、

歩兵上等兵に昇進、除隊後は木製玩具

貿易商を創業して家運を挽回、今日の繁榮を見てゐる。

氏は曩に區長、消防組頭等の重位にあつたが、現時は禮徒總代、氏子總代、町會議員、警防團消防部長、原浦漁業組合長等の要職を兼任して社會公共、地方産業上に、縦横の大活躍をなしてゐる。

資性剛毅にて豁達、書畫、骨董を趣味とする思想圓滿な人である。宗旨は日蓮宗にて、家庭には養母ゆき刀自のほか、令閨ちるさんとの間に二男三女を恵まれてゐる。

静岡、駿東、須山村

警防團長 小野田市太郎

當家は代々農耕に従ひ、須山村屈指の素封家として知られ當主は六代目である。先代勝次郎氏は村會議員、區長等の要職を歴任して村人に頗る名望があり、當年八十二歳の高齡で嬰鏢として尙壯者を凌ぐ勢である。

市太郎氏は明治二十四年六月二十日、



その長男として呱呱の聲を挙げ、明治四十五年葦山中

學の出身にして夙に人望あり、嘗つて消防組頭、國勢調査員、村會議員(二期)、收入役、助役、氏子總代等を歴任、令名噴々たるものあり。警防團長、學務委員の要職を兼任して公共の爲大いに貢献してゐる。殊に警防團員の指導教育に當つては概ね、軍隊の教育方式に則り、その成果を挙げ、また家庭防火には婦人を動員して、これが訓練に努め大に實績を擧げてゐる。

氏は資性温厚篤實な人格者であり、曩に勤続功勞者として表彰をうけるところがあつた。

家庭には嚴父勝次郎氏の外、令閨よしさんとの間に五男五女の子寶に恵まれ、

長男一君は目下日大經濟科に在學中であり、長女八重子さんは御殿場女子實業學校に在學中である。

静岡、田方、葦山村

村會議員 石井 榮

當家は縣下屈指の由緒ある舊家で、また篤農家として聞えてゐる。

先考研二氏は代議士、縣會議員等として國政に參與し、縣政壇上に獅子吼した逸材で、今にその偉容は當地方民の語草となつてゐる。

現主榮氏は明治三十年四月三十日その男として呱呱をあげ、葦山中學校を卒業後法政大學豫科を修了し、東京海上火災保險會社、富士ゴム工業株式會社等に勤務し、尊父の長逝に會ふや歸村して家業に従事し、今日に至つてゐる。

夙に村政に干與し、村民の信望厚く村會議員、區長、氏子總代等要職を兼ねて村政の向上進展に献身的努力を捧げ、發

展策として温泉境を設ける大計畫をもつてゐる。

家庭には母堂いま刀自健在し、令室静子夫人との間に一男一女がある。

静岡、磐田、熊村

熊村役場

當村は郡の北部に位し、而積三千百一町歩、その大半は山林なるを以て、村民は多く山林伐採に依る収入をもつて生活を立ててゐる。耕地少いため、米、麥の生産は村内の需要量に充たず、他より移入する實状なるを以て、之が増産の必要を痛切に感じ、村當局者は經濟更生計畫を樹て今や擧村一致、農産の振興に邁進してゐる。

村長 石野喜平

氏は明治十九年の出生、同三十七年より當役場に奉職し、昭和十三年十二月その卓絶せる識見、手腕人格に依り、推されて村長の要職に就

任するに至つた。氏の村政に貢献する所



多大なるものがあ
る。昭和七年、徴兵制六十年記念に當り時政府より表彰され、更に昭和十三年の紀元の佳節に際し、陸軍大臣より銀杯を下賜された。

静岡、小笠、中内田村

中内田村組合役場

中内田村は、東西に狭く、南北にのび小笠川はその中央を貫き、その流域は大部分耕地である。又下内田村は東西に廣く、南に延びて狭まり、殆ど三角形をなしてゐる。西には小笠山の支脈、東は菊川の流に浴ふ多肥沃の土地である。人口は中内田村千八百餘、下内田村は

八百餘にて、戸数は兩村合せて四百餘戸あり、

名勝としては、櫻ヶ池の奥の院たる應聲院があり、又法然上人の塚、並に上人の袈裟懸の松等がある。産業組合長に栗田孫四郎、杉山勝平兩氏、軍人分會長には砲兵少尉小原敏氏、青年團長大橋繁氏、小學校長石井清氏等の諸氏が村の自治、産業、教育、警防の重責に當つてゐる。

静岡、賀茂、稻取村

稻取町漁業協同組合

電話二一五
當組合は主として魚介の蕃殖保護、魚漁増殖方法の研究、船揚場及び漁礁の設置、販賣購買、資金貸付、貯金の斡旋、遭難の防止及び救恤事業等に力を盡してゐる。創立當初より幾多の難局に遭遇したが、上原榮吉氏等の盡瘁に依つて克く今日の隆盛を致した。漁獲物の主なる物

は鮭、金目鯛、鱈等にて、アン草の産出また頗る多い。

茲に當組合の功績として特記すべきは非常時下物資統制に依り必需品の購入困難を來した際には、組合の奔走によつて圓滑にその供給を計ることが出来た。

役員としては、理事長小澤力、理事鈴木常助、同田村清智、石原長七、同鈴木徳五郎、監事に田村耕榮、齋藤繁吉、外岡善六、上原善吉等の諸氏である。

組合長 小澤力

當家は稻取町有数の舊家として知られてゐる。氏は彌吾平氏の三男として、明治十四年に生る。日露戦役に出征した勇士で、のち村政に頗る功績多く、曩に稻取町助役に就任、又當組合に永年盡力するところがあつた。

静岡、駿東、金岡村

學務委員 野秋 直太郎
村會議員

當家は代々農業を営み、祖父直作氏は戸長、名主等を歴任し、自治功勞者として知られてゐる。氏はその令孫として明治五年に生れ、



同二十八
年三月靜岡師範學校を卒業し、大岡小學校を

静岡、駿東、清水村

新宿區長 奈良橋 二郎

氏は明治十六年、彌作氏の次男として

生る。後當村新宿に分家して一家を創立した。



團第一分團長等の要職に就任、村の自治、産業警防に盡瘁するところ極めて大なるものがあつた。氏は資性極めて温厚篤實、豫てより思想善導に深甚の關心を拂ひ、青年男女の日本精神の涵養には常に身を以て當り、裨益する所深甚である。

家庭にはくに夫人嬢め、養嗣子和六氏と今嬢しす枝さんの間には一男四女あり和氣霽々たる家風である。

静岡市安西町

静岡市柑橘商同業組合

本組合は明治三十年頃の創立に係り、同四十四年認可を受けた。現在組合員には一流問屋を網羅し、業者は主として満洲方面に輸出してゐる。未だ共同販賣購買の組織にはなつてゐないが、近くその運びに至らしめる計畫を樹てゐる。

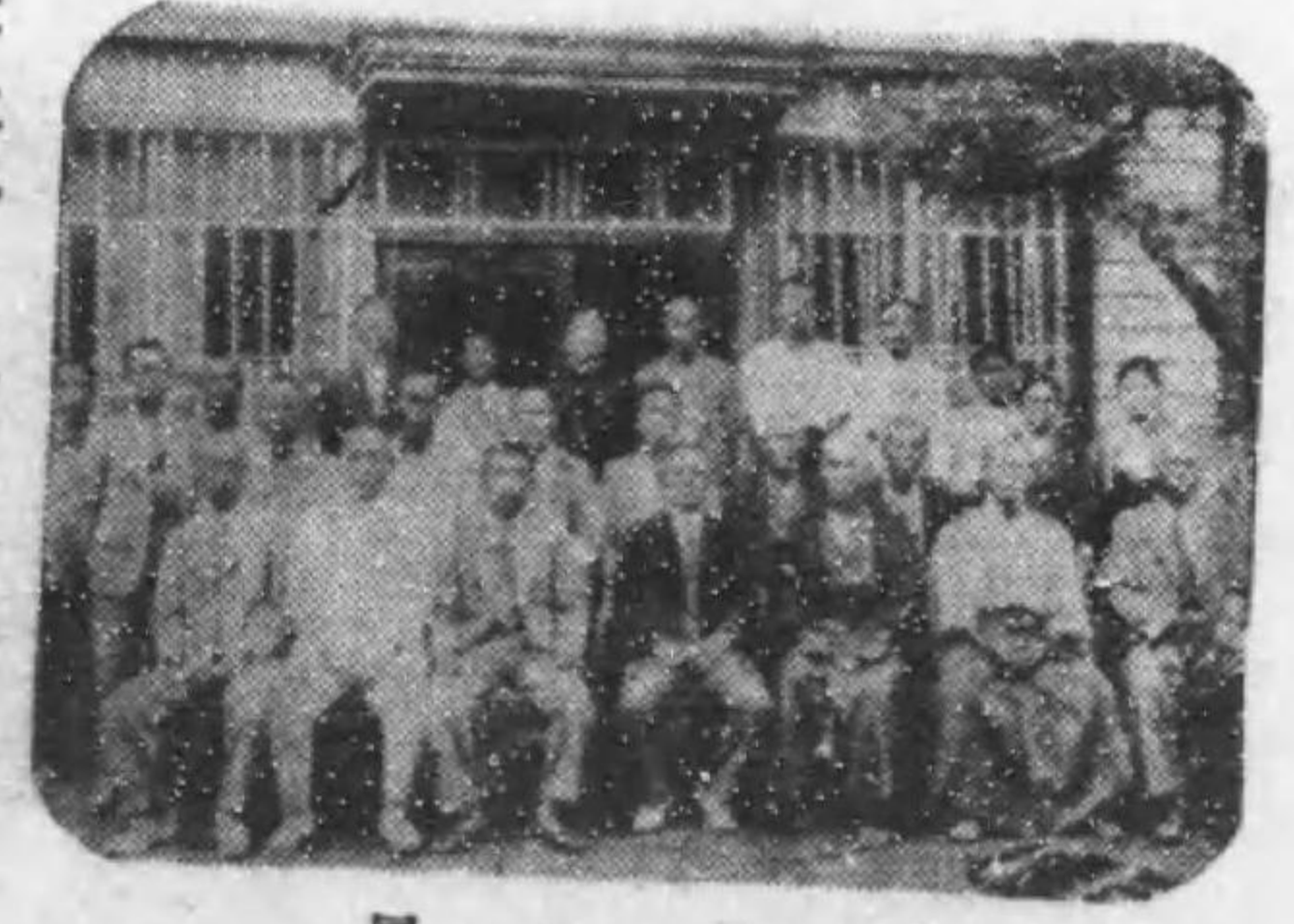
組合長 氏は當年六十二歳、温厚篤實なる人物で、業者間の信望頗る厚く、昭和七年推されて組合長に就任した。當家は屋號を丸八と稱し、柑橋及び茶の代表的業者である。

尙氏と共に活躍中の役員は、組合長に水上源太郎氏、評議員に狩野銜佑、野櫻房藏、前田幸太郎、前田庄七、長野幸一の諸氏、尙書記長中村毅一郎氏は組合事務の責任者である。

初は購買部を主體として開始され、現事務理事池上由太郎氏及び主任書記池上文作氏が、組合精神普及のため奮闘、つよきに創業の苦しみを嘗めたのであつたが幹部職員一致の盡力に依つて今や全町民の支持を受け、隆盛を來した。

當組合は縣下屈指の組合で、非常時局下その事業上に幾多の困難あるも、よくそれらを打開して圓滑なる需要を計つてゐる。

専務理事池上由太郎氏、理事に大野泰次、小林庄藏、小林金太郎、磯部佐太郎、服部安吉の諸氏、監事には山本良作、朝原廣、高田清太郎の三氏がその任に當つてゐる。



役員一覽
 主として肥料、日用配給、茶、購買品の等、取賣

静岡、庵原、蒲原町

蒲原 信用販賣 組合

本組合は大正六年の創立にかゝる。當

麻機 信用販賣 組合

當組合は後藤農林主事、縣友會の伊藤理事、當時農會技術員小柳茂十氏等の盡力により、大正十四年五月創立された。

組合長

織田 金吾

氏は多年當組合役員として、村産業の進展に献身的努力を捧げ、その功績甚大なるものあり、信望極めて厚く、推されて組合長の要職に就

にして、その販路は遠く海外に迄も及んでゐる。



いた。その他の役員としては専務理事狩野新吾氏、理事に山本廣治、古川三郎、西川憲、橋本耕一、森勝右衛門、望月可一の諸氏、監事に海野平十、杉山重延、望月市太郎、佐藤勇太平の四氏である。

島田村 信用販賣 組合

電話二〇一番

當組合は大正八年五月二十八日、森新吾氏等の提唱發起に依り創立され、爾後氏等の献身的努力は、組合をして着々向上發展の路を歩ましめ、昭和七年保證責任制に改組して現在に至つた。

組合員の福利増進のため、共存同榮を精神として米穀類、野菜類を販賣し、肥

組合長

氏は明治十一年三月三日の出生にて、養に村會議員、吉原

料、雜貨、日用品等を購賣配給し、戦時下容易ならざる農村民の日常生活に貢献するところ甚大なるものがある。

なほ現在組合長は設立發起人たりし、森新作氏が之に當つてゐる。

町島田村組合會議員、村農會長として自治産業に寄與貢獻し、また信用組合設立の志を有し、同志を糾合して大正八年當組合設立に成功した。今日に至るまで氏の誠私奉公の精神を、たゆみなき努力は組合をして今日の隆盛を得せしめたのである。

石川、金澤市青草町

市會議員 岡島 久作

電話五九三四番

氏は明治二十七年五月三日、先代勝二郎氏の長男として呱呱の聲を擧げた。砂糖問題のやかましい昨今、氏は厚生省の方針に則つて果物に依る體位向上の建前から、青果問屋として家業に専心没頭してゐるが、事變下に於けるこの方面

東京、大島三宅島、神着村

大島支店 出張所長 浅沼源一郎

に對する一般の認識が昂揚されて來たことは氏の活躍に俟つところ多大である。市會議員は三期目であり、市政に對する市の功績は偉大なものでその將來には非常な期待がかけられてゐる。

又都市計畫委員として、國土計畫の一

翼に參與し、大童の活躍を続け市民一般の支持を受けてゐる。

なほ石川縣狩獵會の幹事長として當地方狩獵界に知られてゐる。

氏は努力家として、普く知られ事業と市制に寧日なく、現住所は金澤市青草町二四番地で、ユウ夫人との間に長男友久君外四男、長女嘉子さんの他に三女があり、嘉子さんは第二商業女學校出身の才媛である。

石川、珠洲、若山村

村會議員 谷内 清一

當家は四代前の祖々父孫右衛門氏の時代に篤農として、一家をたてたものであり、また本家は庄屋を勤めた舊家である。祖父の代に木挽職となり製材をした。先代才市郎氏は祖父桑次郎氏の意を繼ぎ製材業者として當地業界に貢献してゐる。

今より約十年前に製材所を設け、木炭

ガス發動機で製材量を増し爾來、益々盛んである。

氏は明治四十一年才市郎の長男として生れた。

村會議員は既に二期目であり、傍ら中農事實行組合の理事である。中農事實行組合創立當時大いに功勞あり、現今自家用車シボレットトラックを組合に利用し、組合事業に私財を投じて惜しまず組合員一同から畏敬されてゐる。

石川、珠洲、若山村

村會議員 西田 正行

氏は先代一雄氏長男として明治二十九年生れである。當家は村内に於ける舊家

静岡、磐田、上阿多古村

村會議員 小出 一夫

氏は明治十五年當村の舊家に生る、先代榮太郎氏は永年に亘つて區長を勤め、地方産業の振興、就中産業道路の修理開拓に努め、幾多の功績を遺してゐる。

氏は縣立農學校を終へて金澤歩兵に入隊し、優秀なる成績で除隊した。

嘗て分會長とし活躍し、いままた初代軍友會長の榮職にあり傍ら、村會議員、農會技術員として村政に産業に銓後の奉公に寧日なき活動を續けてゐる。殊に農會技術員として組合とタイアップし、有畜農業に盡した。功績は特筆に價する。

性格は、言語明瞭にして沈着、實行型の快男兒で今後、活躍が期待されてゐる。なほ長男正治氏は父の志を繼ぎ、郡農會技術員として前途を期待されてゐる。

石川、珠洲、若山

區長 田中 芳作

氏は明治十五年當村の舊家に生る、先代榮太郎氏は永年に亘つて區長を勤め、地方産業の振興、就中産業道路の修理開拓に努め、幾多の功績を遺してゐる。

當主芳作氏はその長男として明治十五年に生れた。氏も又社會公共のためには敢て私財を抛つて惜まらず區長となるに及んでは、農業振興を慮つて水利工事を起し、次々と之を完成、斯て區内の面目を一新し、今日の隆盛を招來した功勞者である。

氏は現在區長の傍ら、若山産業組合相談役、農會代議員等の公職をも重任してゐる。

温厚篤實、奉仕の念厚く庶民からいたく敬慕されてゐる。家庭には初江夫人、養子舜平氏、若夫人アヤ子さん、愛孫丑造君がある。

静岡、濱名、伊佐見村

村會議員 伊佐見村

電話一四八番

當組合は村民多数の共存同榮の實を擧げるのを目的として、明治四十二年一月設立したもので、頭初は無責任組合と

稱し、のも機構を改めて有責任となし四種兼營となつた。更に保證責任に改組して今日に及んでゐる。販賣の主なるものは米、麥、小麥、鶏卵等にして、購買は肥料、雜貨一切で、また利用事業としては精米等である。

なほ當組合は作業場、出荷場を有して大いに利用してゐる。今後は倉庫を新築する計畫がある。

現組合長は古橋佐見治氏にして、ほかに理事七名、監事四名であり、一致協力組合發展のため努力してゐる。大正十五年には産業組合中央會静岡縣友會より優良なる組合として表彰された。

組合長

古橋佐見治

氏は明治二十二年四月の出生、組合創立當初より盡瘁し、

大正初年組合長に就任現在に至つてゐる。またその間消防組頭としても大いに活躍した。

現在は村會議員、方面委員、學務委員等を兼任してその敏腕を揮ひ、村民から

好評を博してゐる多識の人格者である。

静岡、駿東、小泉村

小泉村 警防團

本團は、昭和十四年四月一日消防組を改組して、警防團に改め、團員は一四八名を擁してゐる。

當團は四分團に別れ、各分團毎に農閑期を利用し、一般主婦に對しての防空訓練演習、並びに防空座談會等を開いて一朝時に備へてゐる。

器具はガソリンポンプ一臺、自動車ポンプ一臺、手押ポンプ六臺を有し、地方村としては優秀なる器械を完備してゐる。なほ、特筆すべき事柄は、團員が率先して納税組合を組織し、團長中西嘉一氏自ら範を垂れると共に、租税完納に大童の努力を至した。その功績により名古屋稅務局より中西團長が表彰をうけるの光榮に浴した。斯くして當團は役員の指導よろしきを得て、愈々銓後を固めてゐる。

警防團長 中西嘉一

中西家は代々篤農家をもつて知られたが、先代故松市氏の代より請負業を創めた。而して多くの子弟を養成し、傍ら大弓師範を勤めた。また五代前の松右衛門氏は小田原城に在つて算數の指南をした人である。現在嘉一氏は實にその五五代目に當る。



氏は明治二十六年六月二十日、先代故松市氏の長男として呱呱をあげた。靜岡縣佐野實業學校卒業の偉材で、曩に消防組頭の重任にあつたが、警防團の設立せらるや、推されて初代團長に就任し、爾來團員統卒の重責にある。現時は村會議員、縣沼津職業紹介所聯絡委員、村農會副會長等を兼任し、更に穀粉佐野工場代表社員、金專製紙會社監

査役等、各事業に關係を有してゐる。豪氣潤達明朗な紳士で、家庭には母堂のふ刀自、令闈えいさんの外に嗣子保男君等がある。

東京府、三宅島、阿古村

産業組合
常務理事 佐久間常次郎

氏は明治十六年四月十日生れ、佐久間源吾氏より分家したものである。夙に阿古村の發展に献身的な盡力をし或は村會議員、産業組合長、青年會會長、學務委員、土木委員、漁業組合理事、同監事、經濟更生實行組合長等の要職に歴任し、特に同村産業組合は二回も經營に不能となつたものであるが、氏の献身的な努力により、はじめて鞏固なる基礎を確立したもので、現在の同組合にとつて氏は文字通り生みの親である。氏は現に同組合の常任理事として寧日なき活躍をつゞけてゐる。家宗は日蓮宗に歸依し、敬神崇祖の念

に篤き温厚篤實なる人格者である。

東京府、三宅島、阿古村

村會議員 伊藤 市太郎

同家は當村に於ける屈指の名家にして氏は明治十七年呱呱を擧げた。代々海産物販賣及び酒造を業とし、氏もまた家業に精勵して家運の隆盛を計り今日の如き磐石の基礎を作上げたものである。人爲り謹嚴實直にして常に意を村政村治に用ひ、村會議員、消防組頭として貢獻するところ多く、なほ現に村議として同村の發展に盡瘁してゐる。家庭には長男才次郎君がある。

東京府、三宅島、坪田村

元消防組頭 加藤 吉之助

氏は明治二十五年十一月十二日の生誕にして、郷校を卒業後兄定之助より分家

した。

大正九年同村役場書記となり、同十五年七月には推されて主席書記となり、昭和七年より同九年まで村収入役として執筆自治のため貢献するところ多大であつた。

また夙に消防組に入り寧日なき活躍をつゞけ、大正十二年には小頭を、十三年七月には第一部長を拜命、昭和七年には副組頭に推され、遂に十三年には組頭の要職に就き同村消防組の發展に盡瘁し功績頗る多く、昭和十年八月、同十二年十二月、同十四年三月第三回に亘り、模範消防組として警視廳より表彰を受けた。

なほ、その間國勢調査委員に推されること三回に及び、また現に同村漁業組合理事、村營東京灣汽船取扱所責任者として、昭和元年より十數年の永きに亘り、努力し、今日同村に於ける各方面の第一人者として重きをなしてゐる。家庭は圓滿を極めてゐる。

東京府、三宅島、阿古村

阿古村漁業組合

阿古村漁業組合は、明治四十一年三宅島全島を區域とした、三宅島漁業組合創立の際、各村に支部を設置し初めて創立されたもので、その後三宅島漁業組合は解散され、各村毎に漁業組合の設置をみたもので、當村は昭和十四年七月、保證責任阿古村漁業協同組合として創立された。

事業は漁業及び、海草採取を主とし、目下メジ鮎の長網や鯛の巻網等の研究を行ひ、また巨費を投じ漁港を設置すべく計畫中である。

組合長

沖山 廣之

當家は代々名主を勤めたる舊家で、氏は明治二十九年に生誕、夙に村役場に入り大正十二年主席書記に推されたが、昭和七年退職、爾來同漁業組合理事として組合の發展に盡瘁し

同十二年、組合長に推され、同村水産業の第一人者として盡力しつつある。性格温厚篤實、村民の敬慕的となつてゐる。

東京府、三宅島、阿古村

香田醫院主 香田 雅夫

香田家は佐賀藩の士族で代々典醫を勤めた名門で當主雅夫氏はその四代目に當る。

氏は明治七年六月十五日に生れ、長じて東京醫學校に學び、優秀なる成績を以つて卒業し、大正五年開業した。昭和二年聘せられて、阿古村々醫となり、同村に開業今日に至つたもので、その老巧なる診断、親切なる處置、公共の爲に盡力する赤誠は、近村尊敬の的となつてゐる。

夫人支乃さんは群馬縣佐湯郡剛士村出身で、同村に國防婦人會組織されて以來幹事として活躍、現在同會々長となり、

銃後の守りを堅めてゐる。良妻賢母の譽れ高い人である。

静岡、濱松市鴨江町

濱松聾盲院 學校主任 矢部 忠三郎

氏は明治十一年八月十七日先代五郎氏の三男として、静岡縣周智郡三倉村に呱呱の聲を擧げた。

明治三十三年静岡師範を卒業、爾來、同縣小學校長に歴任して、名聲噴々たるものがあつたが、大正八年周智郡犬居町尋常高等小學校長を最後として、後進に道を譲りて引退、後濱松聾盲院學校主任兼事務扱となりて、不幸なる人々のため献身的な努力を捧げてゐる。

同校を一覽すれば、大正十二年四月一日、泉龜太郎氏によつて設立されたもので、校地坪數三七九坪、校舎坪數八四坪生徒總數は昭和十四年四月末の調査によれば、初等部四五名、中等部七名、合計五二名で、校長は小竹祿之助氏、主事は

湯淺輝夫氏教員は淺倉清、上原貞次郎氏等の他三名である。

静岡、榛原、中川根村

川根共榮 信用販賣 組合

當組合は大正十五年十月有限責任川根共榮信用販賣購買利用組合として創立されたが、昭和八年保證責任制に變更されて今日に至つた。

主なる事業としては木炭の販賣で、統制經濟の主旨に副つてその仕事は一段と強化され、産額も躍進的增加を示してゐる。

又購買事業部では米、肥料、雜貨等を主に取扱ひ、非常時局下農村の物資配給機關としての重大使命を圓滑に果しつつある。

更に利用部では精米、精麥作業を取扱ひ、良好の成績をあげてゐる。當組合の創立並びにその基礎工作に當つては、初代組合長上原要平、二代組合

長、木下英作の兩氏の獻身的努力に負ふ所極めて大なるものがある。

現在役員としては、組合長栗下榮一氏のほか、理事に瀧尾恭一、諸田兵一、石間勇平、藤田鶴吉、小林猛朗、中村小平、坪内嘉一郎、鈴木典平の諸氏、監事には植原規矩郎、駒井主一郎、飯田平一、中野嘉一の諸氏が當つて、統後農村振興の爲に盡瘁してゐる。

組合長

栗下 榮一

氏は明治二十年の生れにて、昭和八年以來組合長に就任、その卓識と圓満なる人格を以て組合内外の信望を鍾めてゐる。

静岡、榛原、吉田村

吉田 信用販賣 組合

當組合は明治四十五年有限責任片岡信用組合として設立し、大正十四年八月、吉田信用組合と改め、昭和八年保證責任

組合として認可された。

爾來組合員數も逐年増加し、事業も愈々發展に向ひつつある。

主なる事業としては、米、麥等の販賣肥料、雜貨等の購買、配給、又、利用事業として精米、精粉の作業に従つてゐる尙、農業倉庫、事務所の新築等の計畫中である。

當組合創立に貢獻した功勞者は、現組合長大石善次郎氏、理事淺井熊太郎、淺井敬藏の三氏にして、その他の現任職員としては、理事に大石廉一、瀧井忠平、杉浦榮の三氏、監事に久保田俊、淺井保杉浦廉之助、鈴木有三、中村圓二郎氏の諸氏が就任してゐる。

組合長

大石 善次郎

氏は明治十年の誕生にて、當組合創立當初より盡瘁し、又村會議員として村政にも參與し、その卓絶した識見と手腕は圓満なる人格と相俟つて村民の信望頗る厚いものがある。

静岡、磐田、熊村

熊村 信用販賣 組合

當組合は現理事小出徳太郎氏の主唱發起に依つて、昭和七年九月、當村役場内に創立された。

爾來組合長をはじめ役員諸氏の獻身的努力に依つて逐年隆盛を致し、創業日猶ほ淺いにも拘らず、組合員數並びに出資額も大いに上り、統後農村の産業振興に寄與する所頗る顯著なるものがあつて、縣下、優秀の組合としての聞えが高い。昭和十三年、現在の事務所を新設して移轉した。

現在役員としては、組合長高橋新太郎氏、専務理事青山茂一氏以下、理事に、小出徳太郎、大平辰次郎、太田作五郎、石野喜平、石野重太郎、内山萬次郎の諸氏、監事に、石野元治、大桑儀一、石野邦正郎、太田守雄、上杉茂の五氏が當つて、組合發展の爲に盡瘁してゐる。

組合長理事

村會議員

高橋新太郎

氏は昭和十一年に現職に就任、その優れた識見、手腕を以て村治、産業に貢獻する所尠くない。而してその春風駘蕩たるが如き人格は普く村民の敬慕の的となつてゐる。

専務理事

村會議員

青山 茂一

氏は明治二十四年の生れにて、昭和八年以來現職に就任、専心組合の爲に奮闘しつつあり、その功績頗る大なるものがある。

静岡、榛原、吉田村

榛原魚業 信用販賣 組合

當組合は大正十五年設立されたものであるが、昭和四年組織を變更して有限責任となり、昭和八年再び組織を保證責任に變更し、餌料の貯藏、成魚の輸送用と

し製氷冷蔵庫の設備をなし、一層堅實なる發達を遂げ、荒廢田利用の目的を達せんとしてゐる。

當組合の養魚池は換水式にして、飼料は魚類を主要飼料となし、臭氣なく美味なるを以て東西市場にて換水式魚餌大井鰻の定評がある。

創立以來の功勞者は久保田恭、武田敬一郎、増田眞吉、久保田善吉、仁藤金藏の諸氏にして組合長は久保田恭氏、専務理事は武田千春氏である。

組合長

氏は當地方屈指の有力者として知られ川尻産業組合長、村會議員、方面委員、榛原自動社長、榛原銀行重役等幾多の公職を兼任して、衆望極めて厚い、自治功勞者である。

専務理事

氏は明治四十年九月十九日の誕生。昭和六年早稲田大學商科を卒業、のちスタンダード石油會社に奉職し昭和八年歸省と同時に専務理事の

重責を負ひ、組合發展に献身的努力を捧げて居る。

静岡、磐田、三川村

三川 信用販賣 組合

電話三川十番

本村には明治二十九年頃既に信用組合が設立されて居たが、明治三十四年十二月二十日有限責任三川信用組合に改組し更に昭和七年久野治太郎氏等に依りて、販購利に變更され、翌昭和八年保證責任となり現在に至つたのである。

業績は逐年順調に經過し、罕れに見る好況を呈して居るが、今後は薬工品の獎勵を爲す計畫である。

歴代組合長は久野治太郎、西尾寛、松井倉四郎、伊藤喜四郎、高橋伊三郎の諸氏にして、高橋氏は現組合長で、久野治太郎、西尾寛の二氏は組合發展に多大の功績を遺した。理事は伊藤喜四郎、松井廉三郎、藤田

健治郎、久野熊治郎、西尾自得の諸氏。監事は鈴木育三、杉浦鹿藏、兼子清七、太田美彌次、増田佐平治、金井章平の諸氏である。

組合長

氏は明治二十年二月二十日の生れにして、夙に村民の信頼

石川、鳳至、諸岡村

村會議員 表

良

當家は開祖不詳なるも、十數代を數へる舊家として知られ、代々農を専業とし傍ら副業として養蠶業を営んでゐる。

先代勝三郎氏は村會議員として村自治の爲に活躍し、また學務委員として村教育の上に盡瘁するところ大であつた。氏は明治十九年先考勝三郎氏の次男と

組合長

氏は人となり聰明穎悟、公共精神に富み、衆に推されて村會議員に擧げられ、多年村政に寄與するところ多く、現在は本組合長として、鋭意産業の振興に盡瘁してゐる。

専務理事

氏は明治四十三年十二月の出生。年正に壯年期にあり、春秋に富む有爲の人物として上下の信望を萃めてゐるが、昭和十三年より推されて本産業組合専務理事に就任し才腕を振つて居る。

静岡、榛原、菅山村

菅山村 信用販賣 組合

本村には從來何らの産業組織も存在しなかつたが、遂に昭和十一年十二月村内有志の發起によつて本組合が設立された。組合員は概ね村民の七割に及び、業務も著々と發展の一路を進みつつある。

専務理事

氏は生來濃厚謹直の人で他面すこぶる實行力に富み、大正

静岡、磐田、龍山村

龍山村 信用購買 組合

十五年より昭和五年に至るまで、村役場に勤務して村政に多大の貢献があつたが本組合設立に際し推されて、専務理事に就任し上下の信望を得てゐる。

して生れた。金澤縣立工業學校を卒業した技術家で、今日氏の如き有能な人材を得てゐることは、當村の向上發展の上に實に幸である。又學務委員、氏子總代、檀家總代として専心村のために活躍し、目下紀元二千六百年記念事業として、植林計劃や道路改修を目論んでゐる。眞宗に信仰を有する濃厚の人格者として村民の信望厚く、家庭は子女三名ありてまことに圓滿である。

静岡、榛原、下川根村

下川根村 信用販賣 組合

當組合は大正六年八月十六日有限責任下川根村信用組合として創立、當初は購買事業のみであつたが昭和八年保證責任制に、更に昭和十二年三月信用利用組合となり、昭和十三年十一月七日現在の四種兼營となつたが、業績順調に發展の一路を辿つて居る。斯くして現任役員それぞれ業務に精勵してゐる。

當組合は明治四十三年有限責任瀬尻信用組合として設立し、昭和六年販賣、購買を開始し、昭和十三年龍山村信用販賣購買利用組合に變更し全村を區域としたが、業績順調に發展し、極めて好成績である。

歴代組合長は片桐善八、松下熊太郎、泰澤權十、今澤今朝市、森住嘉市、片桐壽、笠原清吉、大石太次郎の諸氏である。現組合長は大石太次郎氏にして、理事は森住嘉一、笠原清吉、宮津千丞、大石健良、宮澤安太郎、御室盛、西尾乙吉の諸氏、監事は大手甚藏、内山市太郎、鈴木秀治、青山藤太郎の諸氏である。

組合長

大石太次郎 氏は明治二十一年一月十日の出生、區長、村會議員等に歴任して、貢獻する所あり、昭和七年組合長に推されて今日に至り、その功勞顯著なるものがある。家庭は頗る圓滿を極め、和氣霽々としてゐる。

静岡、磐田、向笠村

向笠村 信用販賣 組合

當組合は昭和七年有限責任向笠信用組合として、匂坂元氏等の主唱により金融機關として設立され、昭和十年に至り販賣購買利用を附加したが、當事者の董督、鋭急宜敷を得て、罕に賭る好成績を示して居る。

創立以來の功勞者は匂坂元氏にして、現組合専務理事は青島安平氏、組合主任は金丸才郎氏で、理事は鈴木林平、寺田吉太郎、高塚重郎、永田一治、馬淵嘉平治、橋本伊重の諸氏、監事は鈴木千萬之進、寺田鏡次、馬淵甚一の諸氏である。

専務理事

青島安平 氏は明治二十年十一月の生れにして、沈斷英果、敏腕の評あり、助役、警防團長、村會議員等に擧げられて幾多の功勞があり、組合専務理事としても腕の冴えを見せて居る。

静岡、磐田、今井村

今井 信用販賣 組合

本村には古來太田信用組合なる組織あり、大正十三年三月有限責任今井信用販賣購買利用組合に變更したが、組合長以下各役員の寧日なき奮勵に依つて、業績は罕れに賭る好調を示して居る。特に當組合の特色としては、子寶貯金据置貯金、更生貯金等の外に葬具の利用役員會の際は必ず神を拜する事、サイレンの設備を有する事等である。

組合長

寺田久彌 氏は明治三十二年二月の出生で、資性温厚和順で進取心に

富み、永らく周智郡農會に奉職し、農事に關する學識經驗を有し、組合の爲めに其蘊蓄を傾けつゝあるので、村民の信頼極めて篤く、業績見るべきものがある。村會議員、警防團長としてその才腕の冴えを示して噴々たる好評を博して居る。

静岡、濱名、龍池村

龍池村 信用販賣 組合

當組合は大正七年六月十二日、有限責任として、小松市平、松本熊吉氏等の主唱により設立し、のち保證責任に變更したものであるが、業績は逐年好調を示し前途刮目すべきものがある。

歴代組合長は鈴木清三郎、長谷川一郎、小松市平の諸氏にして、現組合長は加藤儀作氏である。

理事は河合孫六、松島玉吉、伊藤俊平市川庄平、吉野嘉平治、長谷川金作、小杉茂七、柴山恵一郎、小杉芳平、長谷川速平の諸氏、監事は永井義一郎、門奈甚

八、野入俊道、小杉新吉の諸氏にして、信用評定委員は加藤龜太郎、加藤市平、松本熊吉、鈴木辰男、本間滿平、伊藤房吉、米澤金光、本間幸平、小杉源二郎、佐野謙三の諸氏である。

組合長

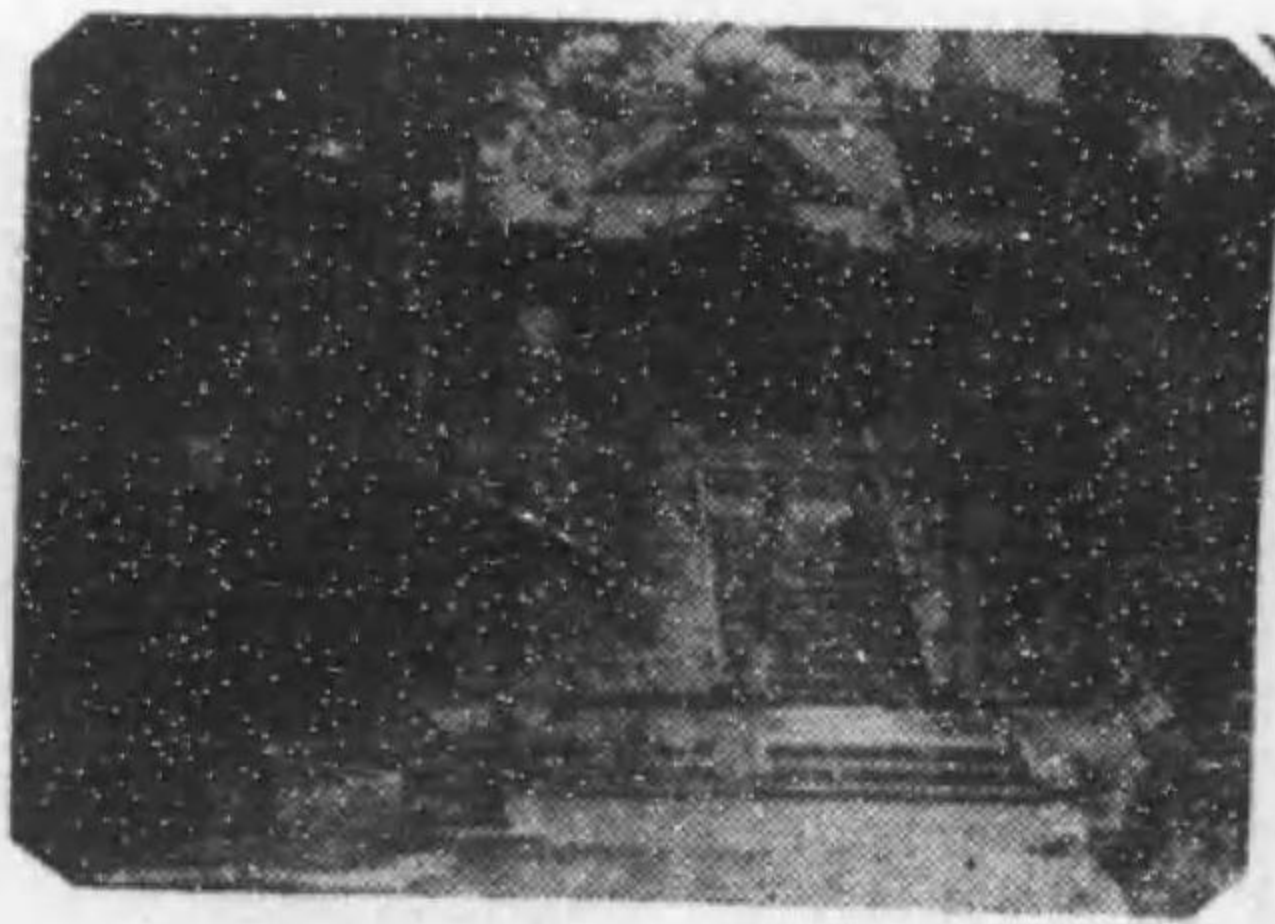
正六位 氏は明治九年二月の生れ中央大學を卒業後、大藏省官吏となり、後朝鮮銀行總務部長の重職にあつて精勵、退職後その功により



農會長、産業組合聯合會静岡支部理事を兼任し村内元老として重きをなして居る

静岡、濱名、吉野村

福聚山 長榮寺



開山 寺の境内にある同寺の境内にある普賢三身宮は、その御靈驗あらたかにして毎年三月十二日には遠近より善男善女の參詣頗る多く、大いに賑ひを呈してゐる。現住職は芝田春光氏にして、總代は六名である。

當寺は數回火災に逢ひ、古記録烏有に歸して、開基判明せざるも、元龜年間に

昭和九年四月より東横百貨店に勤務し、



後熱海百貨店支配人として榮轉今日に及んだ温厚篤

實の紳士である。家庭は實母とく刀自(五四)が健在であり、令閨はたさん(三〇)との間に一男一女がある。

静岡、庵原、蒲原町

蒲原町漁業協同組合

明治四十年頃蒲原漁業組合及片濱漁業組合の二組合が設立されたが、昭和七年合同で蒲原町漁業組合と改稱し、小林庄藏氏が推されて組合長となり、更に其後昭和十三年に蒲原漁業協同組合と改稱し冷蔵冷凍庫を新たに設備しその業務を整へた。

漁業状況は櫻えびを第一とし鮭、鯉、鰻等を対象とする。

理事は組合長小林氏の外海野茂三郎、戸塚善助、磯部佐太郎、井上金平、山嶋周作、海野晋吉、磯野鐵次郎の諸氏。監事は岩科晋藏、朝原伊之吉の兩氏である職員には主事井上禮氏技術員小林久氏その他山本長太郎、山本兼治、山崎秀吉磯部安吉、森誠智の諸氏が活動してゐる

組合長

小林 庄藏

同氏は當年四十二歳の壯年期にあり、非常に熱心家で、業界に多大の貢献をしてゐる。氏はその他伊豆銀行蒲原支店長、郡水産會長、那櫻組組合長、縣漁業組合聯合會常任理事を兼任してゐる。

主事

井上 禮

氏は本組合の前身たる元蒲原漁業組合の合併當時の組合長たりし井上國太郎氏の孫で現理事井上金平氏の長男である。静岡商業の出身で昭和七年の合併當時より主事として組合に

入り、一切の業務を統理監督しつゝ今日に至つた功勞者である。

静岡、熱海市和田

温泉旅館

瑞雲莊大野屋

電話三二二一番

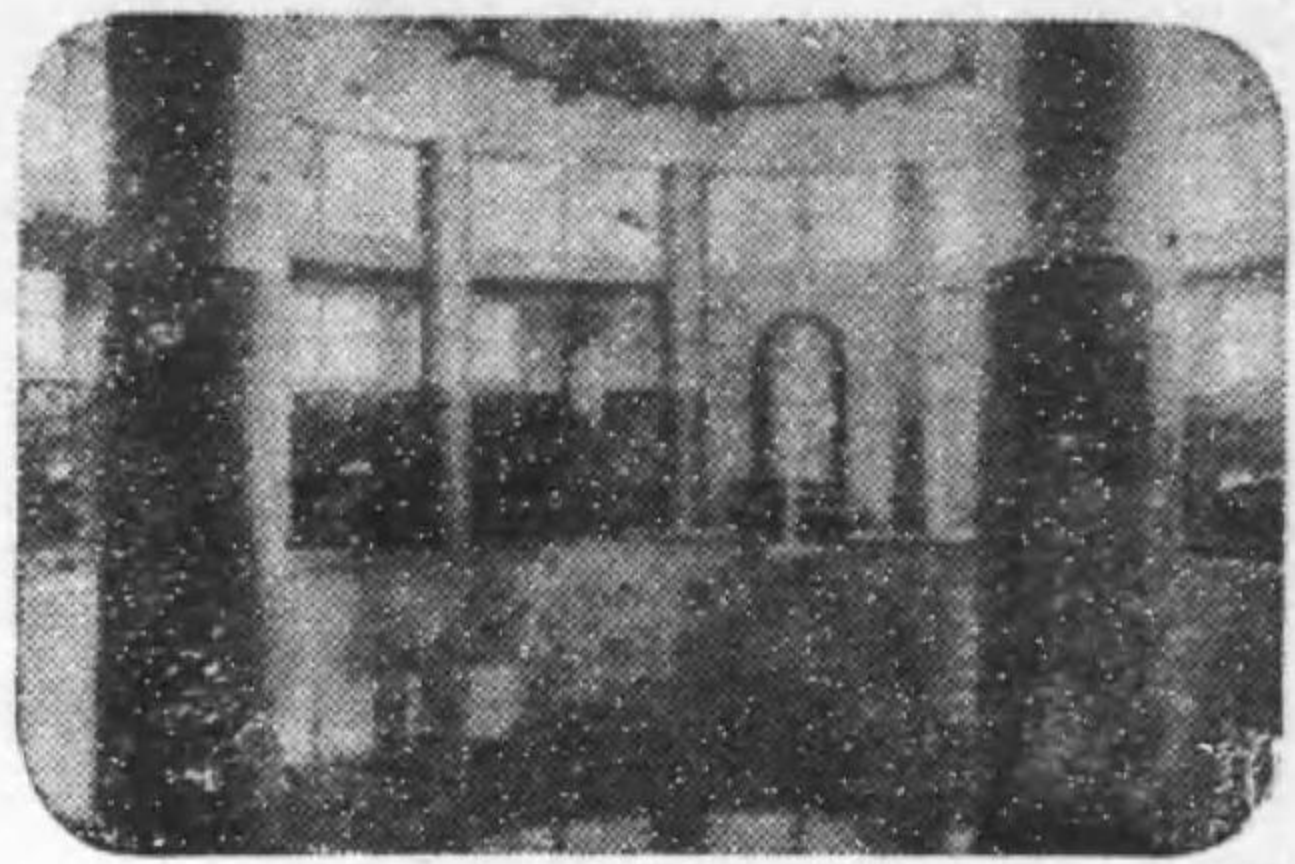
當館は昭和十二年一月の創業で熱海驛



前から伊東のバスにのりて和野下車すれば約三分で到る。

客室は百二十室で、參百疊の大廣間の外に八十疊一間、五十疊三間があり收容人員は約八百名である。

娛樂機關は、玉突、ピンポン、音楽室ホール、スポーツランドその他完備し、



浴 室 の 一 部

浴室にはロイ風、家族風呂等八ヶ所もあり、喫茶店、

賣店等の設備もある。

當館はジャバンツーリストビューロー静岡縣廳等の指定旅館となつて居る。又當館の源泉は館内にあり、一日の湧

出量六千石に達し、泉質は弱鹽泉で胃腸病、外傷性障害、神経系病患、婦人病等に卓効がある。

經營者

大野 市郎

大野家は新潟縣長岡市に於て旅館を業とし、氏の嚴父富治氏(五四)は目下長岡市にあり、各地に支店を設置し、その統率にあつてゐる。市郎氏は富治氏の嫡男明治四十三年十一月廿五日の生れ、長岡中學を卒業し、更に現神戸商大の前身神戸高等商業學校を卒業したインテリである。旅館業に就ては箱根富士ホテルで三年修業し、熱海市における本館の經營にあつてゐるが、少壯よく成績をあげ、今日の盛大を來した。家庭には令閨欣子さん(二五)との間に一男一女あり。

静岡、磐田、山香村

山香村信用販賣組合

當組合は大正十五年九月二十七日有限責任山香村信用組合として設立した。設立の主唱者は村長三井伊太郎氏にして當初は地方金融機關たるに過ぎざりしも、昭和十二年に至り保證責任となり購販利を附加した。現在組合員數は二百三十八名にして、購買部は米麥類、肥料類、石鹼類、雜貨類等を取扱ひ、利用部事業は精米、製粉倉庫作業場等を運営し、曩に龍山村瀬戸にも倉庫を新築した。組合の發展に貢献せる歴代の組合長は三井伊太郎、栗田伊兵衛、照澤靜平、森下和十、伊藤民藏の諸氏で、現組合長は伊藤民藏氏である。氏は當年六十五歳、永年に亘り村會議員として村治に活躍、その治績は頗る顯著なるものがある。

専務理事

佐々木米作

氏は明治二十八年十月二十七日の誕生にして、消防組頭、村會議員等を歴任して、組合創立當時より専務理事の重責を帯びて其の才腕を發

揮して居る。

高知、吾川、伊野町

日本紙業 伊野工場

電話五十九番

常工場は明治十九年伊野製紙合資会社として創立され、後、土佐紙工業株式会社所屬工場として多年活動を續けて來たのだが、大正十五年日本紙業伊野



大を以て本邦製紙業界に於ける重要工場の一と數へらるに至つた。

主なる製品としては、各種コピー紙、帽子原紙、謄寫版原紙、青寫眞及び陽畫感光紙等にて、日本内地をはじめ鮮滿、支那、南洋から更に遠く歐米諸國に迄輸

出され、その優良なる品質をもつて新界に普く推賞されてゐる。

明治四十年十一月六日、大正天皇皇太子殿下にまします御時高知縣行啓の節、長くも常工場に侍從を御差遣遊ばされ、更に大正十一年十一月二十七日、今上陛下攝政宮殿下にまします御時、畏くも行啓の光榮に浴し、従業員一同の感激は今も猶深く胸に印されてゐる所である。

工場長

土居政之助

氏は明治廿六年、當地有數の實業家たる先代喜久彌氏を父として生れ、高和市立商業學校卒業の後、常工場に勤務し、格勵十數年、今や名工場長の名を恣にしてゐる傍ら、和紙輸出振興會委員長その他の要職を兼任して統後業界の振興の爲に大いに盡瘁しつつある。

静岡、富士、大宮町

區長 栗田 孝策

氏は明治二十四年生れ、代々大宮町に居住、地方著明の材木問屋として知られてゐる。

廣く内外産の製材に當り、業界の重鎮として普く知られ、また町内に於ける名望家として町民の信望を集めてゐる。

現在第九區長の要職にあつて區民の指導に盡力し、將來全區が専ら商工業地區として發展す可く特に氏は此方面に對して大童の活動を續け、その濃厚な性格と相俟つて町民より親しまれ、將來の活躍に一層の期待と支持がかけられてゐる。因みに氏は大宮町本町二二二に居住し、夫人との間に四人の子寶に恵れ、和氣瀾々とした家風をなしてゐる。

静岡、富士、大宮町

區長 加藤 秋太郎

電話大宮三二三番

開祖以來當町に在つて榮え來た町内の舊家として先代より米穀商を營み、當時

縣下初めての動力使用をなし縣當局より非常な關心を持たれる。氏は明治十三年に呱呱の聲を擧げた。

現在氏は第八區々長として新體制下の町政の一翼を擔ひ、また米穀商業組合長納稅組合長として活躍してゐる。殊に配給米制度となり、新たに大宮町中部配給所が設置されて以來、よく時局を認識して國策に協力してゐる。



氏常に區民に對して貯蓄を奨勵し、著々その実績を擧

げ區民より感謝の的となつてゐる。

又出征遺家族等に對する奉仕には率先して當り、且つ毎晩淺間大社に詣で、兵士の武運長久を祈願し、これが前線兵士の知る所となつていく感謝されてゐる。家庭には夫人との間に三男二女があつて圓滿を極めてゐる。

静岡、富士、大宮町

農會會長 渡邊 福太郎

當家は代々大宮に在り、現主は廿二年前に當家の養嗣子となり今日に至つてゐるが、もと富士郡須津村の出身である。家業としては農耕を營み、傍ら、富士山頂上の賣店を一手に引受けてゐる。

氏は大宮農學校の出身で、曩に警防團顧問、町會議長として縦横の活動をなし、現在農會會長



町會議員、養蠶組合實行長、郡家畜産部組合副會長、大宮産業組合理事等を兼職して大童の活躍をなしてゐる。

殊に大宮町農業者部落民の指導に夙夜努力し、その現れとして現産組誕生に率先努力し當組合をして、よく今日の隆盛に

致させた創立主唱功勞者として衆望を擔ひ、又町政に對しても獻身的な努力を致し、町會議員間の重鎮として知られてゐる。

資性明朗にして温順、夫人との間に二男一女があり、令姪一人を加へて和氣溢るゝばかりである。

静岡、富士、大宮町

日本絹絲紡績株式會社 大宮工場

電話大宮一三九番

本社は大正七年の設立最初日本ベマ紡績と稱し、大宮町最初の絹紡工場である。大正十二年日本絹紡績株式會社と改稱し、今日では町所在隨一の大工場として町産業發達に寄與して居る。

製品としては朝鮮より大麻を購入、スフ絹との混紡を生産し、尙時局生産として人絹紡毛等の製造に當つてゐる。仕向先は主にして、伊勢崎、前橋の機業地に向けられ、又輸出品としては富士絹

などを多く出してゐる。

殊に勞務者教育に力を注ぎ工員の人格向上に模範教育を施し、勤勞者教育中央會支部を設けてゐることは本工場の特徴とされてゐる。

工場長

氏は山口縣防府町の出身、京都帝大應用化學を卒へ、大正十四年當工場の更生に當り工場長として迎へられた。

氏の工場の統率は協力、誠意の誓ひ、自我慾の節制、團體生活の訓練、責任感の強化、指導者信念に基づく誘導等を通じて能率の増進に一路邁進してゐるが、その熱意と人格は全従業員に尊敬されてゐる。

静岡、志太、六合村

全國マオラン栽培者組合六合村出張所長

提坂 宗吉

氏は明治四十年十月十三日生れて、故尊父惣平氏の次男として呱呱の聲を擧げ

當家九代目の家督を繼いだ。

代々農業を営んでゐるが昭和十三年來マオランの栽培に着眼して、農業部門に新生命を注入したことは村民より注目されることとなつてゐる。

昭和十四年には五、〇〇〇本の栽植をなして成功し、同十五年には一五、〇〇〇餘本の植付けを行ひ益々その業績を高めてゐる。

現在青年團の幹事として統後農村高師の指導にあたり、またマオラン栽培者組合の六合村出張所長として農村副業の福利發展のために奮闘しつゝある。

家庭にはいし母堂健在し、やす夫人との間に長男幸一郎君、長女悦子さん次女幸枝さんを恵まれ圓滿に暮してゐる。

石川、羽咋、志雄町

從七位、勳六等 志雄町軍友會長

山本 豊作

山本家は代々當村に住み、農を以て家業とする村内屈指の舊家で、現主豊作氏

に於て數十代の家系を誇る名門である。

先代淳氏は篤農家の名を近隣に誦はれ稀に見る勤直精勵の士で、地方自治に農事改良に寄與するところ大なるものがあつた。

當主豊作氏は明治十二年十一月呱呱をあげ、長じて山本家に入り、養嗣子となつた。郷校卒業の後、一年志願兵となり明治三十七年、日露戰役勃發するや勇躍出征、各地に轉戦して偉功をたて、凱旋と共に陸軍中尉に昇進した。

歸村の後は當町の前身たる志雄村、村會議員に推されること數期、又區長、助役等要職に就いて村政の刷新向上、村民の福利増進に寄與するところ多大であつた。

又大正十二年十一月には、南島知村農會長に就任し、村内産業の改革振興、農産物の増收を期して粉骨碎身の活動をしその努力に因つて本村は産業方面に於て他村を遙かに凌ぐ業績を示すに至つた。更に氏は現在、軍友會々長として、重

大時局に當り、幾多の統後の任務に寧日なき活動を續け、深く村民の感謝を受けてゐる。又曩にその功勞に依り、陸軍大臣より感謝狀を賜つた。

石川、江沼、河南村

加賀織物工場 塚谷工場長

那部 清三

當社は明治四十年に創立されたもので當時塚谷工場の工場長には安田氏が就任し、那部氏はその後を承けて、工場長の任に就いたものである。

氏は明治四十一年五月二十四日の出生で、金澤師團歩兵上等兵にして、今次事變に出征し、約二年間中支に轉戦、赫赫たる武勳を樹て去る十四年七月歸還した勇士である。氏は夙に絹糸の改良の必要性を認め、爾來その實現を期して、一路邁進してゐる。

圓滿なる氏は加賀、塚谷、兩工場の慈父として、全従業員より信頼せられ、生産能率を高めてゐる。

家庭には令室キミさんとの間に、長男克夫君(九歳)長女和佐さん(五歳)の愛兒があつて、元氣溢るゝばかりである。

石川、江沼、那谷村

警防團長 本谷 孫佐久

本谷家は當村有数の素封家で、代々農業を営み來つたが、先代伊之助氏より醬油醸造業を始め、今日に至つた。

氏は明治四十四年伊之助氏の長男として生れ、家業に勵む傍ら、住時の消防組頭を務め、當時衰退しつゝあつた消防組



を再興せしめ、爾來よくその任を全ふし無火災無事故

を誇り得るに至り、村民の感謝を集めてゐる。現在は警防團長の榮職にあり、防空、防火に當つて活躍する警防團員の良

き父として、遺漏なき指導を致し、一方家庭防火陣の強化につとめてゐる氏の功勞は極めて大である。

資性は明朗快活にして、眞宗を信仰し常に隣保共助を提唱して村民の覺醒を促し、逐時共存共榮の實を擧げてゐる。

静岡、富士、富士根村

村會議員 竹川 馬太郎

當家は代々當村杉田に住する舊家で、製茶業には五十年の歴史を有する名家である。



當氏は明治廿六年の岳降にして、家業に精勵する傍ら、推されて村會議員、警防分團長、産業

組合評定員、那茶業組合議員の各職を兼任して村政、産業兩方面に盡力し、曩に

は消防功勞者として表彰された。
 當家の製茶は年産額廿二、三萬貫の多
 數に上り、獨り内地のみに止らず、海外
 にも販路を廣め、地方製茶界に一地步を
 占めて居る。
 氏は又家庭にも恵まれ、夫人との間に
 三男二女あり、長男虎雄氏は目下北支出
 征中の勇士で、數度に亘り戦地より郷里
 に送金、これを遺家族に贈りたる美舉は
 衆庶普く感謝感激し、皇國の模範家とし
 て絶讃されてゐる。

高知市城見町

大野商事 大野 新兵衛

電話一七三六番

氏は安藝町の出身、明治三十三年に呱
 ☆の聲をあげ、十六歳の時、高知市に於
 て鐵工業を見習ひ、其後幾多の辛酸を舐
 て、二十歳の時東京に上り芝區に於て木
 工職に従事し、以後眞摯なる努力に依り
 職長となつた。大正十三年、高知市に歸

つて獨立事業を創始し、古鋼鐵、諸機械
 ボイラー、各種パイプ、工具類の販賣を
 なし、日
 増しに業
 績を擧げ
 遂には大
 阪逓信局
 指定商と
 なるの信用を得た。のち木工及び鐵業請
 負、自動車修理業も營み、今や四國に於
 ける業界の覇者と仰がれるに至つた。先
 年、推されて四國中國古鐵再生卸商業組
 合理事長の要職に就任し斯界に大いに貢
 献した。



高知市南元町一〇
 青果土産 山本 巽
 電話二二〇四番

嘗て無産者運動華やかなりし頃、氏は
 社會の缺陷を指摘し、無産者解放を叫び
 醫業國營論を主張し、更に自費を以て無
 産者診療所を開設するなど、思想と實踐
 と一致した人で、社會運動史上に残した
 功績は大きい。
 ヨシ夫人との間に幸一君、忠幸君の二
 令息あり、共に勉學中の多幸な家庭を營



高知市南元町一〇
 青果土産 山本 巽
 電話二二〇四番

方を初め、北陸、中國から、遠く北海道
 樺太地方に及び、海外にも送り出され、
 取引高は巨額に上つてゐる。
 氏は魚釣りを趣味とする濃厚なる人材に
 て、家庭には母堂健在し、一女繁さんは
 神戸市成徳高等女學校出身の才媛、先年
 養嗣子薫氏を迎へて圓滿なる日常である

高知市若松町

泉屋運送店 出見 惠吉

電話三三八番



氏は徳島縣海府郡輻奥町の出身、夙に
 志を海運界に立て、大阪府立商船學校に
 學ぶ。大
 正七年同
 校を卒へ
 るや大阪
 商船に入
 社し斯く
 て數年後同社を退社して獨立、現在の泉
 屋運送店を開業し、爾來専心家業に注ぎ

て、遂に高知市に本店を安藝郡田野町に
 支店を設け、其他各地に特約店を得るに
 至つた。推されて高知地區海運業組合理
 事及び日東部支部長の職を兼ねて活躍し
 船腹不足の近海航路に貨物の圓滑な運送
 を圖り、私利私欲をかへり見ず盡力しつ
 あり、當地業界の重鎮である。
 氏は清廉、果斷海國男子の面目躍如た
 るものがある。

高知市旭井口町

製紙業 小松 武正



氏は香美郡東川村の出身、製紙業は先
 代兒三郎氏の代に開業され、父子二代に
 亘り斯業
 に専念し
 て來たも
 ので、顧
 客には絶
 大な信用
 を持たれてゐる。

氏は市立商業學校を優秀な成績にて卒
 業し、嚴父の遺志をうけて業界の人とな
 った朝氣滿々たる奮闘ぶりを示してゐる
 清廉潔白にして、奉仕の念厚き氏は、
 自らの事業に依る利潤と社會公共に及ぼ
 せる利益が同一の場合で無い限り決して
 之に染手せず、衆民よりいたく尊崇され
 てゐる。
 現在は與望に應へて井ノ口町惣代、家
 庭防空聯合組合長等に就任し、統後自治
 に盡力しつつ、スポーツ、角力に繁忙な
 寸暇を樂しんでゐる。

高知、高岡、佐川町

司牡丹酒造 株式会社社長 竹村 源十郎

氏は明治十三年、長岡郡後免町の中澤
 家に生れ、當地方の豪商たる當家の養子
 となつた。
 縣立第一中學校在學當時から秀才の譽
 高く、頭腦明晰にして才氣煥發、大司牡丹
 酒を創造した醸造家として著明である。

氏はまた高陽銀行佐川支店長、司牡丹



全 景

石川、江沼、橋立村

村會議員 平井 徳太郎

電話橋立八番

酒造 株式 會社 佐越 生糸 株式 會社 取締 役、 片倉 佐越 製絲

氏は石川縣河北郡の出身であるが、志を立て、橋立村に移り海産物業を営み、幾多の辛苦艱難を経て、江沼郡切つての大魚問屋となつたもので、取引は遠く福井縣下に及び、當家の家號は其の地方の人の知らざるはなしと云ふまでに至らした立志薄中の人である。

村民の信望又極めて厚く、四十歳の時選ばれて村議となり、その後今日に至るまで二十年間村政自治の爲めに大いに盡瘁し來つてゐる。目下進捗中の橋立港の築港は氏に負ふところ多く、完成の際には海産物の販路擴張等に役立ち、大いに當村を益するであらう。

家族は夫人との間に三男あり、長男義一氏は警防團幹部として重きを成し、二

男、三男は共に出征中、各々大陸で活躍中の武門の家である。

石川、羽咋、邑知町

町會議員 藤岡 滋

當家は開祖五代に及び當町内屈指の舊家で、代々農業を營んでゐる。祖父善右衛門氏は三十年間區長を歴任し、又村議たりし事のある村政に功勞を遺した人物であり、實父直三氏は當年六十八歳の村内の長老で、村議、助役、收入役等の公職にあつて村内自治に盡瘁した人である

氏はその長男として明治三十三年呱呱の聲を擧げた。飯山高等小學校を卒業後専ら家業に精を出してゐたが、偶々日支事變に逢ひ、北支派遣軍の一勇士として出征し數々勳功を樹て歩兵上等兵となつて歸還した。

氏は現在町會議員の榮職にあり、専ら精神教育の必要を説き、村社推葉園比畔神社の郷社昇格問題に奔走し、以て敬神

思想の普及に努めてゐる。また推葉園比畔神社の拜殿が、桃山時代の名士の造築するところ國寶妙成寺と同一建築物であり、目下國寶指定申請中のものである。なほ貯蓄獎勵を目的とする圓井共和會長を兼ねられ、會員四十數名を擁して着々その實蹟をあげてゐる。家庭には夫人との間に三男三女あり、和氣溢るゝばかりである。

石川、能美、小松町

町會議員 岸本 徳二

氏は當地切つての、織物業者として聞え、目下國策的代用織物の試織に努力中であるが、町會議員に推されるや、當町市制實施問題に參畫し、近接二町六ヶ村に亘る各代表者と懇談すること、實に數十回に及んだ。

町長、東方氏職を辭するに當つては、元警視たる山口又八氏を迎へるに多大の盡力を惜しまなかつた。又、町民間に政

黨關係の軋轢あるを憂ひ、抜本塞源的努力を續け徹底的に惡弊の根絶に當り、氏以外の者の克く成し能はざる所を遂行して町民より感謝された。責任明快にして先見の明あり、且、果斷にして政界實業界往くとして可ならざるはなく、氏一流の郷土愛に根ざす町會議員としての手腕は、市制實施を前に全町民に大なる期待を受けてゐる。

高知市本町

高知洋服商業組合

電話一五三五番

本商業組合は昭和九年十一月十四日武藤初代理事長を中心として創立したものであり、異數の躍進をとげてゐる。目下第二代理事長甲藤悦馬氏、理事、入交義具、黒岩熊吉、横山保治、三井喜好、沼國重、沼連、吉田善次郎氏又監事は吉永作治、服部孝三、江川龜治氏で書記は前田福松氏等の陣容で同業間の相互向上の

ため大なる貢獻をなしてゐる。



事業内容としては表生地取次、及び附屬品一切の仕入

並に販賣製品検査等で、特色としては綿製品、加工裁斷所、軍需品下請加工を行つてゐる。

理事長

甲藤悦馬

氏は明治十七年十月生れ、大正十二年に洋服商を開業し

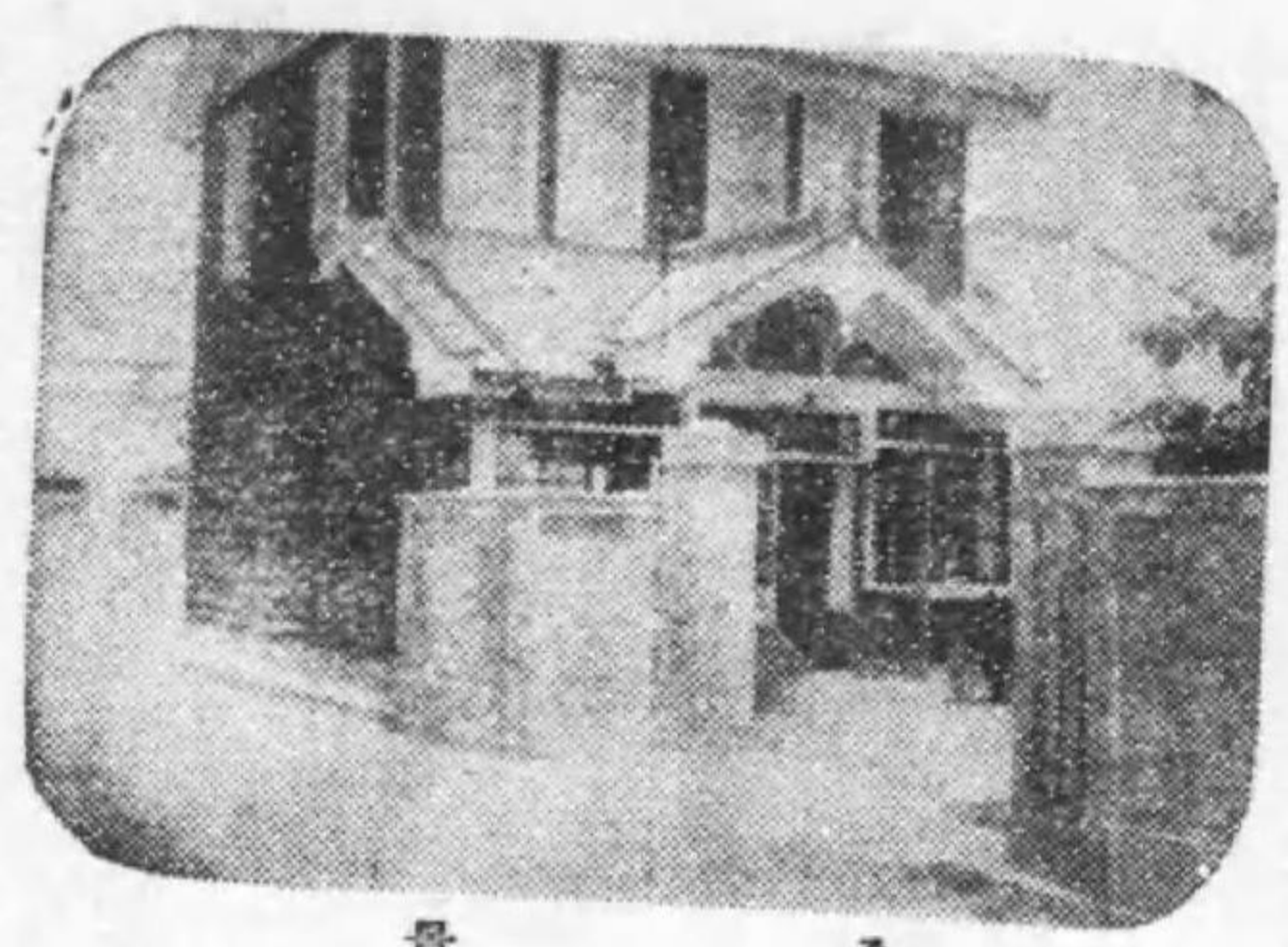
拮据よく獨力で今日の大をなした立志傳中の人である。現在同組合理事長たる他種々の役員となつて業界のために盡してゐる。

高知、安藝、奈半里

奈半里産業組合

本組合は大正十三年六月の設設にかゝ

つてゐるが初代組合長は包國可治氏、初代専務は久保田徳太郎氏である。創立當初久保田専務理事は町長の要職



全 景
他村の機運に動かされ、組合を創設したのも

あるが、それ以前に消費組合が挫折悲境に至りし事實があつたため、當組合の出發は相當の困難があつたのである。全員も初め二二名であつたが現在は五十四名に躍進増加してゐる。理事は、廣米利吉(組合長)、西尾常吉

(専務)、坂本宇治吉、下村登郎、長野順五郎氏等であり、監事は西山繁吉、野崎楠吉、濱田佐五郎の諸氏である。

組合長

廣米 利吉 氏は本町出身にして、嘗て代用教員たりし事もあり、日露戦役に従軍、輝く武勳を樹て、勳七等青色桐葉章を下賜された。海運業をはじめて成功し、町會議員として町の長老である。

なほ専務理事に町内切つての敏腕家西尾常吉氏のあゝ事は組合の誇りである。

高知市須崎港

丸合製材所

電話二二四番

同製材所は昭和九年中村勘次郎氏の創設に係り、當時の須崎港は寂れたる一船着場に過ぎなかつたが、同製材所の發展と共に僅々數年にして製材須崎の名を轟はれるに至つた。以て同所の事業の如何

に盛大なるかを知る事が出来やう。營業は建築材を主とし、販路は實に關東、關西をはじめ、臺灣、朝鮮、北支方面にまで及ぶ盛大である。

經營主

中村勘次郎 氏は明治二十年和歌山縣新宮市に生る最初帆船マストの用材を專業とし、その名を全國的に知られてゐた。後、發動機の進出により同業を廢し製材所を開業す。嘗て新宮市の市會議員として活躍し當地移轉後須崎工業製材組合長として手腕を振ひ、現に土佐木材同業組合顧問の要職にあり、又多額納稅資格者である。

高知、土佐、布師田村

安岡榮久

氏は明治十七年の生誕。先祖は山内侯に從つて遠州掛川より來れるものである。夙に氏は蠶種業に志をいだき、早稻田大學理工科修業後、當時將來を氣遣はれ

てゐた斯業界に敢然として乗り出し、この國家的産業を飽くまでも發展せしめずんば止まずの意氣込を以て、品種の改良増産を計る一方、蠶業の發達にも力を盡すことに努めた。今や氏の苦心と努力は報いられ斯業は再び隆盛の機運に乗りつゝある。

家業益々盛大となり、幡多郡に出張所を設くるに至つた。

氏は資性頗る濃厚、而も鞏固なる意志の士として青年子女の師表と仰ぐに足る人物である。

長男一郎氏は金澤高等工業卒業の英才現在群馬縣の日本ニツケル若林工場に勤務してゐる。

高知、吾川、神谷村

製紙業 前村會議員 田村 正義

明治初年、祖父梶平氏の代より製紙業を創め、今日に至る。實に當村に於ける製紙業の鼻祖ともいふべきである。



正義氏は明治二十五年、忠次氏の長男として生まる。家業を繼いでより一展を計つて奮闘努力、今や事業は益々隆盛に向ひつゝある。

製品の種類は主として改良半紙にして品質の優良なるを以て擴く知られてゐる。又、徳望家として養には推されて村會議員、信用組合監事等の要職に就き、現に城西手漉和紙工業組合理事、並に信用組合評定員として、村政に、或は業界の爲めに盡瘁してゐる。

非常時局下、紙料不足の折柄、率先してこれが多量製産に努めてゐる。

趣味としては特に旅行を好む由。家族は當年七十一歳の母堂を初め、春美夫人との間に四男一女あり、賑やかな團圓を作つてゐる。

石川、金澤市松ケ枝町

生糸商 前多 平作

凡そ加賀生糸業界に在つて恐らく前多平作氏の存在を知らぬものは一人も居ないであらう。しかし華やかなるべき實業家の割合に極めて地味な性格の持主だけに、表面化することを好まず、只管、業務を守つて至極堅實に歩む方針なるが爲め、得意先の信頼頗る厚く、機業關係に於ては既に定評のある人物だ。今迄、幾度か公名譽職に推薦される機会もあつたし、自分が欲すれば、名譽慾を満足させるに充分であつたが、氏は決して表立つことを好まない。これが却つて信望を高める一つの原因にもなつてゐる。

青年の頃、長年、金澤市堤町今井清商店にあつて、業務を習得し、大正十三年獨立開業したが、持前の聰明な頭腦と先見の明により、開業以來旭日昇天の勢を以て隆盛の一途を進み、一躍、中堅人

物としてその将来を囑望されるに至つた
成功の第一歩は努力と實行にあり、第
二歩は努力と實行を繼續することにあり
といはれる。氏こそは實に努力の人であ
り、實行の人であり、この點、他の模範
とするに足る。事變下、生産力擴充の要
が叫ばれてゐる折柄、生糸業界にあつて
も生産の擴充は最も重要事とされ、殊に
内地重要物産の一たるのみならず、輸出
貿易品として重要役割を占めてゐる生糸
は外貨獲得の點から見ても、増産に積極
的に乗出すべきで、この際、業者は、協
力一致政府の方針に従つてその發展に邁
進すべきである」と氏は語つてゐる。

石川、金澤市野田寺町

立像寺

當寺は石川縣下隨一の由緒深き寺院に
して、本尊立像は今から約二百年前の作
といはれ、總持である。單に石川縣下は
かりでなく、北陸地方に於ける屈指の名

佛である。日蓮宗に屬す。

住職 師は明治六年十二
月二十四日の誕生、
飯田 惠音 立正大學の前身校た

る大檀林を出て、大正六年、四十六歳に
して富山縣高岡市法光寺住職より轉じ、
當寺三十代目の法燈を繼いで今日に至つ
た。人格高潔、檀徒の尊敬を一身に受け
てゐる。常に佛敎界の革新に意を用ひ、
殊に現下非常時局下に於ては各宗派の一
元化を計るべしと主張し、多方面から贊
助と激勵の言葉を寄せられてゐる。村雲
婦人會金澤支部長として多年勤続し、昭
和十四年辭任後は、同會顧問の要職にあ
る。司法保護委員としても常に活躍し、
偶々人生の軌道に外れた人達の教化善導
につとめてゐる。その他、社會敎化事業
關係の各種委員に推され、昭和十四年四
月には日蓮宗石川縣宗務所長に就任今日
に及んでゐる。
高弟も多く、中谷了英氏は立正大學敎
授、中谷堯從氏は昭和十二年九月支那事

變に應召し凱旋後は身延山信行道場に修
行を積まれて居り、西村堯學氏は目下立
正大學本科に在學中である。

山梨、南都留、鳴澤村

鳴澤村役場

當村は郡の西南部に位し、西は西八代
郡に接し北は西湖村長濱村に連り南は遙
かに延びて富士山頂に至り、山麓一帯の
地域を占む山林原野をなす。
重要産業は繭、麥、桑等である。時局
下農村振興策の叫ばれてゐる折、名村長
梶原氏を得て、縣下の模範村たらんと活
氣に燃えてゐる。

村長 梶原 昇平

開祖以來實に十一
代といふ家柄で、代々蠶種製造業を營み
先考徳太郎氏は助役村會議員の公職にあ
つた自治の功勞者である。
氏はその男として明治十七年八月に生
れ、偶々日露役起るや勇躍奉天戰に參戰

從軍徽章を賜つた。前には愛國、國防婦
人分會長を勤め、また本郡蠶種瑞穂支部

財團 大日本敎育映畫協會 金澤支部

長を十ヶ年間勤め上げた功勞者である。
なほ昭和十四年八月、推されて村長の
榮職を擔ひ、村會議員として既に二期目
であり、傍ら榮正蠶種合資會社の理事を
兼務してゐる。

家庭にはヨシ子夫人との間に長男喜八
郎氏、次男福雄君があり、三男徳長君は
今事變に應召、名譽の戦死を遂げた。

石川、羽咋、柏崎村

村會議員 木村 次作

當木村家は本家の次男たる次作氏が分
家創立したものである。
殿父久次郎氏は篤農家として有名な人

物で、農事改良を率先躬行、村内の模範
的なる人物であつた。

當主次作氏は久次郎氏の次男として明
治八年二月二十四日呱呱をあげた。人と
なり濃厚篤實、清廉潔白の士で、幼少よ
りその英才を謳はれた。郷校を卒へ、長
するや分家して専心農に勵み、農産物の
改良、增收を期して日夜研究を劣らず、
注目すべき成績を示したのである。

他方早くより自治公共のことに干與し
村會議員に擧げられること三期、その他
學務委員、區長、國勢調査員、檀家總代
等多數の公、名譽職を歴任、その間村政
の刷新向上、村民の福利増進に寄與する
ところ大なるものがある。

氏の功績は、自治制發布五十周年記念
に村長より表彰され、又國勢調査員とし
て同様表彰される等氏の信頼はますます
高められてゐる。

尙、家庭には夫人きくのさんとの間に
一男一女あり、圓滿なる家風をなしてゐ
る。

石川、鹿島、高階村

警防團長 村會議員 林 庄松

當家は三代前に此の地に轉住して、畜
産事業に従事し、専ら馬匹改良に意を用
ひて來た。

當主庄松氏は先代庄太郎氏の男として



明治二十
六年一月
の誕生に
て、大正
二年軍籍
に入り、

朝鮮守備兵として重き任務を全うした。
又、夙より村自治に參與して、曩に
村農會長、消防組長、區長、郷軍分會長
縣防犯委員等の要職を兼務し、又現に村
會議員、警防團長、區長、畜産委員等幾
多の公職に就いて、銃後農村の村治産業
の振興に盡瘁してゐる。
特に今次事變に際しては軍馬八頭を北

支の戦野に送り大に寄與するところがあつた。

家宗として眞宗を信奉してをり、家族は令閨キクイさんとの間に長男庄氏、次男正考さん三男富雄さん長女梅子さんの子福に恵まれ圓滿なる家庭である。

石川、金澤市彌生町

市會議員 園谷 音吉

氏は能美郡國府村の出身、明治二十三年に生る。夙より政界に志をいだき、十九歳にして郷關を出で、縣下政界人と互して大いに學ぶところあつたが、大正



四年石川縣會議員の改選の際には頗る盡力をなし、政界に認められるに至つた。その後、土木業に乗り出し、石川護國

神社建築土盛工事、石川縣小野慈善院移轉改築土盛工事、石川縣河北郡本村小學校建築、金澤水道工事等の事業に當つて大なる功績あり、數次に亘つて、感謝状及び金杯を受けた。市會議員のほか金澤市土木建築業組合幹事として、非常時局下の市政及び業界のために献身的の活躍をつゞけ、大いに貢献してゐる。

高知、高岡、高岡町

大東織維工業株式會社工場長 千頭 吉太郎

氏は本縣須崎町の出身で、明治二十四年に生れた。製紙業に關する多年の修業時代を経て、マル精合資會社の設立に參與し、紙業界に力強い歩みを踏み出して著々成功への基礎を固めた。遂に昭和五年獨力をもつて土佐製袋所を創立し、閉自在出入口附紙袋を發案して特許權を獲得、斯界に大なるセンセーションを起



工場の一部

したのであつた。更に煤煙防止器を考案して新案の特許を得、又、最近の黄麻の織維の精製法を考案し

高知、安藝、奈半里町

藤村製絲株式會社

本社は大正六年十月、現社長の尊父、藤村米太郎氏を頂き、資本金十二萬圓を以て創立し、爾來、社員一致協力して内容の充實を計り、諸般の業務を刷新して縣製糸界に著々其の地歩を高め、現在資本金二十四萬圓、株數二四〇〇株の多きを數へるに至つた。

近時國際問題極めて複雑を極め、斯界の經濟的變動も一段と激しい折柄本社は職員並従業員一同克く一致歩調を揃へて家族的親和の中に營々として其の業績を向上せしめ、自治産業の大精神を深く認識して非常時局下、産業報國に邁進しつつある。

現在役員は取締役社長、藤村徳治、専務取締役、坂本宇治吉、取締役、坂本虎江、監査役、安岡省馬、同松岡久吉の諸氏である。

專務取締役

坂本宇治吉

氏は明治二十七年奈半里に生れた。大阪職工學校の出身にて、町會議員、信用組合理事、縣製糸業組合副組長、司法保護委員の要職を歴任した。温厚篤實、正廉潔白の人格者で社を今日の隆盛に至らしめた功績は永く銘記すべきところである。家庭には嚴父並びに母堂をはじめハツ夫人との間に三男二女がある。

高知、幡多、奥内村

安滿地漁業協同組合

電話弘見五番

本組合は明治四十五年、漁業法改正に依り設立の動機を作り、昭和十一年更に其の諸般設備を改善して、組合員の一致協力の下に、水産報國の一大念願をもつて着々と實績を上げてゐる有望たる組合である。

現在の組合事業たる漁獲物販賣の外、

必需物資の購買、漁業資金貸付、購買資金充當等の計畫を樹て、今や確實なる發展をなしつつある。

因みに歴代組合長は谷本清眞氏、小川順吉氏にして甚大なる功績があつた。

理事 勲八等

小川 順吉

氏は明治十二年十月に生れた。當家は由緒深き家柄にて祖父清平氏は土佐藩士、實父幸藏氏は弘見村給知組頭として公職に盡力し、又日露戰役に出征して武功をたてた勇士である。經歷としては小學校教員、高知聯隊區司令部下士官を経て、現在協同組合理事安滿地區長、奥内村漁業組合長の要職を兼任して組合の發展に盡力、多大の貢獻をなしてゐる。

氏は資生温厚篤實、而も鞏固なる意志は益々人望を高めてゐる。尙、小川組合長を補佐する人々に、理事谷本賢吉氏並びに監事、谷本徳重福田福三郎兩氏がある。

高知、安藝、井ノ口村 井ノ口信用組合

本組合は昭和十一年川北村の梶佐氏を専務理事として指導を受け、村役場の一部を借受けて實際的業務を開始した。而して日淺きにもかゝらず、組合員三八三名の多數に上り農業經濟に多大の寄與をなしてゐる。

事業は主として、米、製紙の二産業に力を致し、特に製紙は郡内第一の業績を擧げてゐる。

なほ役員としては理事長、岩崎正彌、理事、干光寺貞之、門脇清、横井殿重、依光盛一郎、秦泉寺清員、福畑繁富、監事、干光士行、宇田豊等の諸氏である。

組合長 岩崎 正彌

氏は本村出身にて高知師範學校を卒業し、教育に盡瘁したる後信用組合長、學務委員等に就任して村治産業に力を致してゐる。

専務理事 包國 公壽

氏は、由緒深き當村の夕門の生れにてその高潔なる人格をもつて夙に村民の信望厚く、組合の内々に多大の貢獻をなしてゐる。

高知、幡多、下田町

下田産業組合

本組合は竹島、井澤の二部落を區域として大正三年初代組合長片山敬三氏の指導に依つて事業を開始した。當初は肥料の共同購入のみに限定されてゐたが、漸次經營範圍が擴大するに伴つて四種兼營にも擴張を見るに至つた。

創立以來幾多の難局に遭遇したが、組合員の協力一致に依り克く、これを打開して今日の隆盛を來した功績は、誠に産業報國赤誠を顯したものと云ふべきである。

現在役員は組合長に西内良次、理事加間清明、宮村友次、山中康太郎、監事、

安田兵之助、宮村勝吉、片山彌須技、宮村利太郎の八氏である。

組合長 西田 夏次

氏は明治八年生れにて、下田町役場收入役、助役、町長を歴任し、現在信用組合長同専務理事、郡會議員、園藝組合長等の要職を兼任して多方面に互り活躍し、貢獻する所甚大なるものがある。

資性濃厚篤實にして禁酒禁煙を勵行し稀れに見る勤直なる人格者と讃えられてゐる。

石川、羽咋、邑知町

中川農事 實行組合長 波木 忠作

波木家は累代當町に住んで農業を營み當主忠作氏を以て五代を數へる舊家である。

先代清四郎氏は篤農家として近隣に知られ、精勵恪勤にして、穩健中正なる氏の稟性は深く村民の敬慕の的となり、早

くより村會議員に推され、専心村政の刷新向上と村民の福利増進、産業の開發等に意を用ひ、顯著なる業績を遺し、その遺徳は今日も尙ほ當地方の人々に深い感銘を與へてゐる。

當主忠作氏は先考の長男として明治三十三年呱呱をあげた。郷校を卒へて家業に従つてゐたが、夙に自治公共の事業に深き關心を懷き、後、町民の一致推すところに依つて、中川區長、中川農事實行組合長、中邑知産業組合専務理事、健康衛生結核豫防委員等多數の公名譽職に擧げられるや、多年の抱負を實踐に移し、町政に、産業に寧日なき活動を續けてゐる。

氏の率ゐる農事實行組合は、昭和十年農事改良組合として誕生し、同十四年五月實行組合に改組せられたものである。氏はその創設當初より組合長の任に就いて、今日の隆盛を來たさしむるに並々ならぬ盡力をなした。當組合の當面の事業として、第一に自給肥料の増産を企圖し

着々實績をあげてゐる。又、共同作業場の設置に依り、當部落所有の山林を開拓して製材事業を起し、或は玄米移出を精白として移出する計畫をたてて折角奔走中である。

因に同組合の役員は、組合長、波木忠作、理事、里見寛治、橋本富雄、安達庄作、山本喜八郎、監事、金谷嘉六、白井榮一郎の諸氏である。

静岡、榛原、初倉村 初倉村役場

當村は那の東北隅にあつて、大井川を隔てて、志太郡島田町及び大洲村に對し南は坂部村に連り、西は勝間田村に續くまた西北部は牧之原臺地の丘陵となり、茶園が多い。平地は大井川の沃流を灌漑して米、麥等の農耕を主としてゐる。

また村内には郷社敬滿神社、村社東照宮ほか六社、無格社九社があり、寺院には曹洞宗小本山松原山醫王寺等曹洞宗の

十一ヶ寺がある。頗る名勝と舊蹟に富み湯日岡田の城址、及び、竹林寺の跡ありまた「打渡しゆく瀬あまたの大井川、見えてぞ遠き初倉の山」と詠まれた初倉山は古來歌枕として名高い。その他、原始時代の古墳や石器時代の遺蹟の發見が多い。

村 長 河合亮之助

氏は明治二十一年六月に呱呱の聲を擧げた。資性穎悟聰明夙に人望あり、村衆に推されて村長の樞職に就き、爾來重責を果して村勢の發揚に努力してゐる。

そのほか産業界にも亦貢獻尠ならず昭和初年に産業組合を設立し、初代組合長として今日に及び、なほ、養蠶組合長志太、榛原兩郡養蠶組合副組合長等も兼任して自治産業各方面に寄與貢獻してゐる當村の第一人者である。

富山、氷見、窪村 窪村役場

當村は窪、園、柳田の三字より成り、氷見町の南東に續き、東北は海に面し、海濱砂地多く、中央部に耕地ありて、南部は山地である。

村内に、西光寺、常念寺、眞福寺、善照寺、宣暢寺、明覺寺等の眞宗の寺院が多く、主要産業としては米、麥、蕎麥等の生産が盛んである。

交通は氷見線氷見驛へ數町にてバスが通じ、南方伏木、高岡へも亦バスの便がある。

村長

野畑 嘉作

當家は代々農業を營む當地方屈指の舊家に於て、且つ、素封家である。氏は富山中學校卒業後、慶應義塾大學經濟學部を卒業して歸郷し、村治に干與した。

資性、濃厚篤實、明朗にして英氣颯爽たる人格者として、村民一般より尊敬せられること極めて篤く、推せられて助役村會議員、消防組頭等に歴任し、現に村長、農會長、警防團長に就任して村政の

樞機を掌り、自治産業の發達並に村民の福祉増進に寄與貢獻してゐる。なほ氏は、中越製作所の社長として、實業界にも亦敏腕を振つてゐる。

石川、珠洲、上戸村

上戸村役場

當村は往古草且郷に屬し、那の中部に位置し、東は富山灣に臨み、沿岸土地平坦にして、西は室立山を以て鳳至郡野村に境し、北は飯田町、若山村、南は室立村と隣接してゐる。

明治二十二年町村制實施の際南方、寺社、北方の三ヶ村を合併して、上戸村と稱し今日に至つてゐる。

村長

三益周一郎

當家は開祖四代目の後裔にして、代々農業を營んでゐる舊

家である。殿父要太郎氏は本年八十五歳にして、なほ矍鑠として健在し、曩に郡會議員、

村會議員、の要職に數回推輓せられた徳望家である。

當主周一郎氏は明治十八年一月十二日先代の長男として出生。早くより村治に干與した。資性濃厚篤實なる人格者として、村民に崇敬せられてゐる。

村助役、信用組合顧問に歴任し、現在は村長として昭和六年三月より三期に亘り、且つ郡町村長會長として、寧日なき活動を續けてゐる。

家庭には淑徳の譽れ高い夫人は愛國婦人會副會長、並に國防婦人會支部長として、統後婦人團體の圓滿なる發展に寄與し、令息二人と令嬢一人の多幸圓滿なる家庭である。

静岡、田方、長岡町

温泉旅館 柳屋 旅館

電話五・一五〇番

天下の靈泉として聞える當長岡温泉は狩野川の清流の流域にあり、四圍は青葉

の丘陵をなし、東に相模の山脈を控へ、北に愛鷹、富士の靈峰を望んで、山紫水明、また眺望頗る絶佳である。

當旅館は伊豆長岡驛より自動車にて僅か五分にして達し、耐震構造の美麗なる建築を誇つてゐる。然も閑靜の地を占め特に山莊の如きは數寄屋造りの風雅を凝らし、高臺の老松、雜木林の間に聳えてゐる。

客室數は二十五室、何れも次の間附にて、日當り、通風等は極めてよく、浴室も亦大浴場、家族風呂、貸切等があつて凡て雅趣に富んだ施工をなしてゐる。

宿泊料は三圓より六圓迄、山莊は五圓より七圓迄、従業員は平常十六、七名を數へ、接客待遇は極めて懇切である。

ツーリスト・ビュロー、縣廳、東京逓信局の指定をうけてをり、諸名士の靜養に來るものが多い。

なほ温泉は硫酸ナトリウム、クロールナトリウム等を含み、筋及び關節リウマチス、神経痛、慢性濕疹、婦人病その他

に特効がある。

附近の名所舊蹟としては最明寺時頼之墓、古代石棺、天野遠景之墓、三津海岸稚兒ヶ淵、葦山城址、反對爐その他が著名である。

經營者

山口 清松

氏は柄木縣鹽谷郡三作村大字中三作の産、先考長三郎氏の長男として明治三十一年三月八日に呱呱の聲をあげた。大正十四年殿父の逝去に遭ひ、家業を繼承して今日に至つてゐる。因に當旅館は大正五年の創業にかかり父子に亘る努力により、今や當温泉場に隆々たる盛名を馳せてゐる。

家庭には母堂ヨネさん(六十九歳)令閨チラさん(三十八歳)ほか一男五女あり、嫡男昭司君(十四歳)は目下葦山中學に在學中である。

静岡、駿東、印野村

印野村 警防團

當村の消防組織の濫觴は、明治三十二年である。同年二月須山村の火災に際して、消火器不備のために困却したのにはじまり、消防組の必要を痛感し、ポンプの購入と共に消防組を組織した。爾來幾星霜、擴張を重ねて、昭和十四年四月警防團に改組して、今日に至つてゐる。

當村には本警防團のほか、後援隊少年警防團の組織があり、不時に備へてゐる。

本團は三分團に分れ、總員一四〇名に及ぶ。また、ポンプ八臺その他、消火用救急用一切の器具が完備してゐる。

なほ、特筆すべきことは、本團の附屬部隊として林野消防隊が設けられてゐるが、これは本村が周圍を山野に圍まれてゐるため、植林地帯保護の目的をもつて大正十三年十一月十三日に設立されたものである。林野の火災に關する一般的訓練を行ふほか、愛林思想を普及し、防火線を作ると共に林野監視人を置く等克く愛林の實績をあげ、附近町村の注目を惹

いてゐる。

國長 勝間田壽江

當家は、村内屈指の舊家にして、連綿として二十三代に及ぶ。先考勇次郎氏は、村會議員、區長、各委員、



氏子總代 壇徒總代 等を歴任して人望があつた

氏はその男として、明治二十一年一月一日に生れた。

夙に消防に關係し、二十年の永きに亘つて寄與貢獻し、衆望を擔つて警防團長となり、團員の訓練統率にあたり、林野消防隊、少年警防團、後援隊等を組織した功勞者である。現在は、村會議員、産業組合監事各委員、日本赤十字社正社員等を兼任して、活躍をつゞけてゐる。稟性濃厚篤實の人で園藝、讀書を趣味とする。

家庭には母堂とよ刀自(七一)健在し、令室みやさんとの間に、六男二女の子寶に恵まれた多幸な家庭である。

石川、羽咋、稗造村

村會議員 小橋 國松

小橋家は代々當村に居をなし、農及び林業を以て家業とする村内有数の舊家である。遺憾ながら開祖は詳でないが、二百年の家歴を有する名門である。

先代五郎作氏は實直勤勉篤農家として家業に勵み、村内に於ける模範的な人物であつた。

當主國松氏は五郎作氏の長男として、明治二十三年呱聲をあげた、人となり濃厚篤實、清廉潔白の士である。

郷校を卒へて長するや金澤歩兵七聯隊に入隊、國家の干城としての重責を果した。

村に歸りては家業を繼ぎ、日夜寸暇を惜しんで、農産物、林産物の改良、増收

を工夫し、注目すべき業績を挙げると共に小橋家をして益々繁榮の一路を辿らしめたのである。

現に村會議員に推されて大なる活躍をなし、村民より深く敬仰されてゐる。

尙、家庭には夫人との間に長男あり、目下金澤歩兵聯隊に入營中である。

石川、羽咋、柏崎村

那農會長 松井 彦平

松井家は累代當村に居をなし、農を以て家業とする。開祖の詳でないは遺憾であるが、今日もつて數代の家歴を有し村内屈指の舊家名門として知られてゐる。

先代俊平氏は篤農家の譽高く、農事改良に盡すところ大であつたが、早くより自治公共のことに干與し、村會議員を勤めること數期、當地有数の自治功勞者である。

當主彦平氏は先考の長男として、明治十五年の生れ、人となり濃厚篤實、清廉

潔白の士である。郷校に在る時より英才を顯はれ、長するや金澤聯隊に入隊、日露戰役當時留守隊に在り活躍した。

歸郷と共に家業に専心してゐるが、嚴父の感化を受けて村政に關心を懷き、その研究を怠らなかつた。然してその熱情は村民の推すところとなり、はじめ郡會議員に擧げられ、郡政界に大きな足跡を残した。

現在は郡農會長の要職に在り、その他村農會長、村會議員、區長、學務委員、續家總代等々多數の公名譽職を兼任、村内のため、又村内産業開發のため盡瘁してゐる。その事績は枚擧にいとまなく、殊に村道の改修、白山神社社殿新築は顯著なるものである。

高知、安藝、井ノ口村

マルト製紙工場經營主 依光 豊吉

氏の製紙業は先代重太郎氏の時に創業され、父子二代に亘る刻苦精勵が今日の

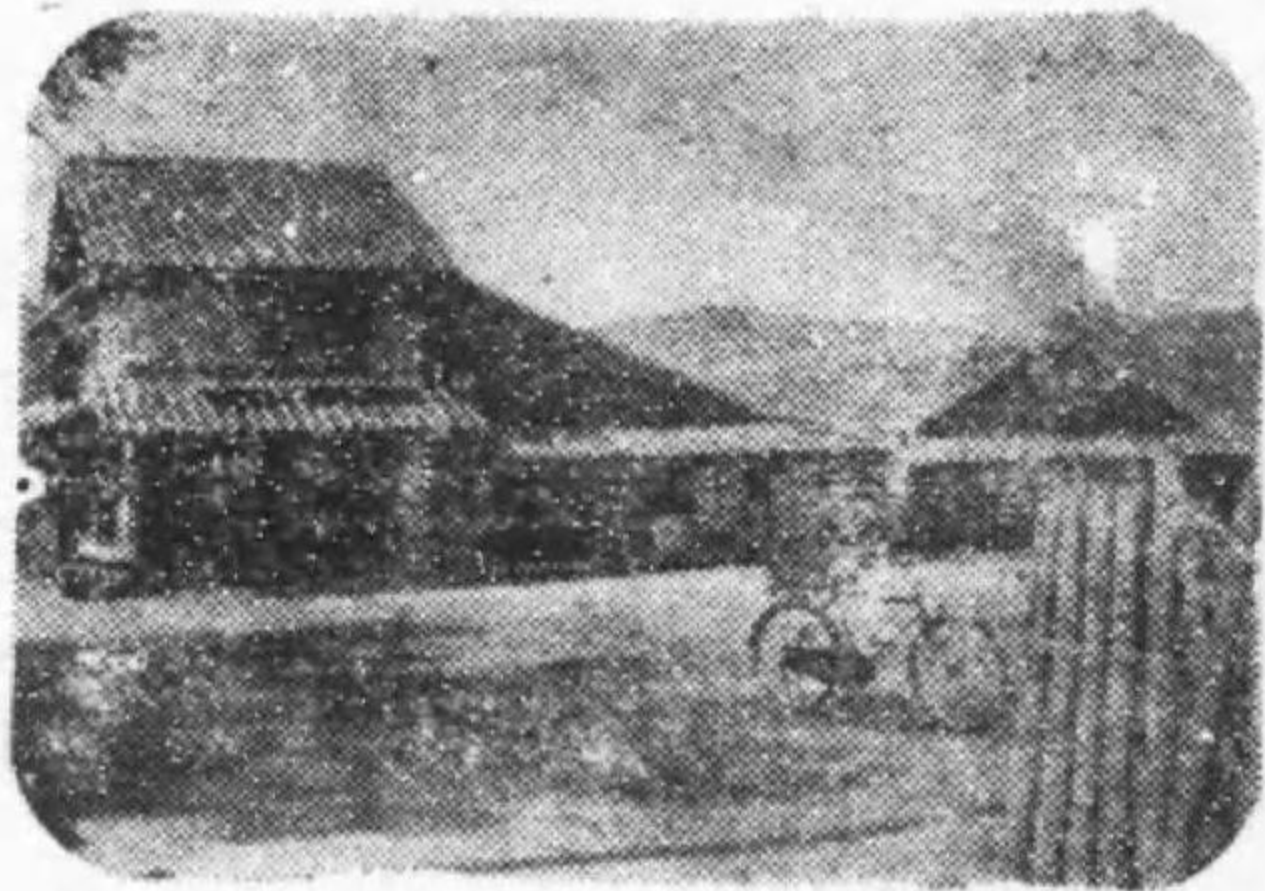
繁榮を招来したものである。氏は二十六歳にして家督を相續するや、それまで農

金澤交通株式會社

專務取締役 鳥 昌徳 次郎

金澤市石浦町四〇番地

業の副業として従事してゐた紙業に積極



的進出をなし近代施設を備へる工場建設し、

紙製造専門に邁進、此の堅實一本建の經

營方針は顧客筋に絶大な信用をかち得るに至つたのであつた。

資性圓滿にして滅私奉公の念厚く、曩に縣會議員として縣政界に活躍し、幾多の功績を遺してゐる。現在は土佐紙業組合議員、土佐インキ止組合理事等の要職にあつて、業界隆盛のため心身を碎いて盡力してゐる。

高知市山田町

高知縣タイ再製工業組合 理事 恩田 嘉六郎

電話一八四五番

氏は朽木縣佐野町の出身で、大正十一年高知縣



山田町に移轉したのである

因みに

ゴム株式會社藤倉傳八氏は氏の叔父に當り、又、名古屋日滿電線株式會社の恩田

五郎氏は實兄に當る。

昭和十四年二月、高知縣タイヤー再生工業組合の創立されるや、囑望されて組合長に就任し、その卓絶せる識見と手腕をもつて非常時局下の國策に即して専心産業報國に盡力しつゝある。
而して前記組合は創立日未だ淺いにも拘らず、着々としてその基礎を固め、縣内のみならず大阪方面へも製品の販路を開拓しつゝある。

石川、珠洲、木節村

村會議員 大形 政治

氏の嚴父白右衛門氏は、木節村白丸にあつて代々農業を營む。二十數代に遡り得る舊家で、藩政時代に於いては庄屋を勤めた名門である。

氏は明治二十二年白右衛門氏の次男に生れ、白丸尋常小學校卒業後、吳服商を營んでゐたが、昭和七年運送業に轉じ、小木町―松波間のバスを經營して交通業

界に大いに貢獻する所があつた。

現に村會議員に推され深く村政、農村問題に關して研究を重ね、新體制に即應して専心銃後農村の振興に力を盡しつゝある。而して常に氏は減私奉公の精神をもつて唯一の信條となし、率先して村民の模範たらんと努めてゐる。

高知市驛前

運送業 森田 行美

氏は高岡郡浦の内の出身で、明治四十七年の生れ。大正六年まで材木及び生糸



の商業に従事してゐたが、同年高知市旭町に森田商會

を興し電氣商を始めた。

更に大正八年に至つて、井崎鑛業會社に勤め、土佐・讃岐間電線工事に従つた

が、その後、大阪宇治川電氣建設部に入り、その精勵を認められて、昭和七年には高知電氣局勤務を命ぜられた。

而して昭和十一年同局を圓滿退職し、獨立して森田運送店を開業、又、倉庫を山田町に置き郡内の木材の運搬に當つてゐる。

現在、高知縣貸自動車運輸商業組合高知支部總代の要職に就いて同業の爲めに盡瘁しつゝある。

趣味としては狩獵、釣魚等の如き健康的なるものを愛好し、激務の餘暇、身心の練磨に力めてゐる。

家庭には琴夫人との間に愛嬢安枝さんがある。

石川、珠洲、木節村

村會議員 橋本 金太郎

橋本家は代々農業を營み、松波村に於ける舊家として知られる家柄にて、金太郎氏は隣村賣立村に生れ、養嗣子として

當家を繼いだのである。

氏は金澤師範學校を卒業の後、各小學校の訓導として二十餘年間育英に盡瘁し多大の貢獻をなしたが、後、村治に參與し、現に村會議員、方面委員等の要職に就いて、多年の抱負たる村政の革新、明瞭化を計るべく努力し、特に教育家としての活きた經驗と識見、手腕をもつて農村の文化向上及び自治思想の普及にひたすら奮闘をつゞける。

濃厚篤實の高風は村民のひとしく欽仰する所である。

石川、羽咋、北大海村

機業家 村會議員 橋 末次郎

祖先是富樫正親の家臣なりと傳へられ七、八代に及ぶ名門である。

氏は先考末次郎氏の長男として明治三十一年に生れ、父君の歿後同名末次郎を襲いだものである。

昭和九年橋機業工場を設立し現在に及

んでゐるが、創業日猶淺いにも拘らず、着々と事業は伸展し新體制下産業報國の實を示しつゝある。



氏は又夙くより村政に對しても理想を抱き現に村會議員として七尾線免田驛の設置に伴ふ道路の擴張、或は寶達山の造林事業等を主張、計畫し一奔走しつゝある。

資性、剛毅豁達にして、頗る實行力に富む人物なれば、將來の活躍は期して待つべきものがある。

石川、羽咋、粟ノ保村

青年團長 堀 利夫

氏は先考孫治氏の長男として大正七年二月に生る。父君は村會議員、或は村役場助役の要職にあつて、村自治に貢獻し

た徳望家であつた。



や、ひたすら母堂に孝養を盡しつゝ、家業の農事に精勵

してゐるが、その至誠實直さに、推されて當村青年團長の重任に就き、爾來強い信念と熱情をもつて克く團員を統率、指導し、或は農閑期に團員一同と諮つて露營訓練を行ひ、或は長途の自轉車旅行を企てるなど、その業績は寔に顯著なるものがある。

又氏は、非常時局下木炭不足の聲を聞くや、率先して、隣村青年團と共同にて木炭の製造をなし、以て幾分にも銃後のお役に立つやう、目下寄々その準備中である。

當村出身の醫師、保志場守一氏は、この模範的青年團の功績を大いに讚嘆して

團旗一旗を寄贈した。
春秋に富む利夫氏の將來には、囑望すべきもの寔に多大であると言はねばならない。

石川、河北、三谷村

石屋旅館 石屋 純一

電話金澤二七八一番

加賀深谷鑛泉元湯として有名な石屋旅館は、寛政元年の創業に係り、元湯、古湯、奥の湯等と呼ばれてゐる。

浴湯は普通浴室、家族浴室に別け、衛生を重じ清潔を旨としてゐる。従つて佳賓の清浴療養に適してゐるが、室数は四十餘に上り、多數團體客の滞在も大いに歓迎する。

抑々深谷鑛泉の草創は、人皇四十五代聖武天皇の天平年間に、僧行基菩薩の發見になるもので、その後、幾變遷を経て現今に及んでゐるが、この鑛泉が、痔疾慢性消化器病、慢性貧血、慢性皮膚病、

ロイマチス、脚氣、泌尿器病等に卓効ある事は近代科學の證する所で、附近の河北湯、本泉寺、本興寺、本蓮寺、梅田莊、堅田堡趾等の名所古趾及び宮本武藏の傳説等は、病者浴客の遊ぶに絶好の土地を



全 景

近來謡曲の興隆する機運を呼びたるに際し、石屋氏は能樂堂を建築して斯道の會合に備へるに至つてゐるが、別莊梅之家茶屋、石泉庵をも雅客の茶庭に提供して

當主純一氏は明治二十年の生れにて、金澤市の出身である。

石川、珠洲、寶立村

村會議員 高原 儀作

當家は開祖七代の舊家にて代々農業を營み、本村宇春日野の自治、産業に大いに貢献した家柄である。

當主儀作氏は明治十四年の誕生にて、農事に精勵の傍ら夙より農村の自治、産業問題に深い關心を持つて研究に勉めるところあり、その卓越した識見と才腕によつて、推されて村會議員たること四期、その他産業組合理事、方面委員等の要職を兼任して、統後農村の振興に献身的努力を續けてゐる。

而して氏の抱負、業績の一端を窺へば農業の多角經營を企圖して、畜産を奨励し、又當地方の地味が林檎に適してゐることを見て、その移植、栽培に力を入れて

るなど、實に寄與する所多大なるものがある。濃厚圓滿なる人格者なり。

尙ほ氏の令息は本村小學校訓導として十數年奉職し、初等教育に盡瘁してゐる

石川、珠洲、寶立村

宗玄酒造株式會社

電話金澤一六番



標商の「宗玄」酒銘

「宗玄」の名稱は既に遠く百五十年前の起るにその源をたもつてゐる。吾國に於ける代表的酒の一

つとして數へられ、その沃土の滋味、芳水の佳醇をふくむ美祿は、古へより北陸地方愛酒家の珍重措く能はぬところで、酒といへば、『宗玄』でなければならぬやうに尙ばれてゐる。

宜なるかな、各博覽會、共進會、品評會に出品して常に特選の榮譽を擔ふてゐる。

社長

縣會議員

米村爲八郎

氏は正院村の名家村本家の出であるが

後、米村家の養嗣子となつたもので、明治十八年の生誕。中學卒業の後、米國に



遊學し、十七ヶ年の長きに亘つて幾多の研鑽を積んだ

特に佛教に關する造詣極めて深く、歸朝後は佛教の布教に専心力を致した。後、その卓絶せる識見と才腕に依り、

縣會議員に選出され、又、酒造業組合長能登汽船重役等の要職に推され、多方面に亘つて活躍を續け、新體制下の地方自治、産業に寄與する所多大である。

石川、珠洲、正院村

農會 長 村元 次八郎

當家は正院村にあつて代々瓦礫を業とし能登瓦の開祖と云はれる舊家である。



先代利作氏は郡會議員及び村長を勤め、酒造、水運

等あらゆる事業に關係を有した村内唯一の實業家であつた。

次八郎氏は明治十一年利作氏の長男として生れ、日露戰後に出征し、旅順、奉天等の激戰に加はり、赫々たる武勳を建てた勇士で、その功に依つて勳七等功七

級を賜った。

その後氏は、珠洲互工業組合長、村長、村會議員等の要職に就いて盡力し、現在は農會長として銜後農村の振興に身をもつて奮闘しつゝある。

因みに、氏の業績の主なるものを挙げれば、氏の主唱に依つて、正院村水田に貯水池を設け、或は道路の開設、修覆等を行ふなど、實に顯著なる所である。

石川、珠洲、西海村

折戸 信用販賣 組合

折戸産業組合は大正十五年の創立にかゝり、爾來主唱發起者をはじめ役員の献身的奮闘に依つて組合精神の普及に努力した結果、漸次組合員數も増加して、その基礎も固り、事業も愈々發展し來つてゐる。

事業の主なるものは、大豆、小麥、大麥、木炭の販賣、米穀、肥料、日用品等の購買、又利用部は精米、精麥、製粉等

の作業に便し、更に信用部の業務も盛んに活用されてゐる。

現在組合役員は、新保組合長以下、理事に谷鐵太郎、田端儀作、風無豊作、地筒幸次郎、笹尾角太郎、山田要蔵の諸氏、又監事に日谷内良二、官根源吾、角地幸松、權佐清三郎の諸氏が就任して組合の爲めに盡瘁しつゝある。

組合長

村會議員

新保政次郎

抱負の下に常に各部面に亘つて盡力する所から、後、推されて村會議員、當組合長の要職を兼ねとして、折戸漁業組合長、農會代議員、經濟更生委員等の重任を帯び、銜後農村の振興に活躍してゐる。

その識見と手腕は、至誠謹直なる人格と相俟つて、村民の深く尊敬するところとなつてゐる。

家庭又、極めて圓滿なり。

石川、珠洲、木節村

村會議員 松田 正雄

當家は代々農業を営み、村内屈指の舊家である。祖父の作久衛氏は、板垣退助の下にあつて自由黨の志士たりしことがあり、當村に於ける自由黨の先驅者であつたのである。又、先代熊次郎氏も亦當村の有力なる人物にて、自治制施行後最初の村會議員として活躍したる功勞者であつた。

正雄氏は高等小學校卒業後、養蠶試験所に學び、養蠶指導員たりし事がある。後、奥海兵團に入團し一等機關士となつた。歸郷後、銀行に入つて數年間勤務しその誠實、敏腕をもつて大いに認められる所となつた。

又氏は夙より奉公の念熾烈なるものあり、銀行を退くや、多年の抱負たる農村自治思想の普及、教育の發達、産業の振興を目ざして活躍し、その識見と才腕

を買はれて幾多の要職に就き、又現在村會議員のほか軍人分會參事、木節産業組合理事等の重任を帯びて、ひたすら銜後農村の更生のために力強い活動をつづけてゐる。

石川、羽咋、上熊野村

農會長 前村 十兵衛

氏は明治六年二月、當村の名門に生れた。嚴父藤吉氏は戸長役場時代に、總代助役等を歴任して村の爲めに盡瘁し、後推されて郡會議員たりし事もある明治初年の自治功勞者である。

この父君の血を享け繼いだ氏は、郷土



の小学校を卒へるや、家業の農事に精勵しつゝ、常に村内の農

意を農業經營の改善につくし、

家に多大の示唆を與へた。

而してその卓抜の識見と高潔の人格をもつて夙より村長に推され、日露戰役當時は恰もその職に在り、氏は身を以て銜後の村治萬般に就いて粉骨碎身の御奉公をなし、その功績によつて勳八等に叙せられた。

尙當村産業組合の創立も、氏の盡力に據る所頗る大なるものがあり、更に役場の建築、實費診療所の設置、或は道路網の完成等、その業績は枚擧に遑がない。曩に自治、産業功勞者として、當局より表彰された。

高知、幡多、下田町

町會議員 西澤 林之助

氏は明治四年に生る。高知中學校を卒業の後、木炭、木材の販賣を營業とする傍ら回漕業をも兼業し、下田町屈指の實業家として知られてゐる。

他に長期、町會議員の重任を果し、又

曩に二期所得稅調査委員を拜命、現に下田産業組合長の公職に在る。

相互扶助、共存同榮の組合精神を強調よくその指導の任に當り特に社會事業に多大の貢獻を爲し、圖書館經營費の寄附有隣公園の寄附等、村内文化施設に努力してその啓發を促し、圖書館寄附に際して賞勳局より褒狀の榮を賜つてゐる。

又、有隣公園にも同氏の領德碑が建立され、永久にその高德を讃へてゐる。趣味として書畫骨董、句作等を愛好してゐる。

資性潤達にして、その高潔なる人格は町民愛敬の的であり、その努力的手腕は期待されてゐる。

家庭には榮夫人との間に、一男一女に恵まれてゐる。

高知、幡多、清水町

清水漁業協同組合

本組合は明治三十年創立され、昭和十

一年事業の實際的向上を計畫すると共に合理的組織に入った。

組合營業範圍は清水町一圓に及び、取扱ふ漁獲物は遠洋物の鮪、近海物の鰹を主とす。鯉節は岬前節として有名であり又本組合の漁獲数は、縣漁獲数の約三割を占有し、全國中に於いても有数の實力を有し、將來水産日本伸展の重要な一部門としての役割を果しつつある。

尙、特色たる點は利用事業として京都帝大教授竹崎博士の指導に依る紅茶の栽培で、此れ又有望な發展途上にある。

現在役員としては、理事長久野寅松氏理事に吉田基吉、山中時次郎、監事は橋村兵一、植本繁太郎、谷柳太郎の諸氏である。

組合長

久野 寅松
氏は明治七年生れにて中村町の出身。累代漁業の舊家として知られ、前町長の要職を経て現漁業組合長に就任し、以來寧日なく組合の發展に盡力し幾多の功績をなして、弘くその

力量手腕を謳れてゐる。

高知、安藝、野根町 野根町信用組合

本組合は地方産業の發達、振興を計り組合員一同よくその重要性を認識して、一致協力組合設立日尙淺きにも拘はらず輝しき貢献をなしつつある有望なる組合である。

而して當組合の事業とするものに、林産物改良及びその活用、木工場經營、船舶業等があり、更に肥料倉庫、木炭倉庫等を完備して農家經濟の圓滑なる發達を促し、町民の利益開發に多大の便宜を寄與し、信用絶大なるものがある。

組合長

橋爪 儀一郎
氏は明治三十一年の生れにて、人格高潔の努力家として遂に衆望を擔ひて組合長の要職に推され、その優れたる力量手腕を多方面に發揮し特に農會、産業組合、園藝組合の綜合一

元化を畫策して盡力してゐる。

高知、吾川、三瀬村 三瀬村役場

本村は明治三年吾川郡第十三區と呼稱し居りしも、同八年十一大區となり勝賀瀬村、楠瀬村、柳瀬村の三區域を包括して、村役所を柳瀬村に設置、吾川郡前記三村を管轄するに至つた。

其後、自治制發布と同時に三村を合併して村役場を中央位置に建設して、吾川郡三瀬村役場と改稱し、地方自治の樞要機關としてその内容を漸次完備し、着々と産業開發及び自治村政の改新に努力しつつ、今日に至つたのである。

本村は郡の中央部に位し、南は仁淀川の清流を隔て高岡郡能津村に接し、東は吾川郡神谷村、西は下八川村、北は上八川村に接してゐる。東西延長十三軒、南

北約四軒、北方に鷹羽ヶ森の美林を配し全面積三千餘町歩で、その殆どは山岳地帯にして平坦地極めて少い。

歴代の村長としては、宮地正忠、安並正輝、弘田晋次、柳瀬豊金、橋本安喜、山中正長、伊藤定衛の諸氏で、それぞれ功績を遺してゐる。

村長

山中 正長
氏は農林技手、助役、村會議員等を歴任して、その人格高潔にして、村民の普く敬愛する所となり推されて村長の要職に就くこと再度、村政自治の改善に盡力するところ極めて大なるものがあり、又、林産業組合長を兼任して統後農村の振興に活躍してゐる。

高知、長岡、後免町

後免町組合役場

電話後免四〇番

當町は住古大會郷に屬してゐるが、後免稻吉村と稱した。高知市の東方三里、

香長平野の中央にあつて、氣候溫暖なる



キウリ、トマトは良質にて、阪神地方へ輸出する。

組合長

岡本 虎繁

當家の先祖は肥後熊本の士族にて當代を以て十三代を數へる舊家にし

佳境であら。當氏は虎治氏の長男として明治二十二年一月十六日に生れた。

氏は中學卒業後、農林省營林局に廿四年、その他幾多の永きに亘り勤務した勤勉努力家で、推戴せられて現職に就き町治に盡瘁し傍ら、長岡郡野田村農會長高知縣産業奉仕員等の要職にあつて活躍し、町民の與望を一身に擔つてゐる。

石川、江沼、分校村

勝光寺

當寺は遠く内大臣藤原鎌足公の後裔、安藤駿河守隆光が、文久元年三月弓波村に一字を建立して諦道院と號したるに始まる古刹で、親鸞上人に歸依して、天台宗より淨土眞宗に轉じたるもので、阿彌陀如來を本尊としてゐる。駿河守隆光の一子覺祐僧都は覺如上人の弟子となり、

天台宗の法器を悉く土中に埋めたのであるが、法器は本願寺第六代の僧倅如上人の時代に、夜々光を放ち、村民の傳ふる所となり、當時の後小松帝は、遂に地下の法器發掘を命ぜられ、放光勝光寺との寺名を賜つたと傳へられる。

又、蓮如上人の舍弟祐玄と、六世蓮如上人の子祐心とは蓮如上人を輔けて文明四年八月、山田光教寺の兵燹に馳せ、此の時祐玄は遂に焼死したので、上人は深く悲しみ、御像を祐心に授けた。その後七世、祐志師は石山合戦に顯如上人の味方となつて名馬一頭を奉り、門徒七千五百人を率ゐて大阪城に馳せつけた勇僧で壽像を授けられた。

國防婦人會長

弓波 忠子
女史は勝光寺開基以來の後裔で、實父瑞明師が京都女子高等専門學校長を永年に亘つて勤績し、のち龍谷大學々長を五年間勤めた學界の功勞者で、昭和六年長逝された。瑞明師歿後、帝大を卒業した養嗣子眞

水師、家督を繼いだのであるが、不幸眞水師も昭和八年他界されたので、女史は寺務一切を引受け、託兒所を自ら開設して農村兒童の教育に當つてゐる。又國防婦人會々長を兼ねて村民尊敬の的となつてゐる。

静岡、賀茂、城東村

大川漁業協同組合

本組合は明治三十八年五月の創立にかゝり、漁業權及び入漁權を取得し、或は漁業權の貸付をうけて共同漁獲を行ひ、新業の發展を圖つて大川部落一圓の漁業家に種々なる便益を與へることを目的としてゐる。

現在組合員數三十五名を數へ、益々發展の途にある。

主唱發起人は土屋友吉氏ほか七名で、歴代理事長は木村一郎、飯田小次郎、木村俊次郎、稻葉清藏の諸氏を経て現理事長木村一郎氏に至つてゐる。理事は稻葉

勝次郎、稻葉安太郎、監事木村用太郎の諸氏である。

組合長

木村 一郎
當家は本村有數の舊家にして、代々農耕を本業となし、漁

業を副業として營んでゐる。また果代部落の開發に盡して功勞多く、先代佐助氏は本年八十五歳の高齡にあつて、區會議員を勤め、種々盡力してゐる。

當主はその長男にして、明治二十四年二月二十一日の誕生である。

稟性重厚篤實にして、公共精神に厚く、業に産業組合長、收入役等に推擧されて村治、村産業の進展に誠私奉公の至誠を傾けた。即ち、私財を抛つて漁業の發達に盡瘁するほか、村内高利負債の借替、或は學校問題等に甚大なる寄與貢獻をなした。

現時村會議員、漁業組合長、區長、學務委員等を兼任して益々圓熟せる才腕を揮つて活躍してゐる。

治績頗る多大なるため、嘗て縣會計研

究會より感謝状をうけるほか、自治制發布五十周年記念には自治功勞者として表彰された。

家庭には嚴父、令聞とらさんあり、長女藤江さん(二十四歳)は下田高女卒業後縣立女子職業學校に學び、目下神戸労働紹介所に勤務中である。

石川、江沼、篠原村

村會議員 元谷 久藏

氏は明治二十七年、榮藏氏の長男として生誕。父君は元谷家より分れて一家を起し、當主にて二代目である。本家は代々當村の素封家として知られてゐる



大正三年、氏は帝國軍人として金澤聯隊に入營、直に朝鮮守備隊に編入されて二箇年現地に在つ

て重責を果した。

兼に消防組々頭として四箇年間、村内消防の爲に盡瘁し支部より表彰さる。

現に村會議員、社會教育委員として村政特に社會教育方面に盡力しつゝある。

なほ長男一男氏は今次聖戦に應召され大場鎮の戦闘に名譽の戦死を遂げた勇士にて歩兵伍長、勳七等功七級を賜つた。

静岡、濱名、中瀬村

中瀬村 信用販賣 組合

電話二俣三七番

本組合は濱名郡中瀬村に所在、創立は大正九年四月十二日で、有限責任中瀬村信用販賣購買利用組合と稱してゐた。

當時の主唱者は清水徳重、大橋卓、河合慎太郎の諸氏にして、事務所を新築したのは大正十二年四月である。

なほ事業の擴大により蠶種部、醬油部を設け、更に昭和四年より鶏卵の販賣等を行ひ成績を擧げてゐる。

組合長

河合 豊平
氏は現在村長を兼務し、村内の重鎮として、村治、産業の發展に大童の活動をなしてゐる。

専務理事

大橋 卓
氏は明治二十七年生れ、役場に永らく奉職、大正十二年組

祝 皇紀二千六百
日本電氣冶金株式會社
金澤市和鳴町一廿番地

聯に奉職し、昭和十三年より再度専務となつて現在に至つてゐる。

高知、高岡、北原村

鑛業家 宅間 明吉

當家は京都の出にて、代々屋號を三六と稱し、材木業に従事するに至つて「木屋の三六」として界限に知られてゐる。氏は先代三六氏の男として明治二十三年に生れた。夙くより鑛業に興味を有してゐるが、尊父の逝去後、廿四歳にして家督を繼いだ。壯年時渡米を志し、大いに爲すところあらんと抱負を懐いてゐた折しも、第一次歐洲大戰勃發したので、好機來れと鑛業界に大活躍をなし、香美郡曉霞村並に美良布村に於て巨利を博したのである。その、後高知市八間屋町に四國鑛業所を開設して、鑛業報國を信念として大いに奮力をなしてゐる。



氏は明治三十年呱呱の聲をあげた。夙に奉仕心に富み、當地温泉宿の發展を計り、遊園の設置及び遊歩道路の完成に大いに盡力し、村民一同の信望を集めてゐる。氏は又、柴山瀉片山津漁業組合長としてその手腕を發揮し、近來、戰時統制下にある温泉旅館の經營の合理化を圖り國策の線に沿つて物資配給の圓滑を期し資本金二萬圓、株式會社片山津食糧品販賣所を創立し、重役となつて、魚類一般米穀、醬油、味噌、薪炭等、家庭日用品の販賣に當り、戰時下の自給自足、經濟のトップを切り、各方面に範を垂れて

に盡力してゐる。氏は鑛山界では相當の經歷を有する人物で、有力なる鑛山をも二、三所有するに至つてゐるので、氏の今後には刮目して俟つべきものがある。

石川、江沼、片山津村

補澤 政行

氏は明治三十年呱呱の聲をあげた。夙に奉仕心に富み、當地温泉宿の發展を計り、遊園の設置及び遊歩道路の完成に大いに盡力し、村民一同の信望を集めてゐる。氏は又、柴山瀉片山津漁業組合長としてその手腕を發揮し、近來、戰時統制下にある温泉旅館の經營の合理化を圖り國策の線に沿つて物資配給の圓滑を期し資本金二萬圓、株式會社片山津食糧品販賣所を創立し、重役となつて、魚類一般米穀、醬油、味噌、薪炭等、家庭日用品の販賣に當り、戰時下の自給自足、經濟のトップを切り、各方面に範を垂れて

高知、吾川、伊野町
製紙業 井上 正喜

電話一二九番

井上家は己に明治十五年、祖父の代より製紙業を創業、尊父馬治氏も亦家業を繼いで熱心に製紙の改良に志し、伊野町に於ける圖引紙の發案者である。當主正喜氏は明治三十六年生れにて、高知縣立工業學校卒業後、高知縣立工業試驗所、朝鮮總督府産業技術師等の職に在つて技術の研鑽に努めたが、昭和の初めに歸郷して家業を繼ぎ、今日に至つてゐる。爾來、同氏は専心斯業の改良、發展に努力し、その苦心發案になる浮出模様製造法は專賣特許に、書翰筒と傘紙は實用新案を得てゐる。主なる營業課目としては圖引紙、襖紙チリ紙等で、益々隆盛を來し、同地業界

に重きをなしてゐる。

石川、羽咋、南大海村

南大海村役場

本村は羽咋郡の最南端に位置し、東は河合谷村、西は日本海に面し、南は河北郡、北は北大海村に境してゐる。山淺く農耕に適して、村民の多くは純農である。従つて本村産業の主體は、米、大豆類であり、また養蠶業も副業として旺に行はれてゐる。

村 長
勲 八 等
寺井 榮藏

當家は代々篤農を以つて知られ、村長區長等を勤め來りた家柄である。氏は陸軍憲兵上等兵で、明治三十七、八年の戰役に従軍し、拔群の武勳をたて、勲八等を賜つた勇士である。

久しく助役、村會議員、産業組合理事等の要職を勤め甚大なる功績があつた。尙、長男氏は現在海軍少佐として軍務

に精勵してゐる。

助 役
越 野 愈

氏は石川縣師範學校を卒業した英才で、永く小學校訓導として教育界に盡瘁し、後、當村役場に入り助役となつた。村會議員としての經歷もあり、前途有爲の士として村民に期待されてゐる。

收 入 役
池田 廣次

當家は農業を本業とし、代々區長、村會議員、産業組合理事等の公職にあつた家柄である。氏は稅務功勞者として大阪稅務監直局より表彰されたことがあり、現在は當村役場にあつて收入役を務め、かたわら農會副會長を兼ねてゐる。

高知、吾川、神谷村

製材業 渦谷 瀧治

氏は高岡市能津村の出身で、故惠三郎氏の三男に生れ、大正十年現在の土地に

來つて材木業を始めたのである。

當材木業はこの地に於いて先驅を成し氏の營々たる努力と相俟つて、漸次盛運に向ひ、業務は多端を極め、昭和十一年合資會社組織に改め、現在は營業も、土木建築請負業、運送業、植林業、物品貸付業、製材業の五種目に亘つてゐる。就中、建築材、船具材の取引は神戸、大阪方面で好評を博してゐる。更に氏は村會議員として久しく村政にも參畫して村民の信望頗る厚い。家族には、三男二女があり、長男重義(四四)氏は縣立農學校を卒業後、宮崎の方に農林技師として活躍中である。

石川、江沼、大聖寺町

織物業 敷田 和市郎

氏は明治二十八年、先考和三吉氏の長男として呱呱の聲を擧げた。織物業は父君の代に創業、その跡を繼いで勤勉努力、益々家業を隆盛に向はせ

つゝある。

氏は識見、手腕共に傑れたる一方、至誠力行の人として衆望を擔ひ、當地方機業界の中堅人として重きをなしてゐる。現在、織物工業組合幹事の要職にあつて、斯界の爲めに種々困難なる仕事を接衝し、特に新體制下、幾多の重要問題に當面するにあつては率先して組合員の動向を決し、國策に即應すると共に、機業界の刷新を計ることに盡力した。尙將來を囑望するところ大なるものがある。曩に消防組部長として活動し、いま又大聖寺町警防團長として町の爲めにその職責を完うしてゐる。氏は資性剛毅果斷、活動家肌の人物で公共の爲めには常に身を賭して働くことに力めてゐる。

高知、吾川、伊野町

製紙業 田村 駒吉

當家は代々伊野町に居住し、明治二十

年の頃、殿父與之助氏の代より製紙業を創む。

その後、年を趁ふて家業は隆盛を來し殊に、氏の研究製造になる圖引紙は、その品質の優良なるを以て全國的に知られ丸駒の圖引紙として斯界に賞讃されてゐる。全國諸官廳に於て總て氏の製品を使用してゐるのを見ても、その眞價を窺ふことが出来よう。又、各品評會、博覽會に出品して屢々賞状を授與された。

現在氏は、伊野薄葉製紙工業組合理事として業界の爲めに盡力してゐる。

當年五十六歳、圓熟せる識見と、溫雅高潔なる人格は、又もつて人の師表たるに足るものがあらう。

趣味として釣を非常に愛好し、家庭また靜温な暮しである。

高知、長岡、天坪村

天坪村 役場



現在、有澤明治氏を村長に、岡林長茂坂本重勲兩氏が助役収入役西岡友治氏といふ陣容である。現村會議員は杉本寛小松重高杉本晴喜桑原綱、竹村國太郎、岡林長徳、藤川遊龜、岡林大佐美、

西岡美義、弘光勝正、杉本芳太郎、野中博之の諸氏が就任して協力一致、新體制下の農村自治、産業の作興にひたすら盡力してゐる。

石川、羽咋、東土田

東土田 役場

本村は藩政時代前田家の所領となり、安永の頃より堀松組に、文政四年土田組となり、明治維新に至る。明治廿二年町村制施行に當り、初めて東土田村と名付く。爾來役場移轉、隔離病舎の新築、土田郵便局設置、電燈架設等にと面目を整へて、今日縣下有數の模範村となるに至つた。

現村長は尾崎利木松氏、助役垣内角平氏にして才腕の持主である。

村長

尾崎利木松

現村長尾崎利木松氏は明治二十四年二月、同村の舊家理吉氏の長男として生る。土田小學校を卒へ



館開、徳田兩産業組合合併には並々ならぬ努力を拂ひ、自治産業の發達伸張に、文字通り東奔西走、寢食を忘れて盡瘁した。尙、自治の功績に依り、再度表彰されてゐる。

氏は又、金澤市に氏自身の發明にかゝる機關部品製作工場を經營、八面六臂、行くとして可ならざるは無き敏腕振りを發揮してゐる。

家庭では母堂テウ子刀自健在にして、愛妻豊子夫人との間には長男利一、次男利次の兩君を恵まれてゐる。

尙、豊子夫人は愛國婦人分會長として銃後女性の任を全ふしつゝある。

石川、江沼、三木村

村會議員 幸山 久太郎

氏は明治二十四年、幸山久三氏の長男として生誕す。家は代々農業を營み、村の舊家である。



父君久三氏は、日露戰役に萬里山に於て名譽の戰死

を遂げ、勳七等功七級を賜つた歩兵軍曹の勇士であるが、久太郎氏も亦帝國軍人として嘗てシペリヤ出兵の際には中隊隨一の勇士と謳はれた陸軍歩兵伍長である。現在村會議員として、又曩には三木村熊坂區長として、縣、村道の開通には大いに力を致す等、村政に盡瘁すること多

年、その業績は實に顯著なるものがある。性格極めて圓滿の人格者にて、滅私奉公を以て終生の信條として實踐に努めてゐる。

家庭またいたつて圓滿にして、夫人との間に六男一女を恵まれてゐる子福者である。

石川、石川、金石町 役場

當町は往昔官腰村と呼ばれたが、大正九年金石町と改稱し現在に至る。金澤市の西部里餘にあり、農業を主とし、畜産水産之に次ぐ。

現在名町長觀田治郎吉氏を得て、全町一致、町勢の進展に當つてゐる。

町長 當家は先代治郎吉 觀田治郎吉 氏以來、木材卸を商ひ、縣下屈指の豪商である。

氏は夙に商工會長の職にあつたのである。



るが、昭和元年町長に就任し、爾來堂々現在に至つてゐる。その間昭和四年信用組合を組織し、組合長となり、村内の自治に盡すに來つてゐるが、郡町村長會を兼ね、近在大御所たるの貫祿を表してゐる。

斯く氏は種々の名譽職にあつて活動すると共に、實業界にも進展を示し、北國製鋼株式會社及び、第一運送株式會社に各重役としての務めをも果してゐる。

實に温厚篤實なる模範的紳士である。

家庭には母堂はるさんがある外、つや夫人があり、養嗣子恒三氏には二女がある。

助役 當家は當地方有数の舊家にて、四十年の鶴山庄松 以前より陶器業を営んでゐるが、氏の尊父の代に至り、廣く

木材の販賣も始め、現在は東京深川區にて木材商を営みつゝある。

氏は明治二十七年の生れにて、金澤中學校卒業後、町役場書記となり、收入役の要職を勤め、昭和四年推されて助役に就任した。以來親戚關係にある當町長觀田氏をよく輔け、共に町政に盡し、傍ら方面委員常務、社會教育委員、職業紹介所地方連絡員を兼任し、寧日無き活躍を續けてゐる。元、消防組頭を七ヶ年の永きに亘つて全うした奮勵家にして、町民の信頼を集めてゐる。

静岡、周智、山梨町 町會議員 加藤 又吉

當家は代々海産物販賣業を營む。

又吉氏は明治廿四年六月の出生で、高等小學校を卒業後、夙より實業によつて身を立て、又兼には警防團長、周智郡砂糖組合専務理事、静岡飲料水組合専務



理事等を務め、手腕家としての評判を得現在山梨町々會議員に推されて町政に参畫し、時局下多忙な活躍をなしてゐる。

目下清 涼飲料水 製造販賣の傍ら、昭和十三年以來オランの栽培も行ひ、相當の成績を擧げてゐる。將來も氏はこのオランの栽培に力を注ぐべく計畫中である。

人格圓滿なる好人物で、町内の信望極めてあつく、大いに將來を囑望されてゐる。

家庭は二男二女を恵まれ、まことに賑やかなる團樂をなしてゐる。

石川、江沼、大聖寺町

大聖寺料理業組合

當組合は大正七年頃の不況に、一時中

絶するの己むなきに至つたが、現組合長三ツ岡定一氏を初めとして、深田銀藏、谷一雄、堀兵太郎、泉芳太郎、田村龜吉等の諸氏の熱心なる努力斡旋の結果、昭和九年現在の如き確固たる陣容を整ふるに至つたのである。

因みに、當組合役員は組合長三ツ岡定一、副組合長紺谷宗次郎、會計深田良作の諸氏。

聖廟置屋組合 當組合は明治三十年頃、聖廟貸座敷組合と稱したるもので、時代の變遷に、大正八年現在の名稱に變更したのである。現在藝妓置屋業者のみを以て組織してゐるが、大聖寺料理業組合に全部加入し、内容は料理、置屋、飲食を包含して、所謂三業組合の如きもので、役員は組合長高松小三郎氏、會計津原五三郎氏である。

高知市榮田町 四國鐵工所 小川 吉堯

當時の功績によつて勳七等を賜つてゐる元消防部長等を務め、その他關係諸組合の役員として、産業開發に貢献する所尠くなかつた。現在江沼郡海軍出身同志會長として郷軍の爲め盡瘁してゐる。

稟性、清廉潔白にして、公正なる氏は全組合員、町民より絶大なる信望を集めて、考ふるところあつて即時辭職、その武士道精神は各方面より非常なる絶讃を博した人である。

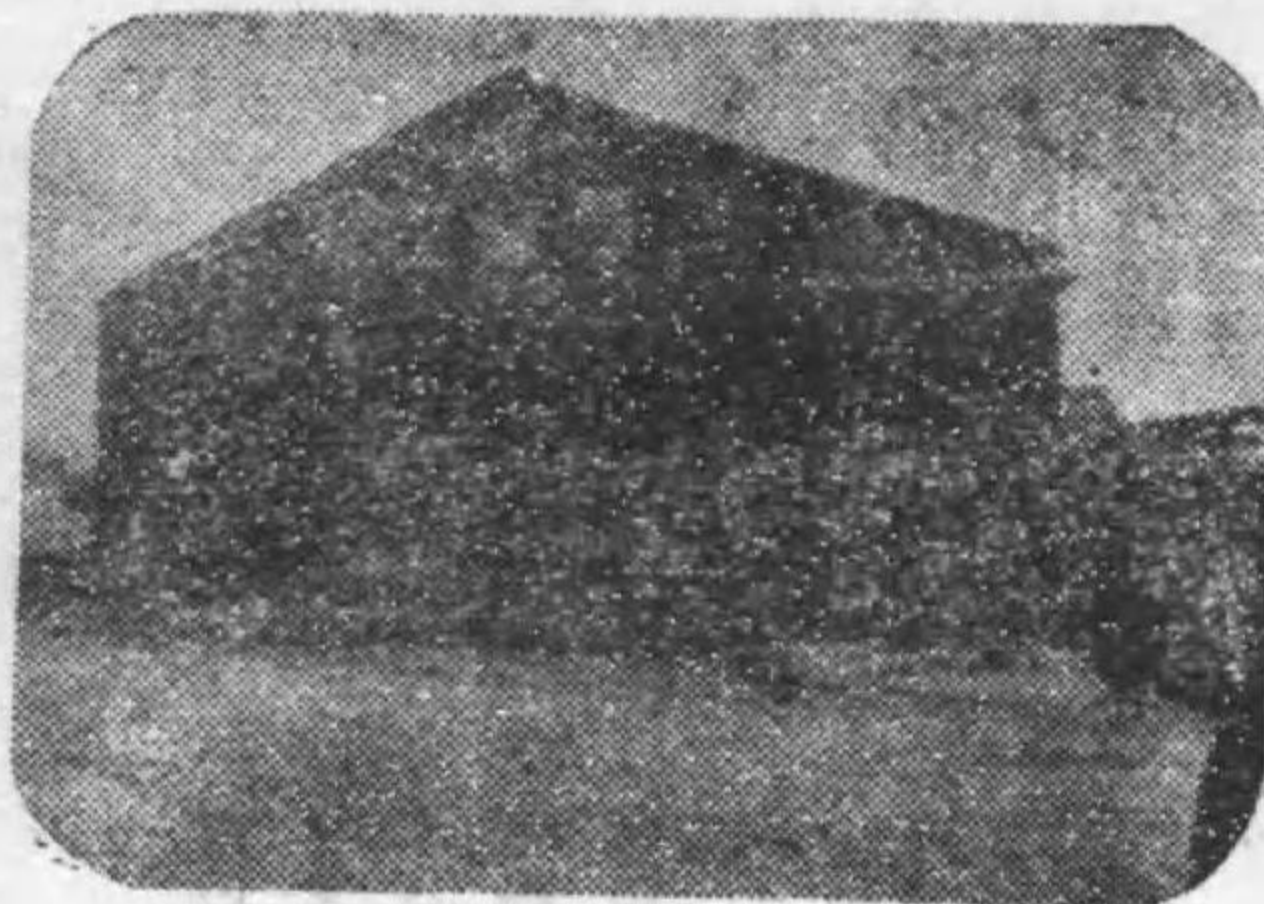
當家は代々播磨屋として知られた舊家で、氏は徳島縣撫養町に呱呱の聲をあげた。

十三歳の頃、大阪に出で、醫療機械店に勤め、爾後種々苦難を嘗め、高知に來り、四國製作所に入り、その基礎を造つた。

組合長 勳七等 三ツ岡定一

氏は日露戰爭に參加し、華々しき活躍をした譽れの勇士で

四國鐵工所は昭和十一年、氏の克難努力の結果、獨力に依つて創設されたもので、



全 景

車製作、修繕、電気瓦斯銲接等で、販路は、高知縣一圓で、官廳、營林署等がある。責任、豪邁果敢なる事業家肌の人物である。家庭には基久夫人との間に愛兒昭一君がある。

石川、江沼、大聖寺町
機業家 毛利 穎市

高知、高岡、高岡町
製紙業 森澤 茂

當家の毛利機業場は、明治元年、先々代清助氏の創設になるもので、既に相當の歴史を有してゐる。先代孝次郎氏は先々代の後を繼ぎ、織物組合役員の要職にあつて、業界に重きを成してゐた。

穎市氏はその長男として明治四十年に生れた。性來英邁にして、慶應大學商科を卒へ、機敏なる動作と明晰なる頭腦とを以て機業に當り、主として本絹物の生産に努め、織機臺數百六十七臺を算し、一ヶ年生産額は實に六萬疋の多きに上つてゐる。特に關東向百八十匁付友禪地羽二重カネセ印は聲名を博してゐる。近代教育を受けた氏は、明朗快活にして万人に愛敬せられ、工場の統率よろしきを得、業界中堅人物として大いに衆望を集め、大なる飛躍を遂げつゝある。

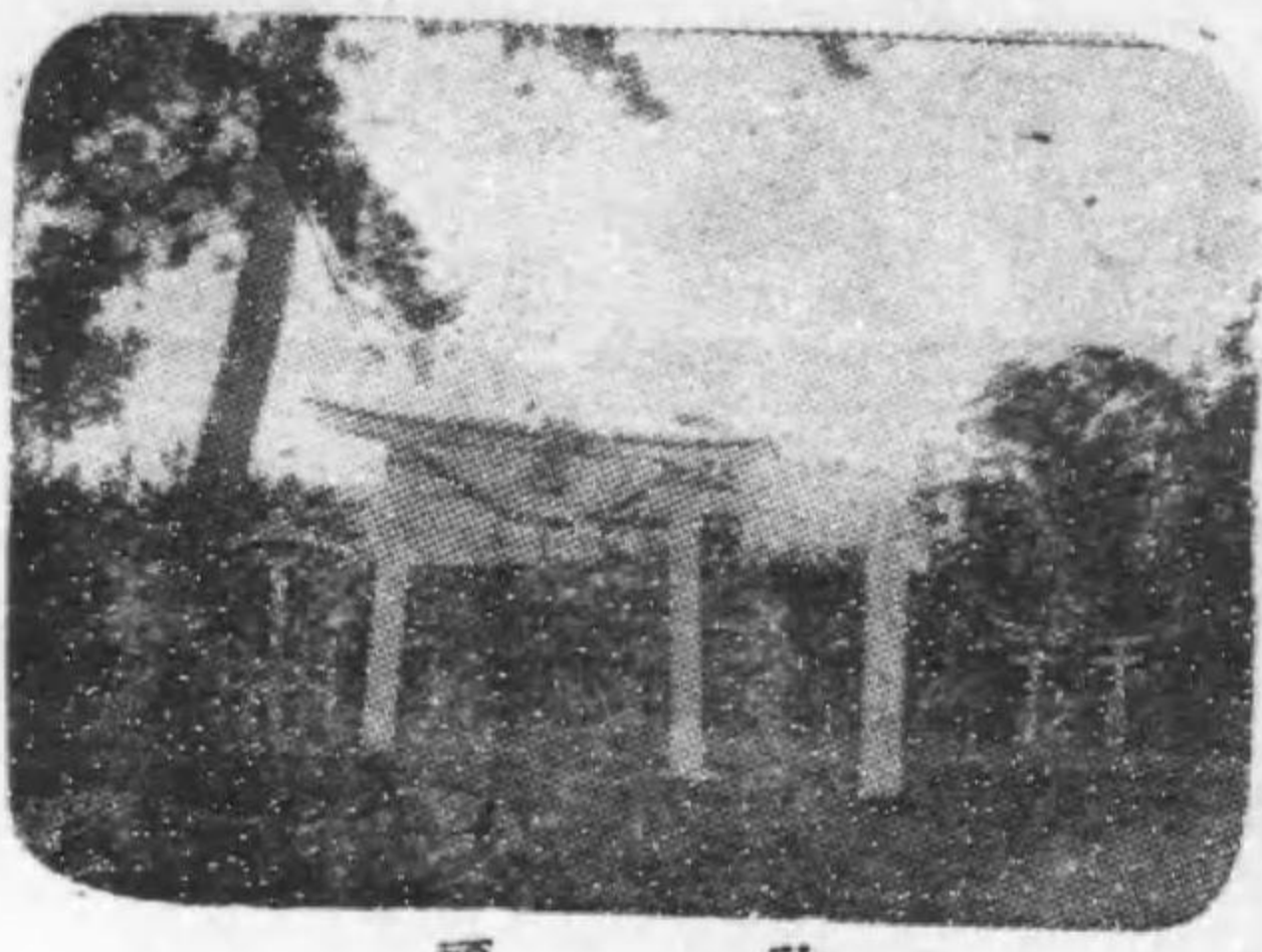


氏は明治三十一年の生れにて、弱冠十六歳の頃より早くも獨立して製紙業を始めた。當初は製紙のかたはら養蠶をも爲したが、廿歳に至り専心製紙に力を注ぎ言語に絶する難關に遭遇したが、奮起よくこれを打破して前進し、忍苦、格勵の結果、遂に三十代に家業の基礎も固まり、發展するに從ひ、製品の縣外移出を志し、阪神方面に主として白製書院紙、ペーパー原紙等を輸出するに至つた。香南製紙株式會社が創設されるや取締役として入社、高級コッピ紙の製造に着手し、益々手腕を振つてゐる。

多年の堅忍と努力は報はれ高岡町最高の納稅額者の榮冠を興へられたのである。

石川、珠洲、三崎村
縣 社 須々神社

當社は古來高座權現、須々權現、三崎權現、三崎明神とも稱され、創建は遠く



社 頭

年八月四日、從五位上の神階を授けられ

崇神 天皇 の御宇なりと傳へられ延喜の制に列し、貞觀十五年

たる當地方隨一の大社にして、遠近衆庶の歸敬最も深い名社である。



本 殿

れば古より、皇室の御尊崇も深く、武將の信仰するも

のも多く、明治維新に至る代々の領主は社殿の修築、恒例の祭典等を嚴かに執り行つた。その他、承安五年の國宣をはしめ、豪族、領主等の田地の寄進、願文等の古文書、百通にあまり、いまなほ藏されてゐる。

社 司
猿女 信廣

氏は明治四十四年の生れにて、當村小学校を卒業の後、先考五十八郎氏の膝下にて嚴格なる薰陶を受け、父君の歿後社司を繼いで現在に至つてゐる。資性濃厚篤實、高潔なる人格者として村民に深く敬慕されてゐる。

高知市西蓮池町
酒造業 森 徳藏

當家は祖父の時代より徳藏を名乗り、當主徳藏氏は幼名光太郎と稱して、高知市立商業學校卒業後、家督を繼いだ。酒造業は明治十年の創業にかゝり、その醸造になる銘酒「玉緑」は、高知縣下に過く販賣され、芳醇絶佳なるを以て愛酒家の間に知られてゐる。昭和十一年、全國品評會には優等賞を授與された。又、高知酒造組合會副會長、高知市酒釀組合副會長等の要職に推され、業界の

爲めに大いに盡瘁するところあつたが、



ルテツレ

健康を害し、任した。氏は資性極めて温良にして然るも明

石川、江沼、三木村

元村長 西 吉次郎

當家は當村内に於ける屈指の舊家で、篤農の家として聞へてゐる。氏は要與門

氏の長男にして明治初年嗚聲を擧げた。

義には日清、日露の兩役に従軍して赫赫たる武勳を樹て勳八等を賜つた勇士である。



村長を各十ヶ年に亘つて務め、その間、林道の開設、苗圃の設置、菓細工の奨励、部落産業組合の設立等に参畫し、村の基本財産二萬圓の蓄積に努力すると共に、御眞影奉安殿建築資金及び維持資金の寄附、國防献金等を行ひ、夙に愛國の赤誠を表してゐる。

それ等、自治發展の功績は、知事の認むる所となり、自治功勞者として數度に亘つて表彰されてゐる。

尚、特筆すべきは、他に先じて農業科を小學校の正科となし、農業報國の爲め

大いに盡した。

現在七十三歳の高齡であるが、今尙元氣旺盛にして村會議員たるの外、熊坂土工森林組合長、八幡社總代等を務め、家には二男二女があつて、長男要一(四〇)氏は現在、新潟縣立農學校長の榮職に就いてゐる。

高知、高岡、高岡町

製紙業 吉村 勝馬

氏は明治二十七年、孫藏氏の長男として出生した。

父君は今より五十七年前、現在の場所にて製紙業を創む實に高岡郡に於ける最も舊い製紙家にして、純日本式の竊法を堅持して來た今や「吉孫」一の商號に依つてその製品は全國に優良、獨特を謳はれ、販路も廣範圍に亘つてゐる。

温厚なる氏は、推されて第十區長として町自治の爲めに盡瘁し、水利豫防組合議員としても四期をつとめてゐる。

高知市旭町三丁目 田上自動車工場



(氏村吉)

高知市業町三丁目 西内自動車工業所

石川、江沼、篠原村

警防團長 川田 宇平

當家は村内有数の舊家で、先代は久しく鹽濱區長及び村會議員を務めた村内に於ける重要な素封家である。氏は明治廿八年八月、尊父仁太郎氏の長男として生れた。

家庭に

は、カメ、子母、堂、鹿壽、夫人、他に三男一女があ

温厚なる不言實行の紳士で、大正六年十一月篠原村消防組員を拜命し、小頭、



組頭を務めて大いに才腕を振ひ、村民一同の好評を博し、遂に推されて初代警防團長の譽職を擔つたのである。

江沼郡部會、縣知事、警防團より表彰状を授與されたる模範人物で、防空防火に務め村内災禍の絶無は氏の多年の抱負である。



氏は極めて温良篤實にして、商才に長け、販路は遠く阪神地方に迄及んでゐる。

高知、高岡、高岡町

紙 商 久保田 誠一

同家は代々伊野町に居住し、父祖の代

多趣味の士にして、釣、圍碁、乗馬等を愛好。

家族は母堂と豐子夫人、夫人との間に一男一女があり、極めて圓滿なる家庭である。

石川、江沼、作見村
東 市 次 郎

先代市次郎氏は當村内有数の素封家であるが、専ら自作農に努めた篤農の士で實子なく作見村字天日居住の天日喜佐氏の實第を養子として迎えたのである。

明治三十九年、羽二重製織業を創立して年と共に發展の一路を辿り、手腕を振つてゐたが、昭和二年天壽を完して、長逝した。生前に於ける村内の衆望は極めて厚く、今なほ村民の記憶に新らたである。

現主市次郎氏に至り益々飛躍を續けてゐるが、成功のうらには氏の實兄天日喜佐氏の事業的先見の明と、卓越せる手腕の助力が有り、今以て製織販賣等一切を切廻し、よく當主を輔佐し、内助の功は燦として輝いてゐる。

市次郎氏は極めて温厚篤實にして、未だ中年を出でざる壯年であるが、既に工

業組合幹事たるの要職にあり、機臺百臺を手足の如く動かす、専ら交織物を主とし、年産額約二十五萬圓を算し、經濟界に重きを成してゐる。

高知、長岡、國府村
製 紙 業 和 泉 清 馬

和泉家の祖先是平家の由緒ある家柄である。氏は明治十九年に呱呱の聲をあげた。同四十年、氏の代より製紙業を創め今日に至つてゐる。その製造に係るカ



の優良なることは、創業當時より現在に至る迄斷然斯界をリードし、氏の製品を標準として價格その他を決定する實狀である。

ボン紙は當地方に於ける元祖とも稱すべきでその品質

資性極めて着實温厚、凡ゆる人に親まれて好人物にして、釣り、囲碁等に趣味がある。

現に、土佐紙業組合委員として斯界の爲めに盡力し、又曩には村會議員に推され、村自治の爲めにも大いに盡瘁するところがあつた。

静岡、富士、吉原町

町會議員 内田 常吉

電話吉原一六番

常家は代々糸商を營む町内の舊家にして、當主常吉氏は人格圓滿なる努力家である。

今回、町有権者の信望をあつめて、推されて町會議員に當選したが、自治行政のため、はたまた産業發展のために独自の活躍が期待されてゐる。

なほ町會議員の傍ら合併交渉委員とし

て町村合併に盡した功績は各方面で評判されてゐる。即ち氏は島田村との合併に成功し、更に隣村の合併に對し、種々奔走してゐる。

將來の抱負としては町民との協力一致により、産業通路の改修にまた將來工業

伊谷村産業組合

組合長 山 田 源 助

東京府大島三宅島伊谷村

都市としての準備に力を入り誠心誠意を以て町發展のために奔走努力してゐる。

今や時變の見透しもつき、新體制下に於て銃後國民のいよいよ協力一致、國策に添つて邁進すべき秋、當吉原町に氏の如き人物を得た事はまことに欣快である

高知市旭驛前
造 酒 業 服 部 久 吉

氏は明治十五年長岡郡岡豊村に呱呱を



知木工青年學校長をも兼ね、縦横の才を發揮した。

氏は又、高知縣酒釀組合聯合會顧問、高知市酒釀組合聯合會顧問、高知縣醬油釀造組合長等を兼任、盡瘁してゐる。

あげた。城東中學校を卒業し、更に大藏省、釀造講習を終了した特色ある人物で丸龜稅務監督局鑑定部を振り出しに徳島稅務署鑑定課長をも務められ、明晰なる頭腦を發揮したが、その後丸龜に歸任し高知稅務所監督局鑑定課長となり、縣工業技師を兼務する等、大いに斯界の爲めに盡力した。

後大正十年十二月辭職して、實業界に轉じ、大高釀造株式會社專務取締役となり傍ら、高知市會議員となつて、市政に參畫すると共に、

静岡、濱松市神立
蒲村信用販賣組合

電話濱松六三二番

常組合は大正八年七月有限責任として設立され、昭和八年保證責任に變更したものである。當地は濱松市に近、交通の便に恵まれ、物資の供給圓滑の地であるが、更に産業組合を組織して村民の福利増進を計らんとして、當時の村長河合孝太郎氏等奔走し、遂にその設立を見たのである。

今日組合員數は三七四名に及び、區域は舊蒲村一圓を範圍としてゐる。

因に蒲村は昭和十四年七月一日、濱松市に編入されたものである。

現組合長は伊藤榮松氏、理事は松本徳